

Ⅲ調査結果

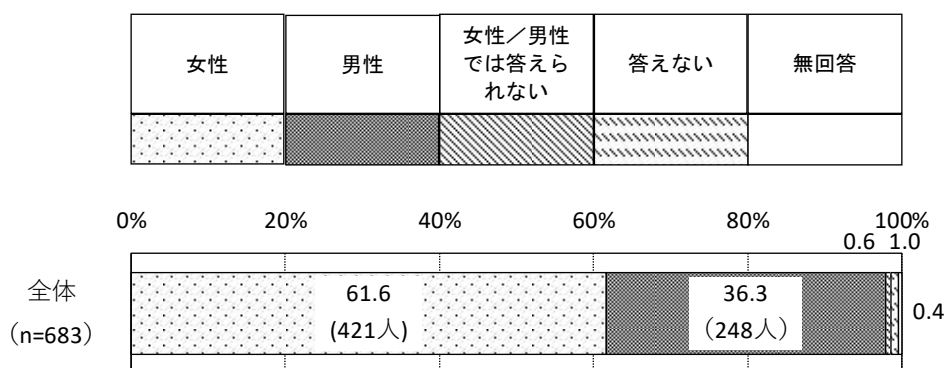
1 一般調査

(1)回答者の属性

①性別

a あなたの性別は。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-1-1 性別



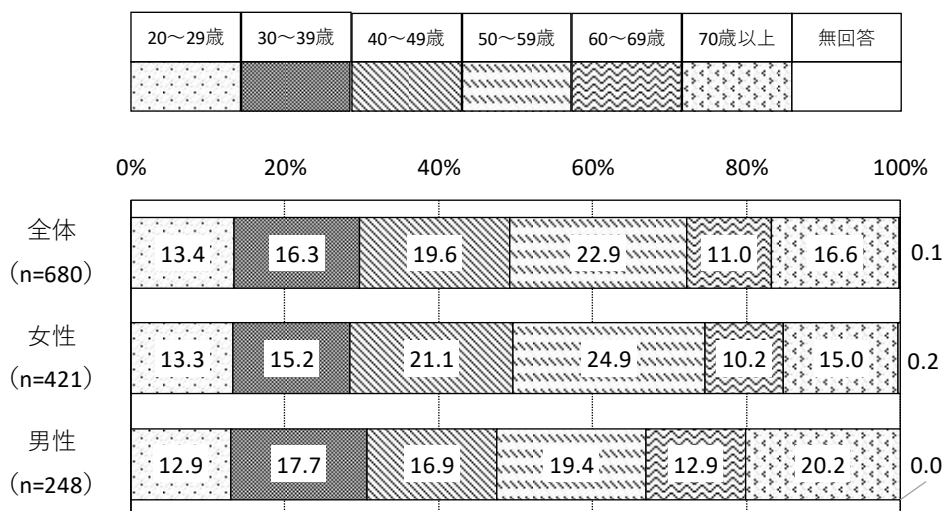
「女性」が61.6%で最も高く、次いで「男性」が36.3%、「答えない」が1.0%と続いています。

「女性／男性では答えられない」(4名)、「答えない」(7名)、「無回答」(3名)については、その総数が小さいため、以下のクロス集計等の分析においては「女性」「男性」のみを対象とします。

②年齢

b あなたの年齢は。(記入日の時点で) (○は1つ)

図表Ⅲ-1-1-2 年齢

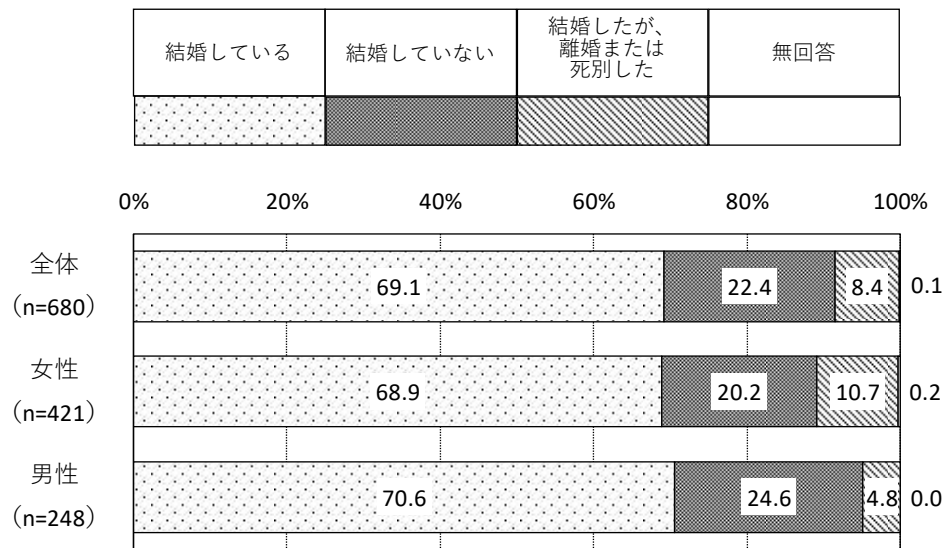


女性では「50～59 歳」が24.9%で最も高く、次いで「40～49 歳」が21.1%、男性では「70 歳以上」が20.2%が最も高く、次いで「50～59 歳」が19.4%と続いています。

③結婚しているか

c あなたは結婚（事実婚またはパートナーと同居）していますか。（○は1つ）

図表Ⅲ-1-1-3 結婚しているか

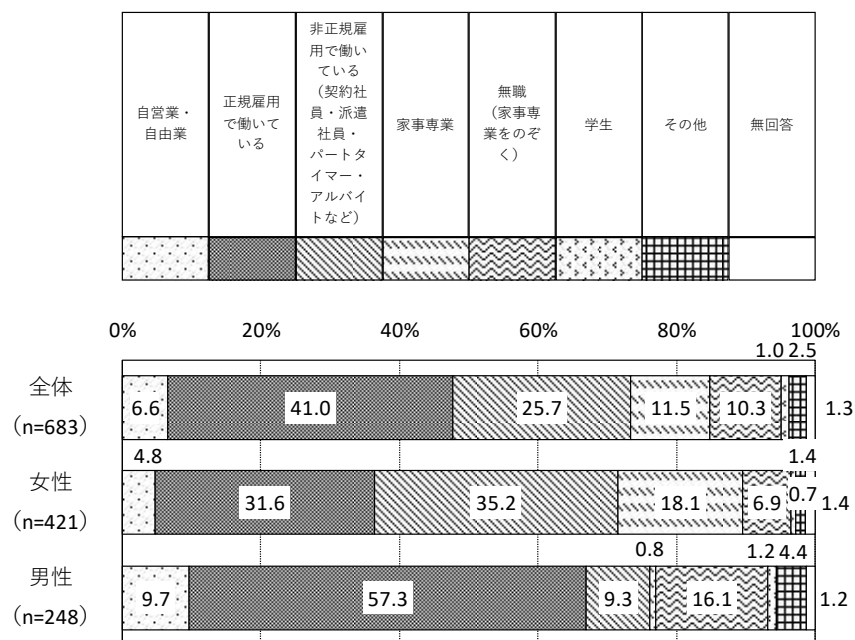


「結婚している」が 女性 68.9%、男性 70.6%で最も高く、次いで「結婚していない」が 女性 20.2%、男性 24.6%、「結婚したが、離婚または死別した」が女性 10.7%、男性 4.8%と続いています。

④回答者・配偶者の職業

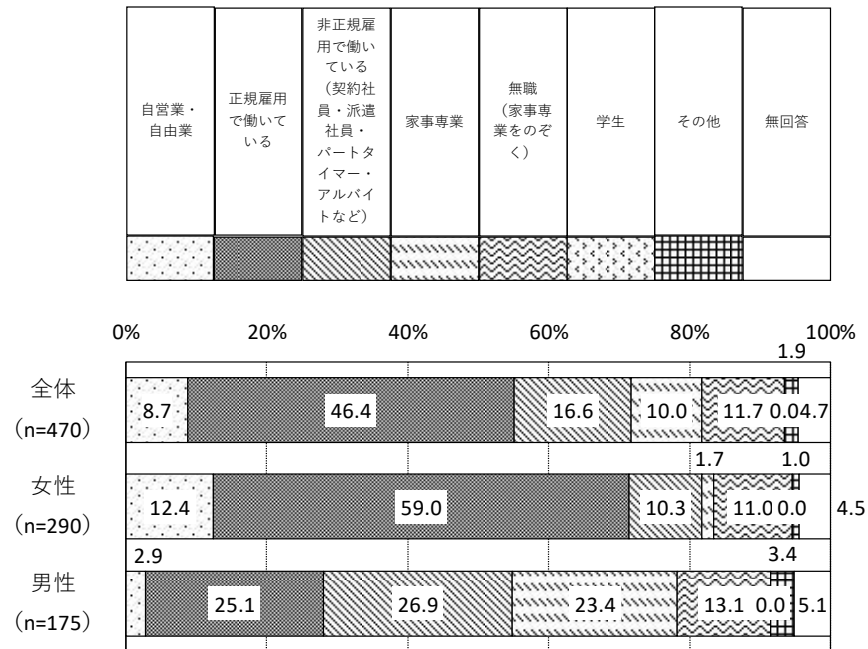
d あなたの仕事は。配偶者がおられる方は配偶者の欄も記入してください。（○は1つずつ）

図表Ⅲ-1-1-4 回答者の職業



回答者の職業については、女性は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が35.2%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」の31.6%、男性は「正規雇用で働いている」が57.3%で最も高く、次いで「無職（家事専業をのぞく）」が16.1%と続いています。

図表Ⅲ-1-1-5 配偶者の職業

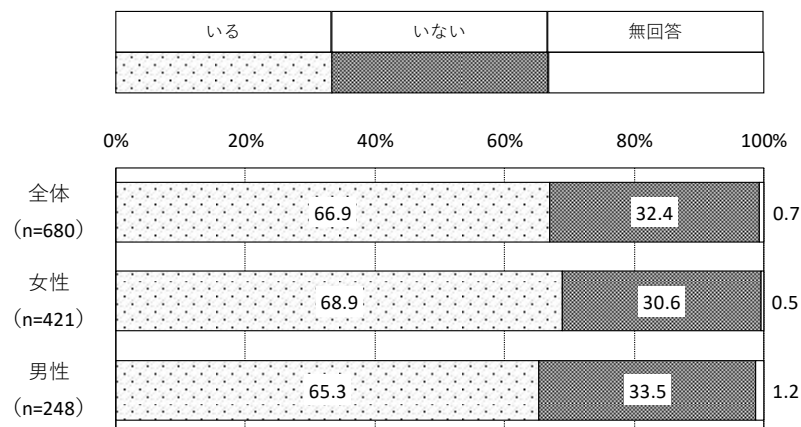


また、配偶者の職業については、女性は「正規雇用で働いている」が59.0%で最も高く、次いで「自営業・自由業」が12.4%、男性は「非正規雇用で働いている（契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど）」が26.9%で最も高く、次いで「正規雇用で働いている」が25.1%と続いています。

⑤子どもがいるか

e あなたに子どもはいますか。(別居を含む) (○は1つ)

図表Ⅲ-1-1-6 子どもがいるか

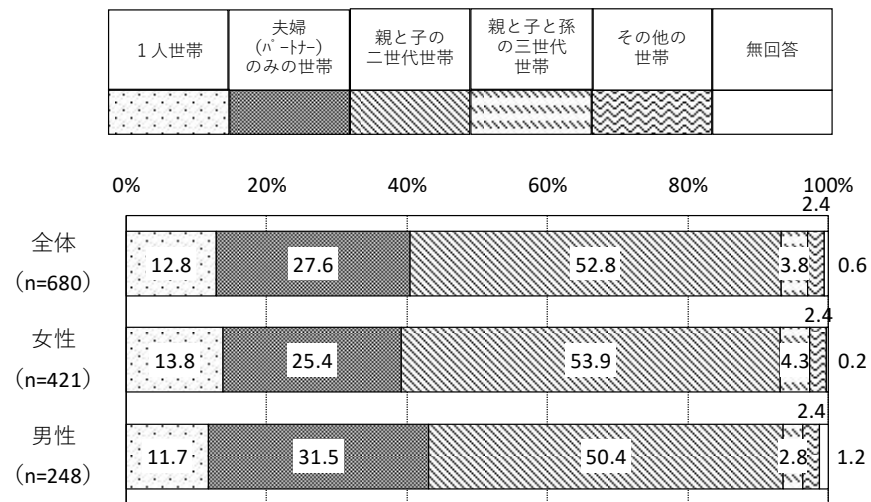


「いる」が女性 68.9%、男性 65.3%、「いない」が女性 30.6%、男性 33.5%となっています。

⑥世帯構成

f あなたの現在の世帯構成は、次のどれですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-1-7 世帯構成



「親と子の二世帯世帯」が 52.8%で最も高く、次いで「夫婦（パートナー）のみの世帯」が 27.6%、「1人世帯」が 12.8%と続いています。

「その他」の意見（主な回答）

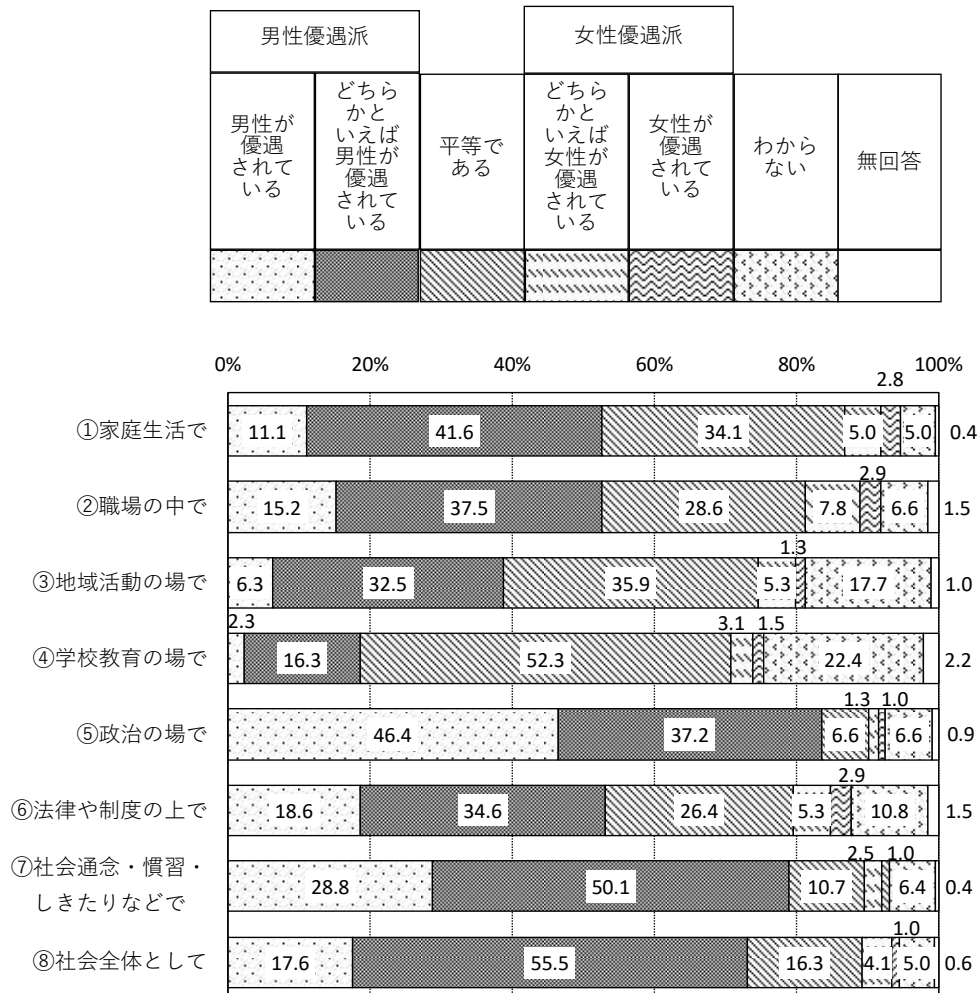
- ・老人ホーム
- ・別居生活(病気のため)
- ・妹家族と生活費等共同で

(2)男女の平等感と役割分担について

①男女がどの程度平等になっていると思うか

問1 次の(1)～(8)の分野で、あなたは、男女がどの程度平等になっていると思いますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)

図表Ⅲ-1-2-1 男女がどの程度平等になっていると思うか



【男女が「平等である」は「学校教育の場」が約5割】

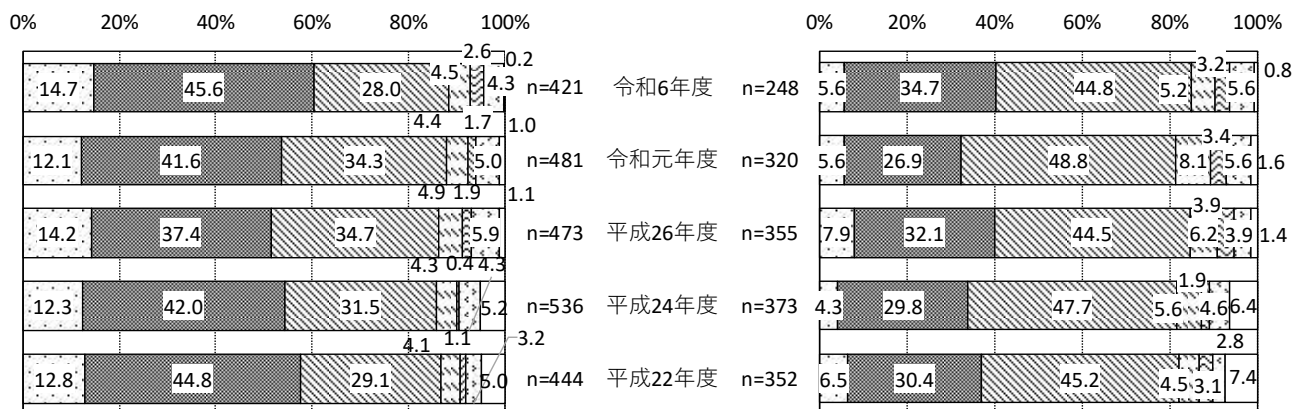
男女の平等感について、全体で見ると『平等である』が多かったのは「学校教育の場」で女性 49.6%、男性 57.3%となっています。次いで「地域活動の場」で女性 31.1%、男性 44.4%となっています。どの場でも『男性優遇』が『女性優遇』より多くなっていますが、その中でも特に『男性優遇』だと考えられている場は、「政治の場」で『男性優遇派（『男性が優遇されている』と『どちらかといえば男性が優遇されている』の合計）』は女性 88.4%、男性 75.8%、『女性優遇派（『女性が優遇されている』と『どちらかといえば女性が優遇されている』の合計）』は女性 1.7%、男性 3.6%、「社会通念・慣習・しきたりなど」で『男性優遇派』は女性 84.1%、男性 71.4%、『女性優遇派』は女性 1.4%、男性 6.8%となり、男女での大きな差が見られます。

図表Ⅲ-1-2-2 ①家庭生活で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

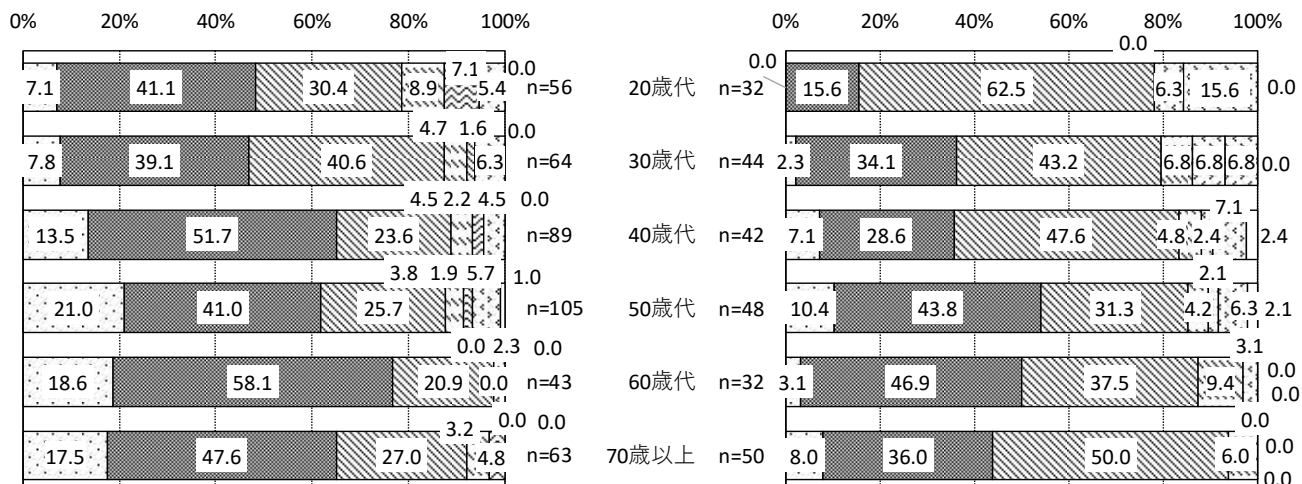


図表Ⅲ-1-2-3 ①家庭生活で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

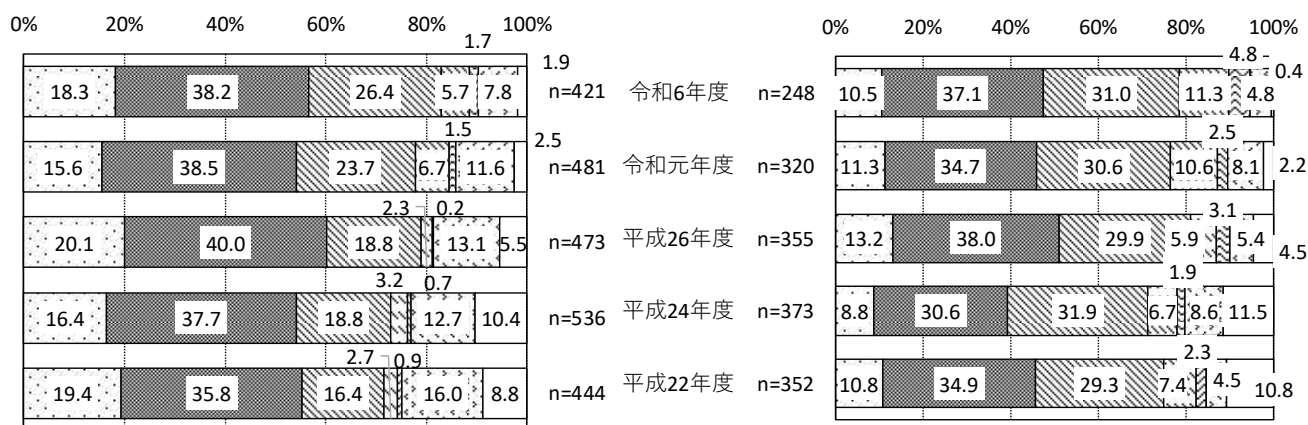


図表Ⅲ-1-2-4 ②職場の中で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

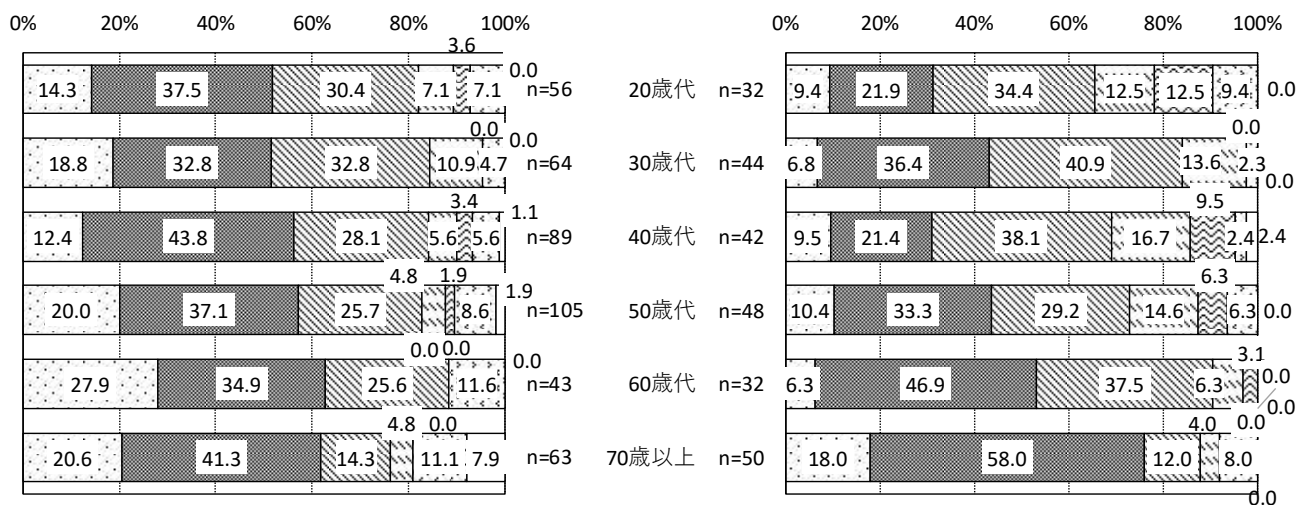


図表Ⅲ-1-2-5 ②職場の中で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

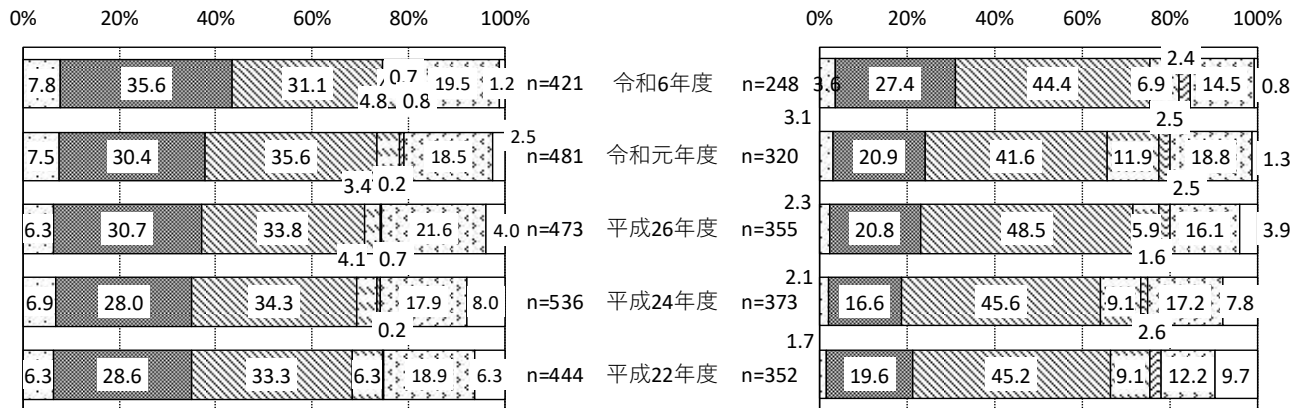


図表Ⅲ-1-2-6 ③地域活動の場で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

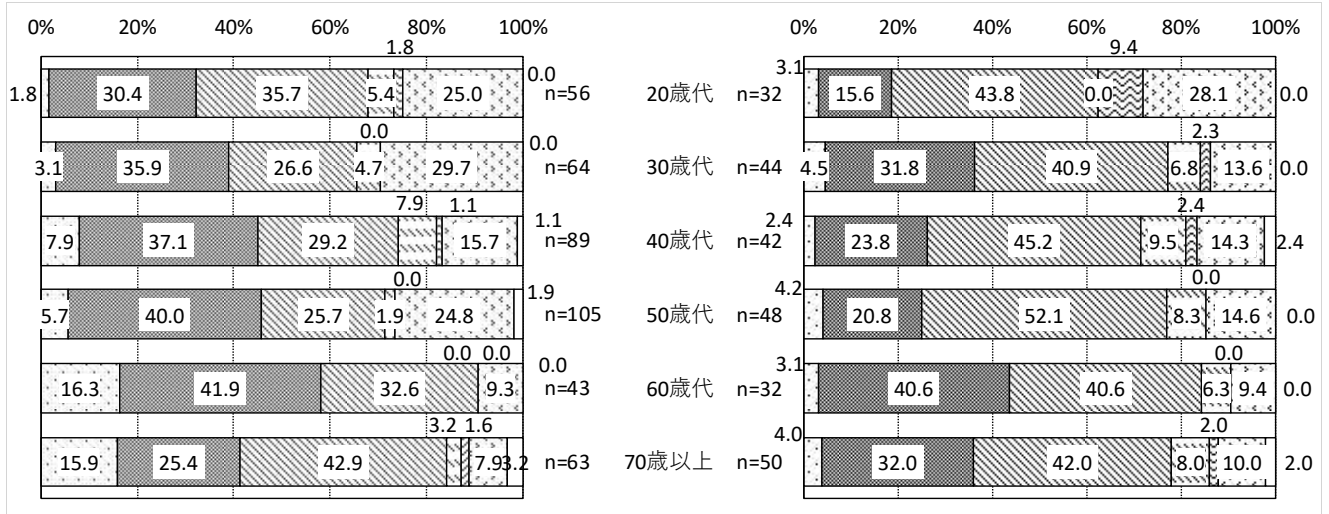


図表Ⅲ-1-2-7 ③地域活動の場で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

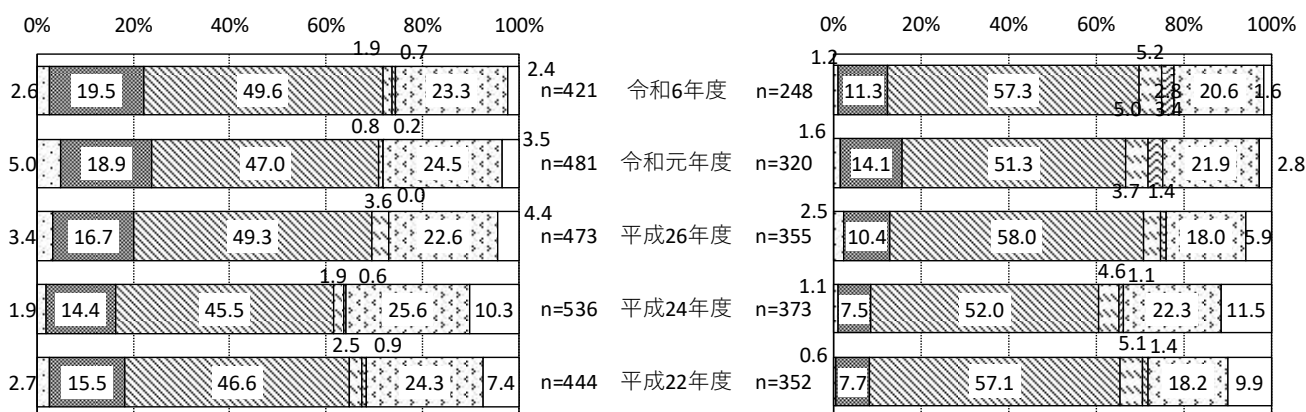


図表Ⅲ-1-2-8 ④学校教育の場で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

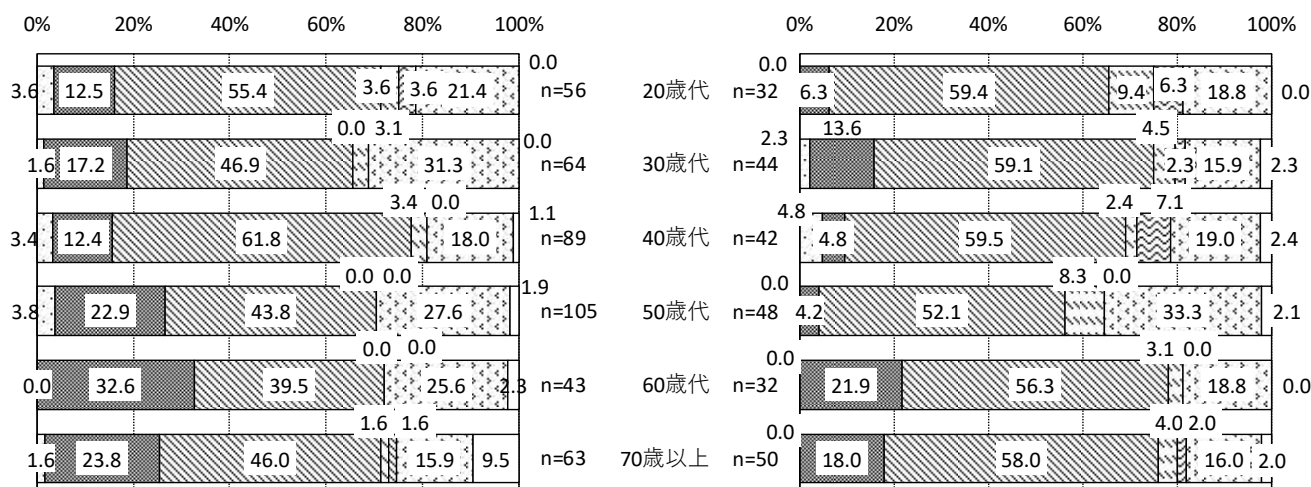


図表Ⅲ-1-2-9 ④学校教育の場で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

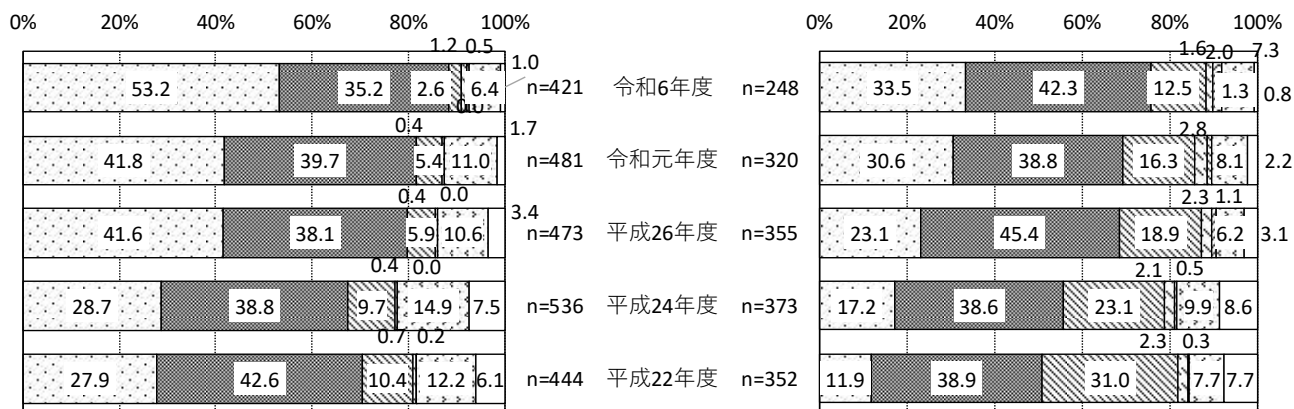


図表Ⅲ-1-2-10 ⑤政治の場で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

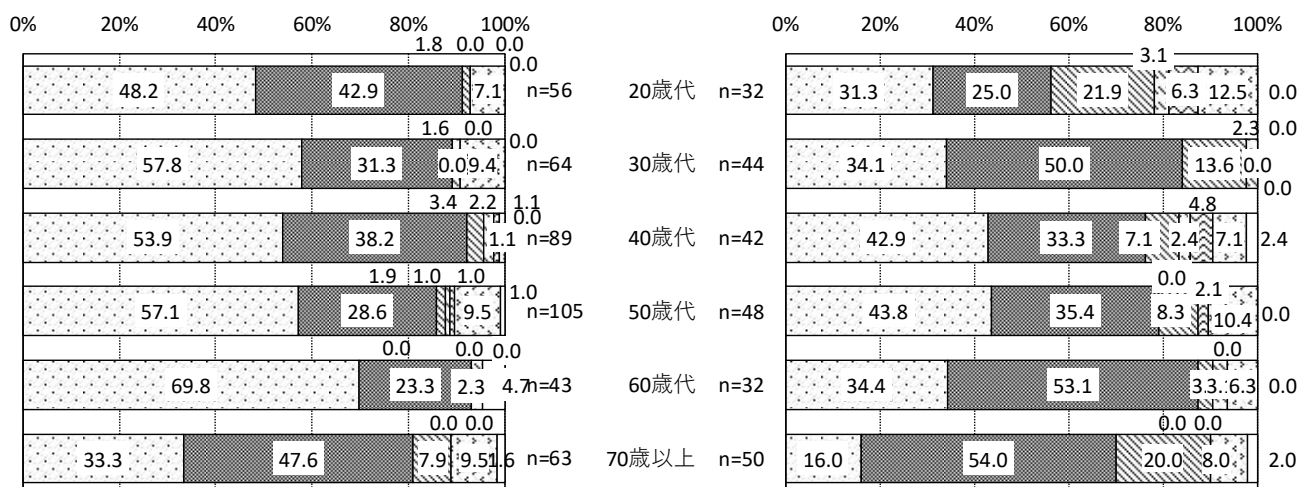


図表Ⅲ-1-2-11 ⑤政治の場で【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

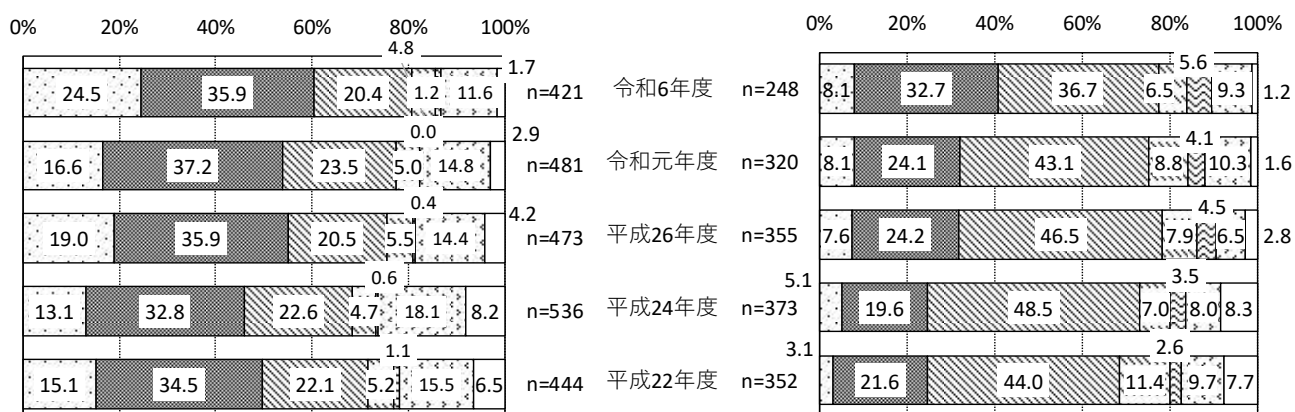


図表Ⅲ-1-2-12 ⑥法律や制度の上で【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

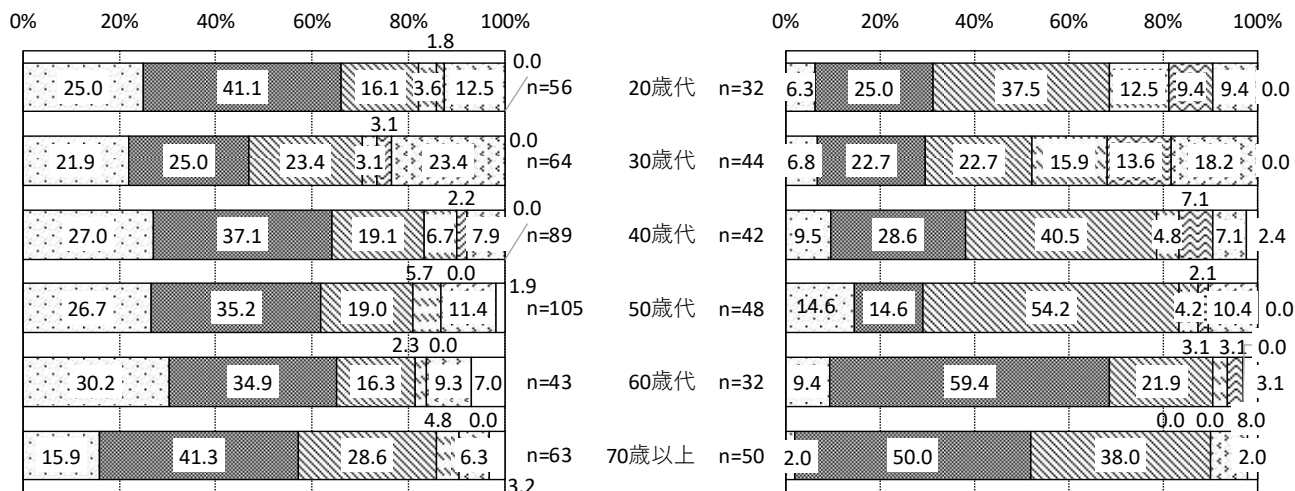


図表Ⅲ-1-2-13 ⑥法律や制度の上で【性別・年代別】

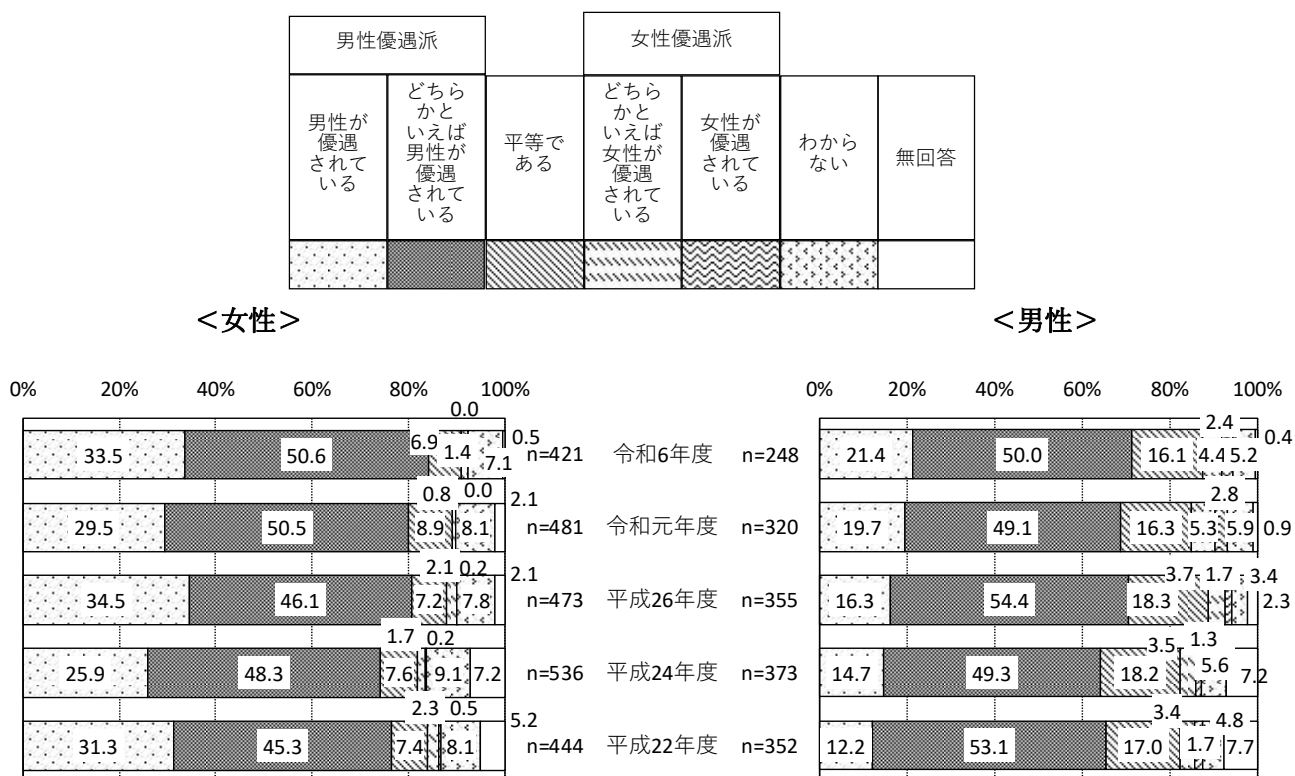
男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

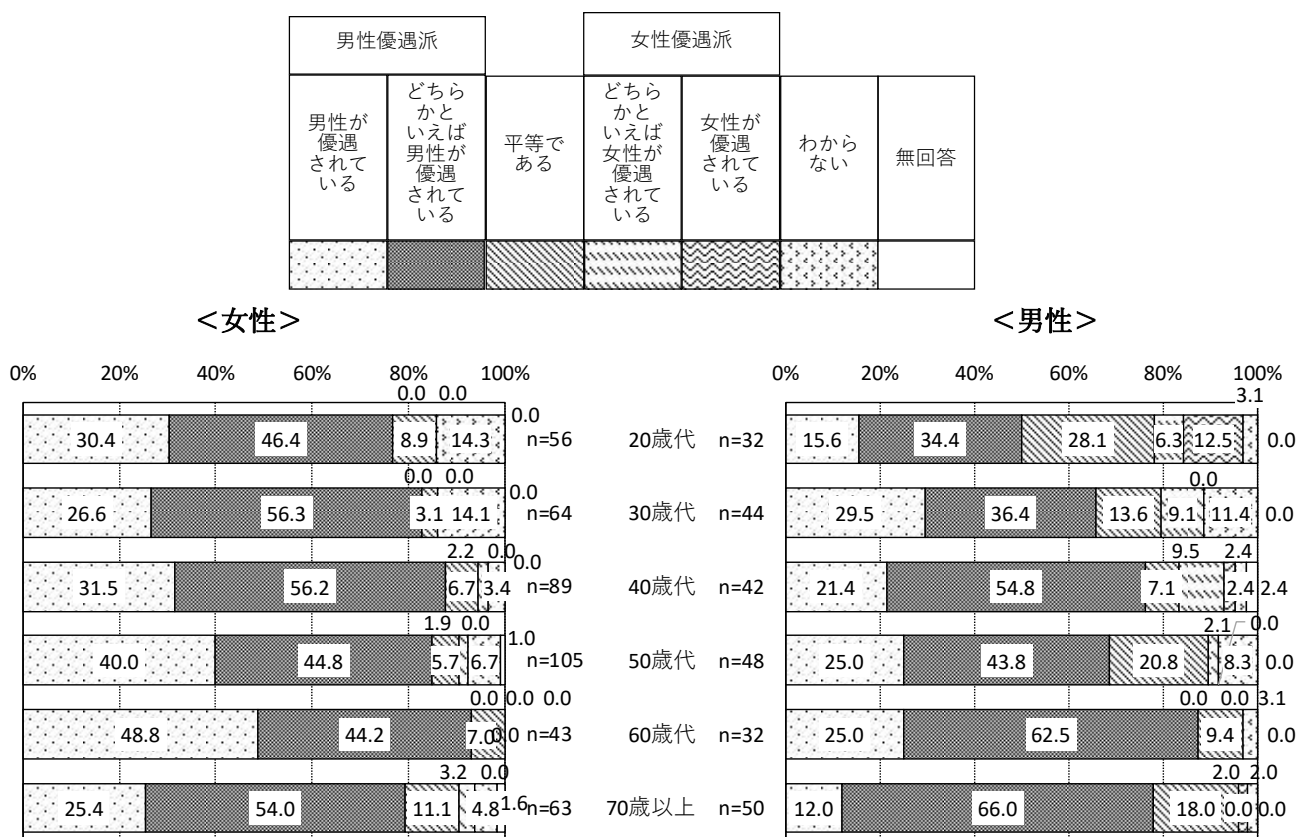
<男性>



図表Ⅲ-1-2-14 ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-15 ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで【性別・年代別】

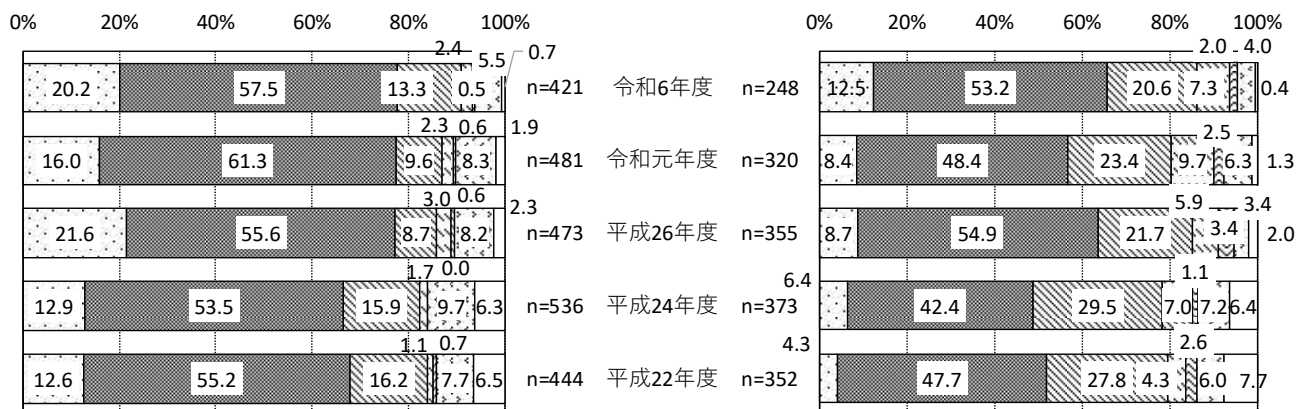


図表Ⅲ-1-2-16 ⑧社会全体として【過去の調査との比較】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

<男性>

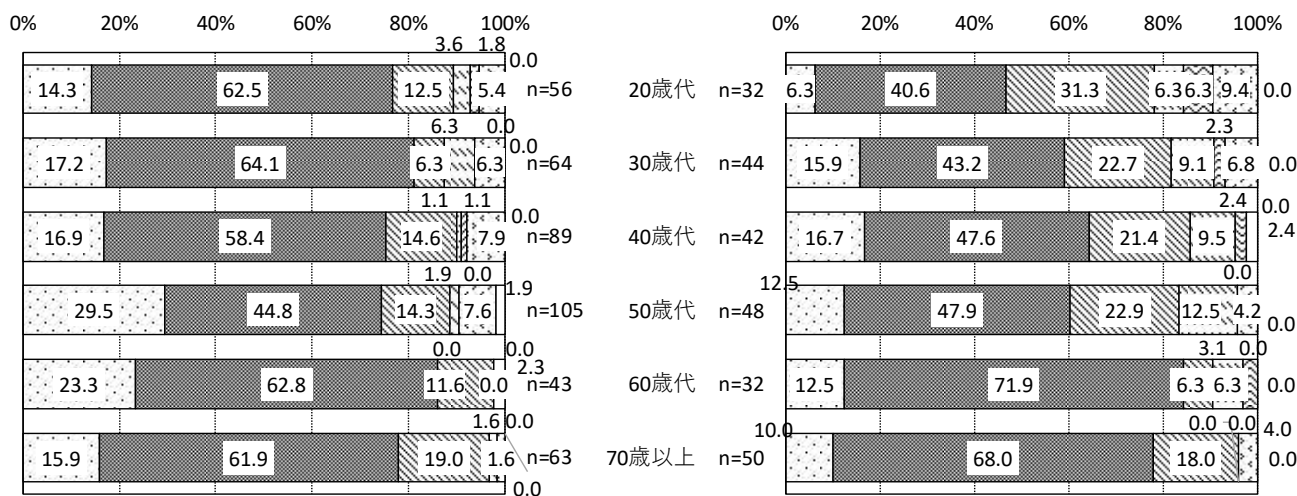


図表Ⅲ-1-2-17 ⑧社会全体として【性別・年代別】

男性優遇派		女性優遇派				
男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答

<女性>

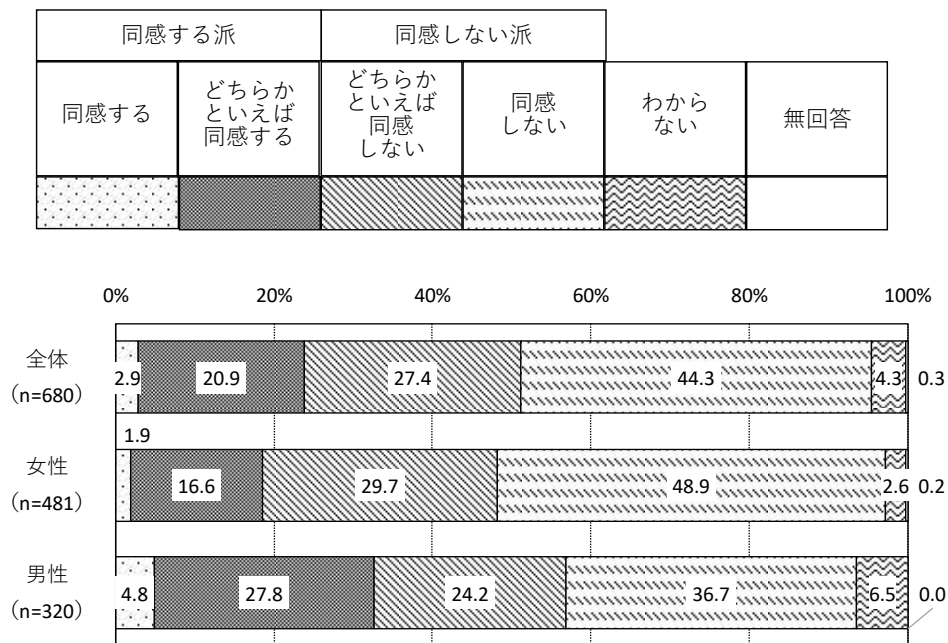
<男性>



②性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-2-18 性別による役割分担の考えについて



【性別による役割分担について、「同感しない」が女性は約5割、男性は約4割】

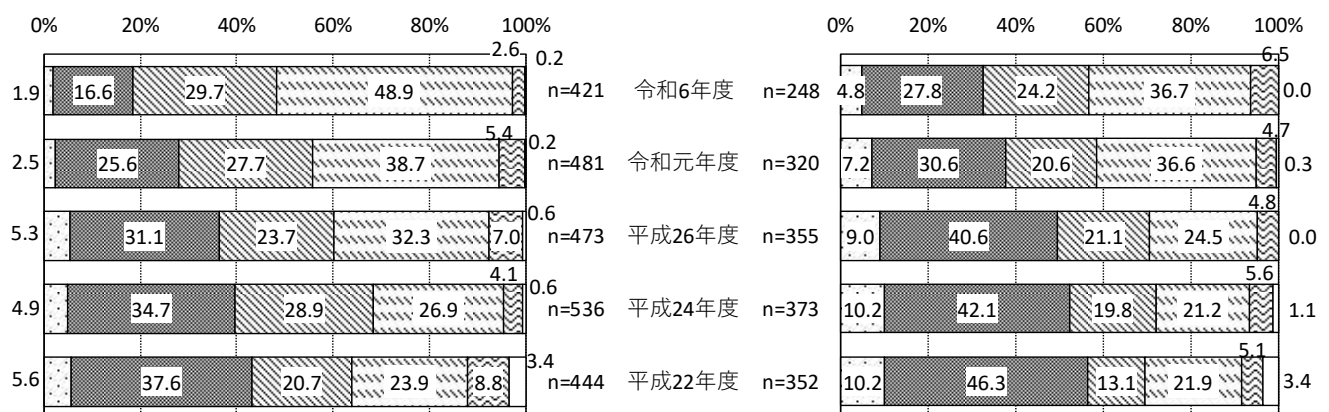
男女の役割分担について、全体で見ると『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性 78.6%、男性 60.9%、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性 18.5%、男性 32.6%と『同感しない派』が大きく上回っています。

図表Ⅲ-1-2-19 性別による役割分担の考えについて【過去の調査との比較】

同感する派		同感しない派		わからない	無回答
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない		

<女性>

<男性>

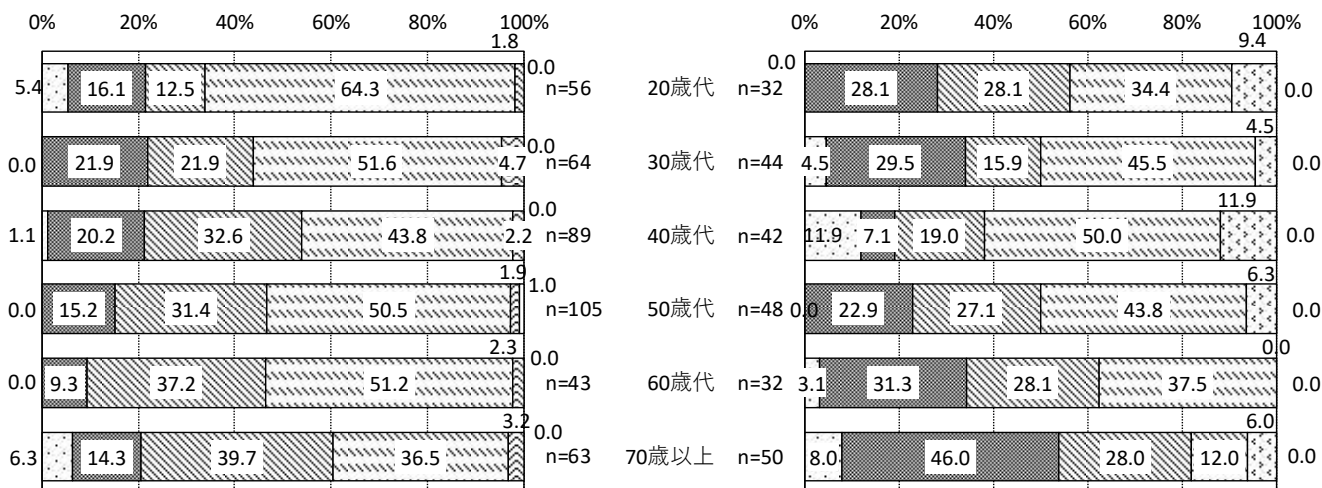


図表Ⅲ-1-2-20 性別による役割分担の考えについて【性別・年代別】

同感する派		同感しない派			
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない	無回答

<女性>

<男性>

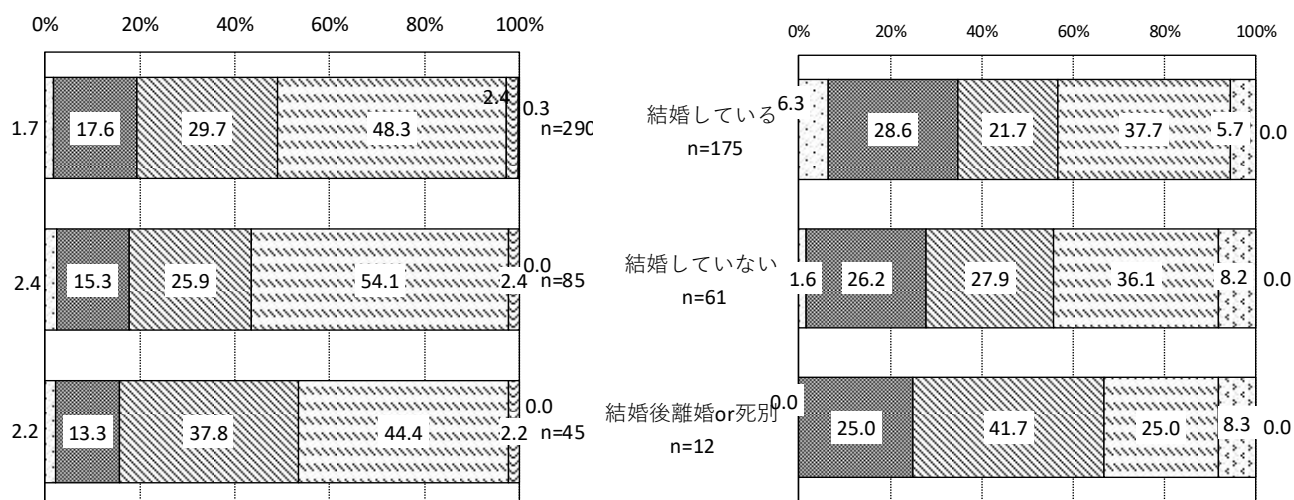


図表Ⅲ-1-2-21 性別による役割分担の考えについて【性別・配偶者有無別】

同感する派		同感しない派			
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない	無回答

<女性>

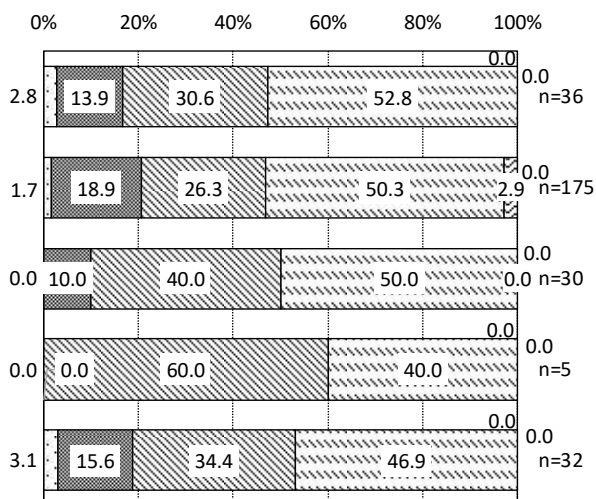
<男性>



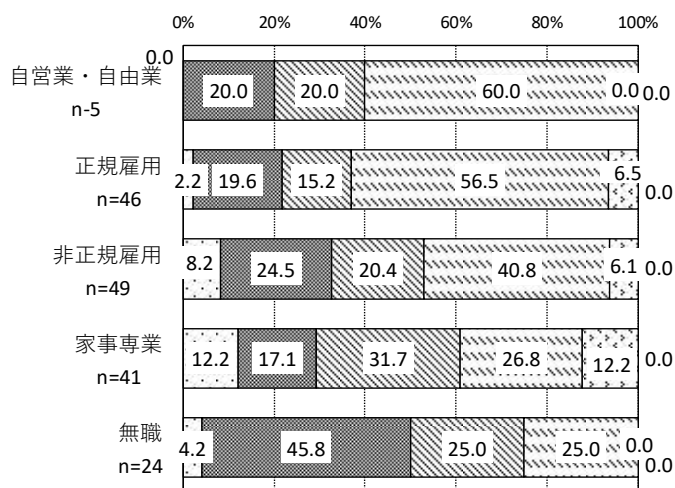
図表Ⅲ-1-2-22 性別による役割分担の考えについて【性別・配偶者職業別】

同感する派		同感しない派		
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない

<女性>



<男性>

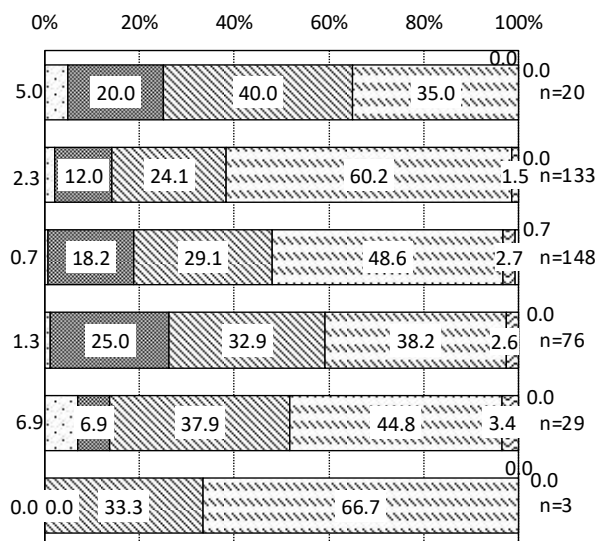


(男性、女性ともに配偶者職業で「学生」との回答はありませんでした)

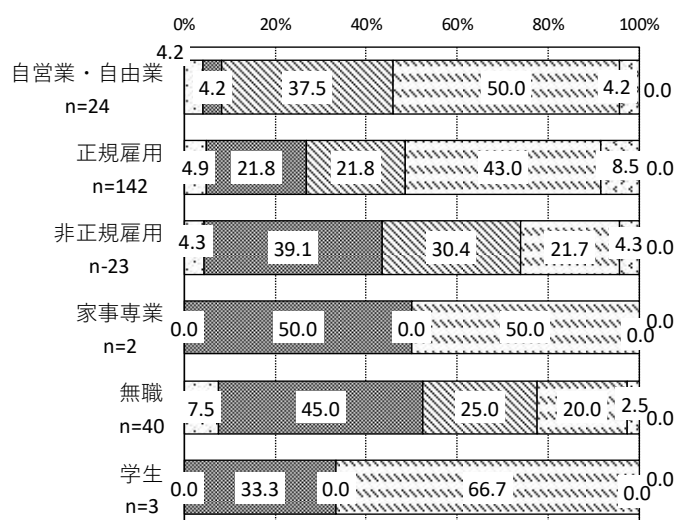
図表Ⅲ-1-2-23 性別による役割分担の考えについて【性別・自身職業別】

同感する派		同感しない派		
同感する	どちらかといえば同感する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない

<女性>



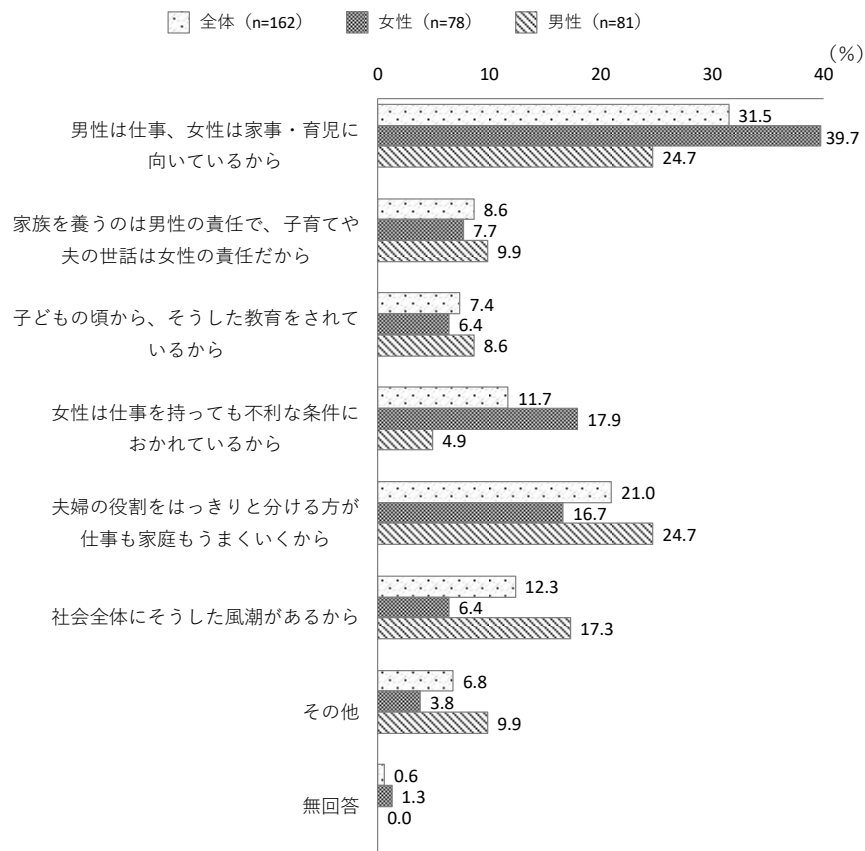
<男性>



③性別による役割分担を支持する理由

（問2で「1. 同感する」「2.どちらかといえば同感する」とお答えの方に）問2－1 そう思う主な理由は何ですか。（○は1つ）

図表Ⅲ-1-2-24 性別による役割分担を支持する理由



【性別による役割分担を支持する理由は男女とも「男性は仕事、女性は家事育児」が約3割】

性別による役割分担を支持する理由については、男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」（女性 39.7%、男性 24.7%）が最も高く、また男性は「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」（男性 24.7%）も同率で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-2-25 性別による役割分担を支持する理由【性別】

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計 実数	育男 性性 には 向仕 い事 て、 女 性 は 家 事・	性で、 家族を 養育 する 責任 は男 性の 責任	教子 ども の頃 から そう した	な女 性は 仕 事 を 持 て て い る も 不 利	くけ る方 が仕 事 を 家 庭 も う と ま 分	あ社 会全 体 に そ う し た 風 潮 が	そ 他	無 回 答
全体		162	31.5	8.6	7.4	11.7	21.0	12.3	6.8	0.6
性別	女性	78	39.7	7.7	6.4	17.9	16.7	6.4	3.8	1.3
	男性	81	24.7	9.9	8.6	4.9	24.7	17.3	9.9	0.0

「その他」の意見（主な回答）

＜女性＞の意見

- 自分自身、育児に専念したいから
- 特に育児は女性に適正があると思うから
- 体調などで

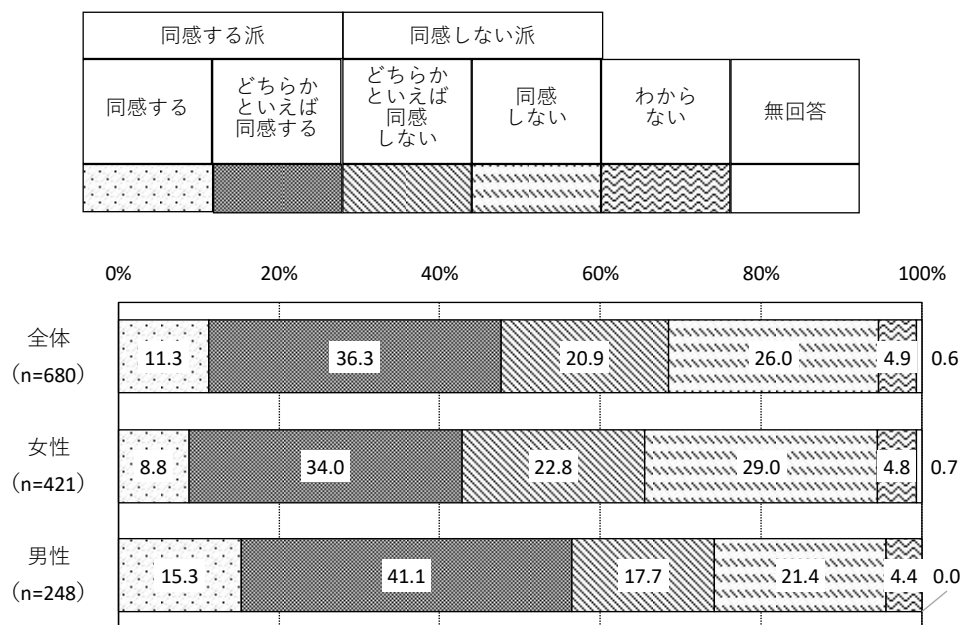
＜男性＞の意見

- 出産は女性しかできない。その分男性は仕事でカバーすべきと思うから。
- 肉体労働は女性に向いていない
- 男性とは違い女性の方が子供を産んだ（母性が強い）と思うから
- 適材適所。逆の役割であってもいいが、ある程度の役割分担は必要だ。

④子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

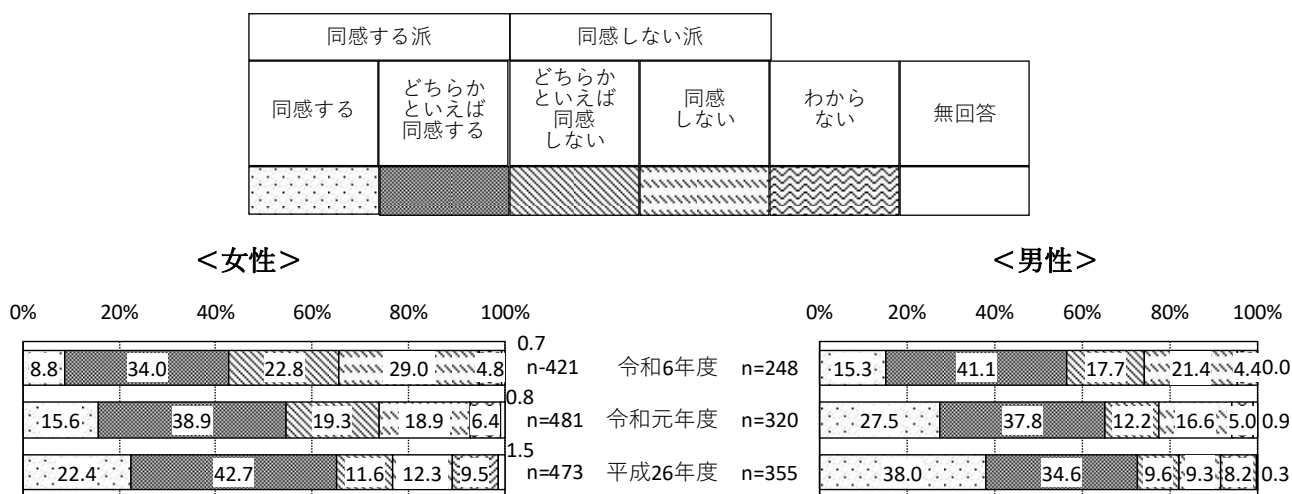
図表Ⅲ-1-2-26 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について



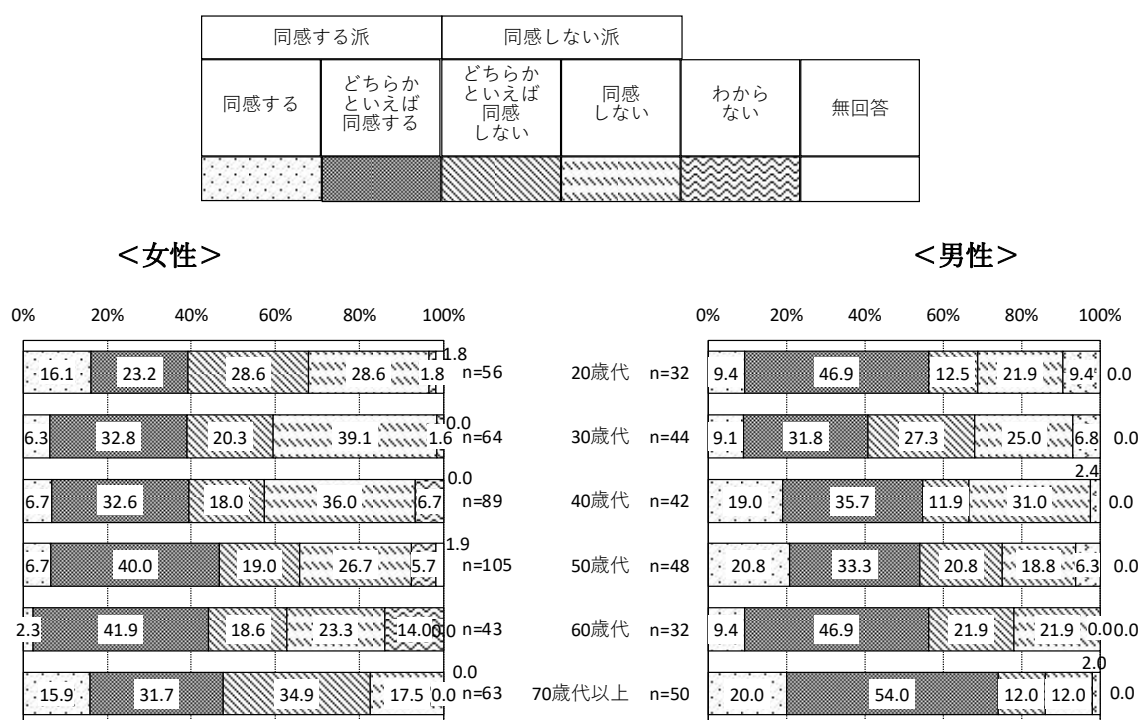
【子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいとの考え方に男女の違い】

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について、『同感する派（『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計）』は女性 42.8%、男性 56.4%、『同感しない派（『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計）』は女性 51.8%、男性 39.1%と女性と男性で違いが見られます。

図表Ⅲ-1-2-27 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【過去の調査との比較】



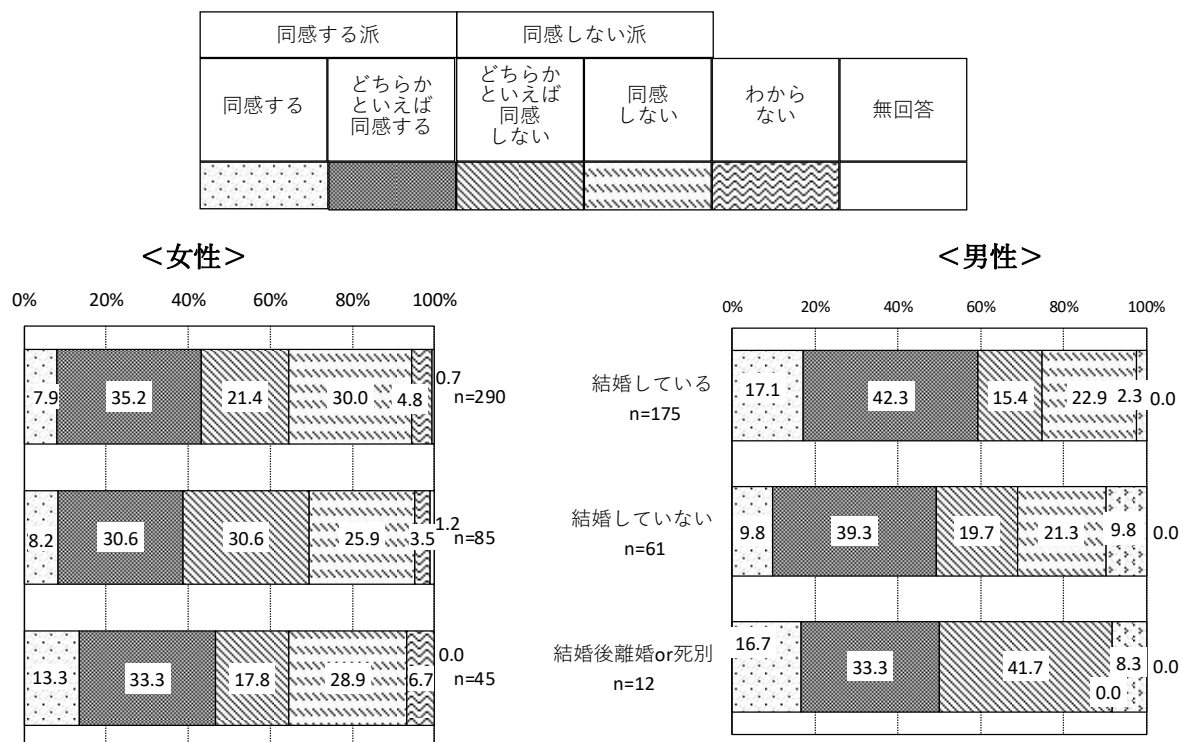
図表Ⅲ-1-2-28 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【性別・年代別】



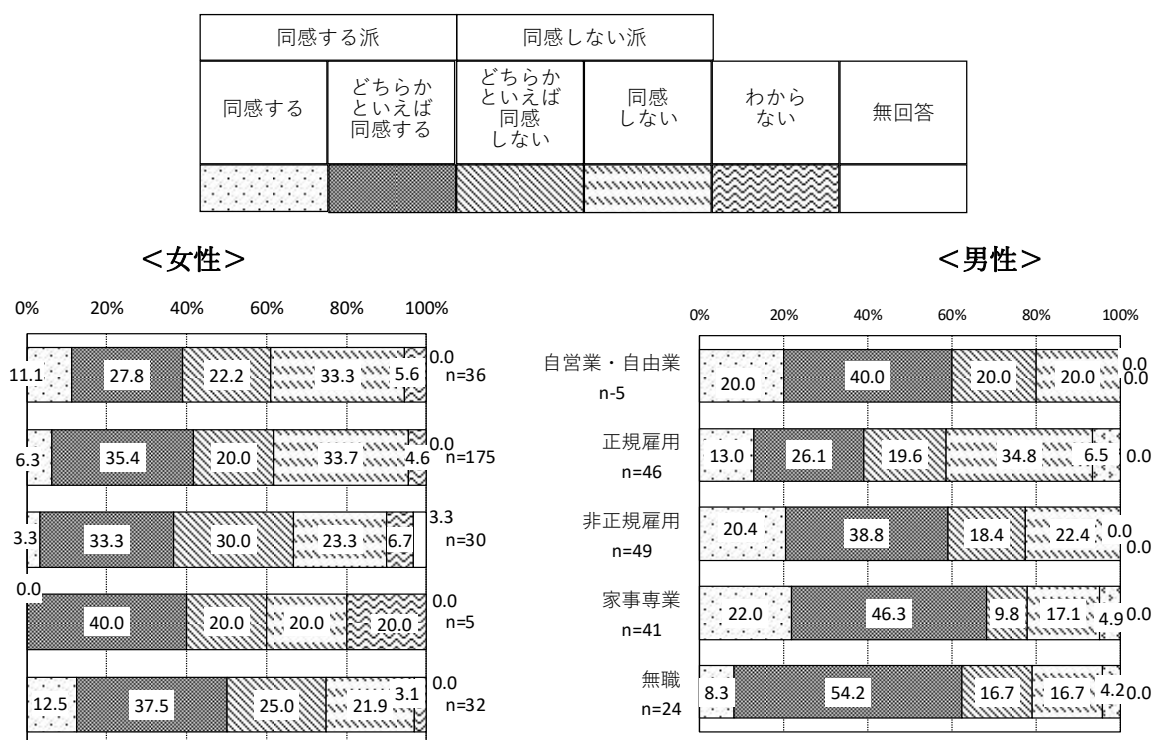
【過去の調査との比較】

「同感する派」は年々減少の傾向がみられる。

図表Ⅲ-1-2-29 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【性別・配偶者有無別】

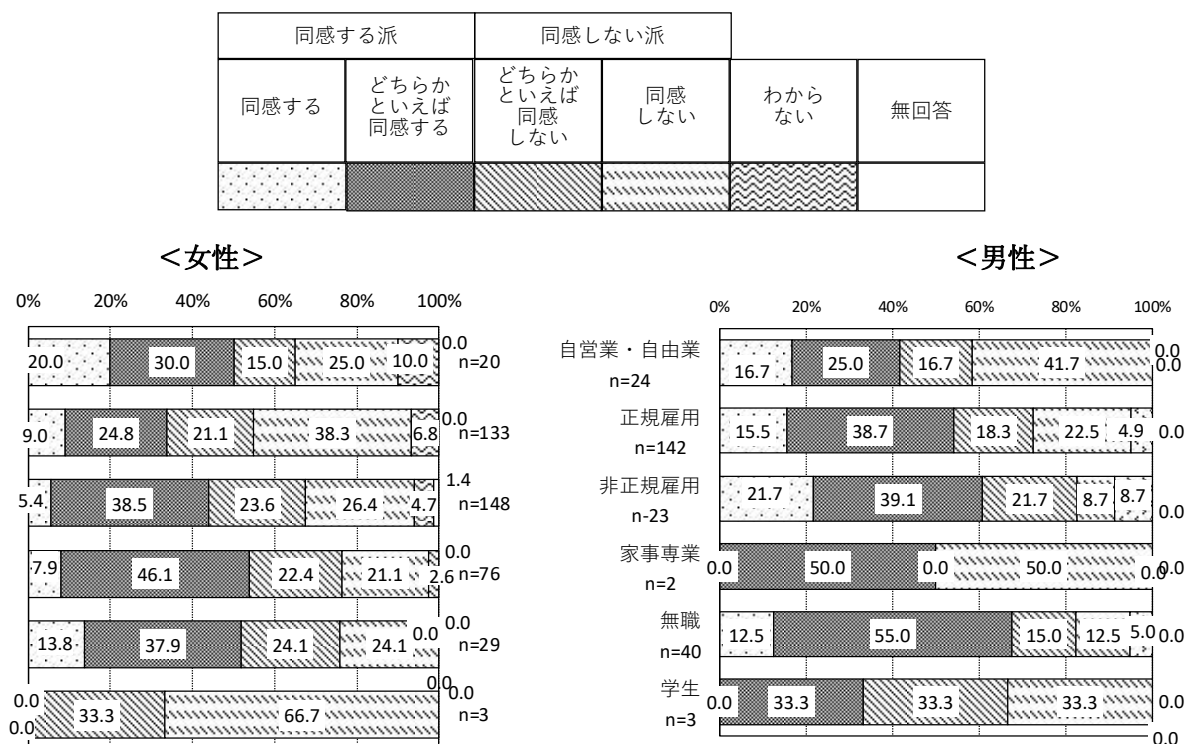


図表Ⅲ-1-2-30 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【性別・配偶者職業別】



（男性、女性ともに配偶者職業で「学生」との回答はありませんでした）

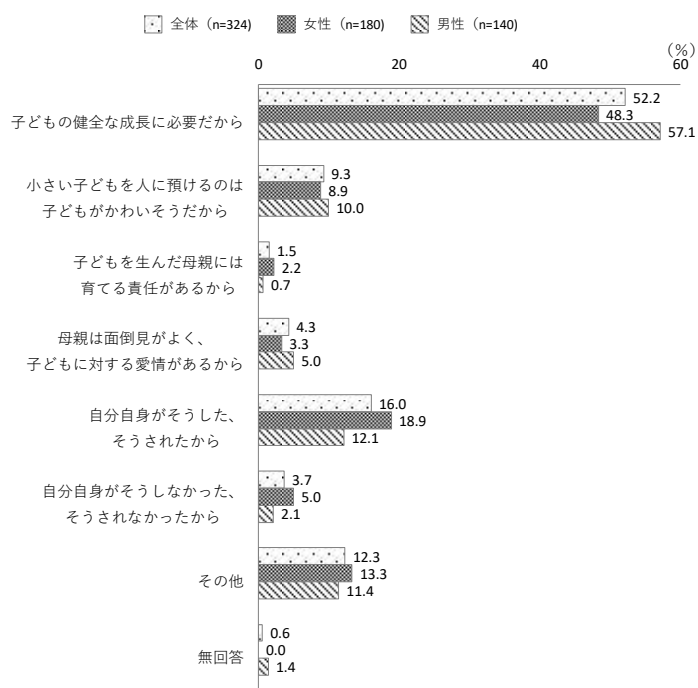
図表Ⅲ-1-2-31 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について【性別・自身職業別】



⑤子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

(問3で「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」とお答えの方に) 問3-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

図表Ⅲ-1-2-32 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由



【「子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念した方がよい」と思う理由は「子供の健全な成長に必要なから」が約5割】

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要なから」(女性 48.3%、男性 57.1%) が最も高く、次いで「自分自身がそうした、そうされたから」(女性 18.9%、男性 12.1%) となっています。

図表Ⅲ-1-2-33 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由【性別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	子どもの健全な成長に必要なから	小さい子どもを人に預けるのはかわいそうだから	子どもを生んだ母親には育てる責任があるから	母親は面倒見がよく、子どもに対する愛情があるから	自分自身がそうした、そうされたから	自分自身がそうしなかった、そうされなかったから	その他	無回答
全体		324	52.2	9.3	1.5	4.3	16.0	3.7	12.3	0.6
性別	女性	180	48.3	8.9	2.2	3.3	18.9	5.0	13.3	0.0
	男性	140	57.1	10.0	0.7	5.0	12.1	2.1	11.4	1.4

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 子供の小さな成長を見逃したくないから
- 子供が病気などすると仕事を休む又は退職しないといけないから 又、そうしなければいけないから
- 子どもはあっという間に大きくなってしまいうので貴重な時間を過ごせる(過ごせた)と感じた
- 初等教育で学んだ時、1才くらいまでは母親に抱かれることが心の成長によいと学んだ。
- 環境が許すのであれば小さい時期は一緒にいるのが安心するから
- 母親に限らず家に誰かいると安全安心だから
- 父親が家事育児に協力的じゃないと母親の負担が増えるだけならその方がよい
- 初めて子どもが寝返りをした、や初めて立ったなど初めての瞬間を共に過ごしたいから
- 人に預けるのは不安な面もあるから
- 小さな成長で感動したり自分も一緒に成長できるととても幸せな時期を大切に過ごした方がいいと思うから。
- 自分がそうしたいから

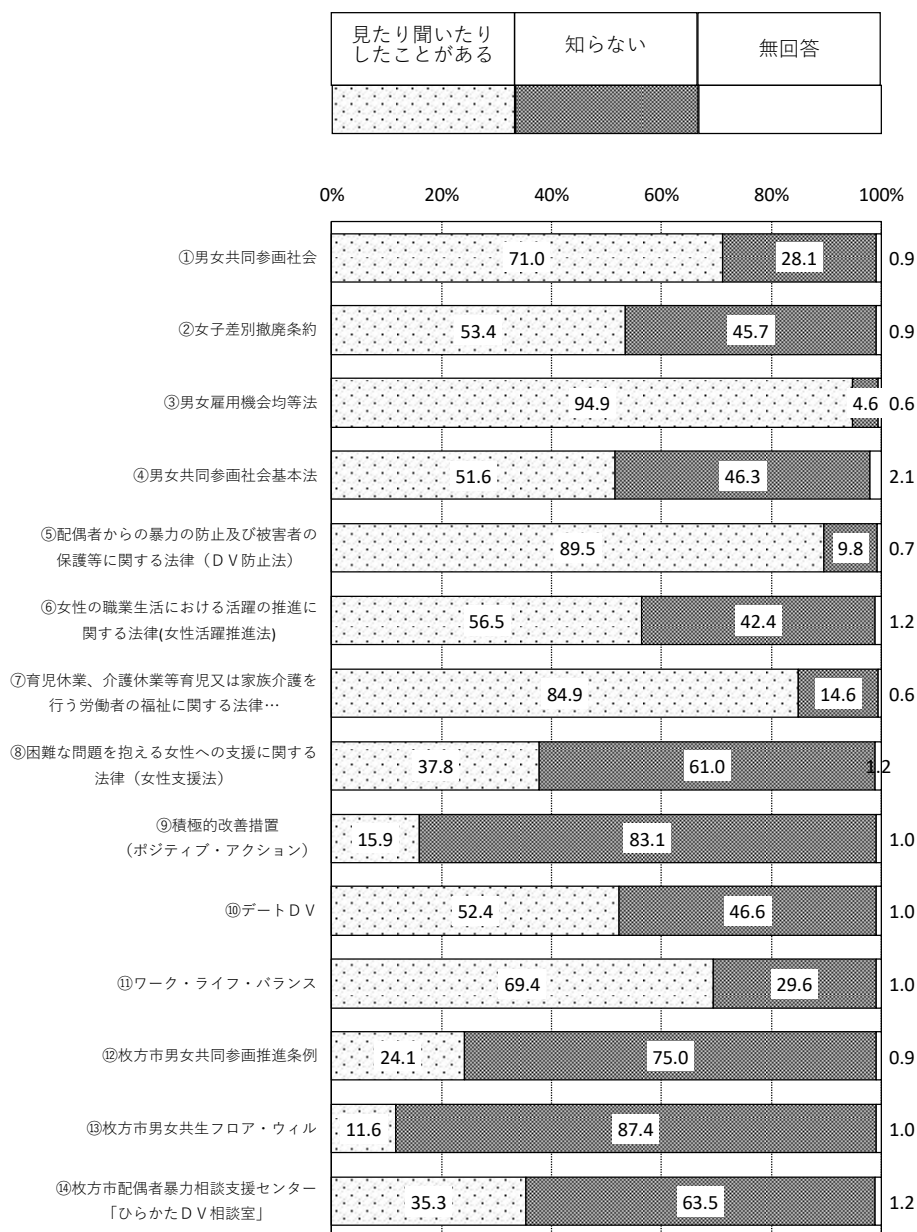
<男性>の意見

- 小さい子どもの身近に家族が常にいた方が望ましいと感じるから
- 子供はずっと母ちゃんのそばにいたいものである。
- 女性ができれば良いが、厳しい場合は男性が育児に専念するのも良いと思う。
- 父親よりも母親の方が子供の変化に敏感だと思うから
- 子供を見ていて、父親では無く、母親へ愛情を求めていることが多く感じるため。
- 大事なことは母親から学ぶ。
- 成長過程をしっかりと見れるから
- 出産後の体力、精神の回復の為にも1年程度は仕事しない方が良いと思う

⑥法律等の認知度

問4 次の(1)～(14)の言葉について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ)

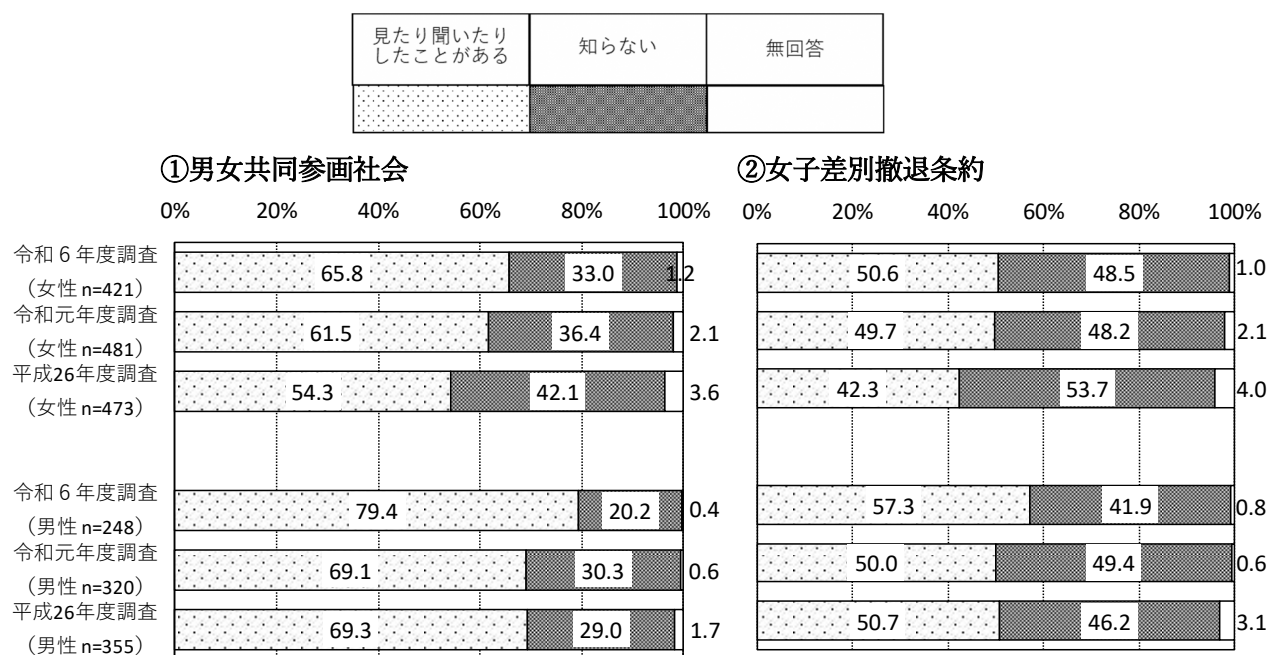
図表Ⅲ-1-2-34 法律等の認知度



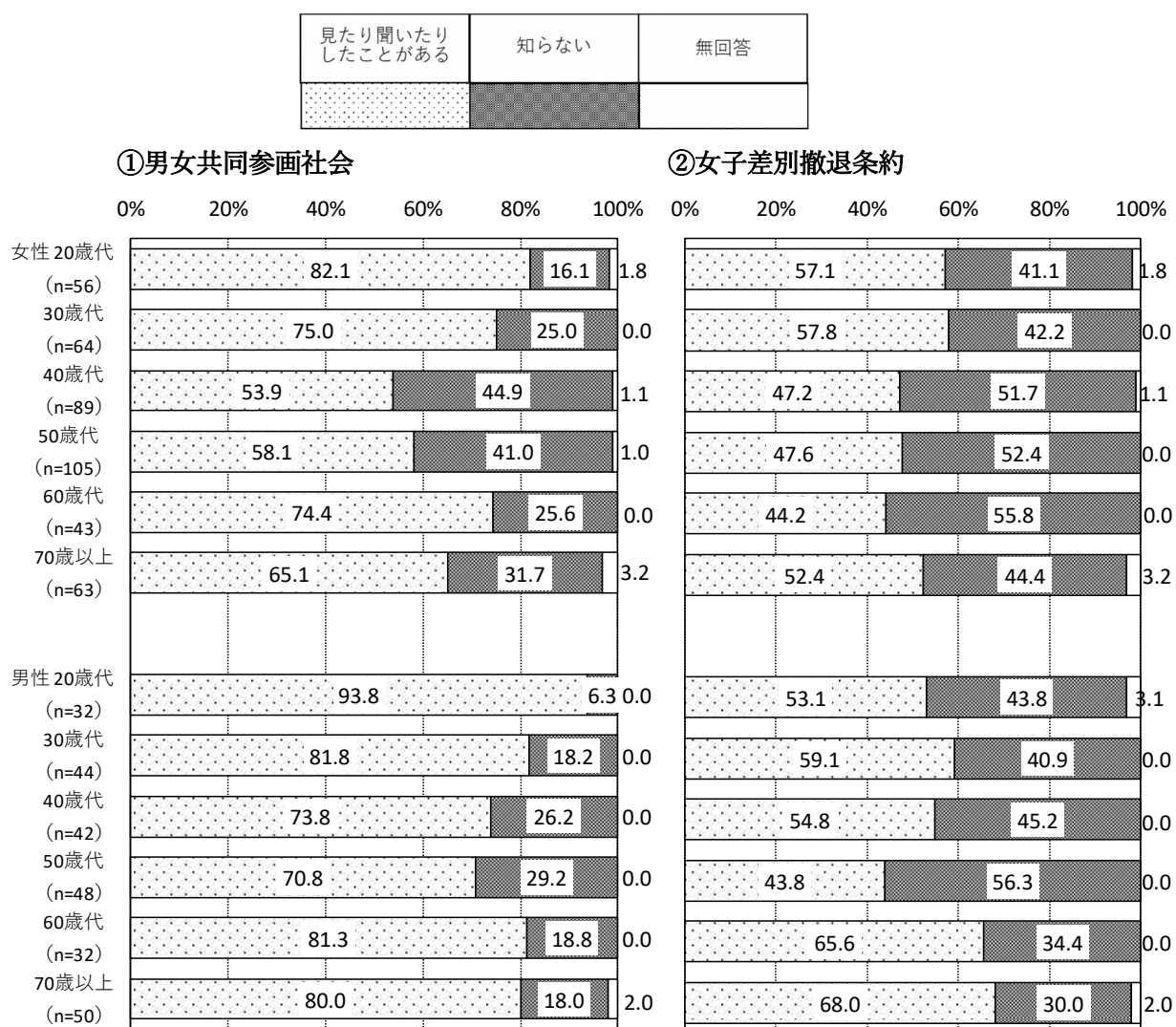
【法律の認知度が高いのは「男女雇用機会均等法」で9割以上、「DV防止法」も9割近く】

法律等の認知度について、全体で見ると『見たり聞いたりしたことがある』のは、「男女雇用機会均等法」が94.9%で最も高く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」が89.5%、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（育児・介護休業法）」が84.9%と続いています。『知らない』が高いのは「枚方市男女共生フロア・ウィル」87.4%、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）」83.1%、「枚方市男女共同参画推進条例」75.0%となっています。

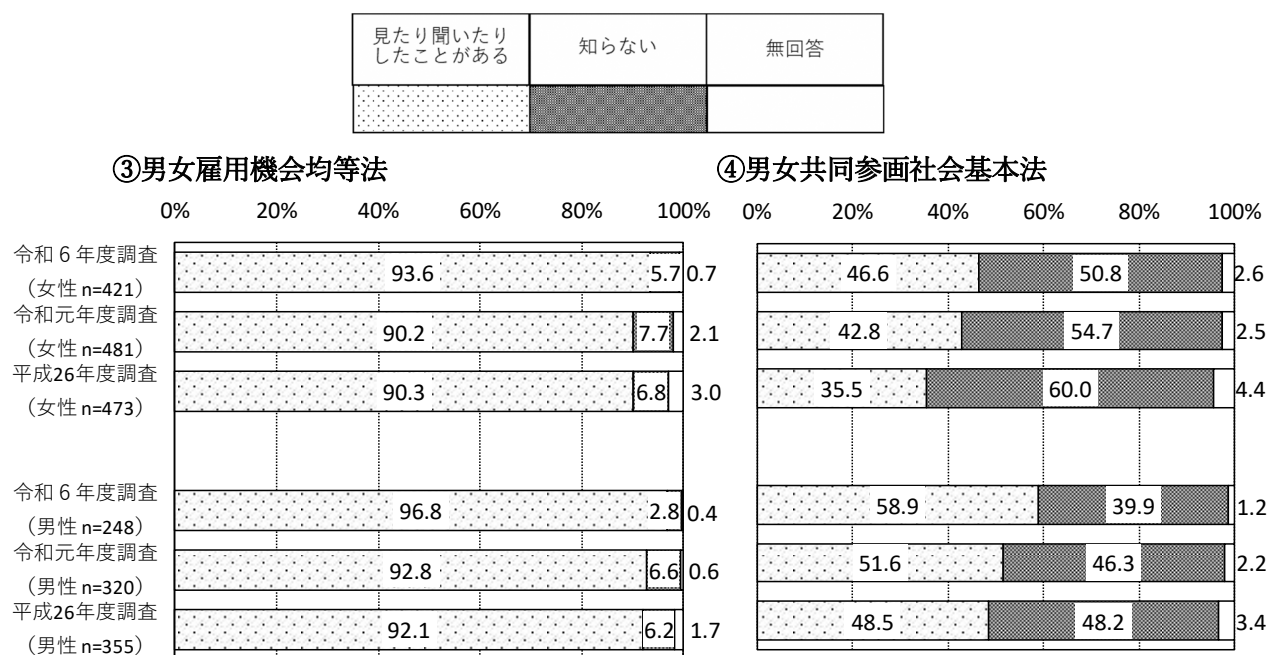
図表Ⅲ-1-2-35 ①男女共同参画社会 ②女子差別撤廃条約【過去の調査との比較】



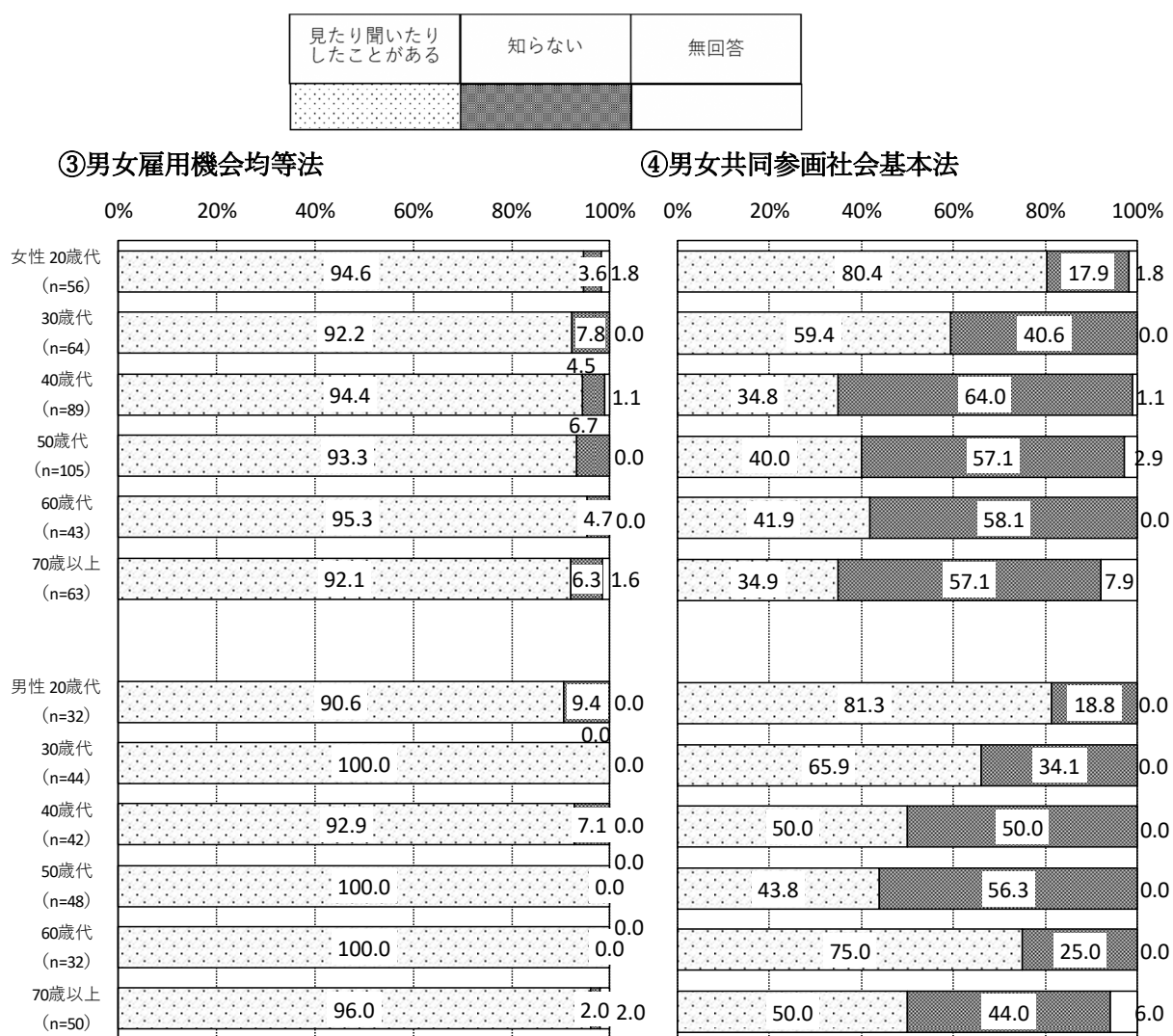
図表Ⅲ-1-2-36 ①男女共同参画社会 ②女子差別撤廃条約【性別・年代別】



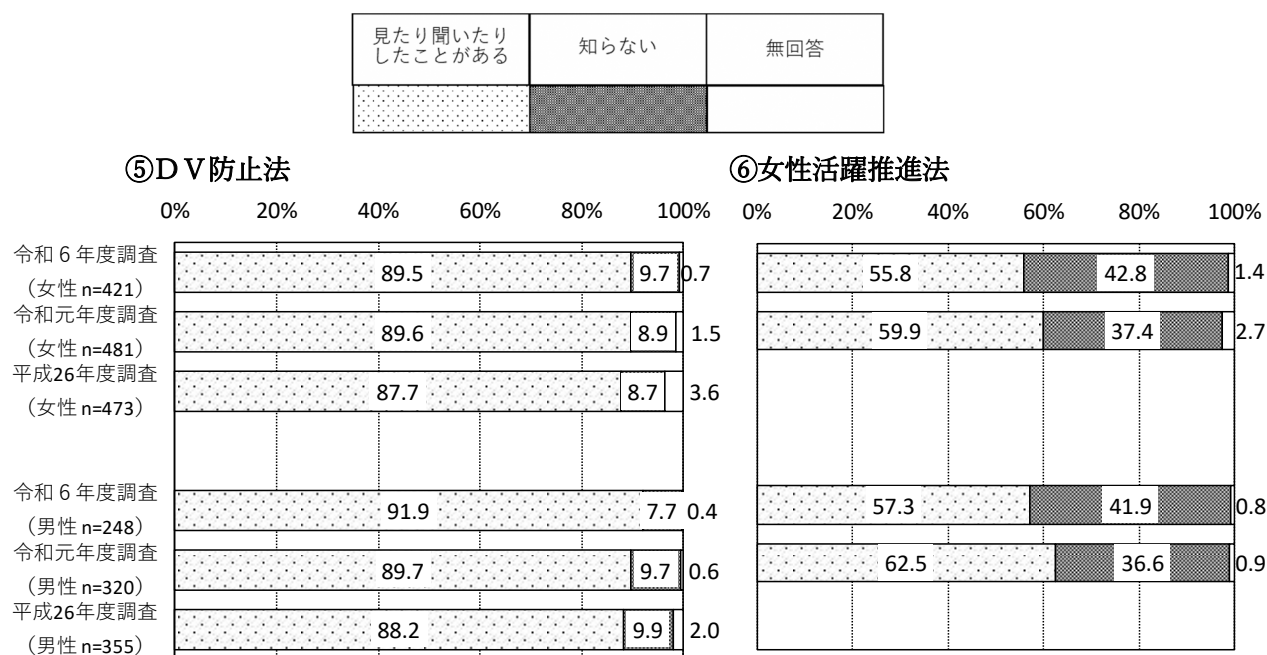
図表Ⅲ-1-2-37 ③男女雇用機会均等法 ④男女共同参画社会基本法【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-38 ③男女雇用機会均等法 ④男女共同参画社会基本法【性別・年代別】



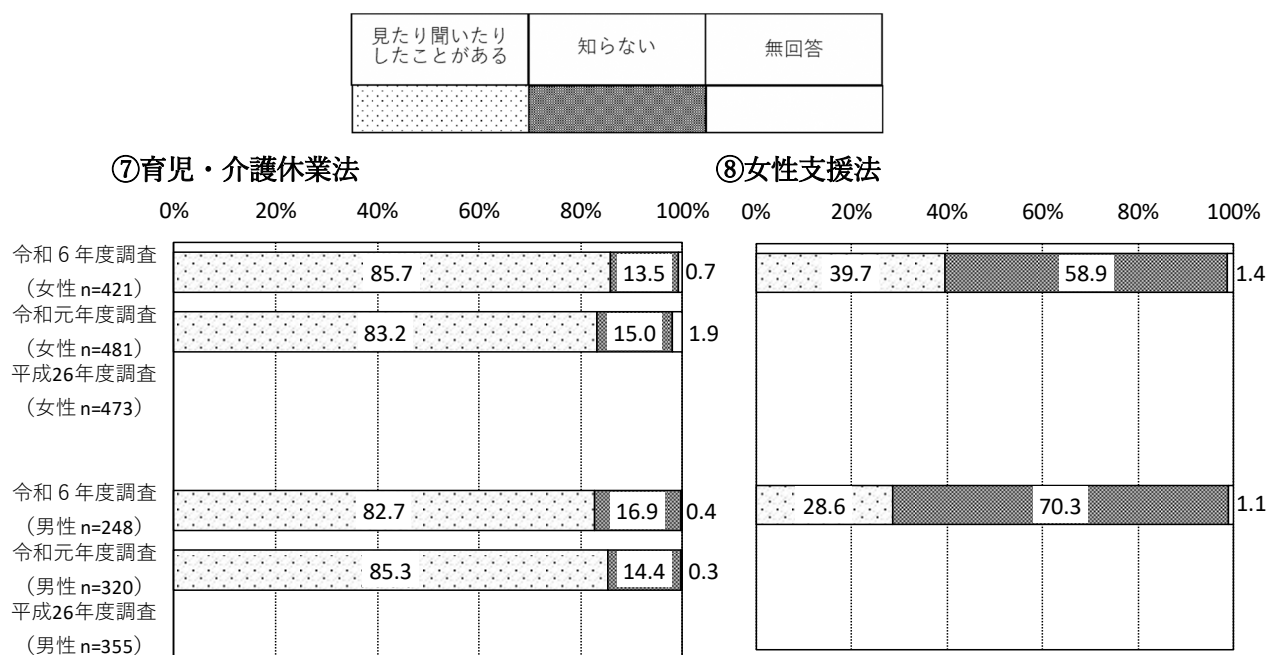
図表Ⅲ-1-2-39 ⑤DV防止法 ⑥女性活躍推進法【過去の調査との比較】



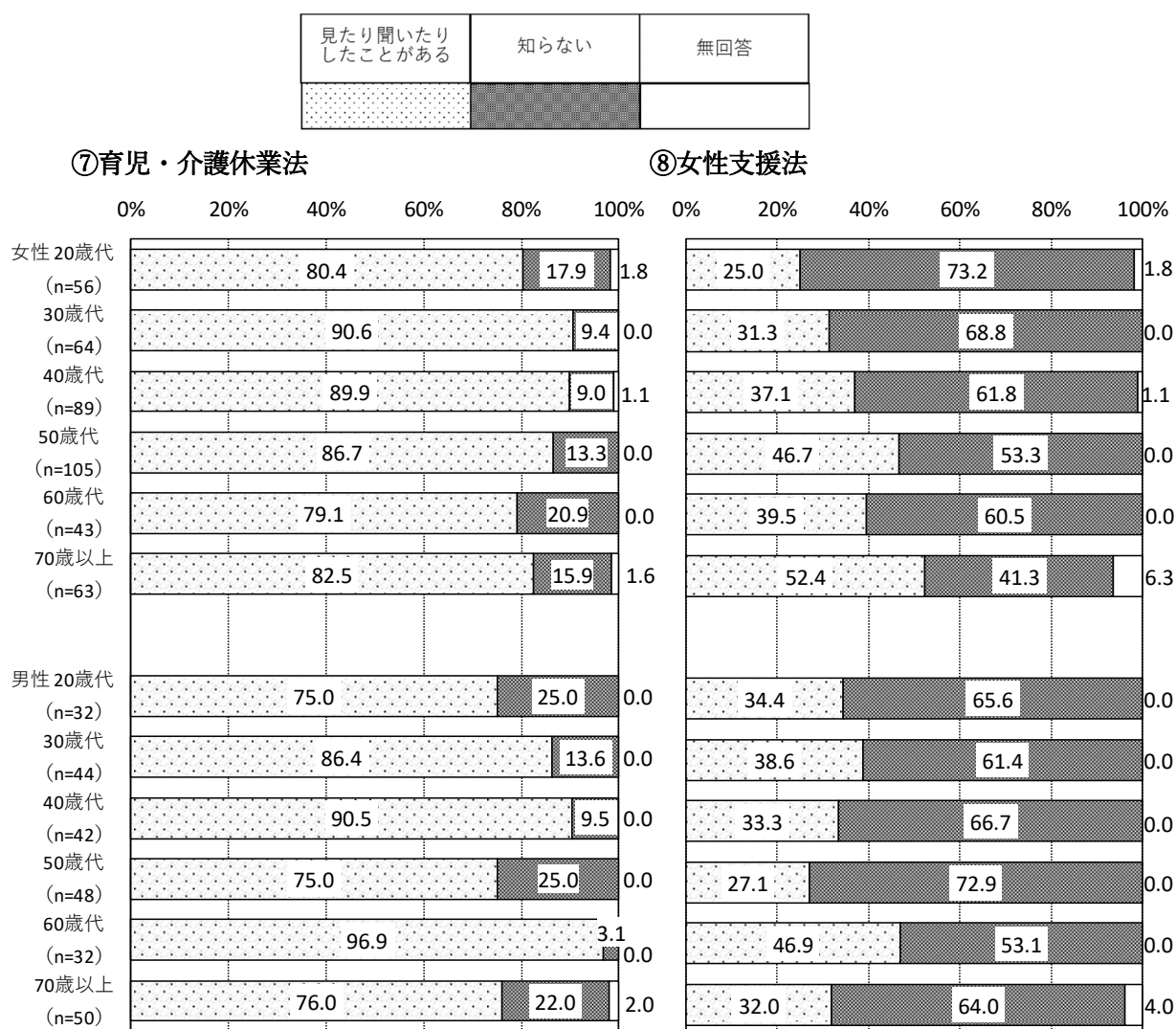
図表Ⅲ-1-2-40 ⑤DV防止法 ⑥女性活躍推進法【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-2-41 ⑦育児・介護休業法 ⑧女性支援法【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-42 ⑦育児・介護休業法 ⑧女性支援法【性別・年代別】

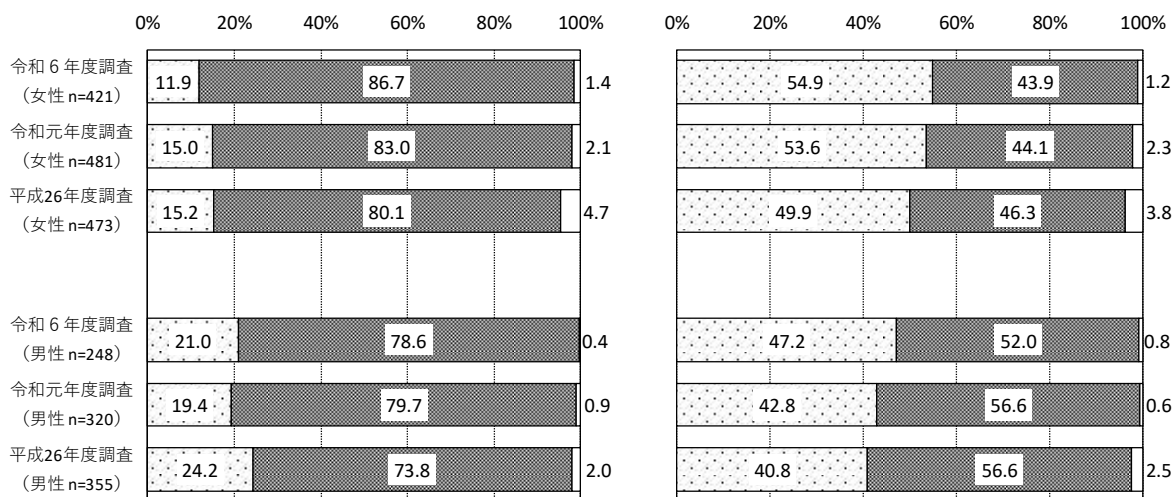


図表Ⅲ-1-2-43 ⑨ポジティブアクション ⑩デートDV【過去の調査との比較】

見たり聞いたり したことがある	知らない	無回答

⑨ポジティブアクション

⑩デートDV

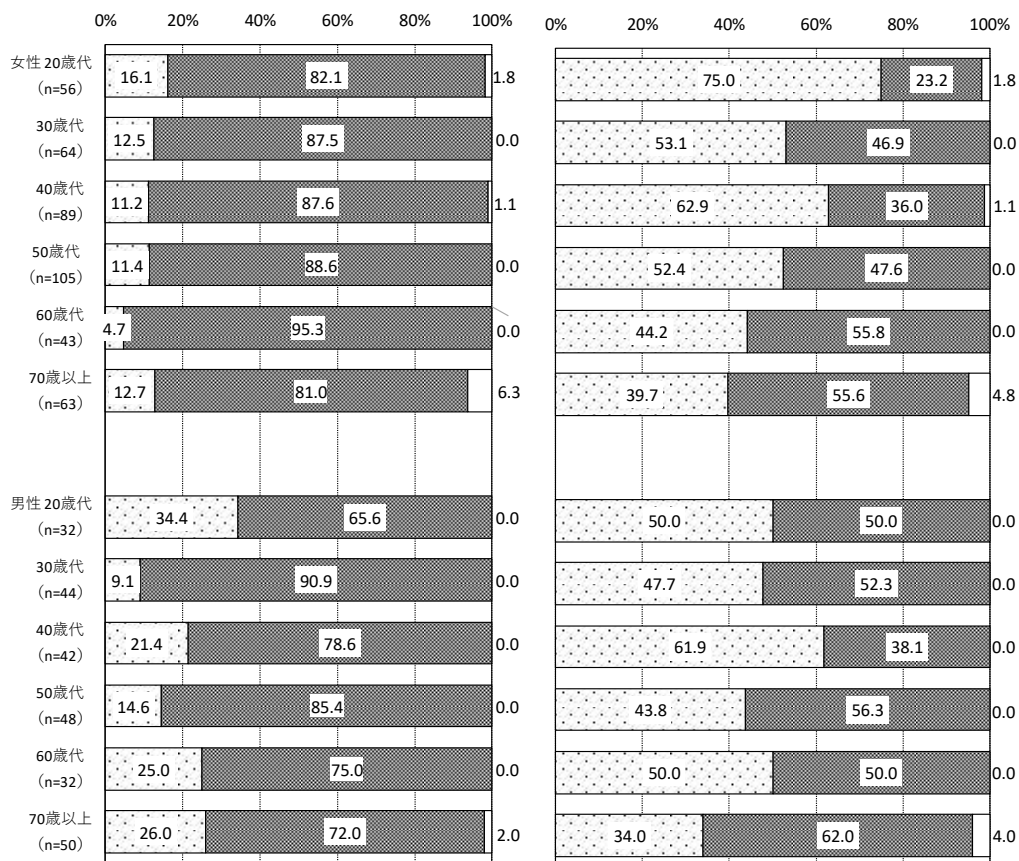


図表Ⅲ-1-2-44 ⑨ポジティブアクション ⑩デートDV【性別・年代別】

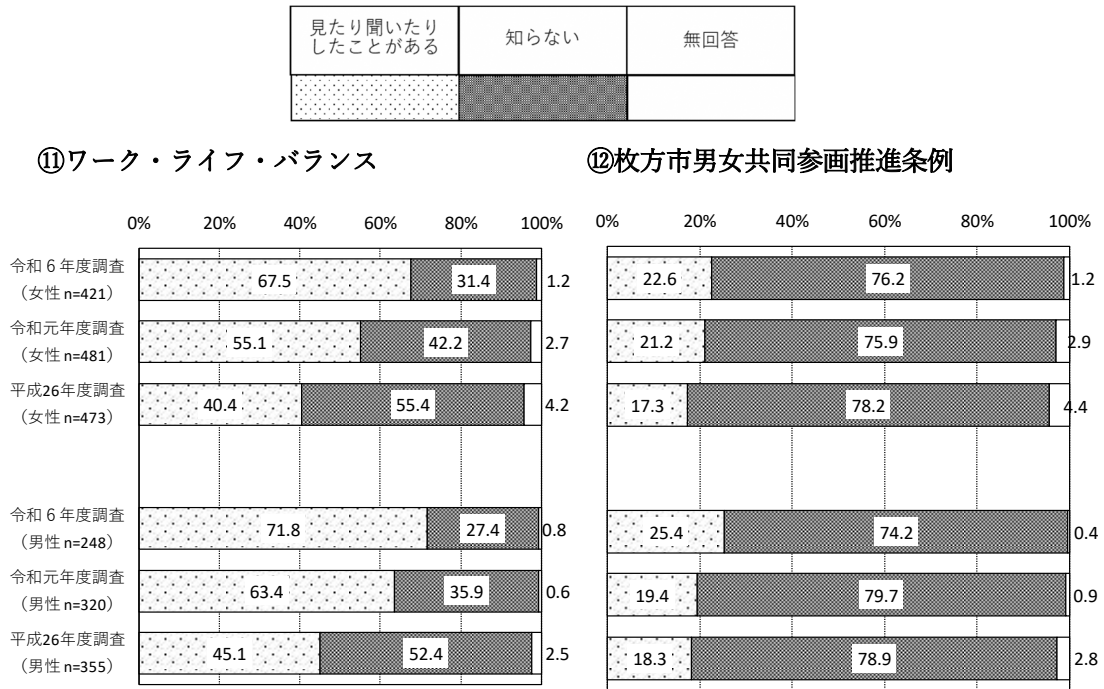
見たり聞いたり したことがある	知らない	無回答

⑨ポジティブアクション

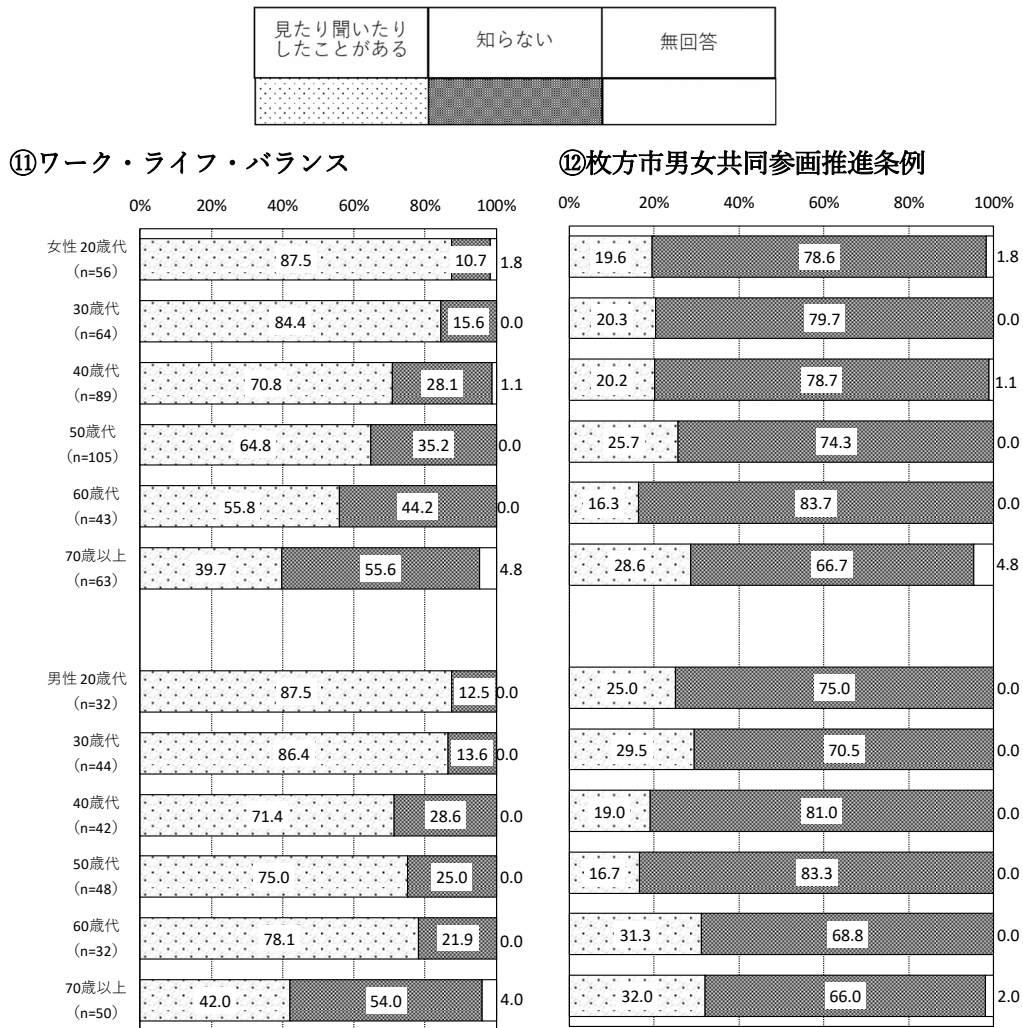
⑩デートDV



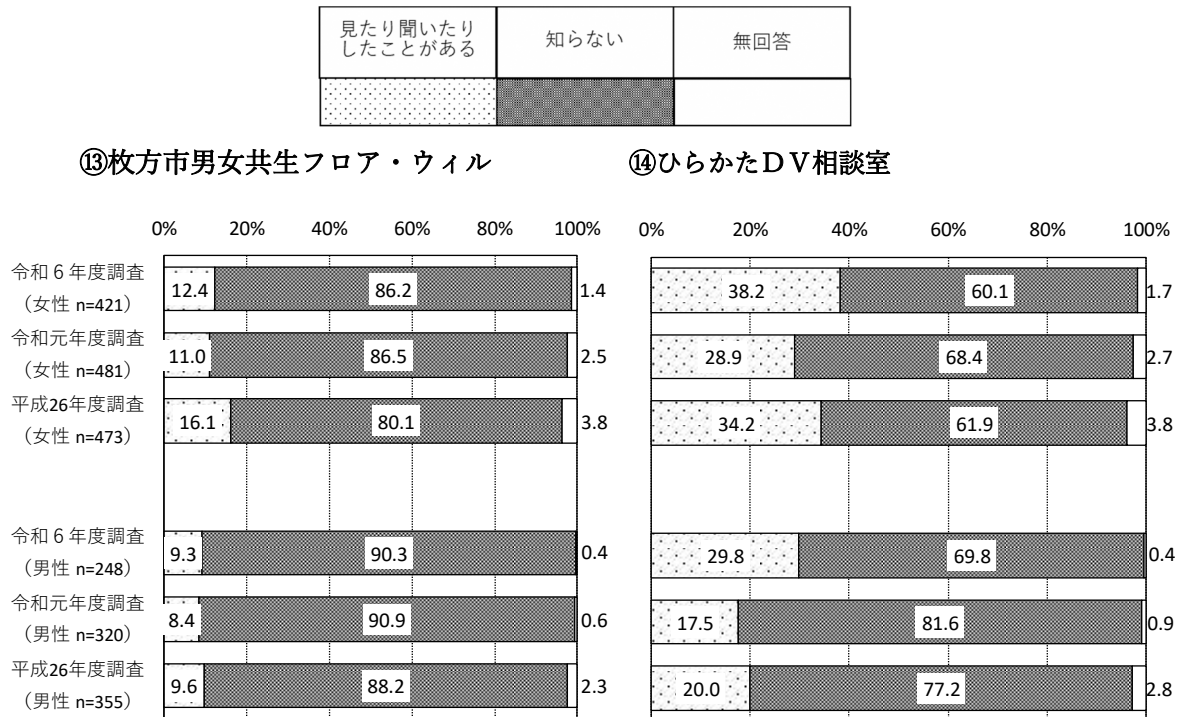
図表Ⅲ-1-2-45 ⑪ワーク・ライフ・バランス ⑫枚方市男女共同参画推進条例【過去の調査との比較】



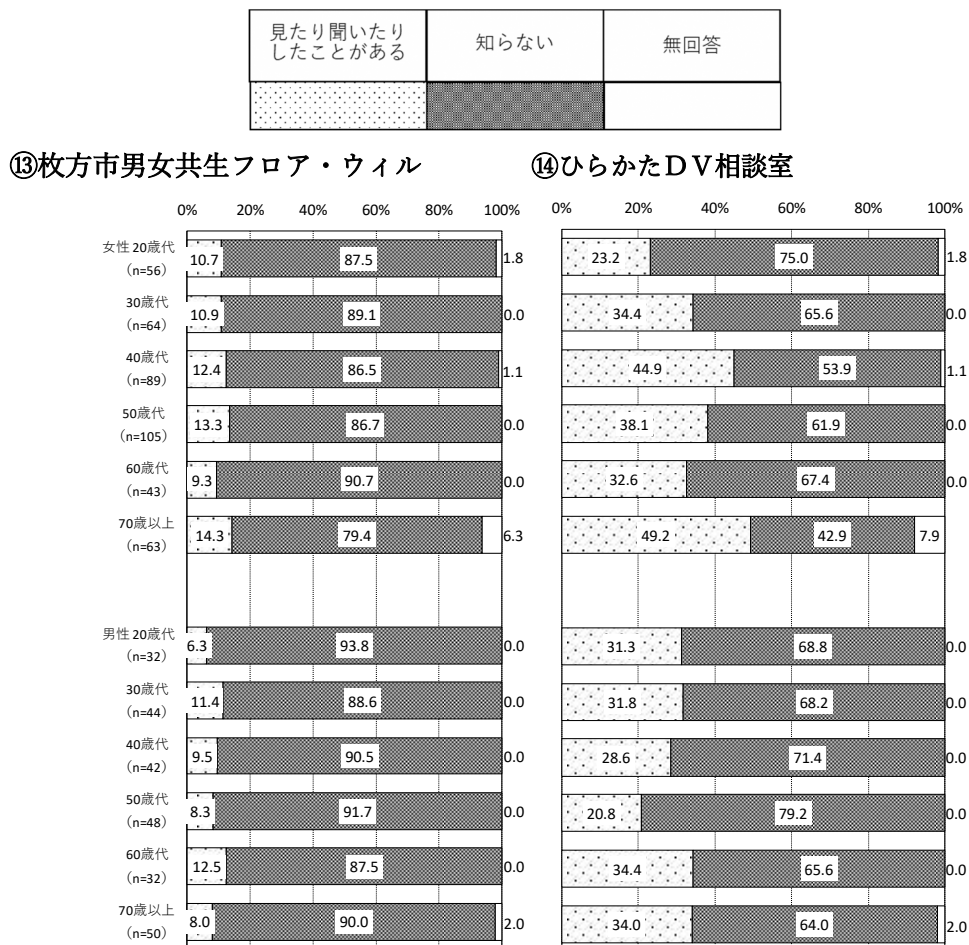
図表Ⅲ-1-2-46 ⑪ワーク・ライフ・バランス ⑫枚方市男女共同参画推進条例【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-2-47 ⑬枚方市男女共生フロア・ウィル ⑭ひらかたDV相談室【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-2-48 ⑬枚方市男女共生フロア・ウィル ⑭ひらかたDV相談室【性別・年代別】

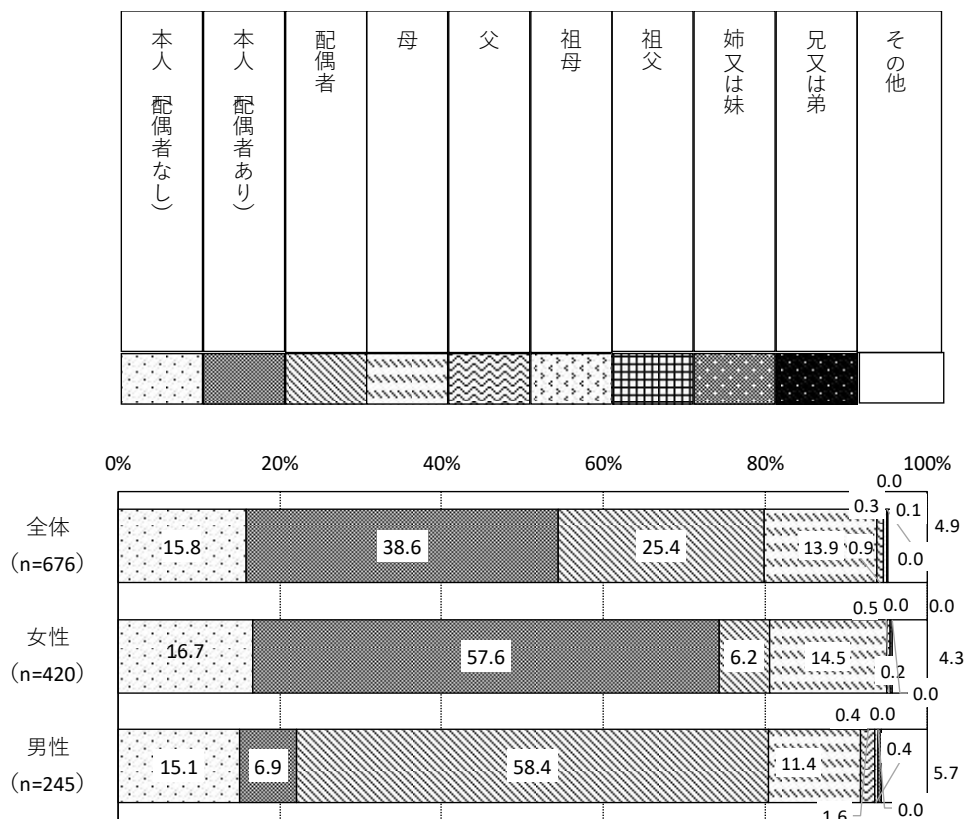


(3)家庭生活(子育て・介護)について

①家庭生活の分担について

問5 あなたの家庭で主に家庭での仕事（家事、子育て、介護）をしているのは誰ですか。（○は1つ）

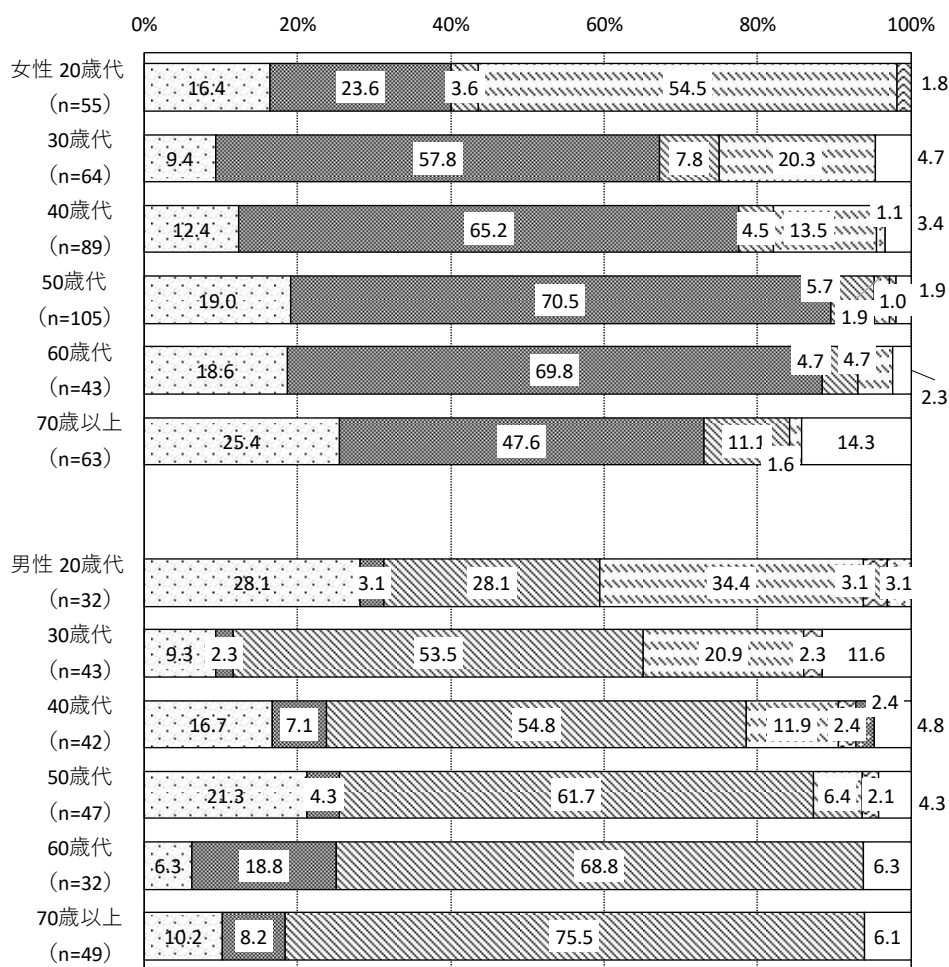
図表Ⅲ-1-3-1 家庭生活の分担について



【家庭生活の分担をしているのは女性は「本人（配偶者あり）」が、男性は「配偶者」がともに6割近く】

家庭での仕事を分担しているのは女性では「本人（配偶者あり）」で57.6%、男性では「配偶者」で58.4%でした。次いで「本人（配偶者なし）」で15.1%でした。

図表Ⅲ-1-3-2 家庭生活の分担について【性別・年代別】

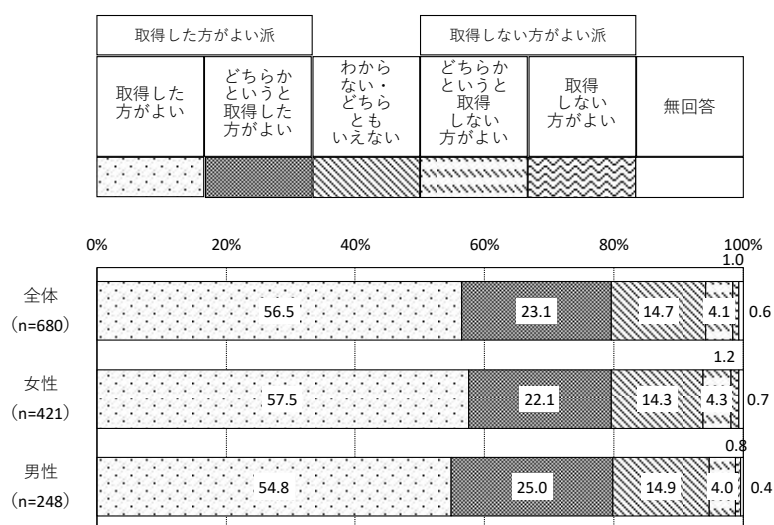


(回答のなかった項目の"0.0%"のラベルは省略しています)

②男性の育児休業取得をどう思うか

問6 育児を行うために、法律に基づき育児休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。(○は1つ)

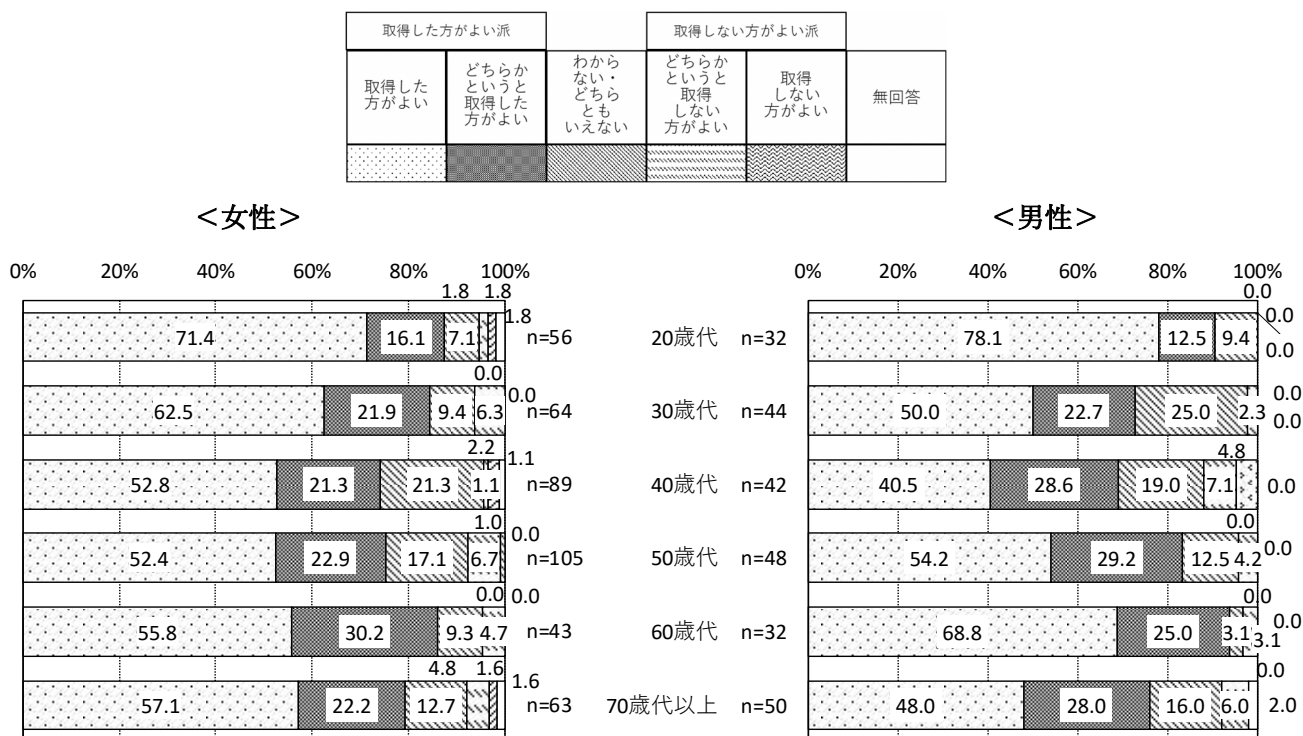
図表Ⅲ-1-3-3 男性の育児休業取得をどう思うか



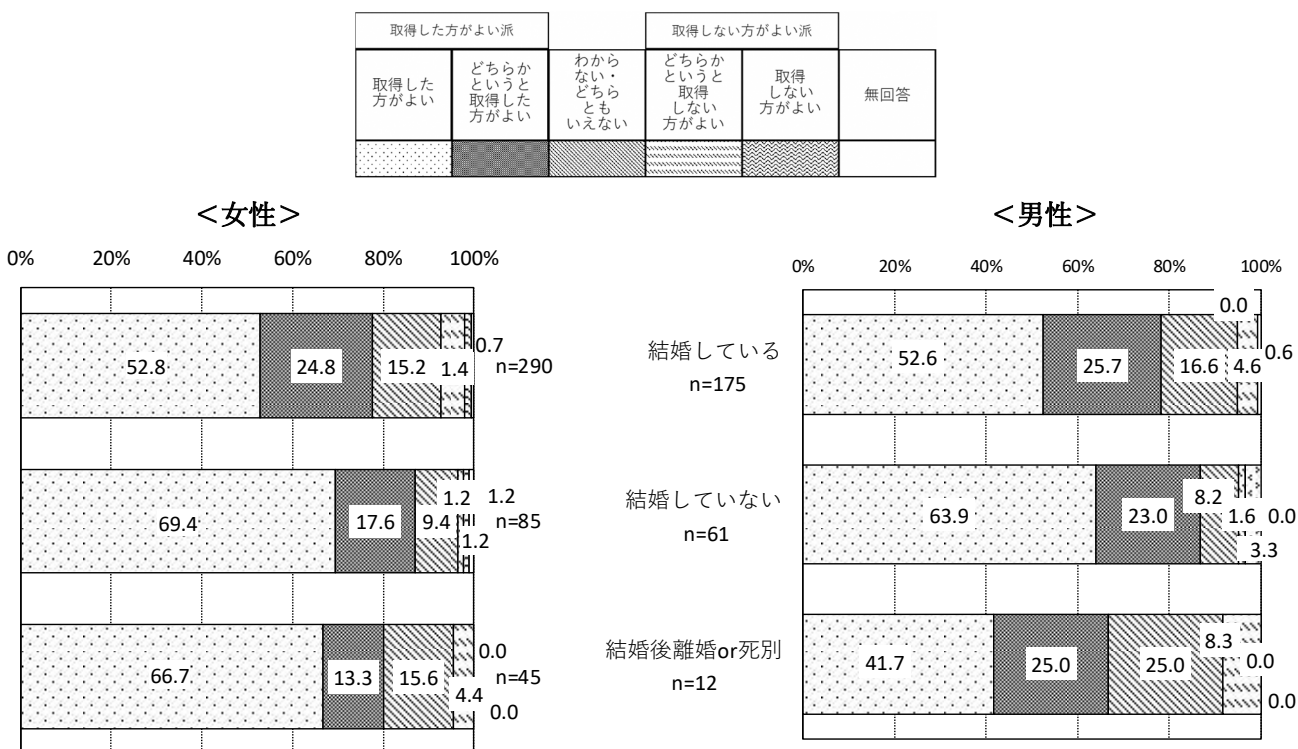
【男性の育児休業取得は「取得したほうがよい派」が男女とも 8 割近く】

男性の育児休業取得について、『取得したほうがよい派（『取得したほうがよい』と『どちらかというとな取得したほうがよい』の合計）』は女性 79.6%、男性 79.8%と、男女で大きな差は見られません。

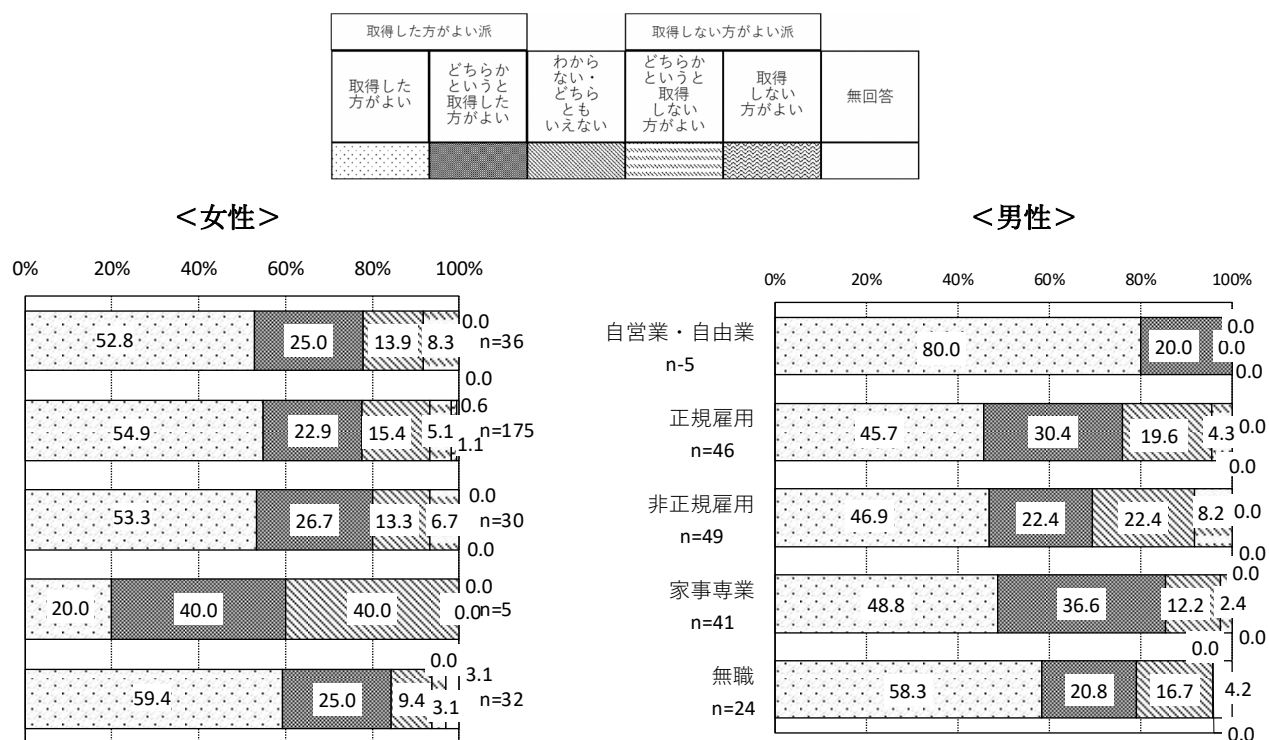
図表Ⅲ-1-3-4 男性の育児休業取得をどう思うか【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-3-5 男性の育児休業取得をどう思うか【性別・配偶者有無別】

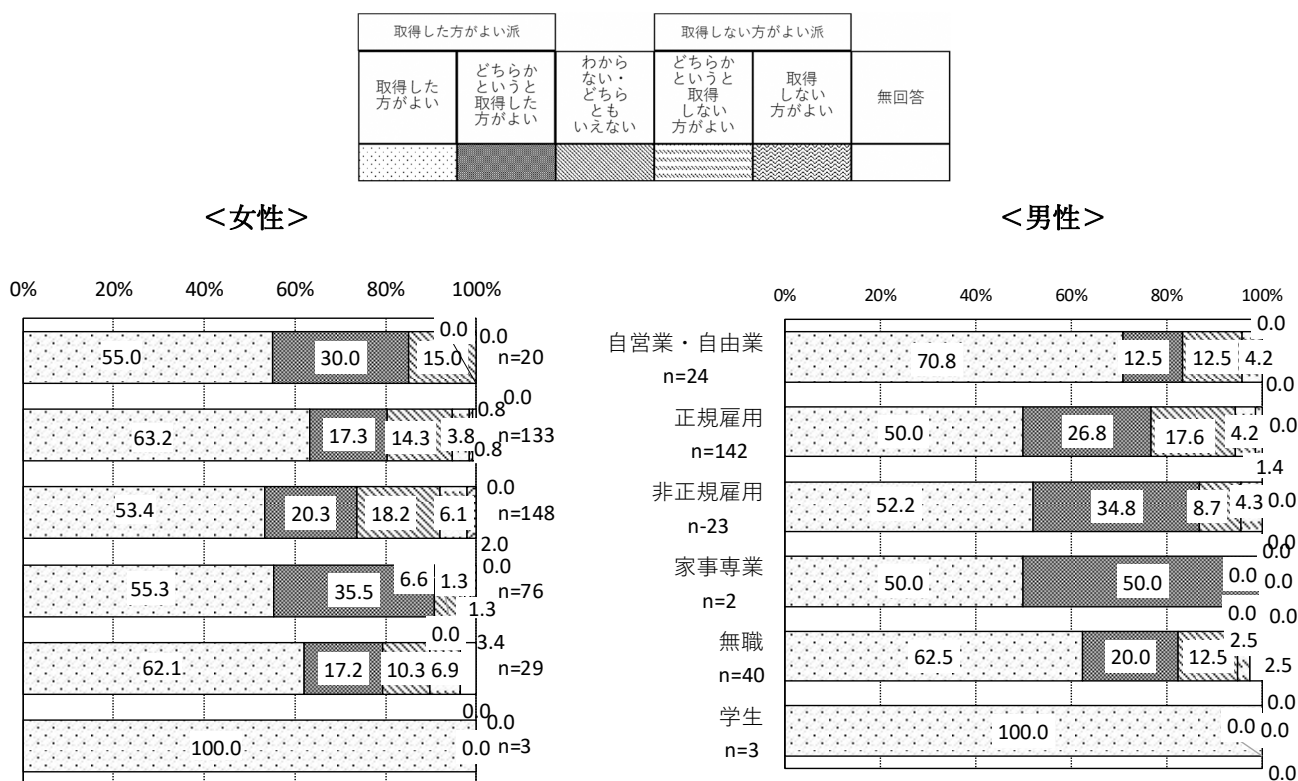


図表Ⅲ-1-3-6 男性の育児休業取得をどう思うか【性別・配偶者職業別】



(男性、女性ともに配偶者職業で「学生」との回答はありませんでした)

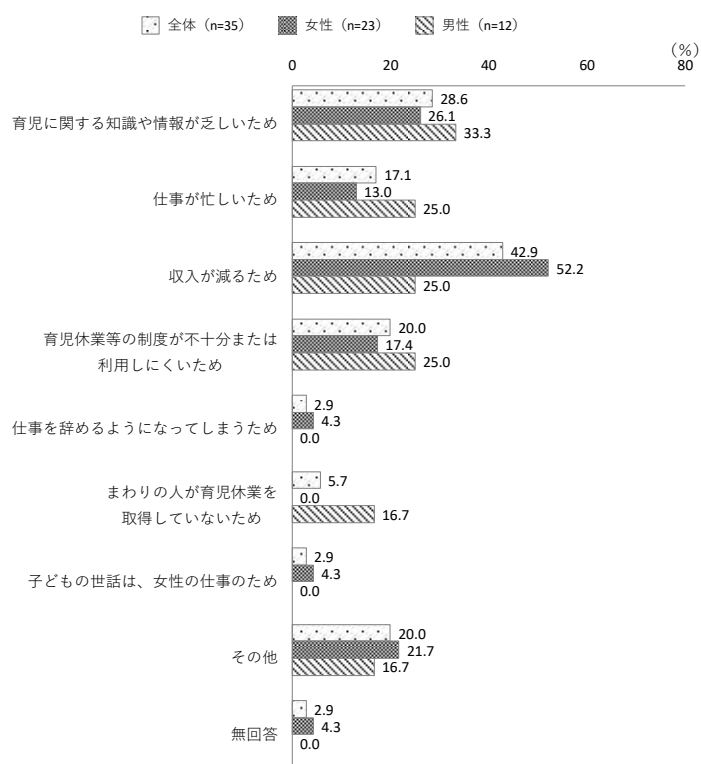
図表Ⅲ-1-3-7 男性の育児休業取得をどう思うか【性別・自身職業別】



③男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由

問 6 - 1 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(○は2つまで)

図表Ⅲ-1-3-8 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由



【「男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由」は女性は「収入が減るから」が約5割、男性は「育児に関する知識や情報が乏しいため」が約3分の1】

男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由については女性では「収入が減るため」(52.2%)、男性では「育児に関する知識や情報が乏しいため」(33.3%)が、次いで女性では「育児に関する知識や情報が乏しいため」(26.1%)、男性では「仕事が忙しいため」「育児休業等の制度が不十分または利用しにくい」「収入が減るため」がともに25.0%でした。

図表Ⅲ-1-3-9 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計 （実数）	育児 に関する 知識や 情報が 乏しい ため	仕事 が忙し いため	収入 が減る ため	育児 休業等 の制度 が不十 分な ため	仕事 を辞め るよう になっ てしま うため	まわ りの人 が育児 休業を 取得し ていな いため	子ど もの世 話は、 女性 の仕 事	そ の 他	無 回 答
全体	35	28.6	17.1	42.9	20.0	2.9	5.7	2.9	20.0	2.9
性別										
女性	23	26.1	13.0	52.2	17.4	4.3	0.0	4.3	21.7	4.3
男性	12	33.3	25.0	25.0	25.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
性別・年代別										
女性 20歳代	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性 30歳代	4	25.0	0.0	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性 40歳代	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
女性 50歳代	8	25.0	0.0	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0
女性 60歳代	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
女性 70歳以上	4	25.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 30歳代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 40歳代	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
男性 50歳代	2	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
男性 60歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性 70歳以上	3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 育児休業を取れる男性はその会社に必要なの？と思う
- 父が休んでいても母も休みならば負担は母にるので、だったら稼いでもらう方がよい。
- 夫の世話という仕事が増えるため
- 周りの方の負担が大きい
- 話を聞く限り男性の育休取得はかえって女性の負担になっているケースがあるため。

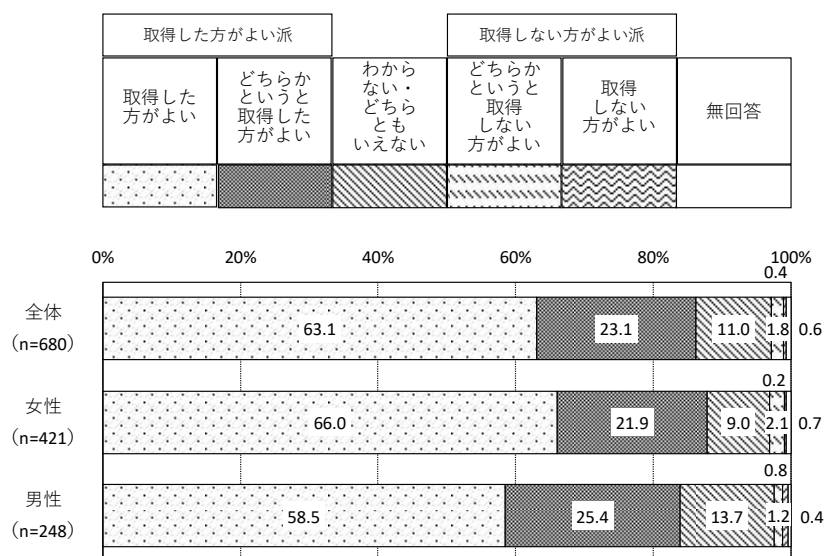
<男性>の意見

- 男性が家にいても出来ることは少なく、かえって女性の負担が増えるため
- 中小企業にとって、従業員の長期離脱は死活問題であり、現実的ではない

④男性の介護休業取得をどう思うか

問7 介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が介護休業を取得することについてどう思いますか。(○は1つ)

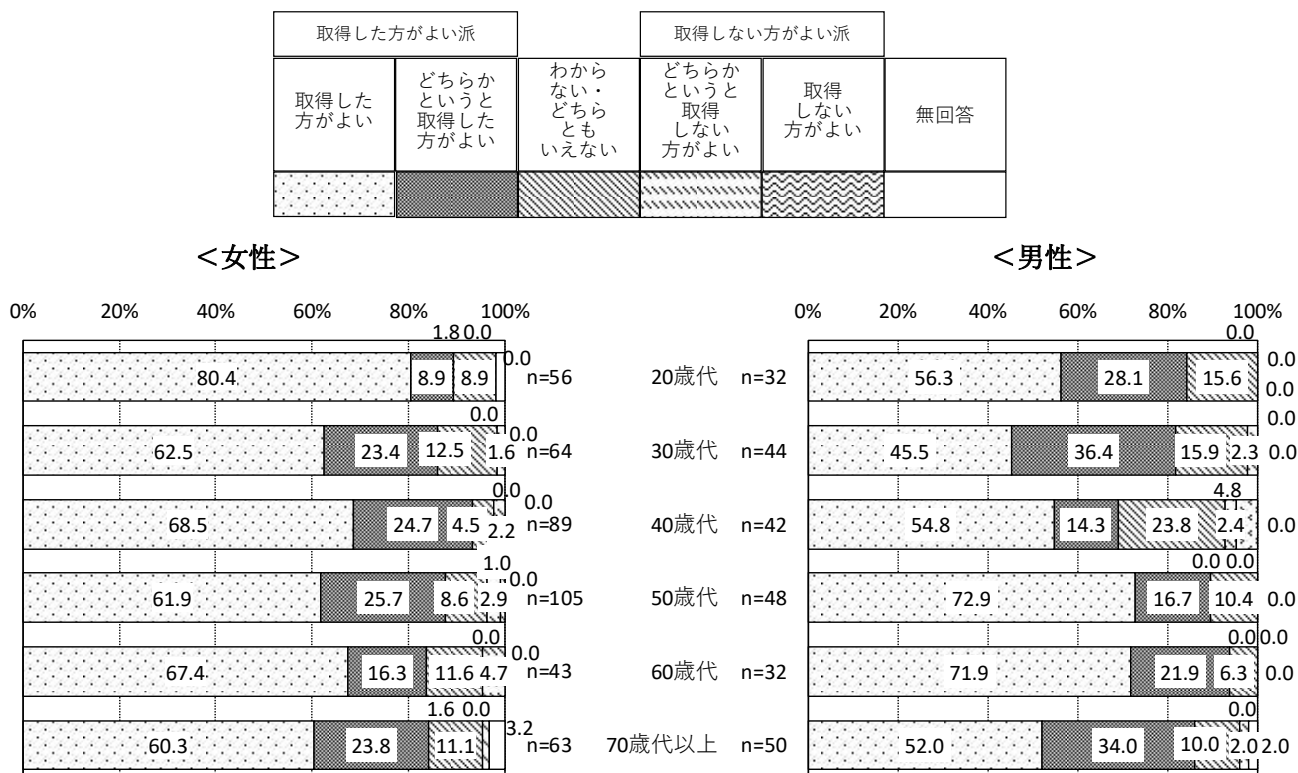
図表Ⅲ-1-3-10 男性の介護休業取得をどう思うか



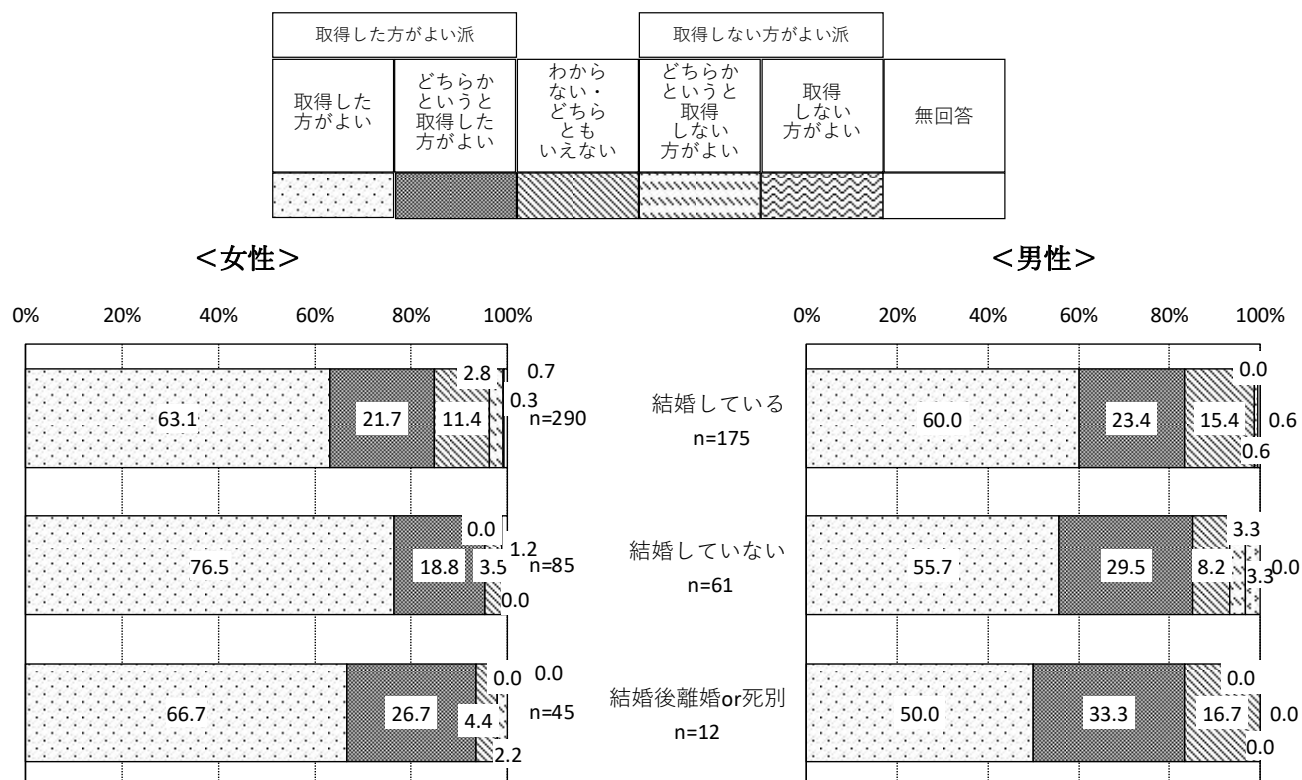
【男性の介護休業取得は「取得したほうがよい派」が男女とも8割以上】

男性の介護休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかという取得した方がよい』の合計）』は女性87.9%、男性83.9%と、男女で大きな差は見られません。

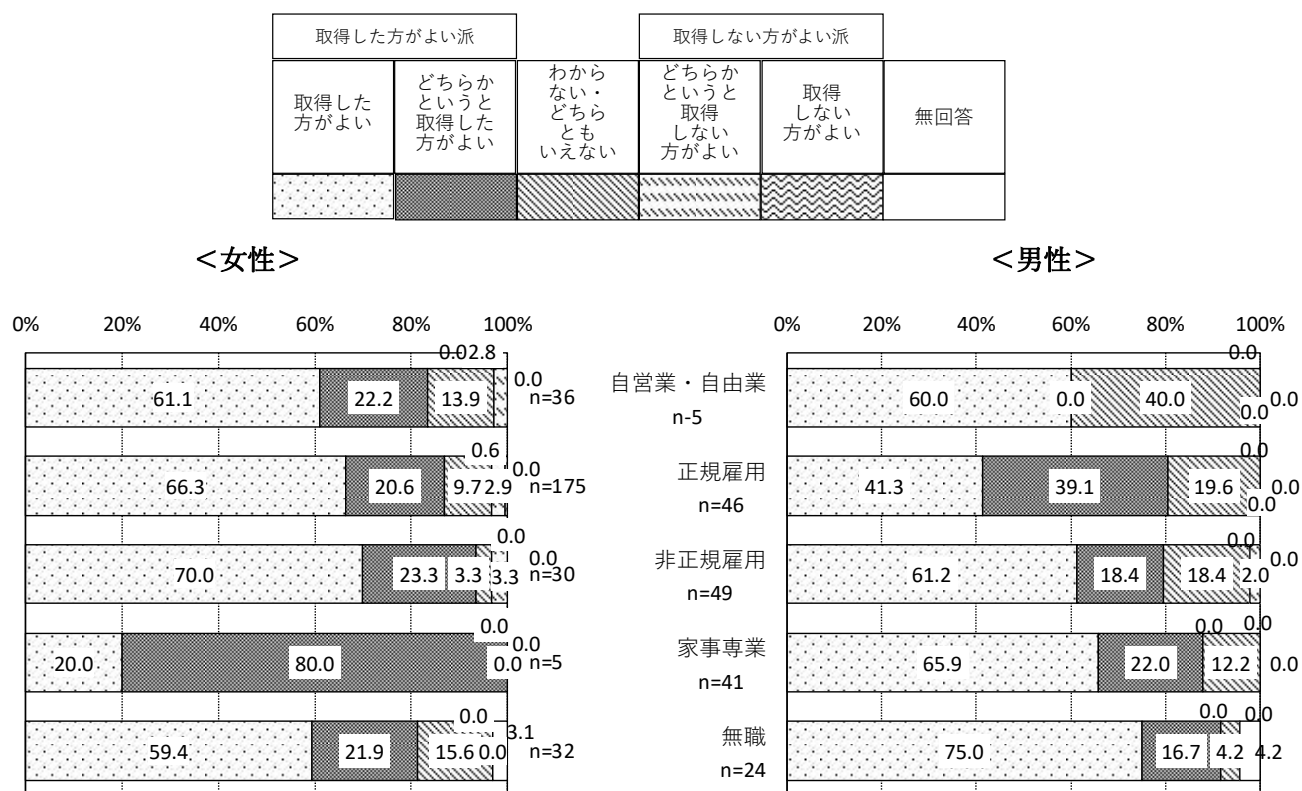
図表Ⅲ-1-3-11 男性の介護休業取得をどう思うか【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-3-12 男性の介護休業取得をどう思うか【性別・配偶者有無別】



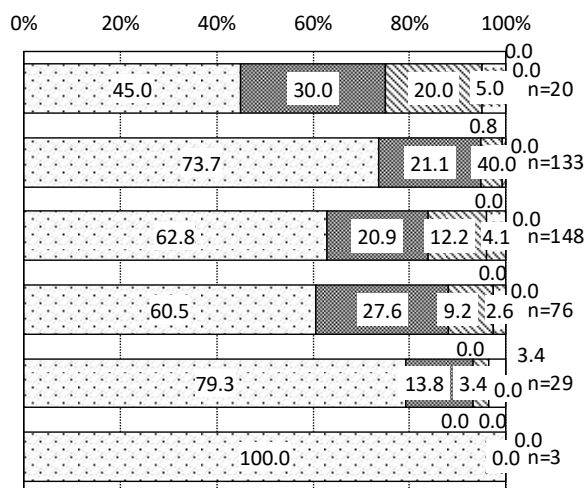
図表Ⅲ-1-3-13 男性の介護休業取得をどう思うか【性別・配偶者職業別】



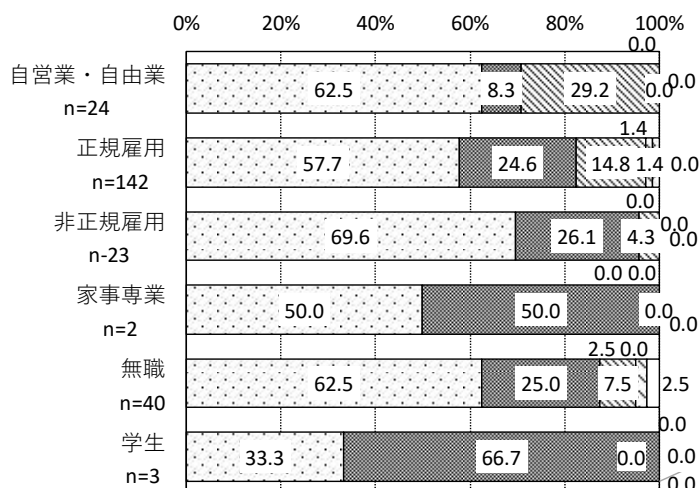
図表Ⅲ-1-3-14 男性の介護休業取得をどう思うか【性別・自身職業別】

取得した方がよい派			取得しない方がよい派		
取得した方がよい	どちらかという取得した方がよい	わからない・どちらともいえない	どちらかという取得しない方がよい	取得しない方がよい	無回答

<女性>



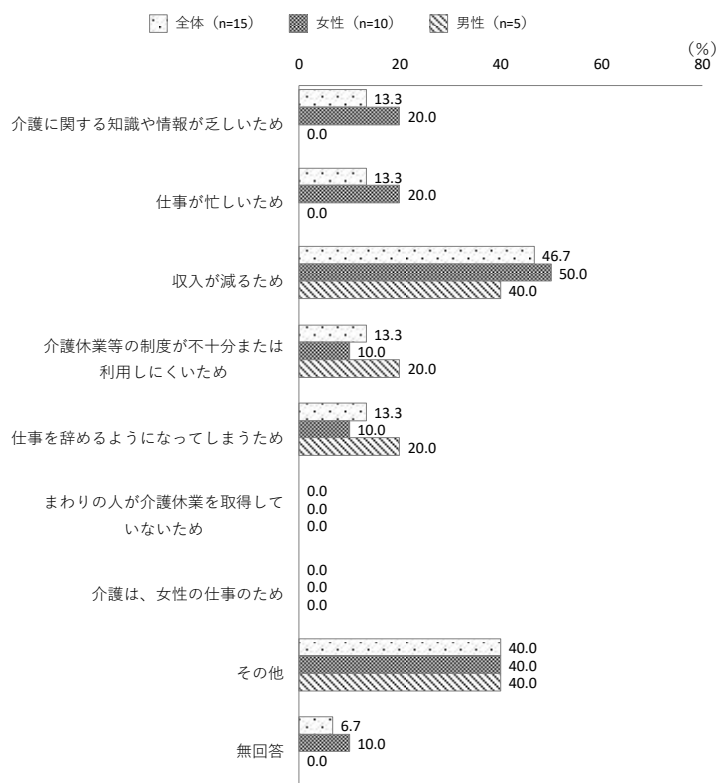
<男性>



⑤男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由

問7-1 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(○は2つまで)

図表Ⅲ-1-3-15 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由



【男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は男女とも「収入が減るため」が最多で4割以上】

男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由については、女性・男性いずれも「収入が減るため」が女性 50.0%、男性 40.0%で最も高くなっています。

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 収入の主力が男性の場合は介護で体や心をこわして、次働けなくなったら家族が生活出来ないため
- 社会との隔離
- 周りの方の負担が大きい
- 男性に限らないが、マルチに動ける働き手が介護に回るのは避けたい。介護従事者をどうにか増やして適材適所のような形にするのが望ましい。身内に寄り添い介護したい気持ちは当然なので、それが実現できるようにしっかり休日等が与えられる社会になってほしい。

<男性>の意見

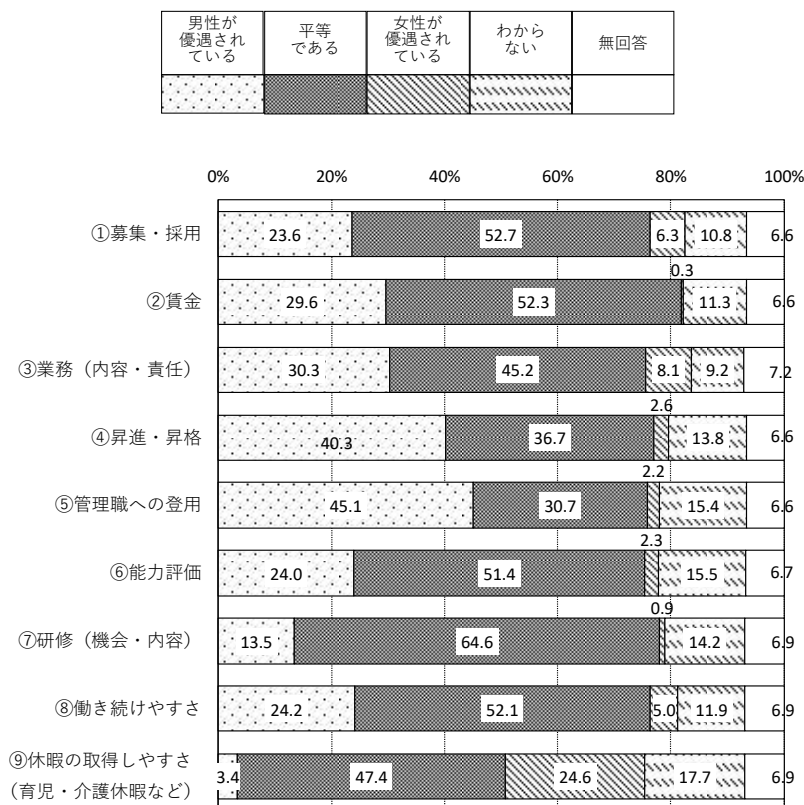
- 介護に関する知識が乏しく収入が減るため
- 中小企業にとって、従業員の長期離脱は死活問題であり、現実的ではない

(4)職業生活について

①職場の男女差別

問8 あなたの今の職場、あるいは、元職場では、次の（１）～（９）について、性別によって差がある（あった）と思いますか。（○は各項目に１つ）

図表Ⅲ-1-4-1 職場の男女差別



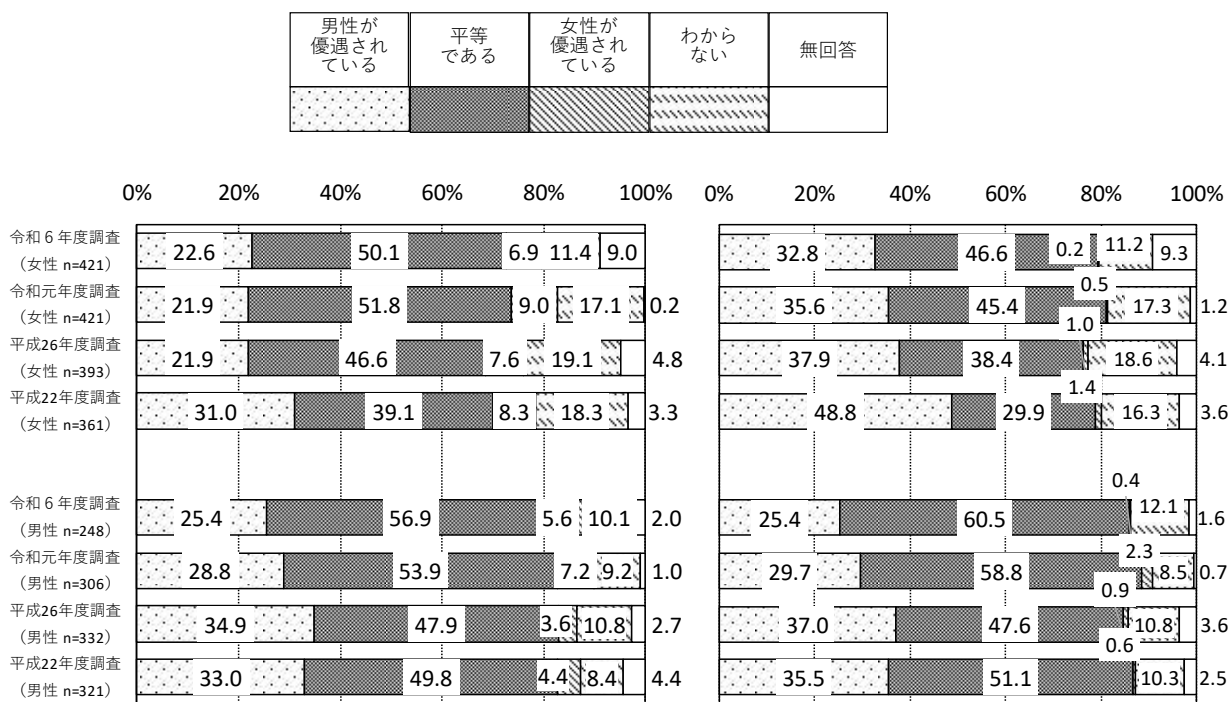
【職場の男女差別で「平等である」が多いのは「研修」で 64.6%、「男性が優遇」は「管理職への登用」が 45.1%、女性が優遇は「休暇の取得しやすさ」で 24.6%】

職場での男女差について、全体で見ると『男性が優遇されている』と『女性が優遇されている』の差が大きかったものは「管理職への登用」（女性優遇 2.2%、男性優遇 45.1%）、「昇進昇格」（女性優遇 2.6%、男性優遇 40.3%）となっています。『平等である』は「研修（機会・内容）」（64.6%）、「募集・採用」（52.7%）で割合が高くなりました。「休暇の取得しやすさ」（女性優遇 24.6%、男性優遇 3.4%）では女性優遇が男性優遇より割合が高くなっています。

図表Ⅲ-1-4-2 ①募集・採用／②賃金【過去調査との比較】

①募集・採用

②賃金

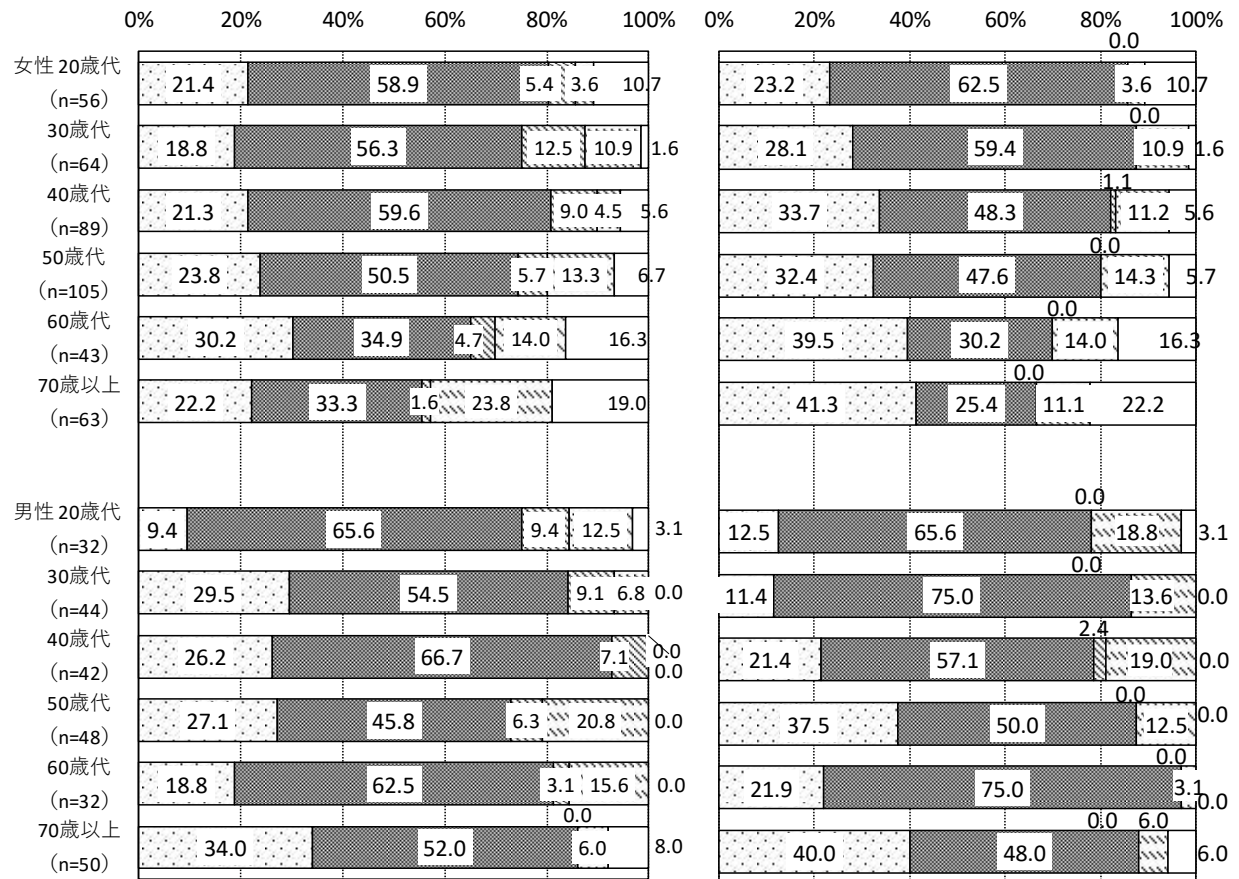


図表Ⅲ-1-4-3 ①募集・採用／②賃金【性別・年代別】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

①募集・採用

②賃金

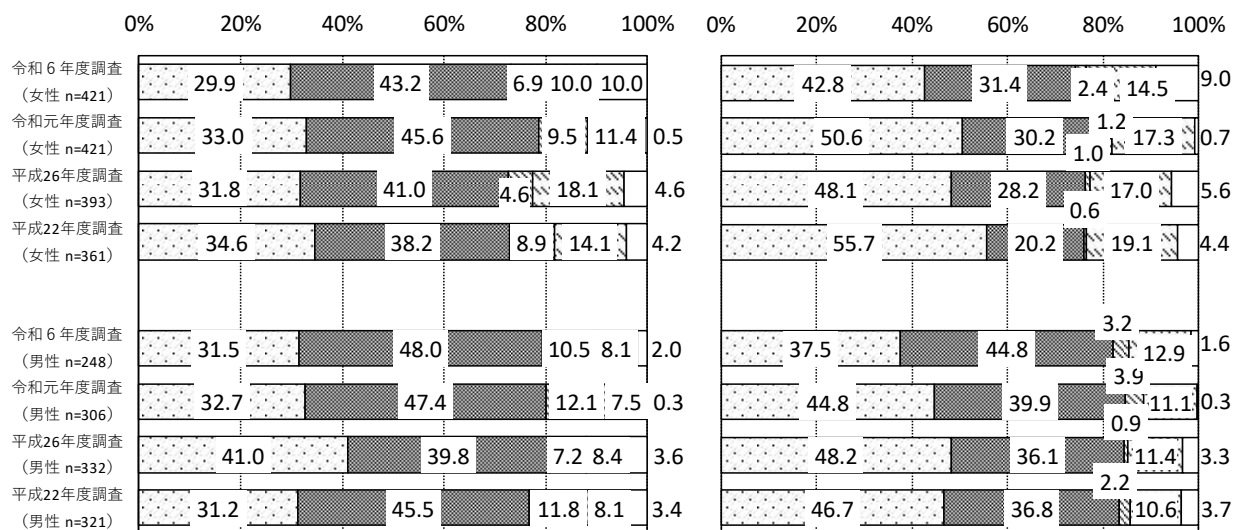


図表Ⅲ-1-4-4 ③業務（内容・責任）／④昇進・昇格【過去調査との比較】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

③業務（内容・責任）

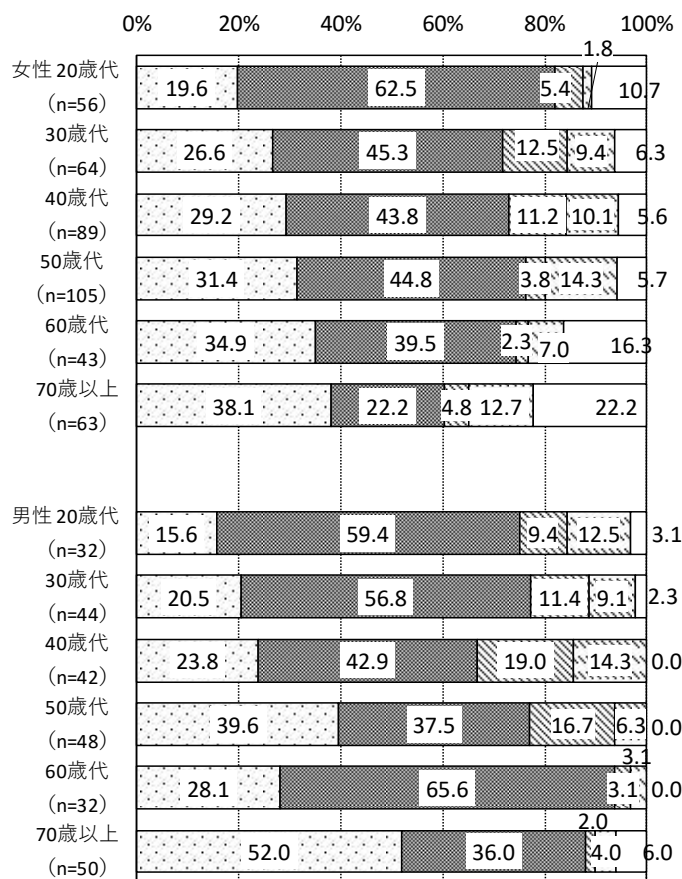
④昇進・昇格



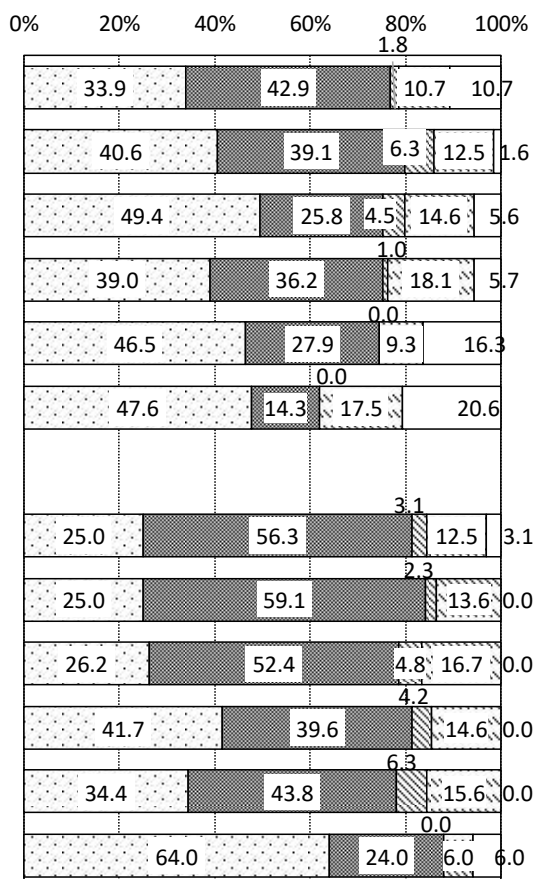
図表Ⅲ-1-4-5 ③業務（内容・責任）／④昇進・昇格【性別・年代別】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

③業務（内容・責任）



④昇進・昇格

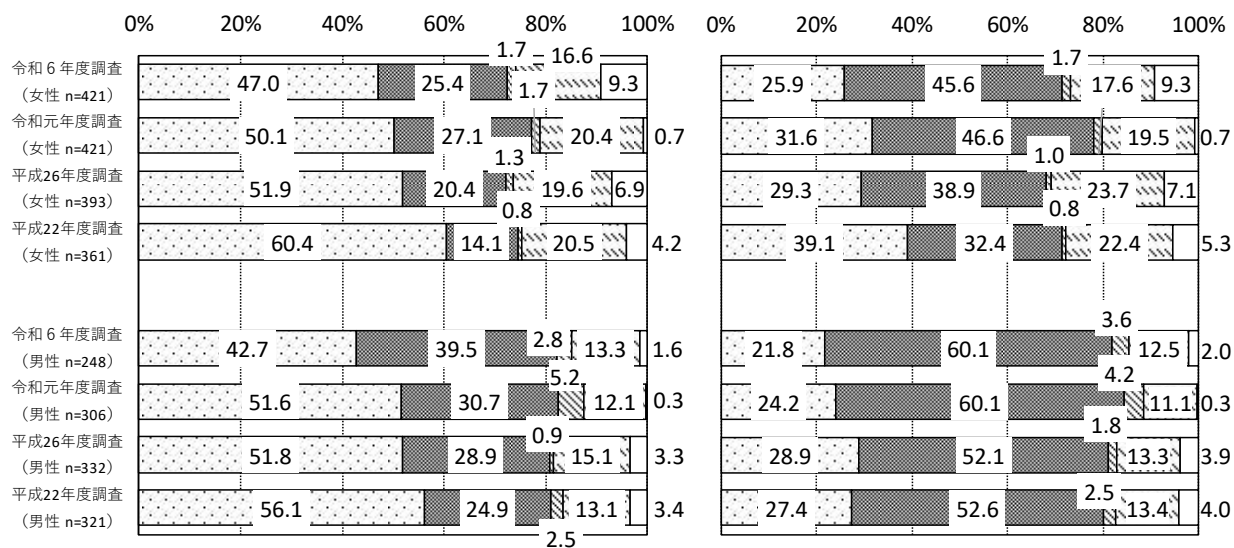


図表Ⅲ-1-4-6 ⑤管理職への登用／⑥能力評価【過去調査との比較】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

⑤管理職への登用

⑥能力評価



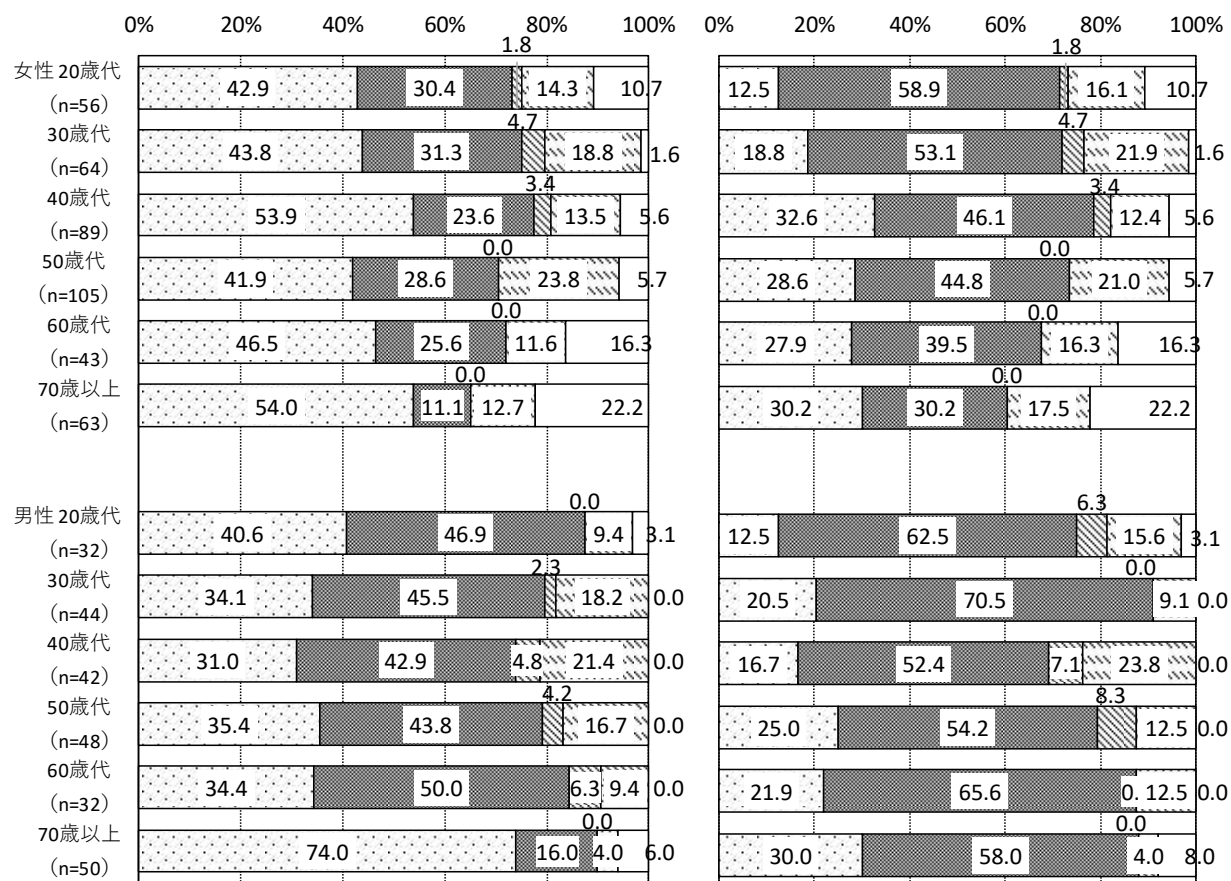
図表Ⅲ-1-4-7 ⑤管理職への登用

⑥能力評価【性別・年代別】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

⑤管理職への登用

⑥能力評価



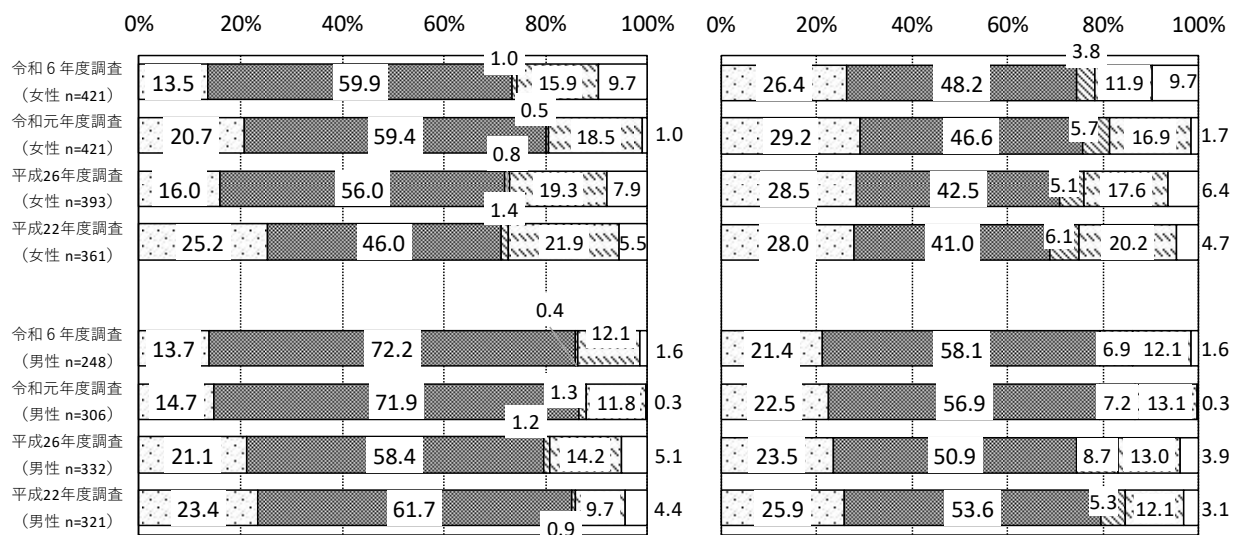
図表Ⅲ-1-4-8 ⑦研修（機会・内容）

⑧働き続けやすさ【過去調査との比較】

男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

⑦研修（機会・内容）

⑧働き続けやすさ



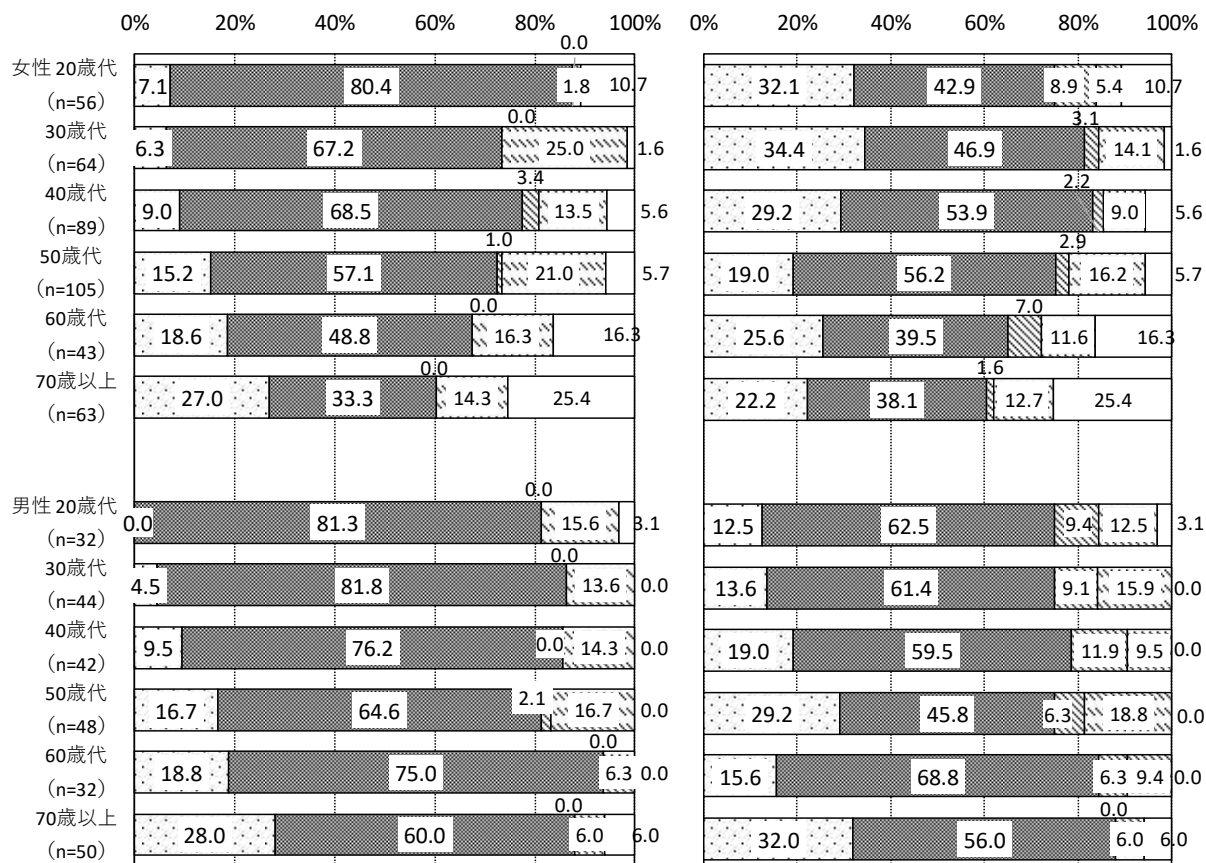
図表Ⅲ-1-4-9 ⑦研修（機会・内容）

⑧働き続けやすさ【性別・年代別】

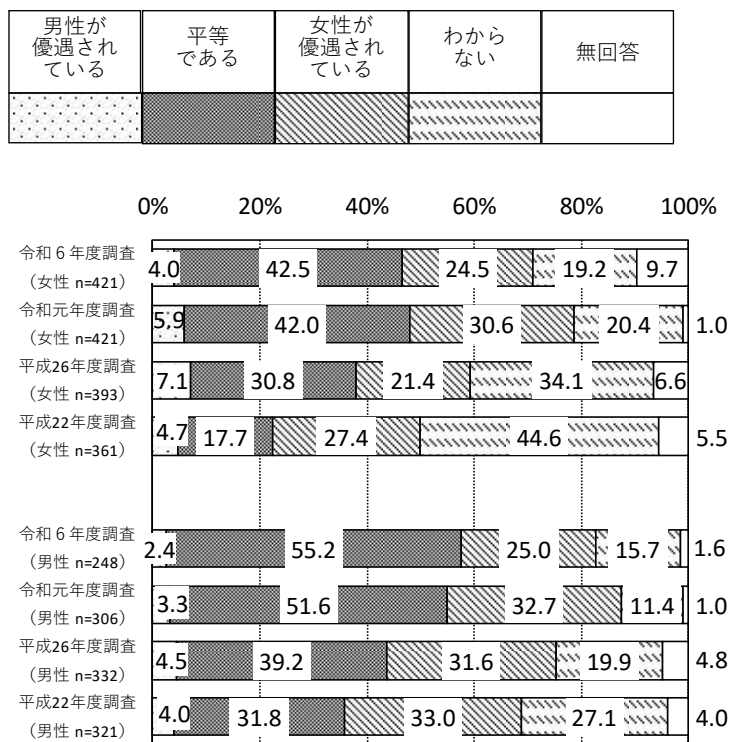
男性が 優遇され ている	平等 である	女性が 優遇され ている	わから ない	無回答

⑦研修（機会・内容）

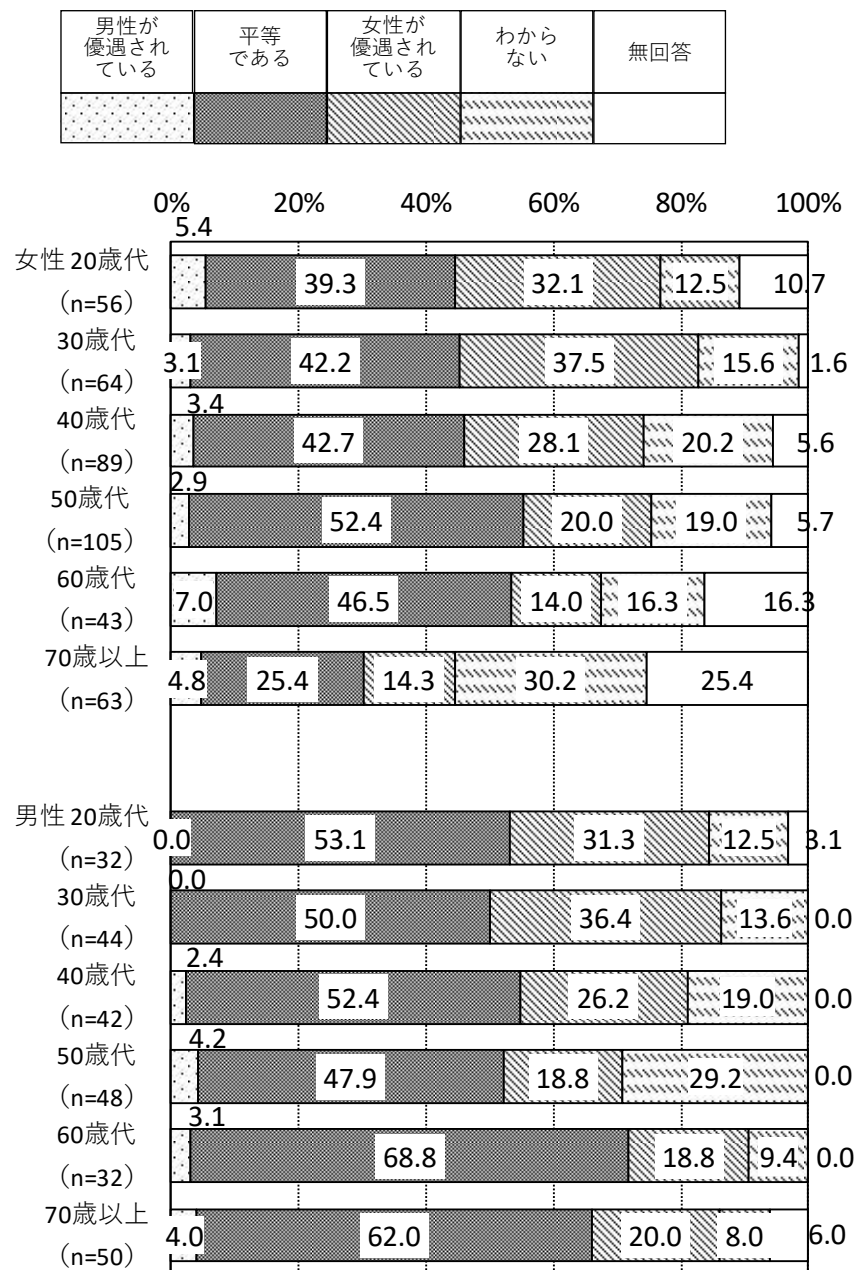
⑧働き続けやすさ



図表Ⅲ-1-4-10 ⑨休暇の取得しやすさ（育児・介護休暇など）【過去調査との比較】



図表Ⅲ-1-4-11 ⑨休暇の取得しやすさ（育児・介護休暇など）【性別・年代別】

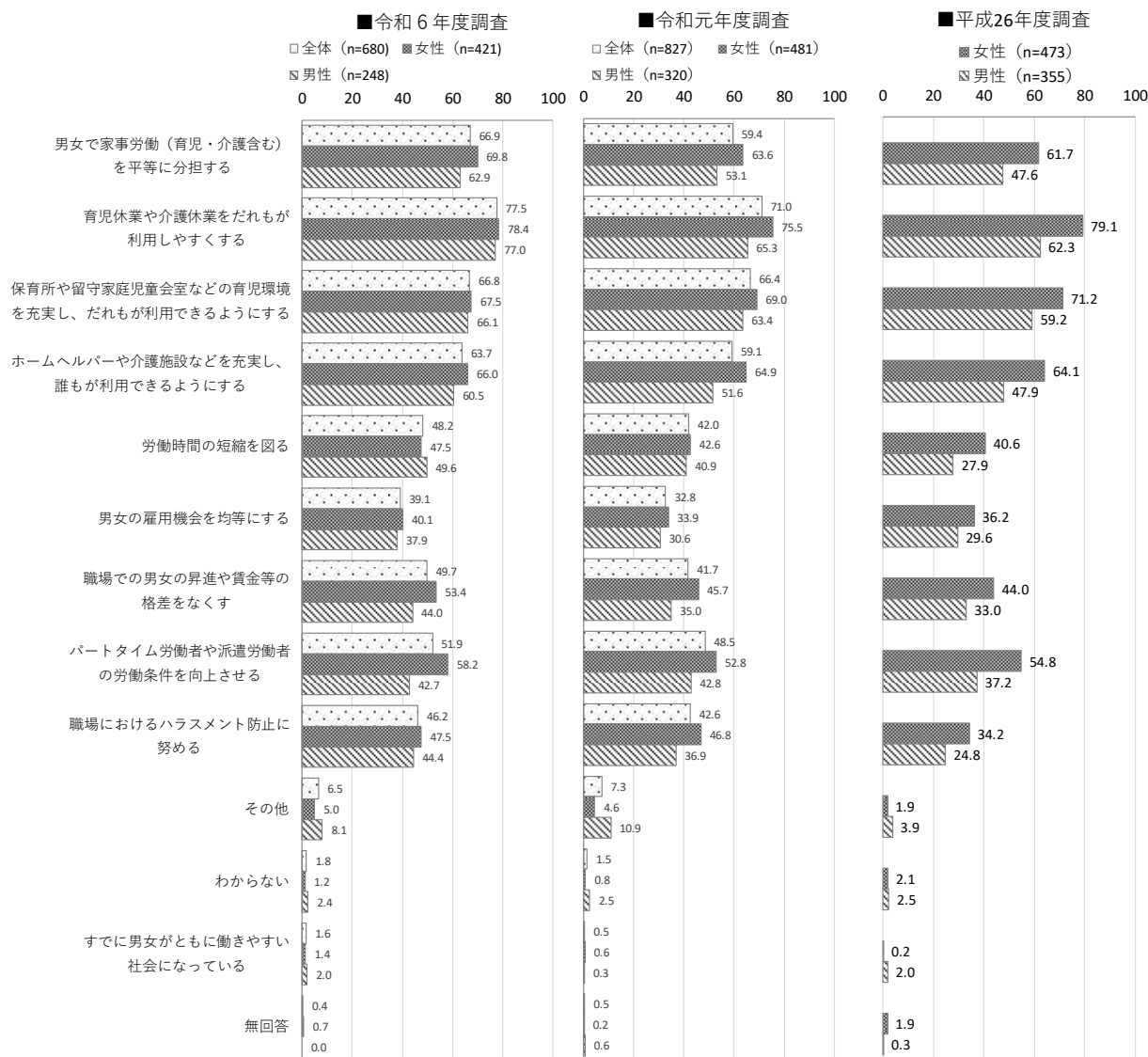


②男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと

問9 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

図表Ⅲ-1-4-12 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと

【過去調査との比較】



【男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことは「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が最多で8割近く】

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについては、全体で見ると「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が77.5%で最も高く、次いで「男女で家事労働（育児・介護含む）を平等に分担する」が66.9%、「保育所や留守家庭児童会室などの育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする」が66.8%と続いており、男女別でみると、女性・男性いずれも「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」（女性78.4%、男性77.0%）の割合が最も高くなっています。

【過去調査との比較】

例年と傾向の大きな違いは見られません。

図表Ⅲ-1-4-13 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	男女で家事労働を 平等に分担する（育児・介護 を含む）	育児休業や介護休業を 利用できる	保育所や留守家庭児童会 などの育児環境を充実し、 子どもが利用できる	ホームヘルパーや介護施設 などを充実し、誰もが利用 できるようにする	労働時間の短縮を図る	男女の雇用機会を均等に する	職場での男女の昇進や賃金 の格差をなくす	パートタイム労働者や派遣 労働者の労働条件を向上さ せる	職場におけるハラスメント 防止	その他
全体		680	66.9	77.5	66.8	63.7	48.2	39.1	49.7	51.9	46.2	6.5
性別	女性	421	69.8	78.4	67.5	66.0	47.5	40.1	53.4	58.2	47.5	5.0
	男性	248	62.9	77.0	66.1	60.5	49.6	37.9	44.0	42.7	44.4	8.1
性別・年代別	女性 20歳代	56	75.0	75.0	55.4	41.1	55.4	39.3	57.1	50.0	51.8	3.6
	女性 30歳代	64	75.0	81.3	67.2	54.7	68.8	31.3	46.9	43.8	43.8	6.3
	女性 40歳代	89	69.7	71.9	65.2	65.2	43.8	39.3	49.4	57.3	47.2	7.9
	女性 50歳代	105	66.7	76.2	64.8	74.3	47.6	41.9	52.4	61.0	52.4	5.7
	女性 60歳代	43	67.4	95.3	79.1	88.4	30.2	58.1	60.5	65.1	51.2	2.3
	女性 70歳以上	63	68.3	79.4	77.8	71.4	34.9	34.9	58.7	71.4	38.1	1.6
	男性 20歳代	32	59.4	78.1	56.3	46.9	68.8	34.4	0.0	31.3	40.6	6.3
	男性 30歳代	44	50.0	72.7	68.2	52.3	40.9	29.5	0.0	45.5	40.9	11.4
	男性 40歳代	42	64.3	71.4	59.5	50.0	52.4	28.6	0.0	28.6	40.5	7.1
	男性 50歳代	48	66.7	70.8	60.4	70.8	62.5	41.7	0.0	43.8	58.3	8.3
	男性 60歳代	32	75.0	90.6	71.9	65.6	46.9	34.4	0.0	50.0	34.4	6.3
	男性 70歳以上	50	64.0	82.0	78.0	72.0	32.0	54.0	0.0	54.0	46.0	8.0

		合計 実数	わからない	すでに男女がともに働き やすい社会になっている	無回答
全体		680	1.8	1.6	0.4
性別	女性	421	1.2	1.4	0.7
	男性	248	2.4	2.0	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	56	1.8	3.6	1.8
	女性 30歳代	64	1.6	0.0	0.0
	女性 40歳代	89	0.0	2.2	0.0
	女性 50歳代	105	1.9	1.0	0.0
	女性 60歳代	43	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	63	1.6	1.6	3.2
	男性 20歳代	32	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	44	4.5	0.0	0.0
	男性 40歳代	42	4.8	0.0	0.0
	男性 50歳代	48	0.0	2.1	0.0
	男性 60歳代	32	0.0	3.1	0.0
	男性 70歳以上	50	4.0	6.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

図表Ⅲ-1-4-14 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと【性別・自身職業別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	男女で家事労働 育児・介護 を含む）を平等に 分担する	育児休業や介護休 業をだれもが利用し やすいようにする	保育所や留守家庭児 童会などを利用でき るようにする	ホームヘルパーや介 護施設などを充実し 、誰もが利用できる ようにする	労働時間の短縮を 図る	男女の雇用機会を 均等に	職場での男女の昇 進や賃金等の格差を なくす	パートタイム労働者 や派遣労働者の労働 条件を向上させる	職場におけるハラ スメント防止に努め る	その他
全体		680	66.9	77.5	66.8	63.7	48.2	39.1	49.7	51.9	46.2	6.5
性別	女性	421	69.8	78.4	67.5	66.0	47.5	40.1	53.4	58.2	47.5	5.0
	男性	248	62.9	77.0	66.1	60.5	49.6	37.9	44.0	42.7	44.4	8.1
性別・自身職業別	女性：自営業・自由業	20	50.0	90.0	65.0	70.0	15.0	25.0	30.0	45.0	20.0	15.0
	女性：正規雇用で働いている	133	74.4	72.9	60.9	52.6	57.1	39.1	53.4	33.8	49.6	5.3
	女性：非正規雇用で働いている	148	68.9	76.4	64.9	69.6	44.6	39.9	47.3	73.6	45.3	4.1
	女性：家事専業	76	69.7	86.8	80.3	78.9	48.7	44.7	63.2	68.4	53.9	5.3
	女性：無職	29	69.0	86.2	75.9	75.9	48.3	44.8	72.4	72.4	62.1	0.0
	女性：学生	3	100.0	100.0	33.3	33.3	0.0	33.3	100.0	33.3	0.0	0.0
	男性：自営業・自由業	24	66.7	70.8	66.7	70.8	29.2	41.7	0.0	33.3	50.0	12.5
	男性：正規雇用で働いている	142	61.3	72.5	61.3	52.1	55.6	31.7	0.0	36.6	39.4	7.0
	男性：非正規雇用で働いている	23	56.5	82.6	65.2	60.9	43.5	47.8	0.0	52.2	65.2	21.7
	男性：家事専業	2	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	男性：無職	40	67.5	92.5	77.5	77.5	45.0	52.5	0.0	60.0	47.5	5.0
	男性：学生	3	66.7	100.0	66.7	100.0	66.7	66.7	0.0	66.7	66.7	0.0

		合計 実数	わからない	すでに男女がともに 働きやすい社会にな っている	無回答
全体		680	1.8	1.6	0.4
性別	女性	421	1.2	1.4	0.7
	男性	248	2.4	2.0	0.0
性別・自身職業別	女性：自営業・自由業	20	0.0	0.0	0.0
	女性：正規雇用で働いている	133	1.5	1.5	0.0
	女性：非正規雇用で働いている	148	1.4	2.7	0.0
	女性：家事専業	76	1.3	0.0	1.3
	女性：無職	29	0.0	0.0	3.4
	女性：学生	3	0.0	0.0	0.0
	男性：自営業・自由業	24	4.2	4.2	0.0
	男性：正規雇用で働いている	142	1.4	0.7	0.0
	男性：非正規雇用で働いている	23	0.0	0.0	0.0
	男性：家事専業	2	0.0	0.0	0.0
	男性：無職	40	7.5	7.5	0.0
	男性：学生	3	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>の意見

- 職場におけるパワハラを相談しやすい窓口があればと思います。
- 103 万の壁を無くす。保険料は会社が負担する
- 体の作りも違うし、男性は子を産めない。力に差があるので平等ではない。全ての事に平等を求めない。

<男性>の意見

- 女性がリーダーを目指す意識改革（男女ともだが特に女性）
- 保育所を入所したい時に入所しやすくする（4 月一斉入所以外で）
- 男だから女だからという考えそのものが差別
- 女性か男性が出産や育児で会社に戻りやすくするための保証などを充実すること

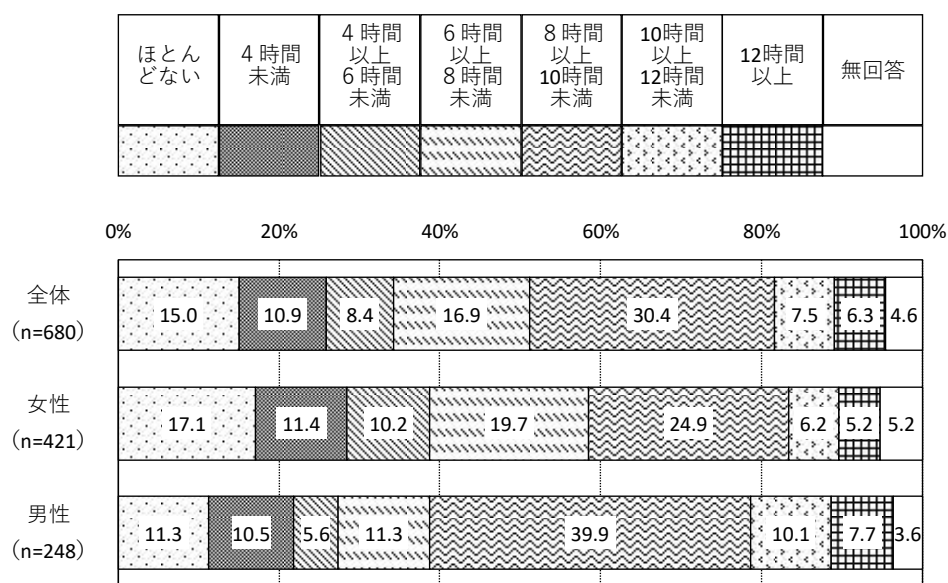
(5)仕事と家庭などの関わりについて

①仕事と家事に費やす時間

問 10 あなたが 1 日のうちで仕事と家事に費やす平均時間はどの程度ですか。（○は 1 つずつ）

仕事（ア）平日

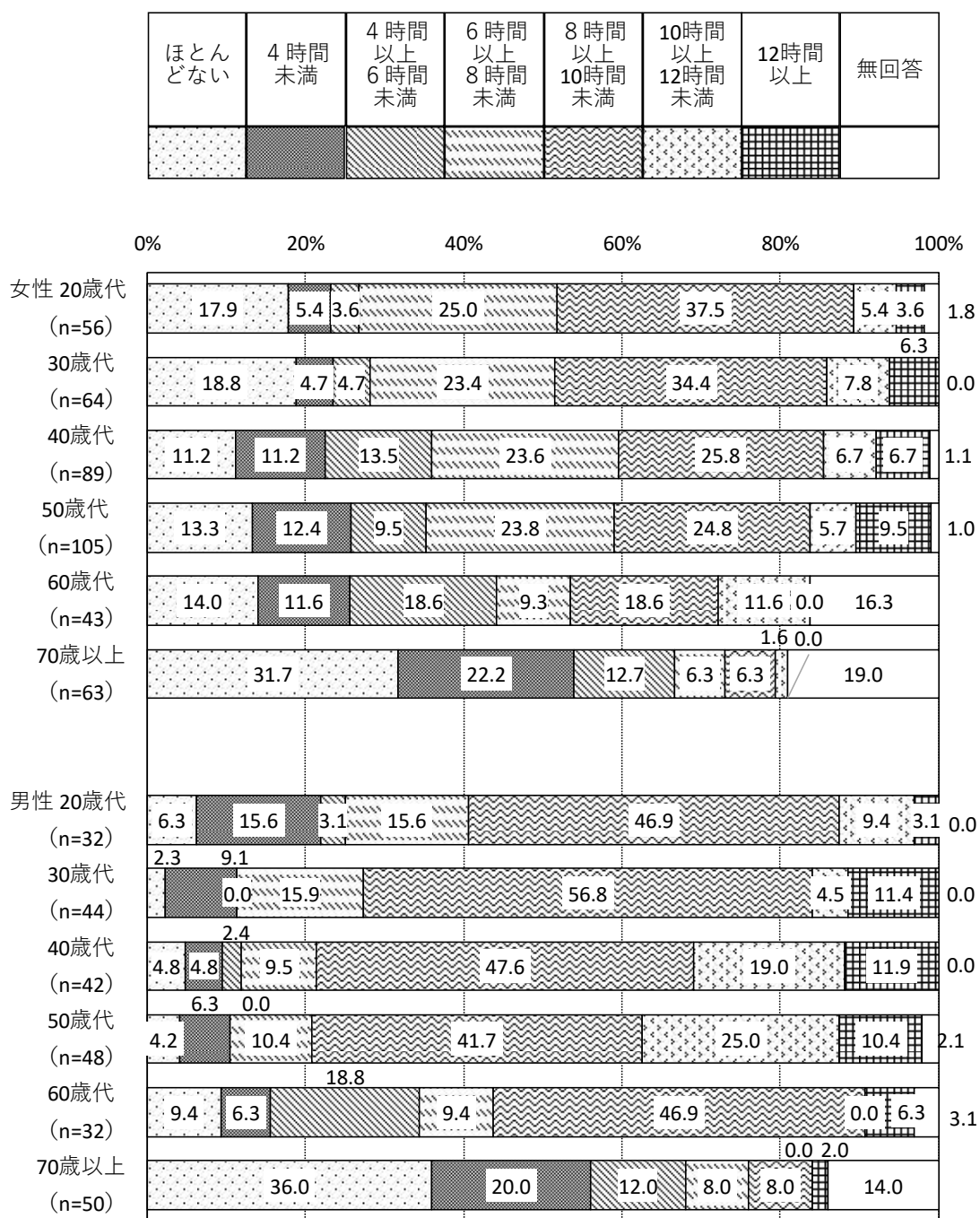
図表Ⅲ-1-5-1 仕事に費やす時間【平日】



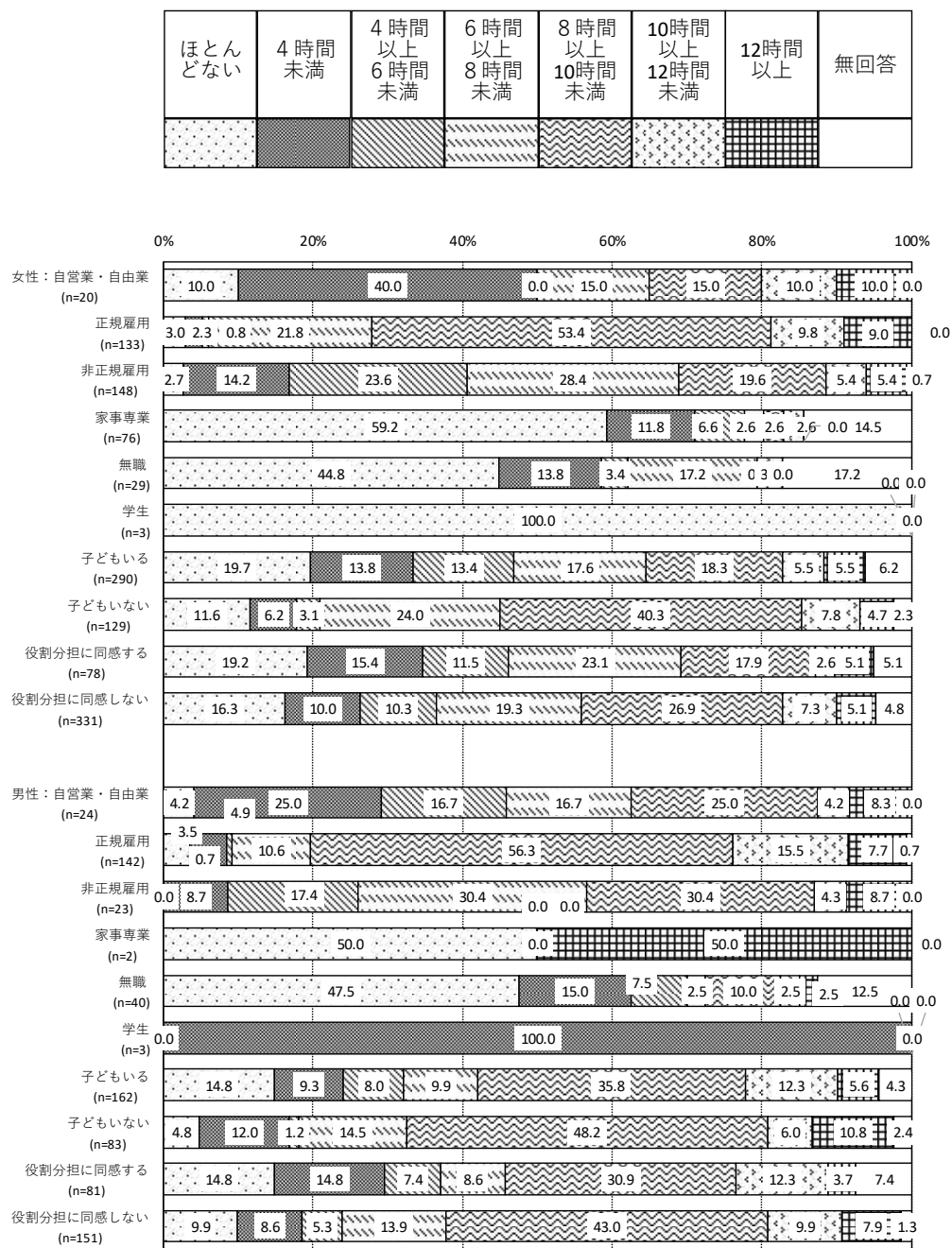
【平日に仕事に費やす時間は「8 時間以上」が女性 36.3%、男性 57.7%で最多】

仕事に費やす時間について、平日では「8 時間以上（10 時間以上 12 時間未満、12 時間以上含む）」が女性 36.3%、男性 57.7%となっており、女性・男性いずれも「8 時間以上 10 時間未満」の割合が最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-5-2 仕事に費やす時間【平日】【性別・年代別】



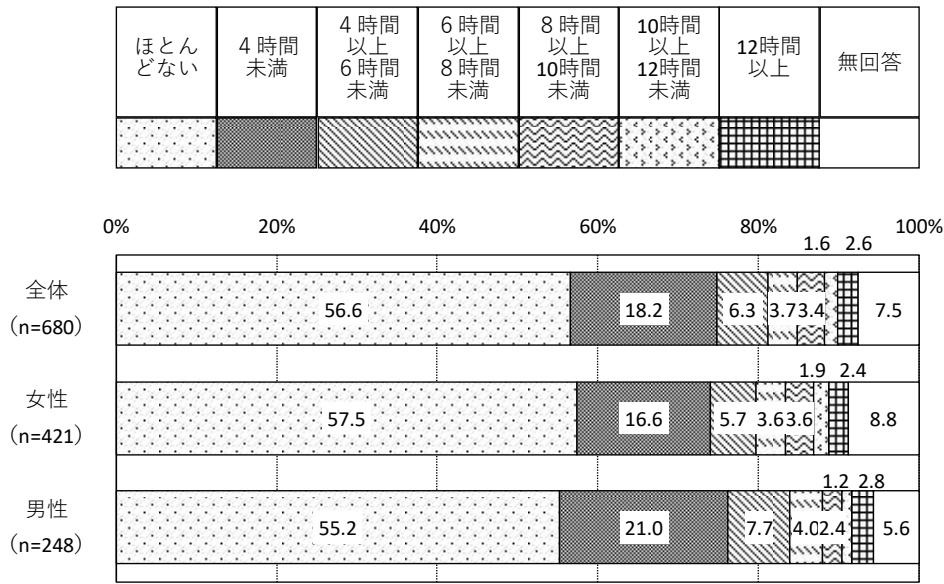
図表Ⅲ-1-5-3 仕事に費やす時間【平日】【性別・職業・子の有無・役割分担への同感別】



(「役割分担に同感する」「役割分担に同感しない」は「男は仕事、女は家庭」に同感するかです)

仕事 (イ) 休日

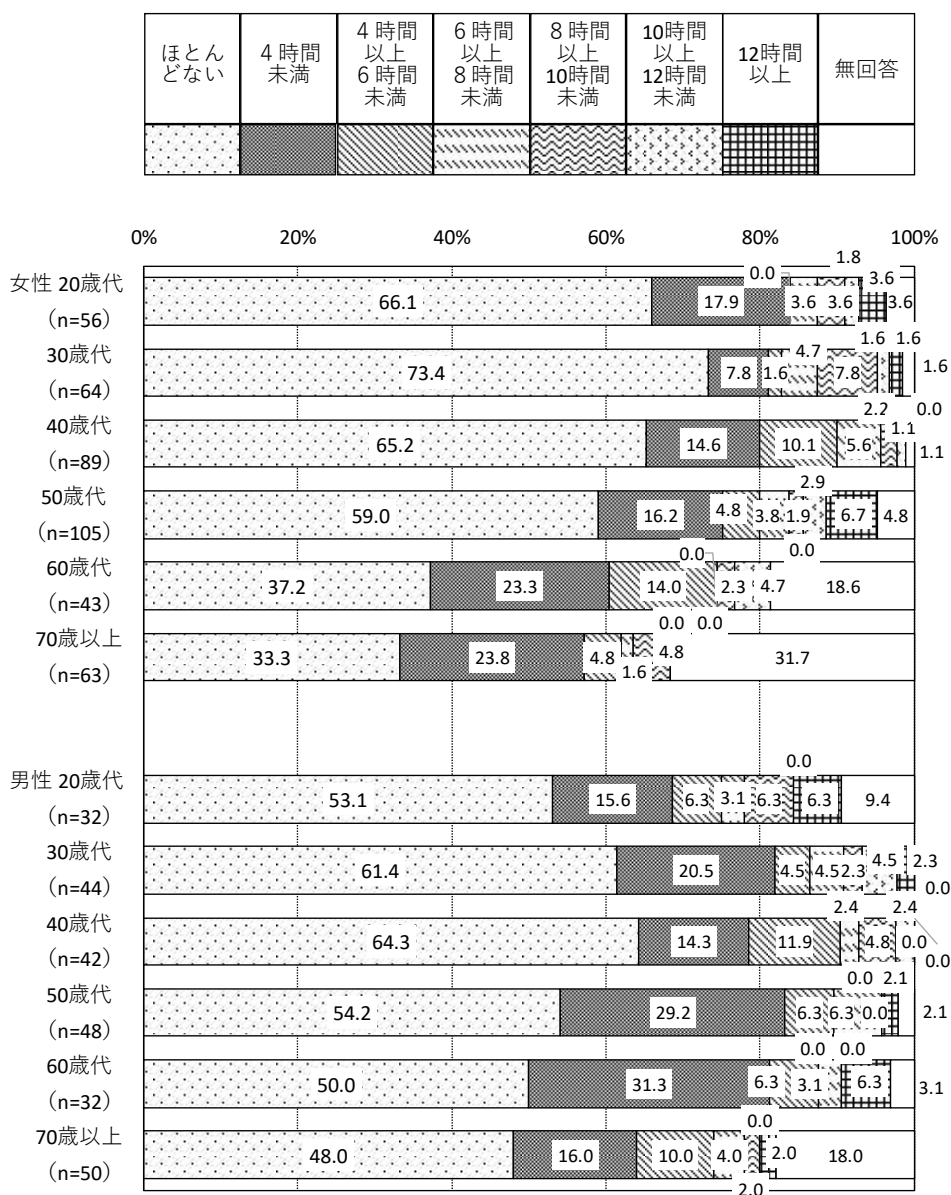
図表Ⅲ-1-5-4 仕事に費やす時間【休日】



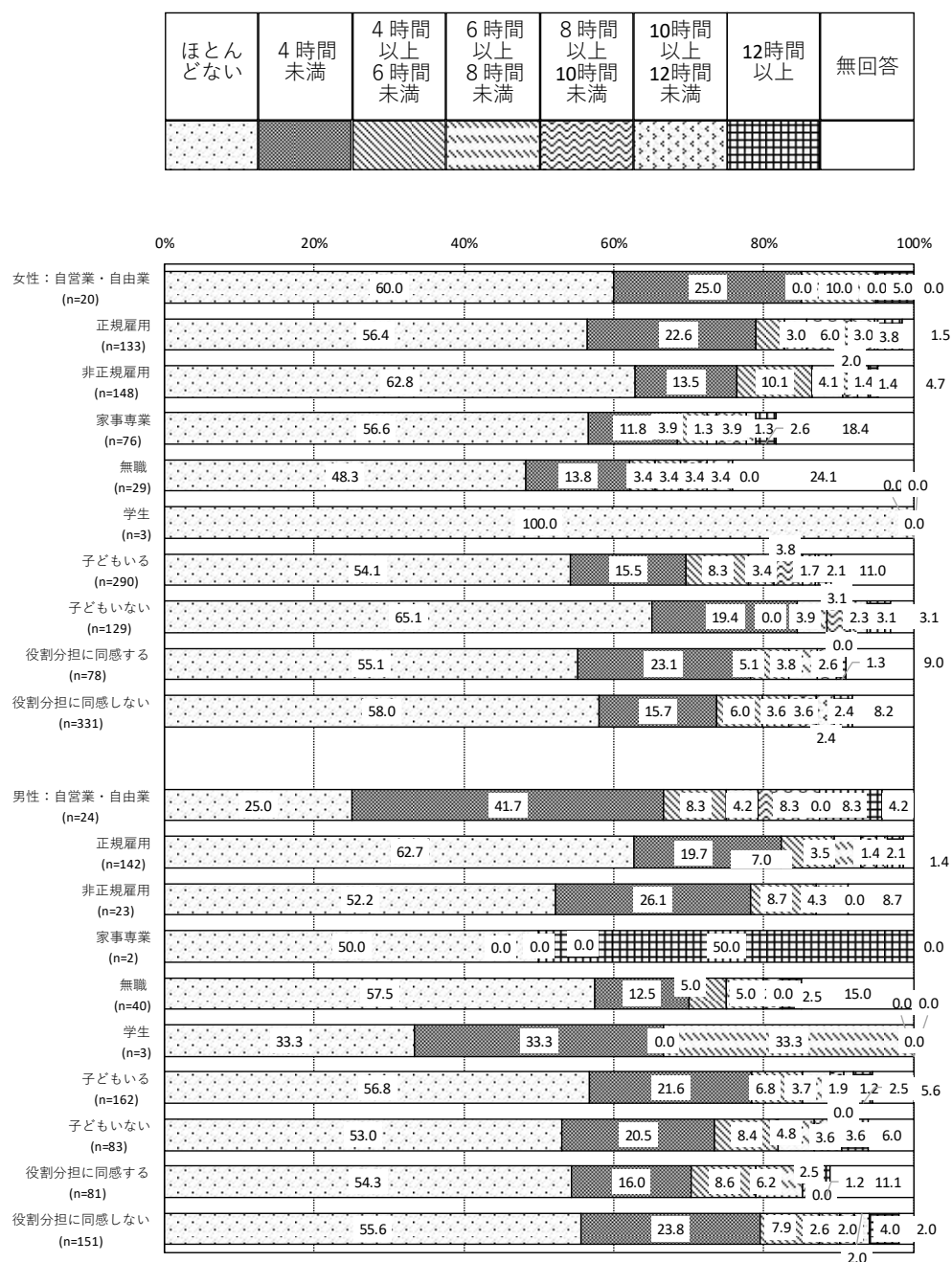
【休日に仕事に費やす時間は「ほとんどない」が男女とも 5 割以上】

仕事に費やす平均時間について、休日では、女性・男性いずれも「ほとんどない」(女性 57.5%、男性 55.2%)の割合が最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-5-5 仕事に費やす時間【休日】【性別・年代別】



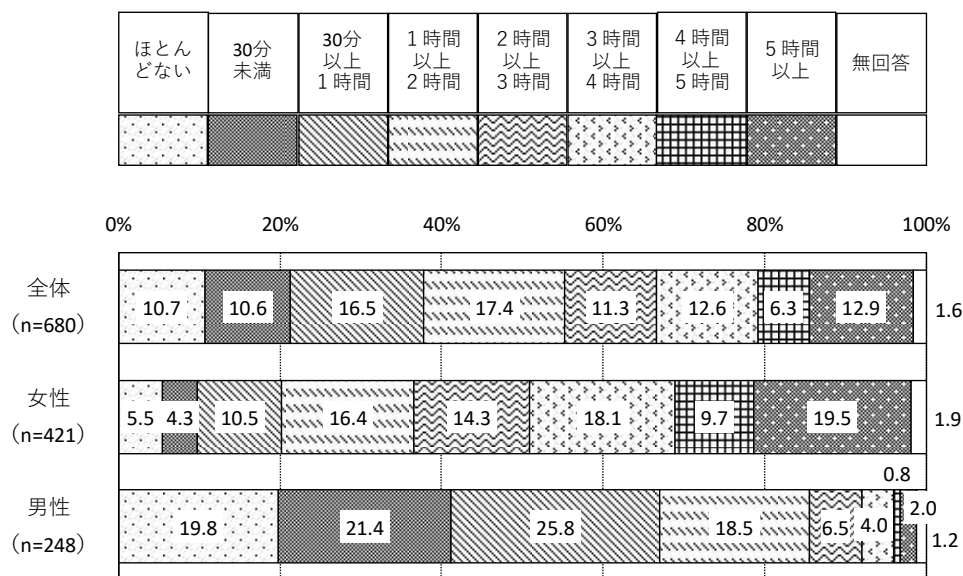
図表Ⅲ-1-5-6 仕事に費やす時間【休日】【性別・職業・子の有無・役割分担への同感別】



(「役割分担に同感する」「役割分担に同感しない」は「男は仕事、女は家庭」に同感するかです)

家事（ア）平日

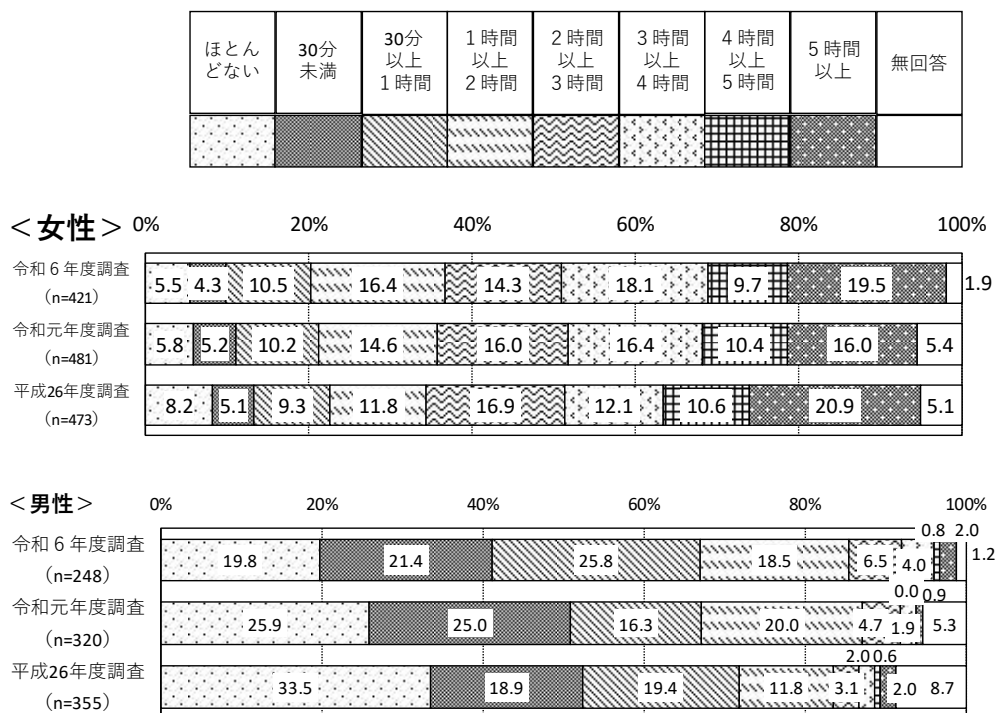
図表Ⅲ-1-5-7 家事に費やす時間【平日】



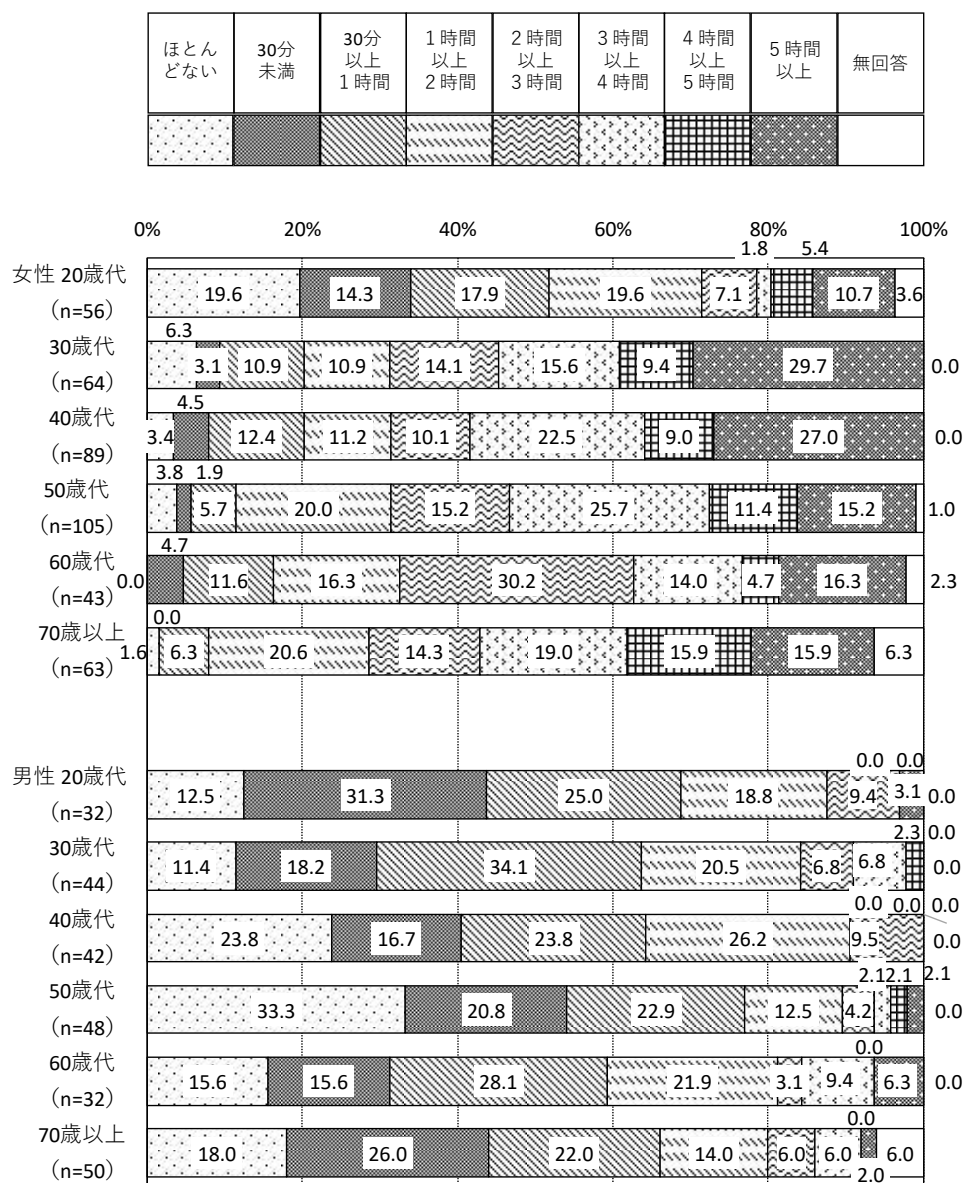
【平日に家事に費やす時間は男性は「30分以上1時間未満」が25.8%、女性は「5時間以上」が19.5%で最多】

家事に費やす時間について、平日では「30分未満（ほとんどない含む）」が女性9.8%、男性41.2%と大きな差が見られます。女性は「5時間以上」が19.5%で最も高く、男性は「30分以上1時間未満」が25.8%で最も高くなっています。

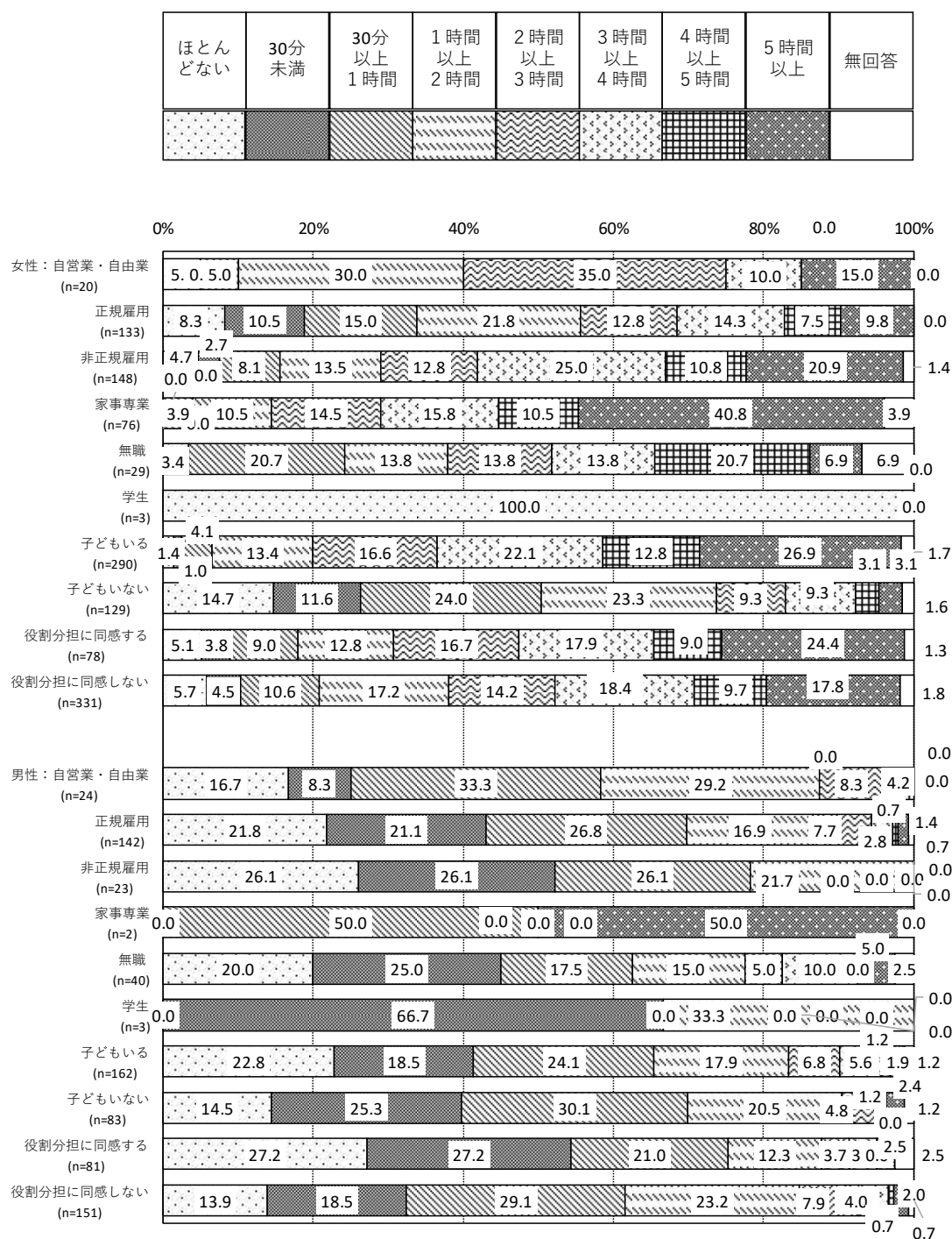
図表Ⅲ-1-5-8 家事に費やす時間【平日】【過去調査との比較】



図表Ⅲ-1-5-9 家事に費やす時間【平日】【性別・年代別】



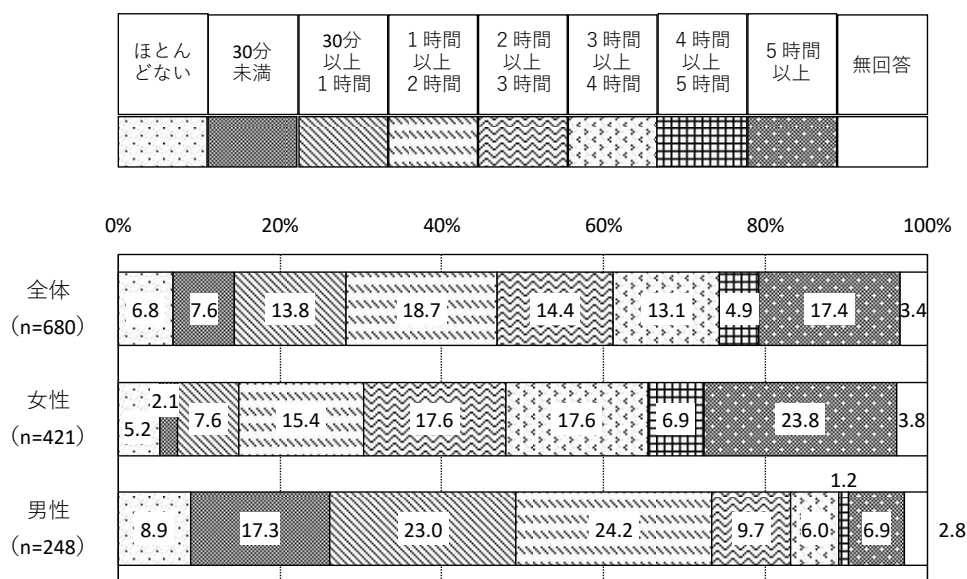
図表Ⅲ-1-5-10 家事に費やす時間【平日】【性別・職業・子の有無・役割分担への同感別】



(「役割分担に同感する」「役割分担に同感しない」は「男は仕事、女は家庭」に同感するかです)

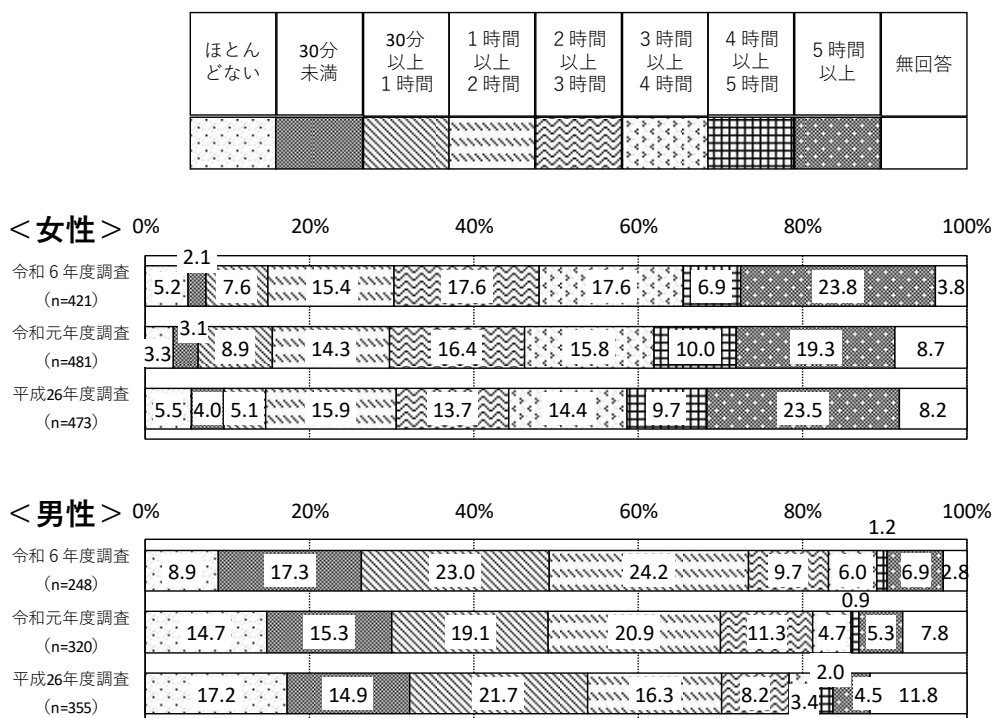
家事（イ）休日

図表Ⅲ-1-5-11 家事に費やす時間【休日】

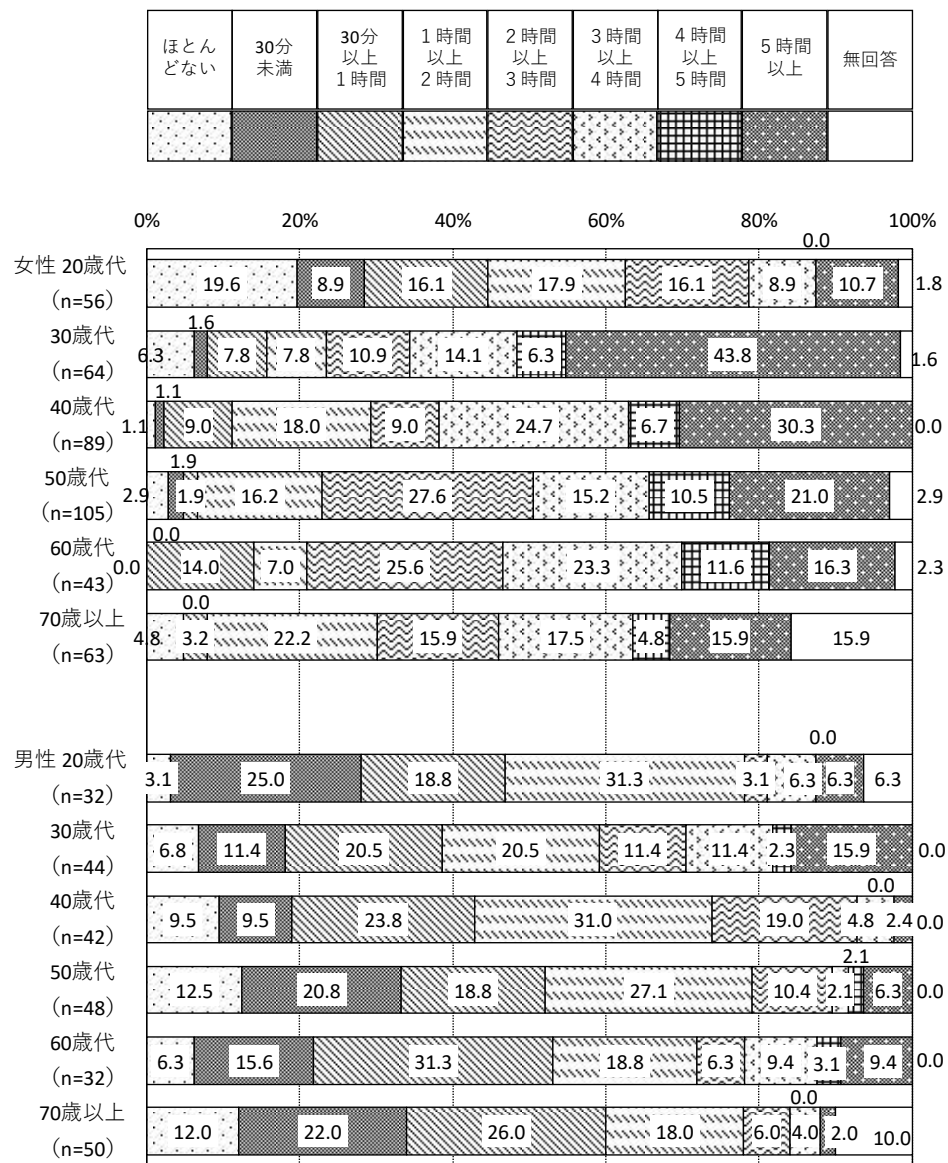


【休日に家事に費やす時間は女性は「5時間以上」が23.8%、男性は「1時間以上2時間未満」が24.2%】
 家事に費やす時間について、休日では女性は「5時間以上」が23.8%で最も多く、男性は「1時間以上2時間未満」が24.2%で最も高くなっています。

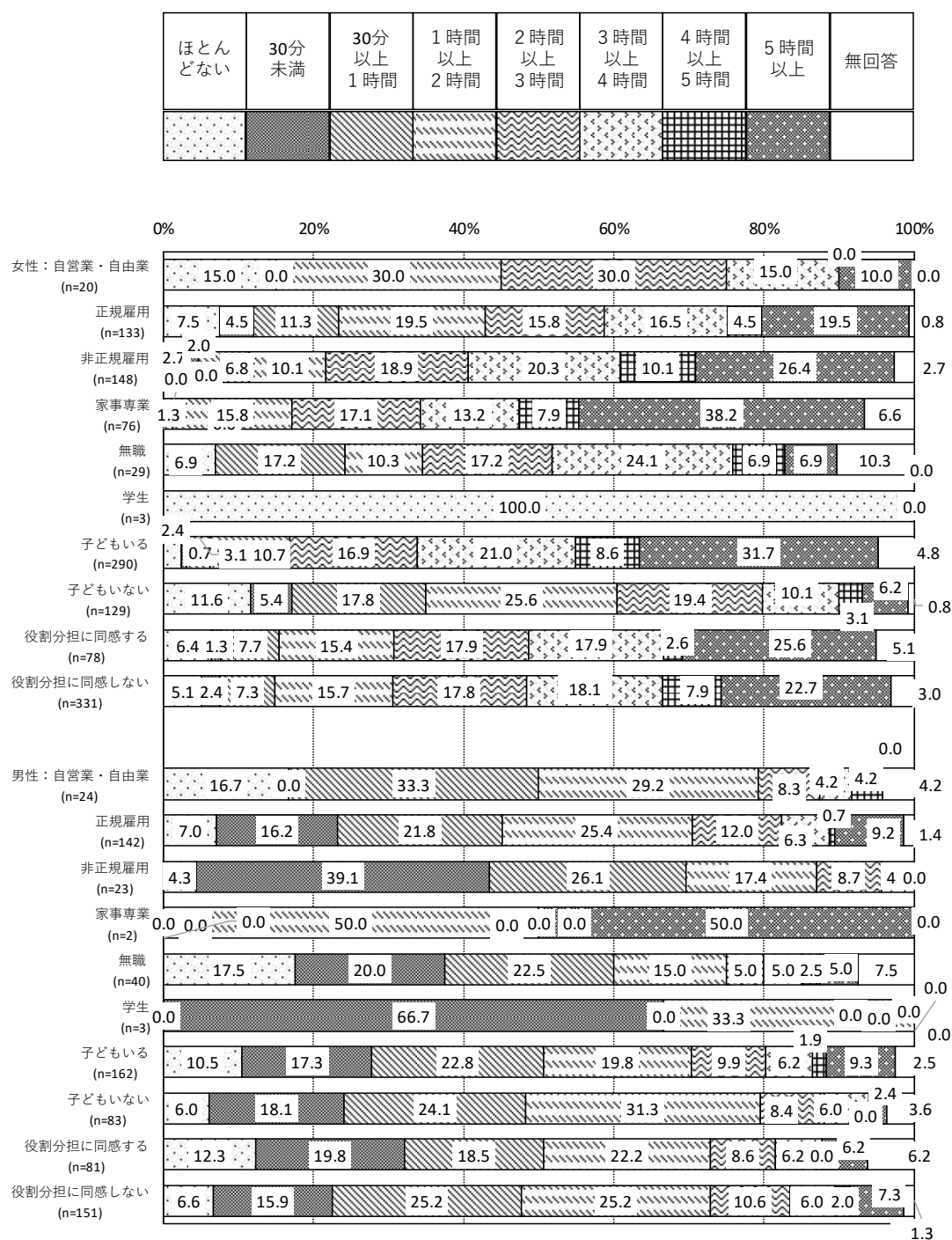
図表Ⅲ-1-5-12 家事に費やす時間【休日】【過去調査との比較】



図表Ⅲ-1-5-13 家事に費やす時間【休日】【性別・年代別】



図表Ⅲ-1-5-14 家事に費やす時間【休日】【性別・職業・子の有無・役割分担への同感別】



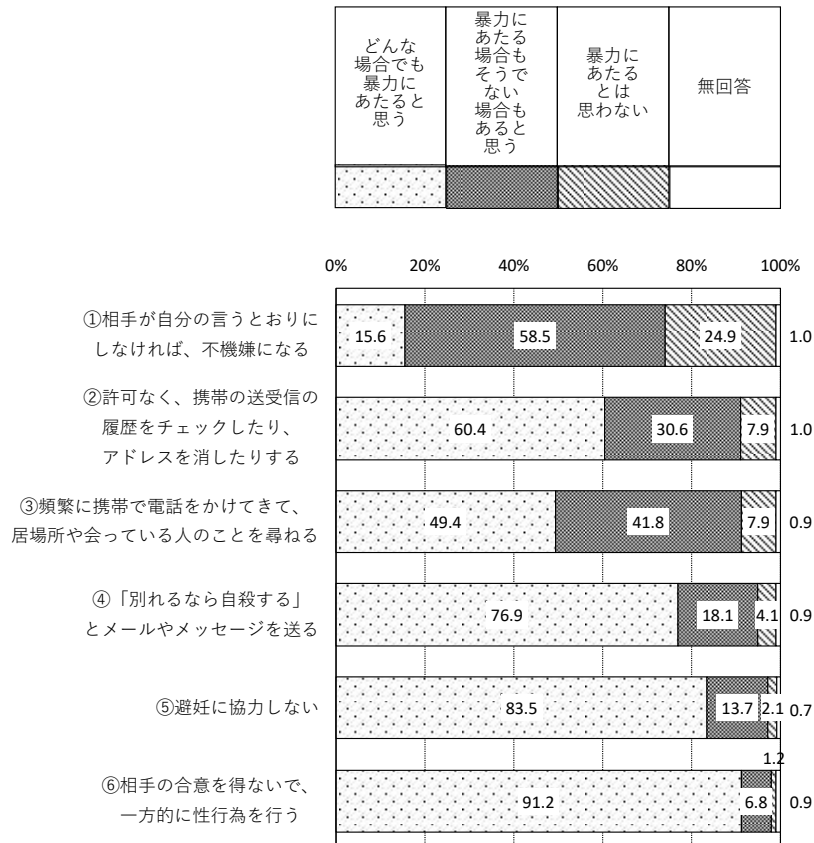
(「役割分担に同感する」「役割分担に同感しない」は「男は仕事、女は家庭」に同感するかです)

(6)暴力・人権について

①恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問 11 恋人同士の間で次の（１）～（６）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）

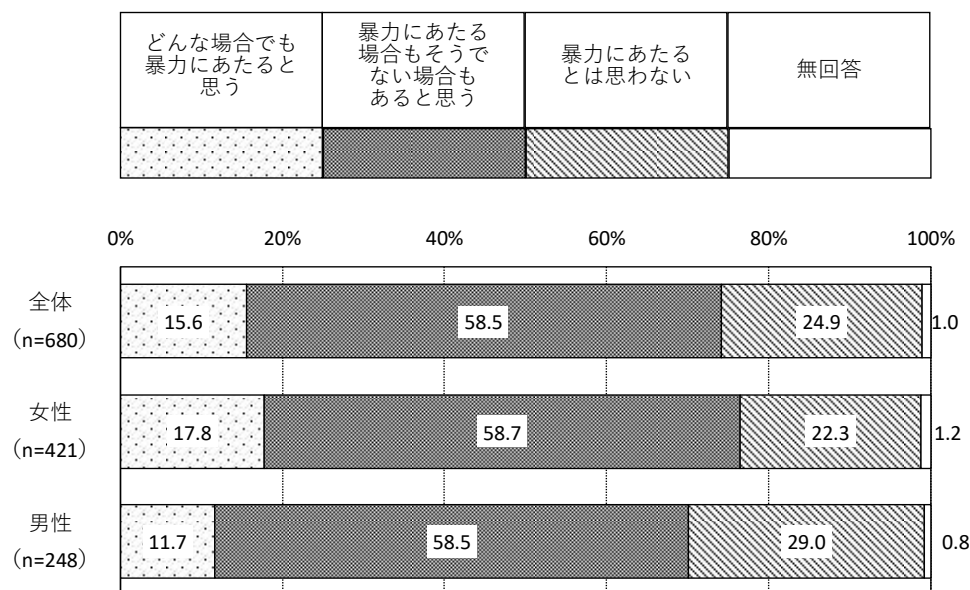
図表Ⅲ-1-6-1 恋人同士の間でのDVだと思ふ行為



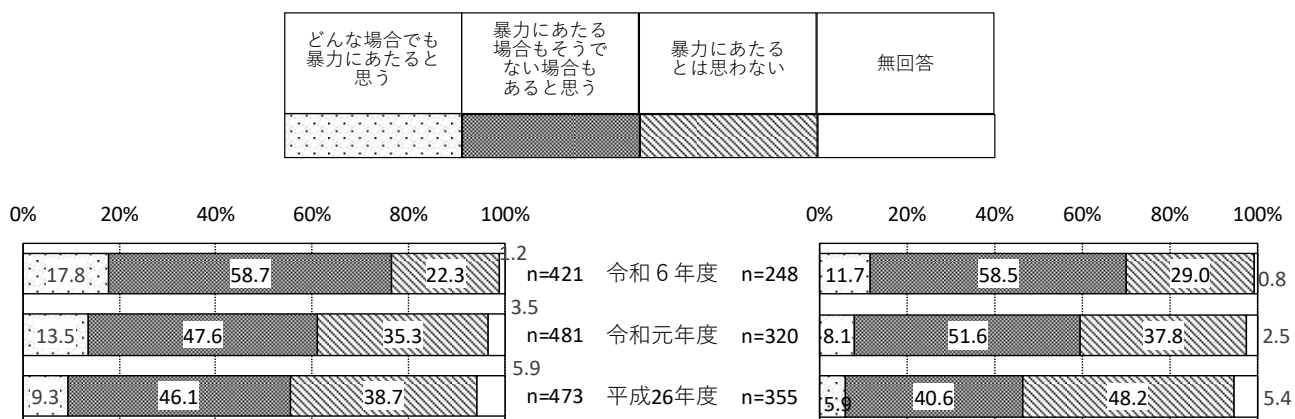
【恋人同士の間でのDVだと思ふ行為は「相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が９割以上で最多、「避妊に協力しない」も８割以上】

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力にあたる』と思うのは女性 92.6%、男性 89.1%で最も高く、「① 相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる」が『暴力にあたるとは思わない』のは女性 22.3%、男性 29.0%で最も高くなっています。

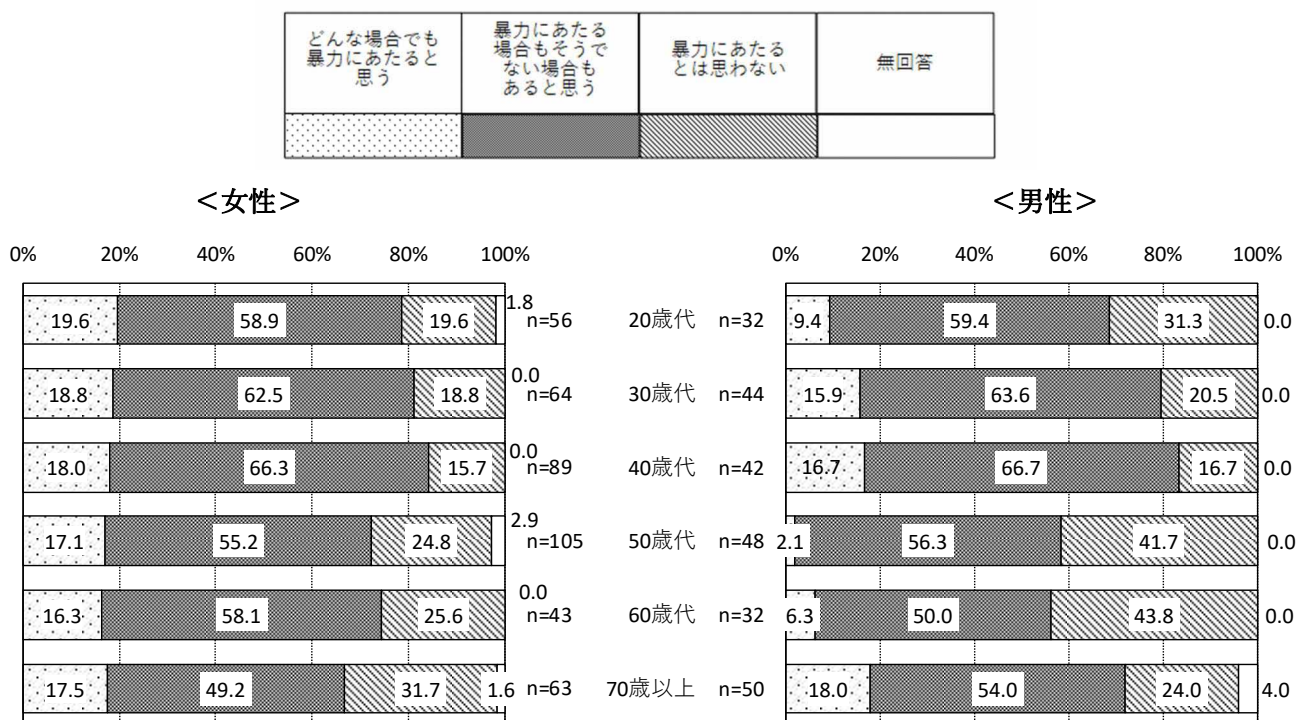
図表Ⅲ -1-6-2 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる



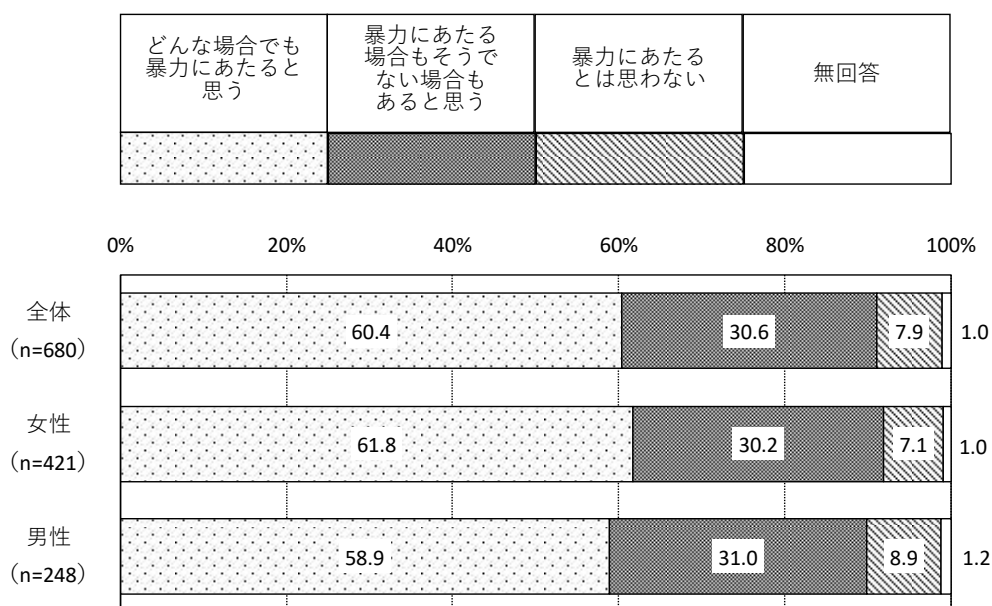
図表Ⅲ-1-6-3 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-4 ①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる 【性別・年代別】

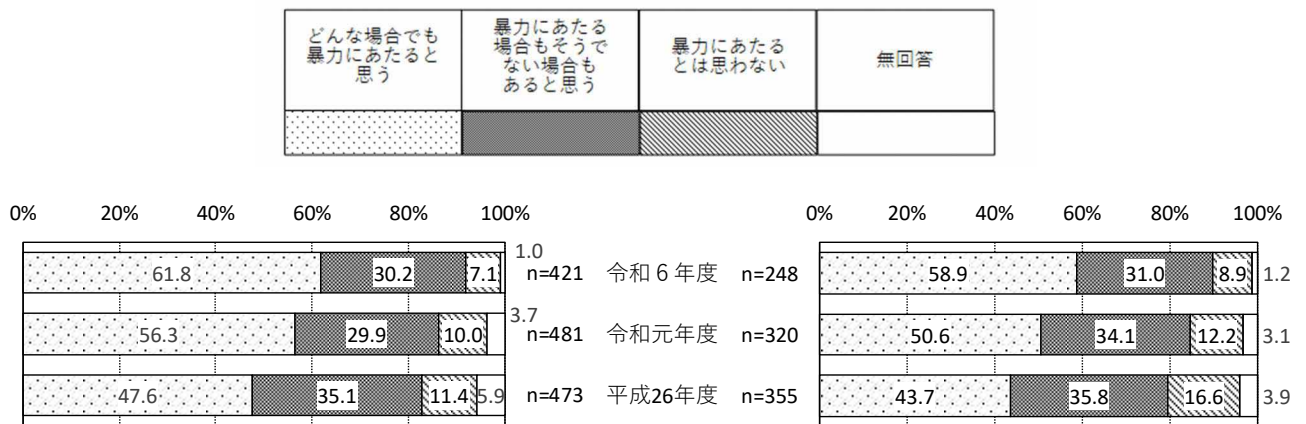


図表Ⅲ -1-6-5 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする



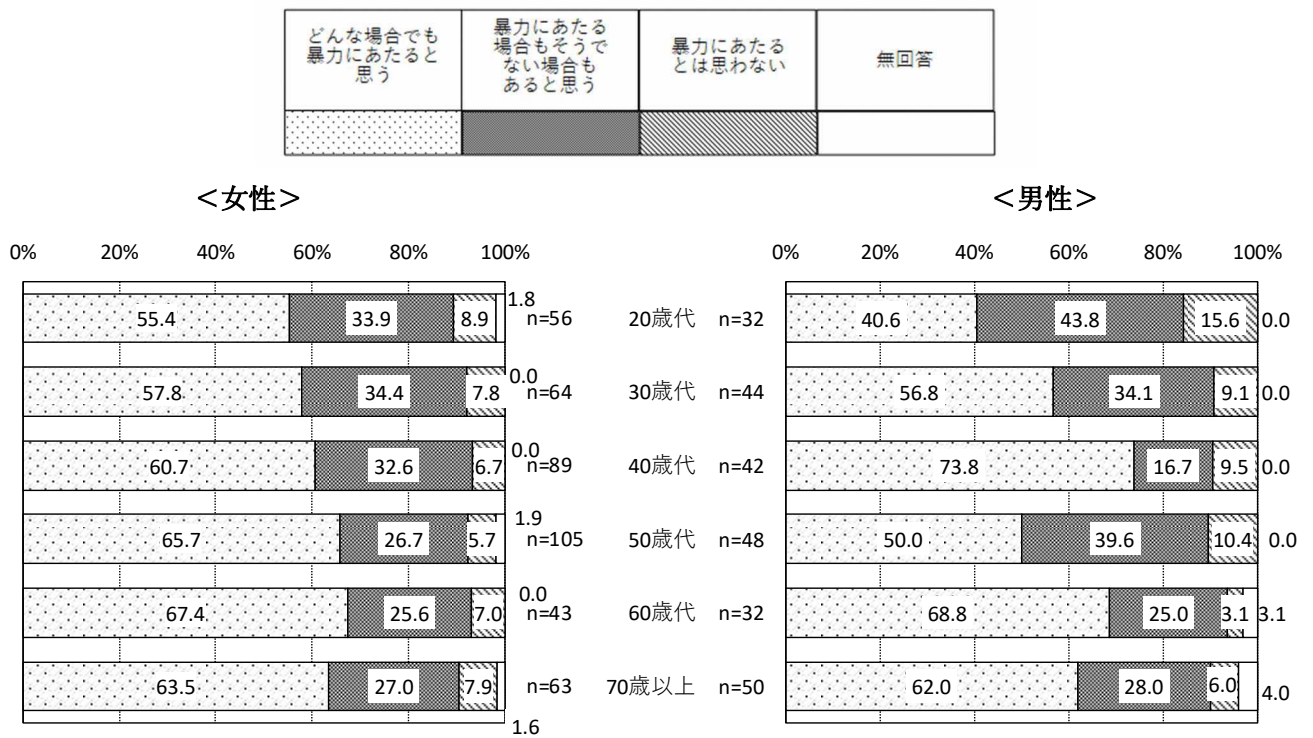
図表Ⅲ-1-6-6 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする

【過去の調査との比較】

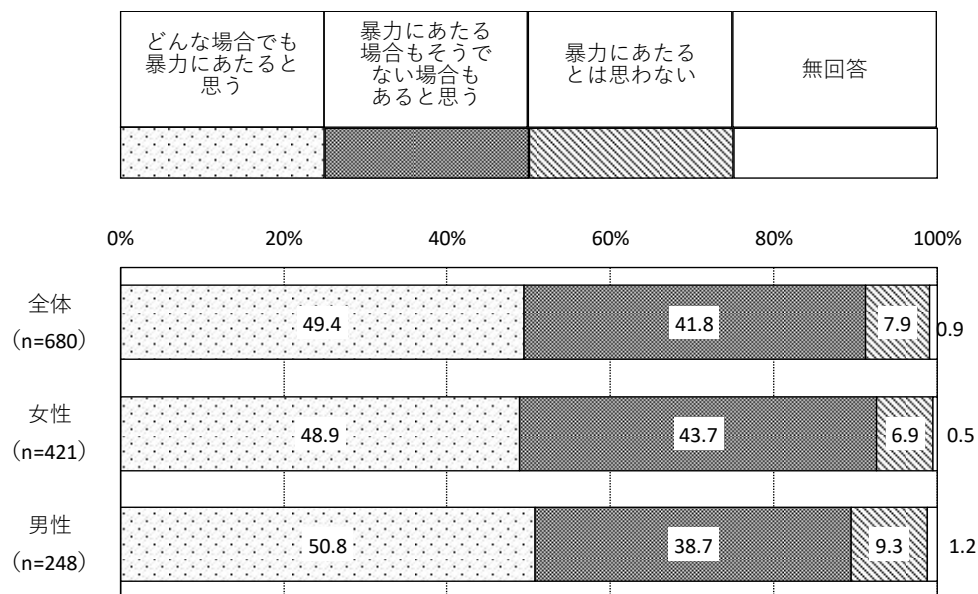


図表Ⅲ-1-6-7 ②許可なく、携帯の送受信の履歴をチェックしたり、アドレスを消したりする

【性別・年代別】

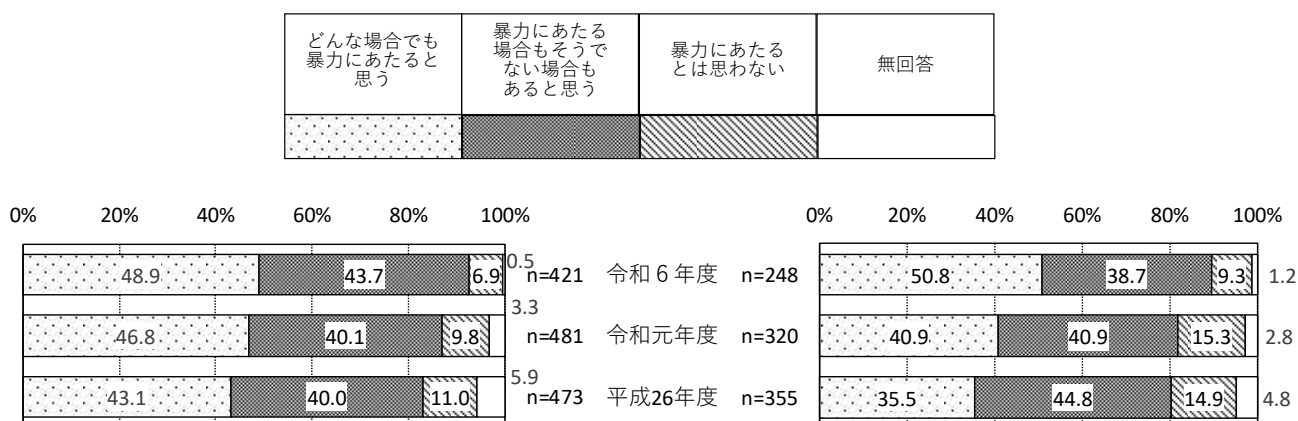


図表Ⅲ -1-6-8 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる



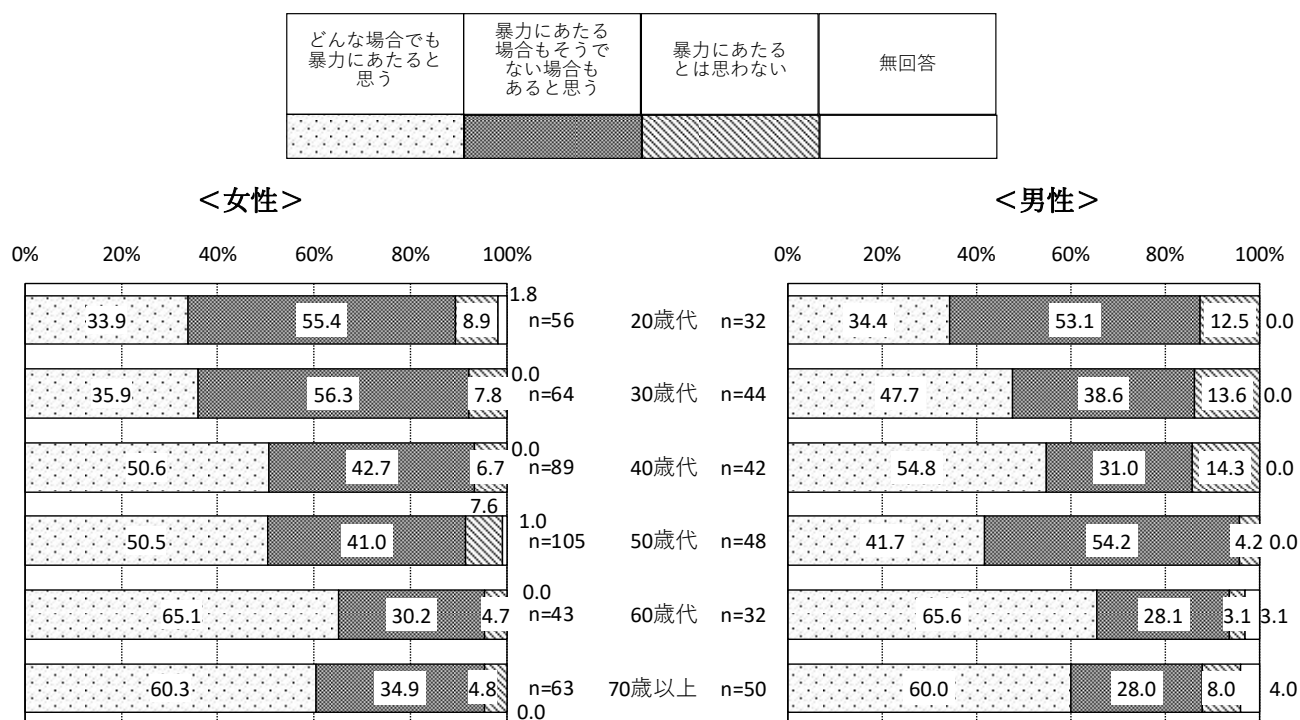
図表Ⅲ-1-6-9 ③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる

【過去の調査との比較】

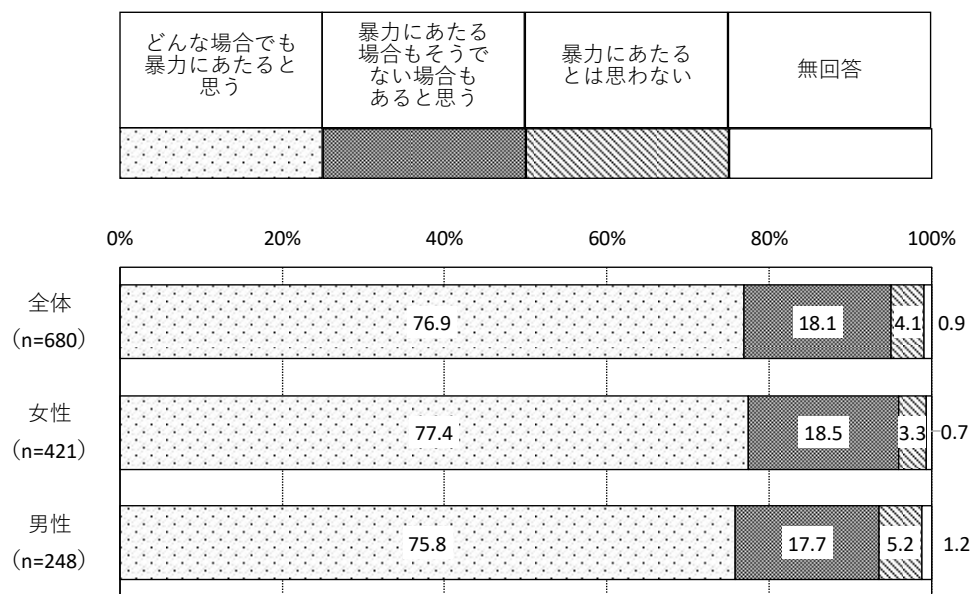


図表Ⅲ-1-6-10③頻繁に携帯で電話をかけてきて、居場所や会っている人のことを尋ねる

【性別・年代別】

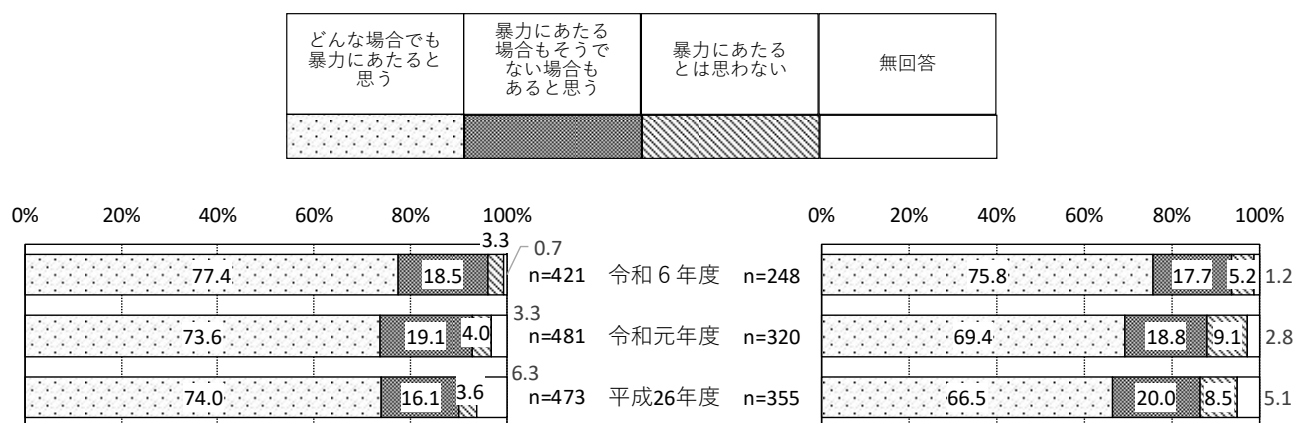


図表Ⅲ -1-6-11 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る

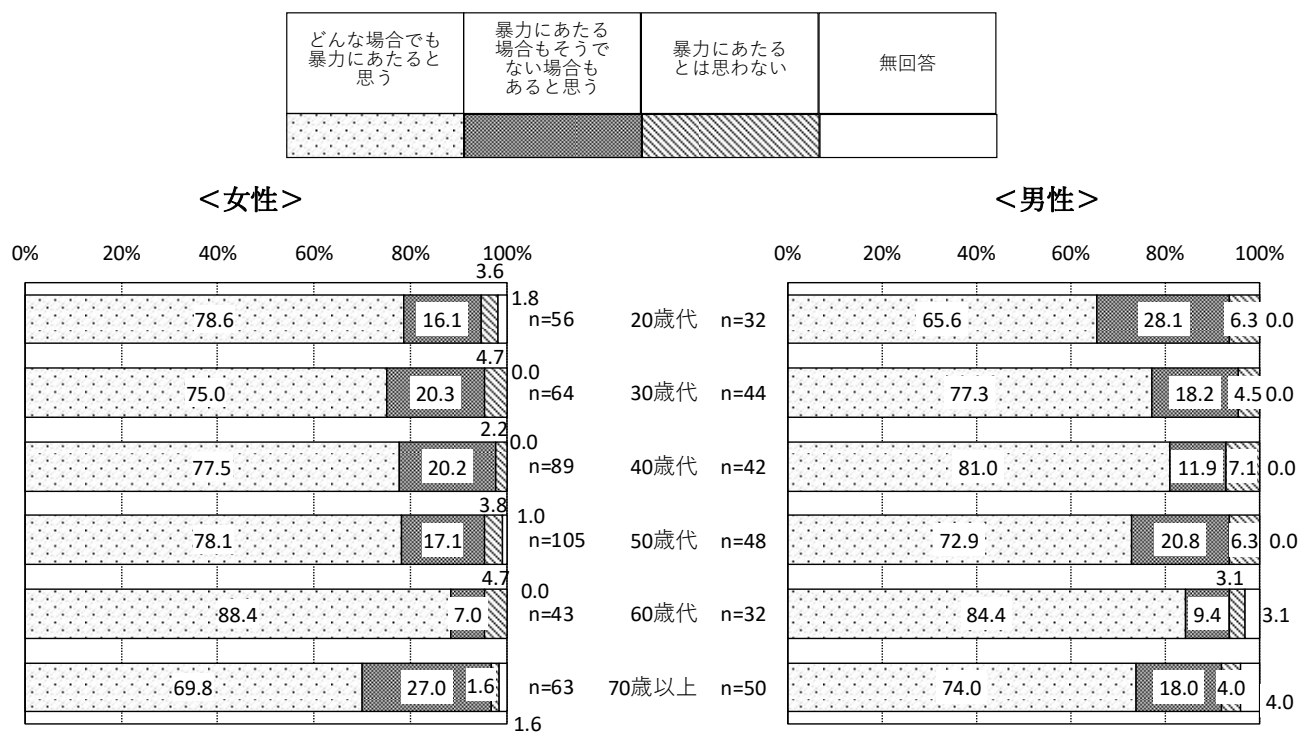


図表Ⅲ-1-6-12 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る

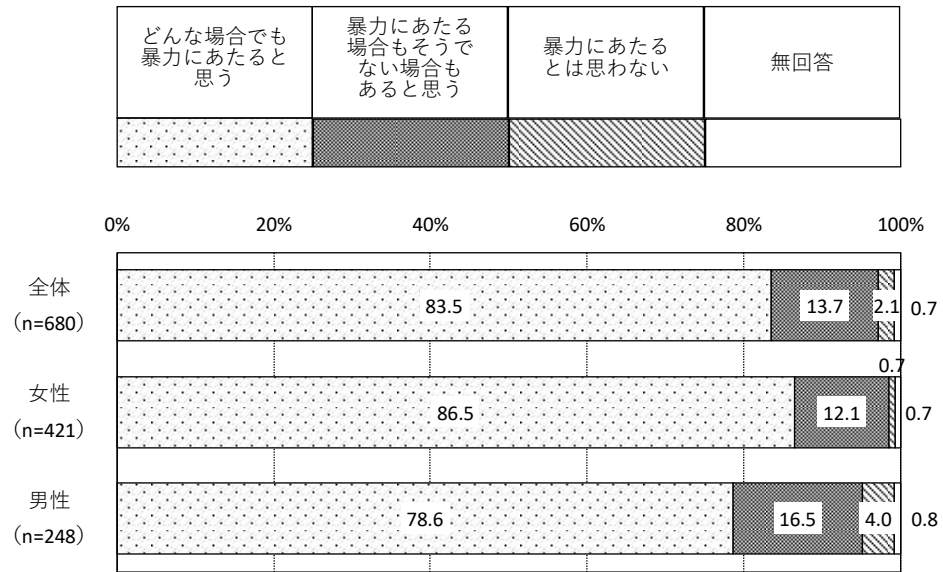
【過去の調査との比較】



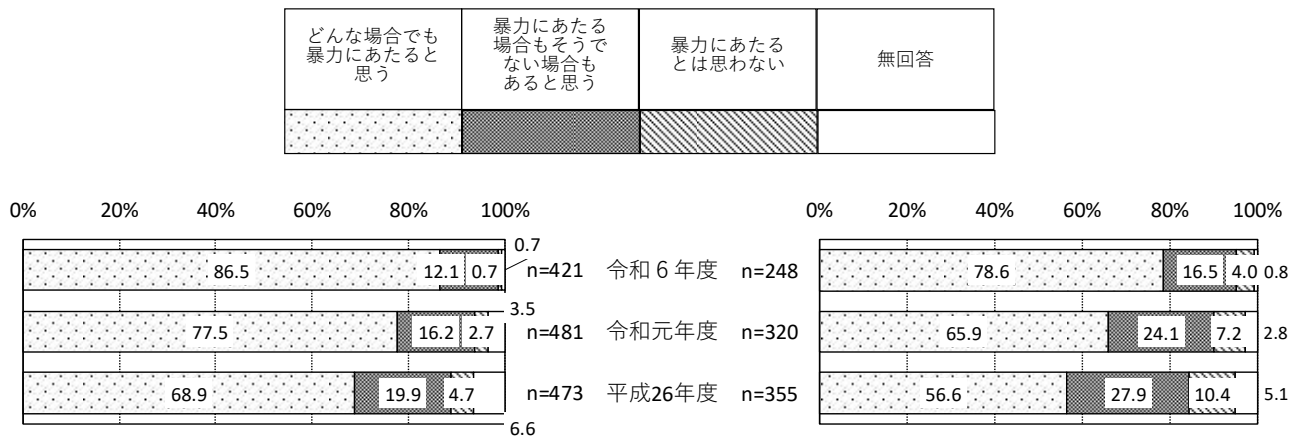
図表Ⅲ-1-6-13 ④「別れるなら自殺する」とメールやメッセージを送る 【性別・年代別】



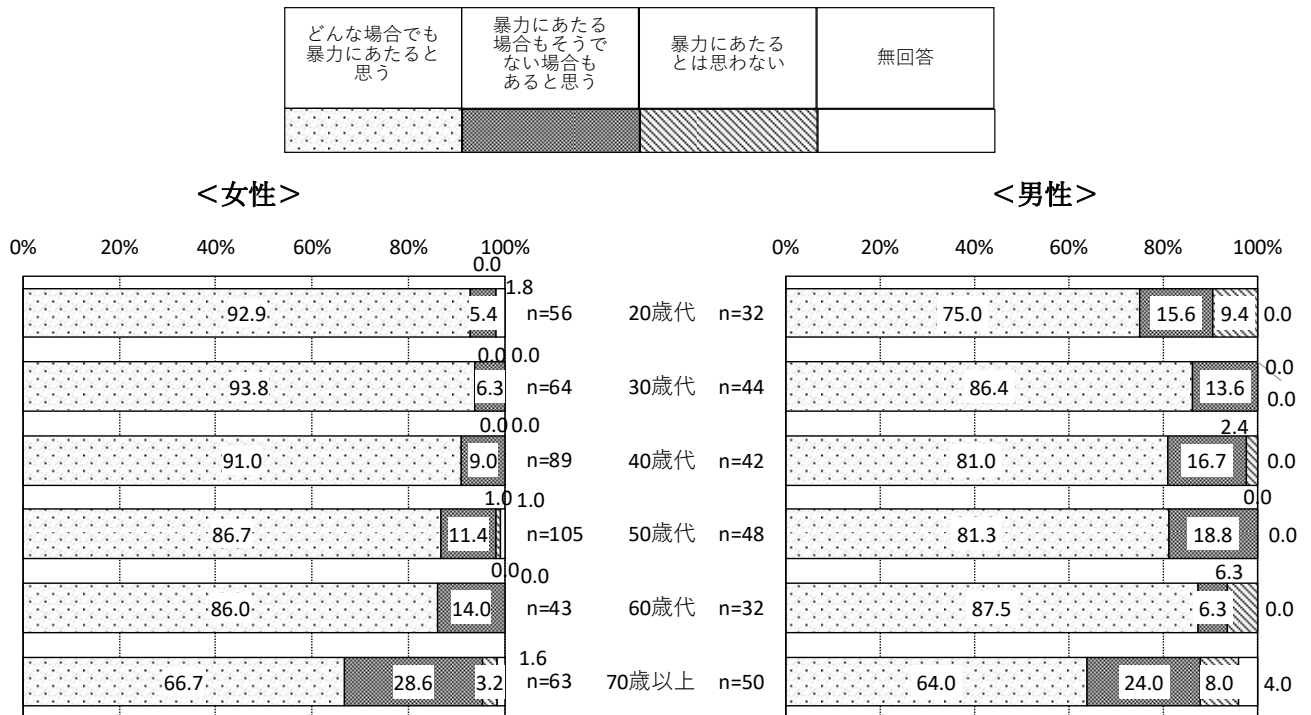
図表 Ⅲ-1-6-14 ⑤避妊に協力しない



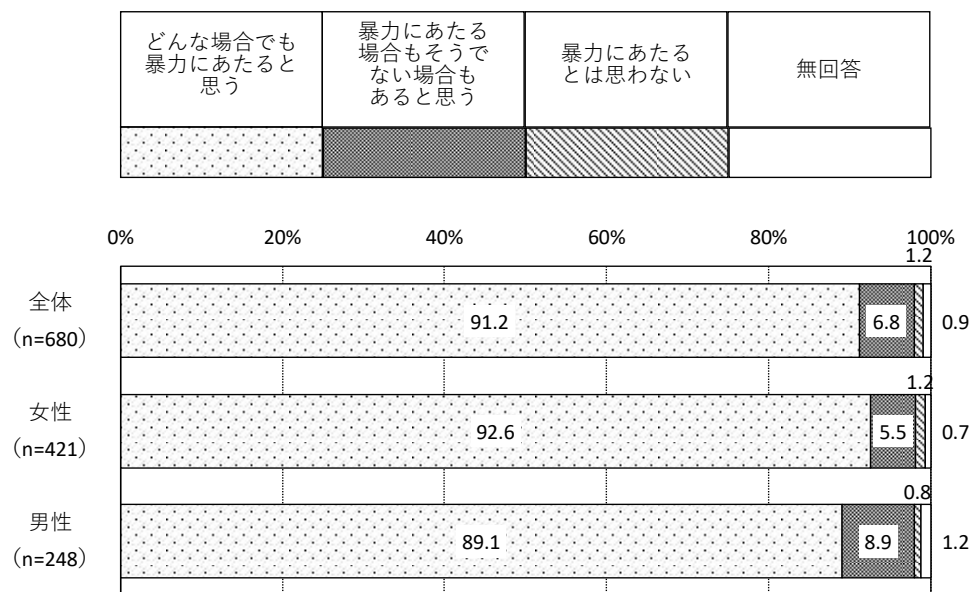
図表Ⅲ-1-6-15 ⑤避妊に協力しない 【過去の調査との比較】



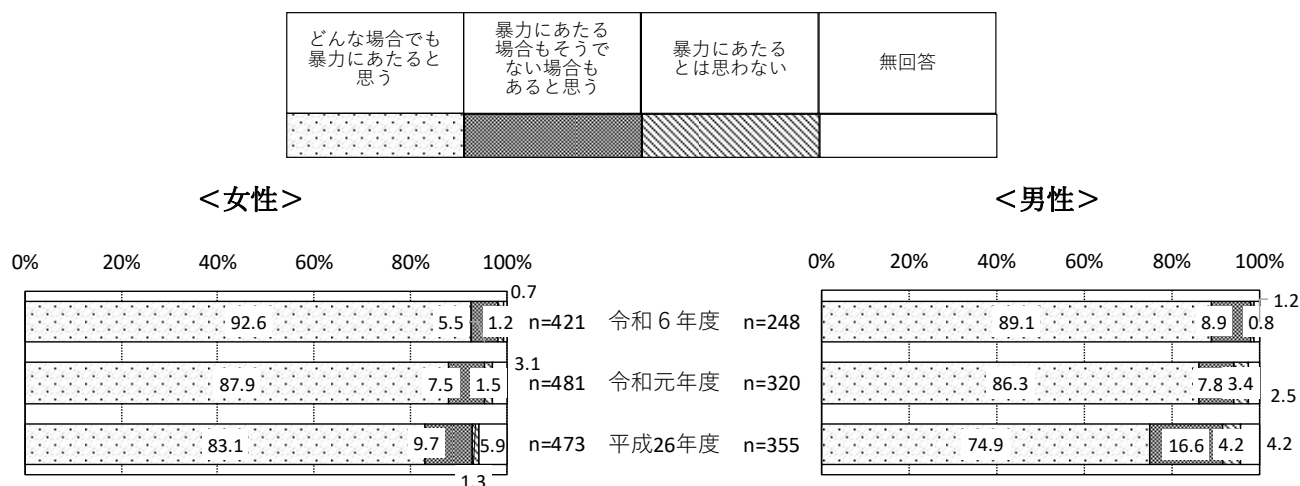
図表Ⅲ-1-6-16 ⑤避妊に協力しない【性別・年代別】



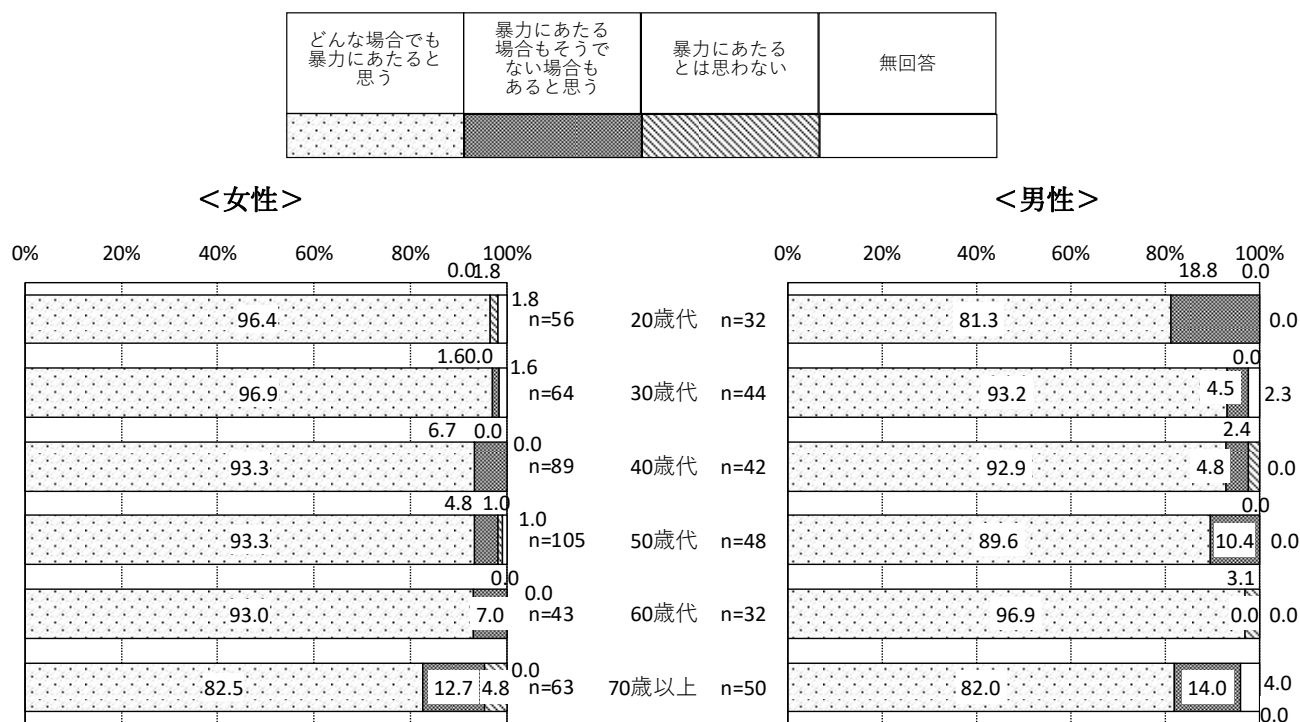
図表Ⅲ -1-6-17 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う



図表Ⅲ-1-6-18 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う 【過去の調査との比較】



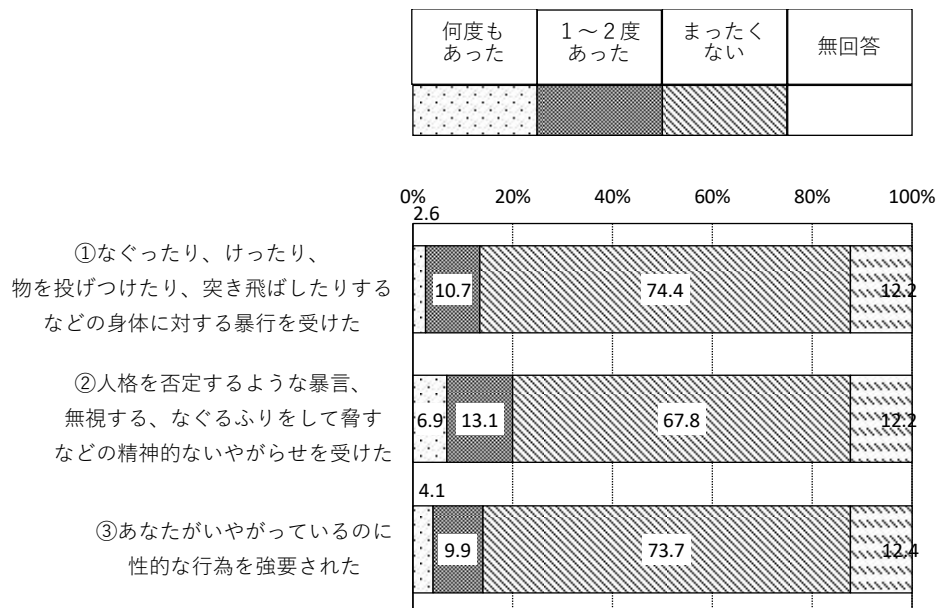
図表Ⅲ-1-6-19 ⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う 【性別・年代別】



②交際相手からのDVの経験

問 12 あなたは、交際相手から、次の（１）～（３）のようなことをされたことがありますか。（○は各項目に１つ）

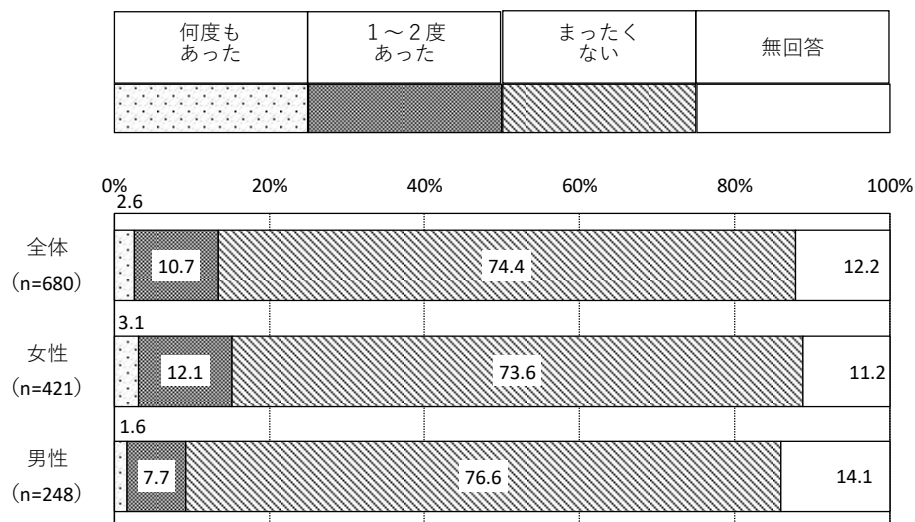
図表Ⅲ -1-6-20 交際相手から のDVの経験



【交際相手からのDVの経験で多いのは「人格を否定するような暴言、無視、精神的ないやがらせ」が約2割】

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 15.2%、男性 9.3%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 23.5%、男性 12.5%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 20.2%、男性 2.8%となっています。

図表Ⅲ-1-6-21①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた

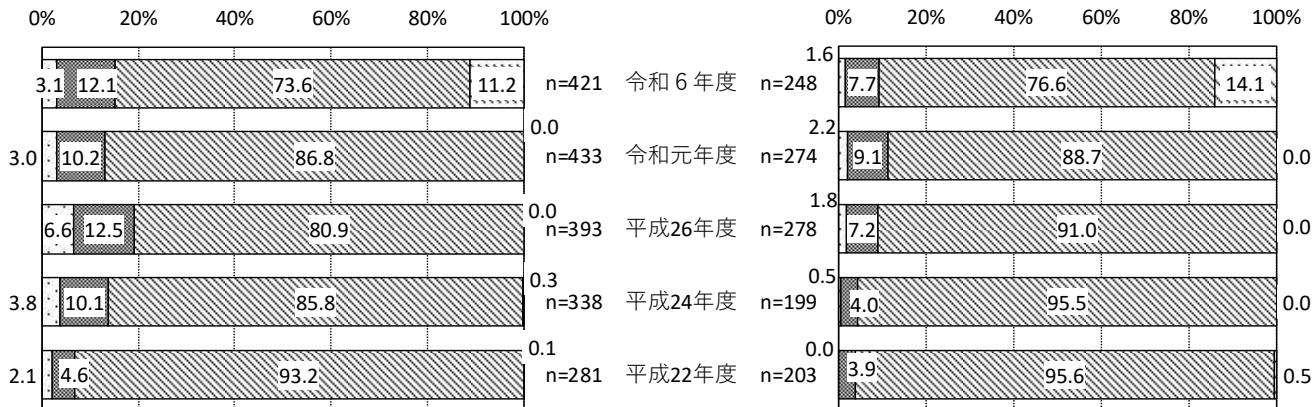


図表Ⅲ-1-6-22①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた【過去の調査との比較】

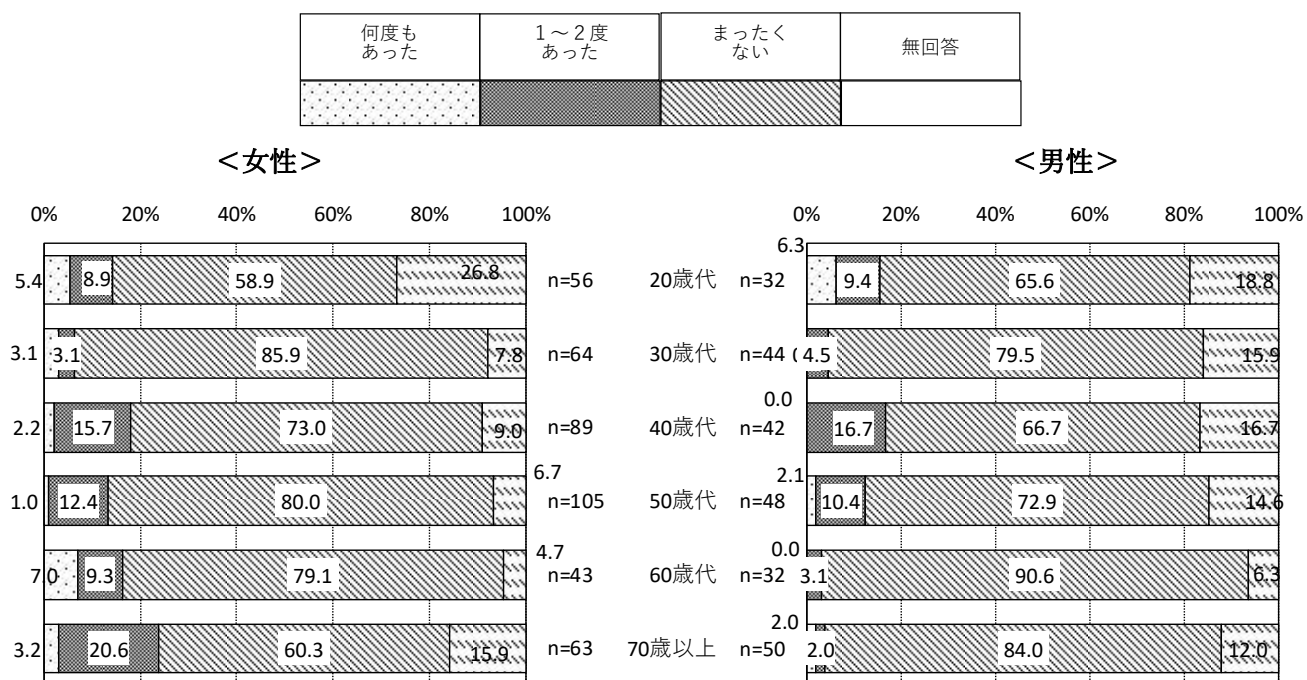
何度もあった	1～2度あった	まったくない	無回答

<女性>

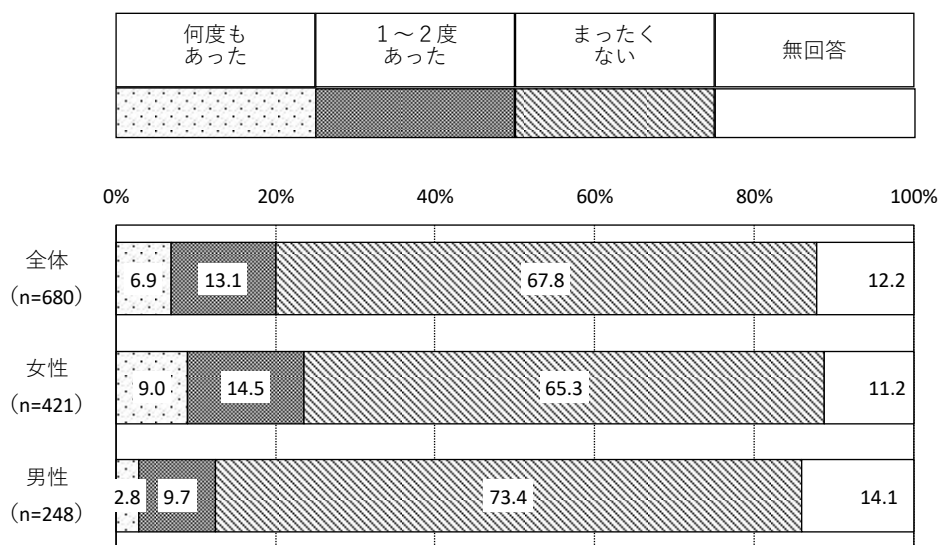
<男性>



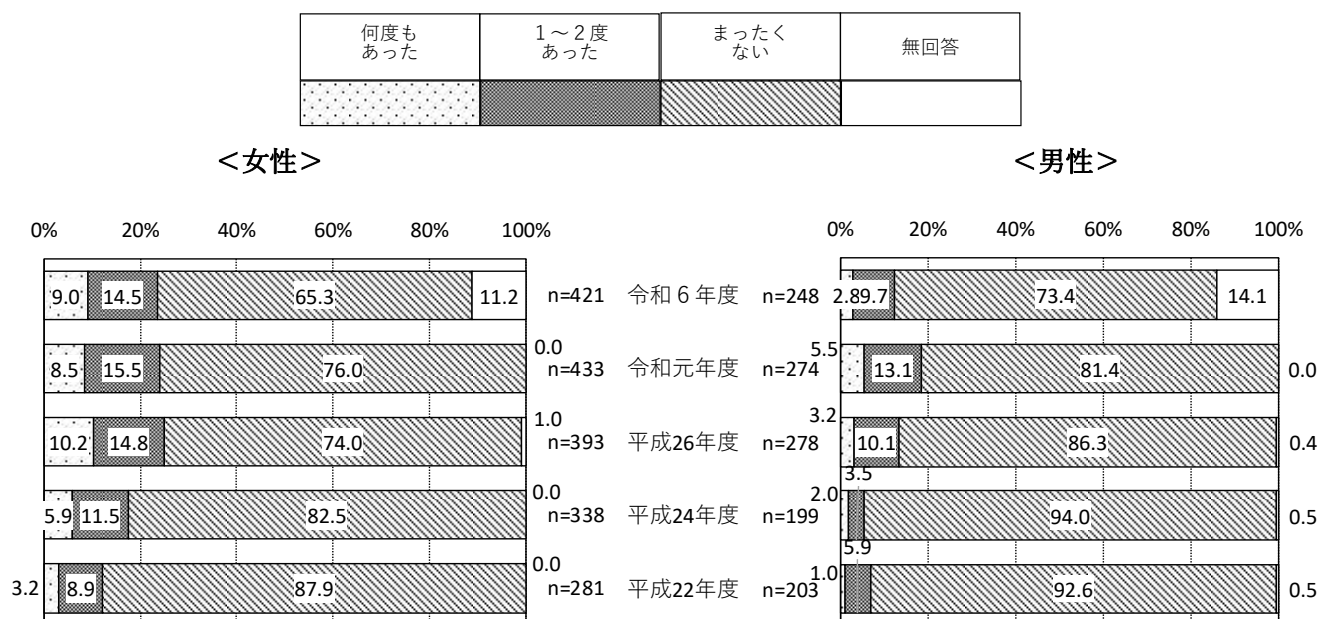
図表Ⅲ-1-6-23 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた 【性別・年代別】



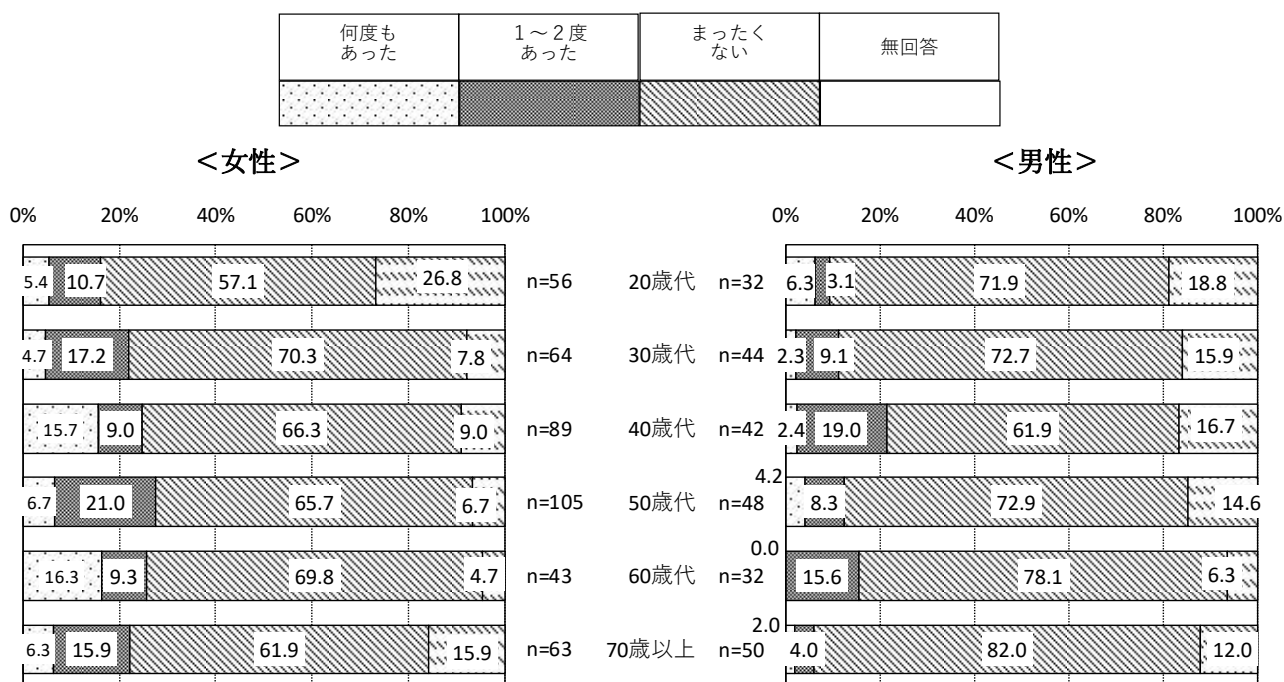
図表Ⅲ -1-6-24 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



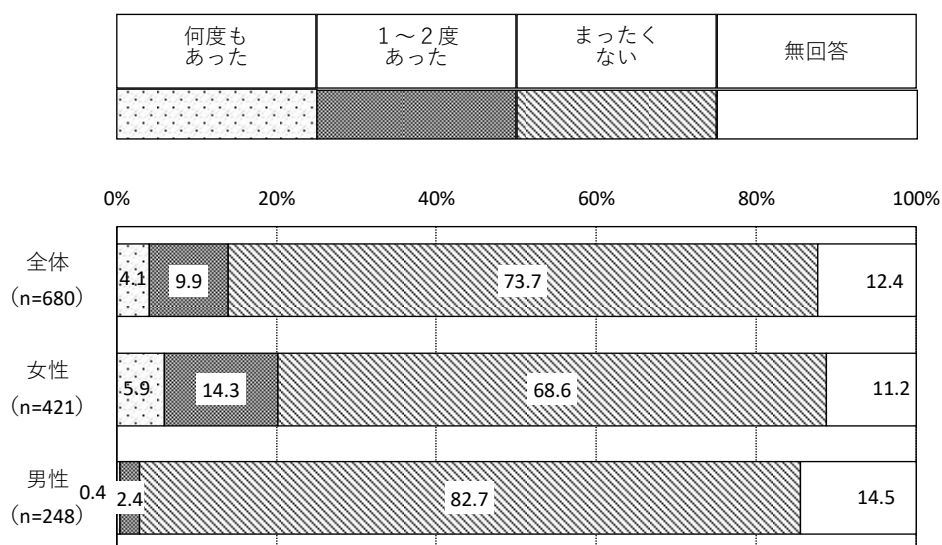
図表Ⅲ-1-6-25 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【過去の調査との比較】



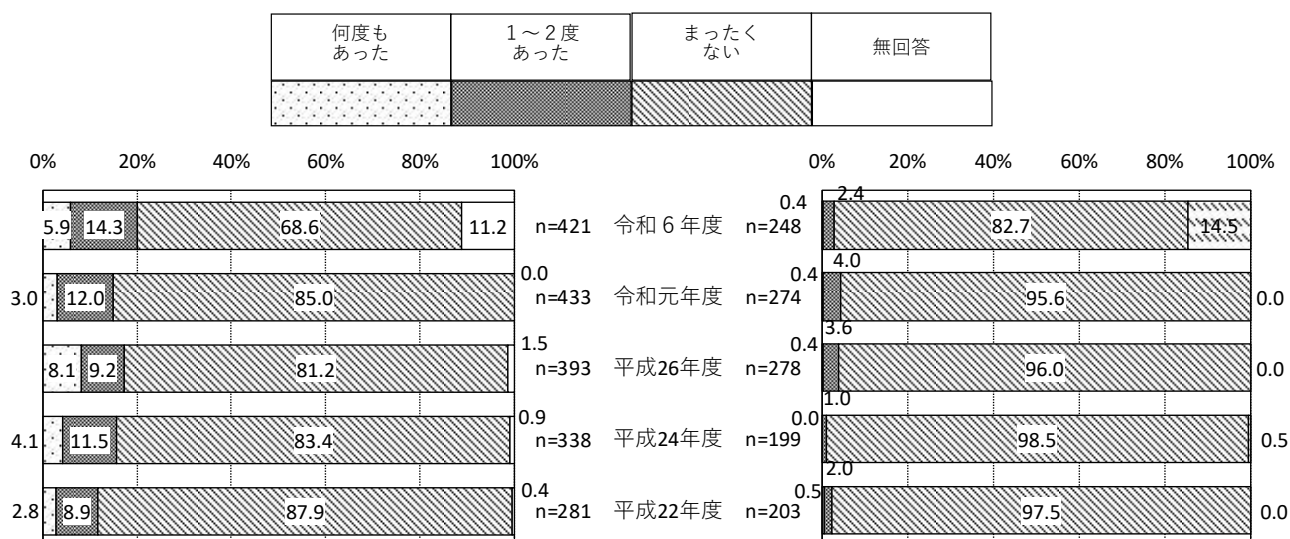
図表Ⅲ-1-6-26 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



図表Ⅲ -1-6-27 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された



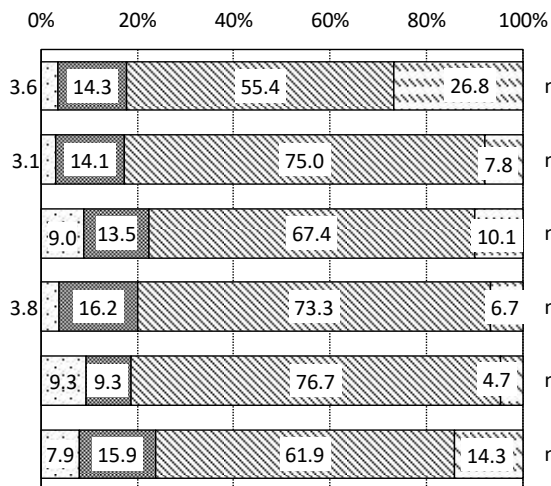
図表Ⅲ-1-6-28 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【過去の調査との比較】



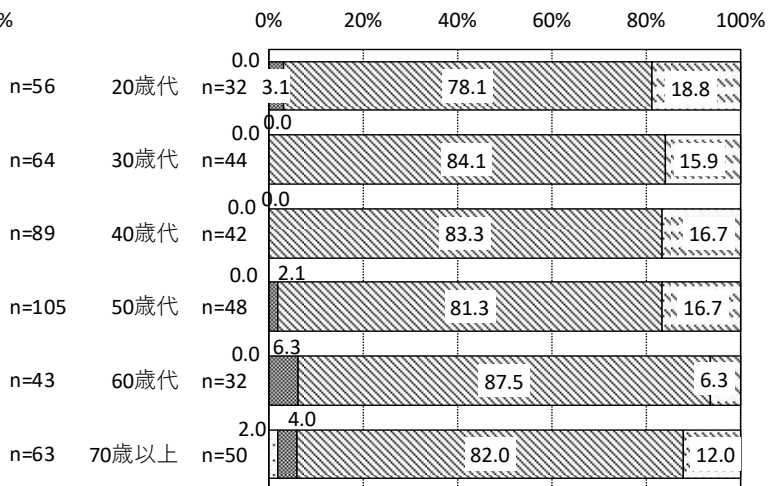
図表Ⅲ-1-6-29 ③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【性別・年代別】

何度もあった	1～2度あった	まったくない	無回答

<女性>



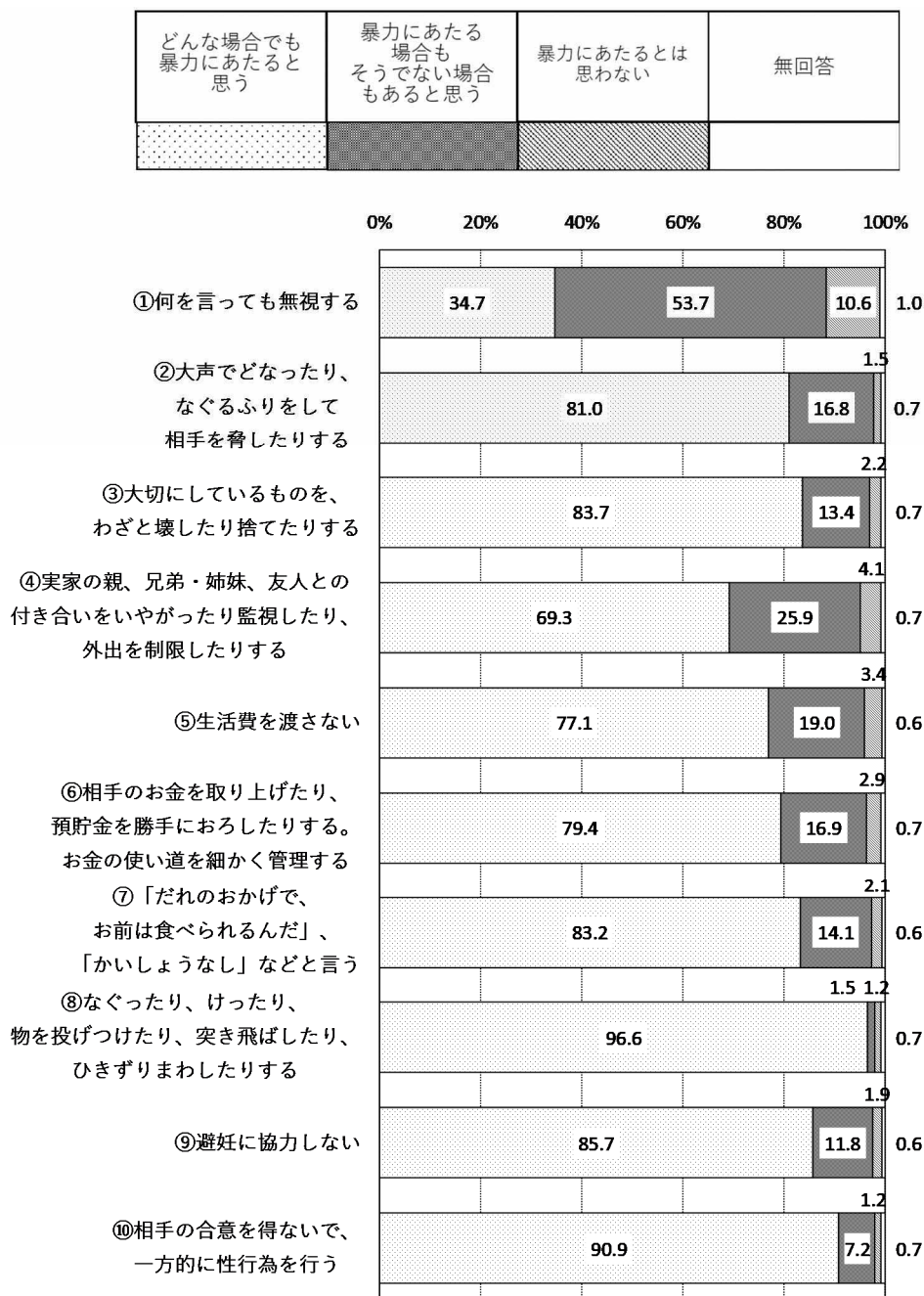
<男性>



③配偶者間でDVだと思ふ行為

問 13 配偶者間で次の（１）～（１０）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）

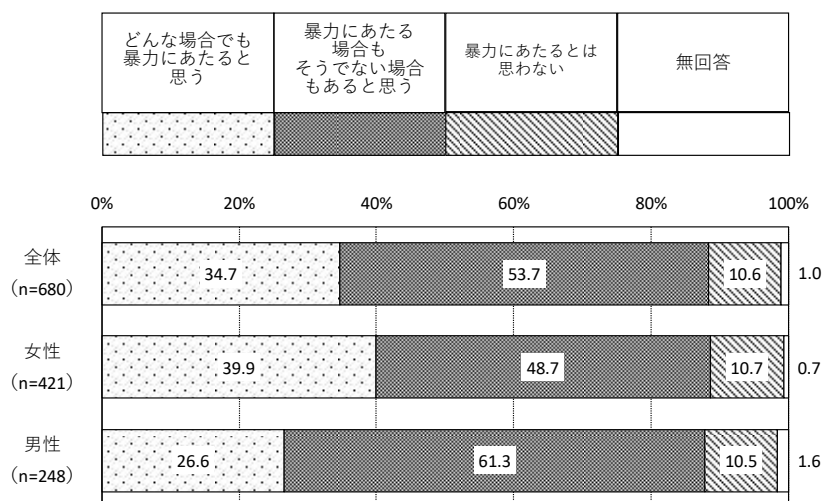
図表Ⅲ -1-6-30 配偶者間でDVだと思ふ行為



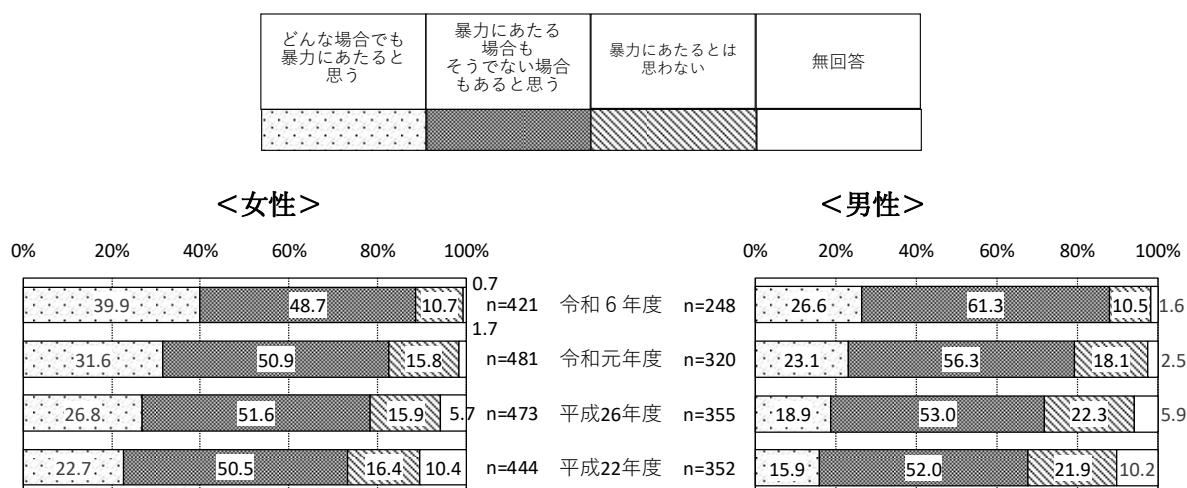
【配偶者間でDVだと思ふ行為は「なぐったり、けったり…」が96.6%で最多】

配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 97.4%、男性 95.6%で最も高くなっています。「④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする」が『どんな場合でも暴力に当たると思う』のは女性 74.6%、男性 60.1%で男女での差が見られます。

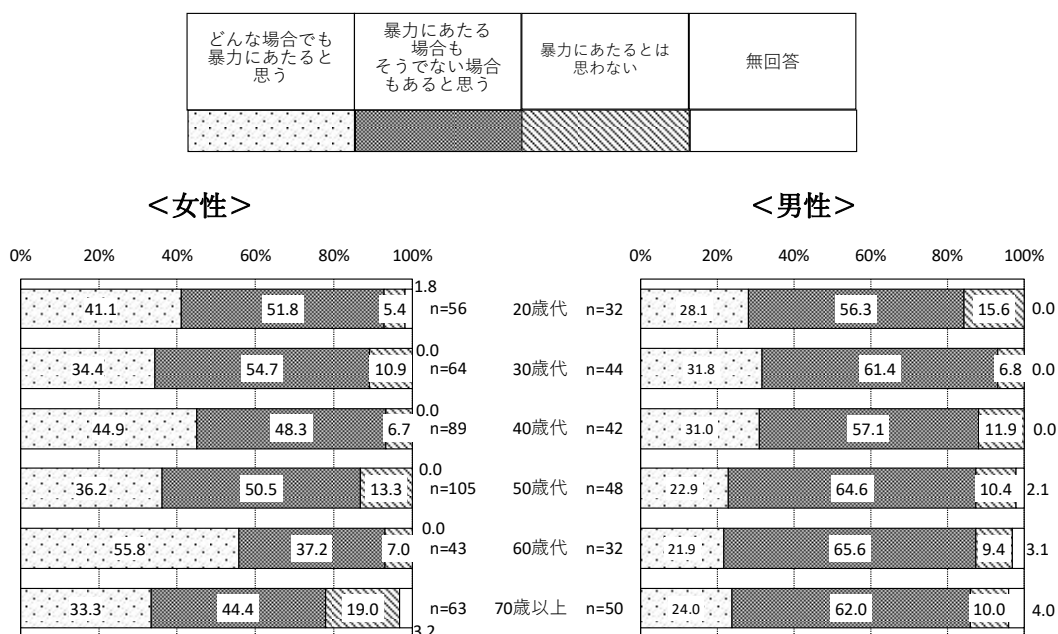
図表Ⅲ -1-6-31 ①何を言っても無視する



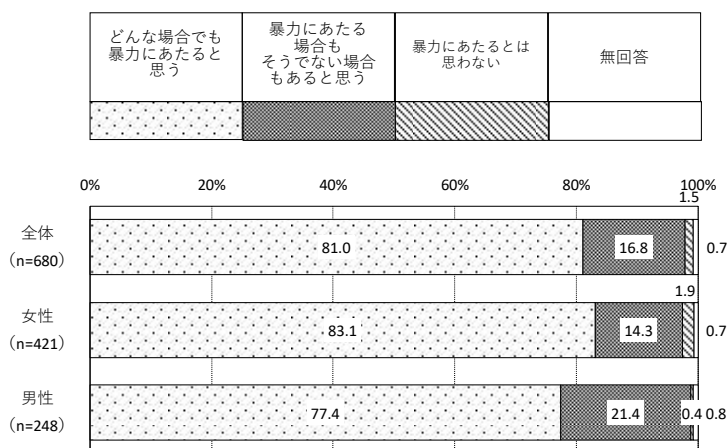
図表Ⅲ-1-6-32 ①何を言っても無視する 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-33 ①何を言っても無視する 【性別・年代別】

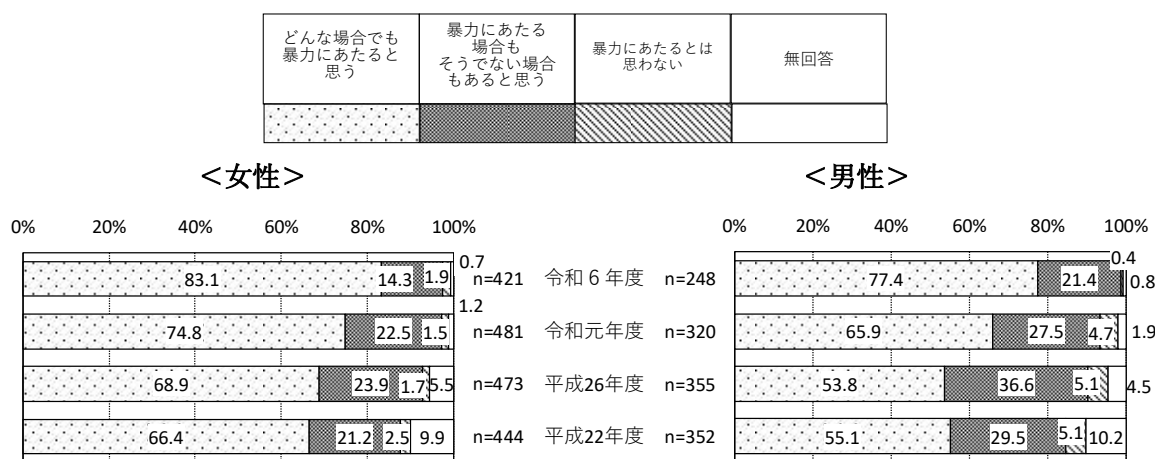


図表Ⅲ -1-6-34 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする



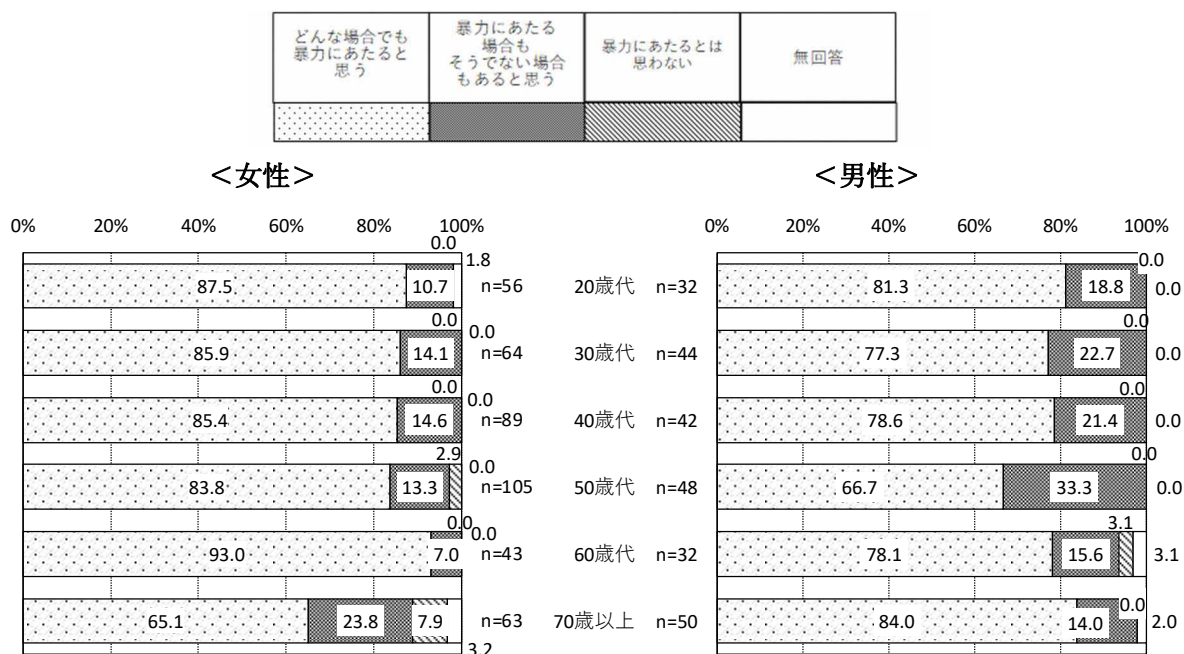
図表Ⅲ-1-6-35 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする

【過去の調査との比較】

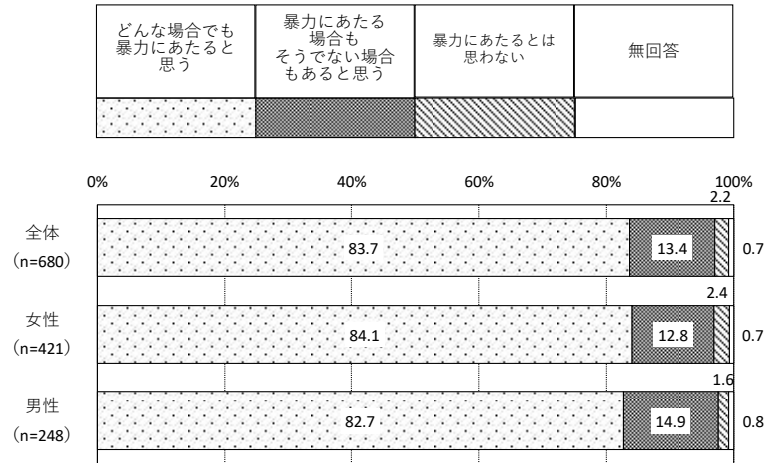


図表Ⅲ-1-6-36 ②大声でどなったり、なぐるふりをして相手を脅したりする

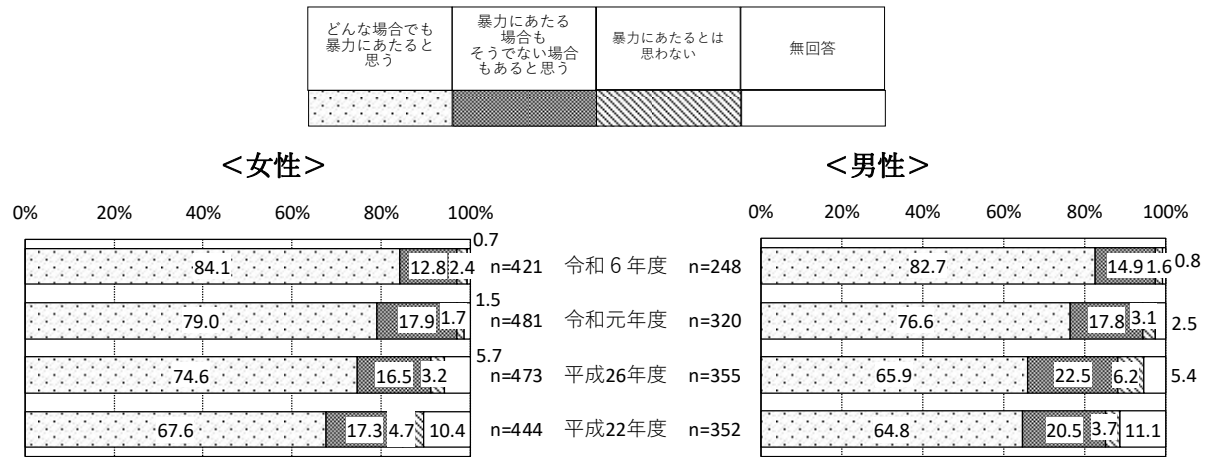
【性別・年代別】



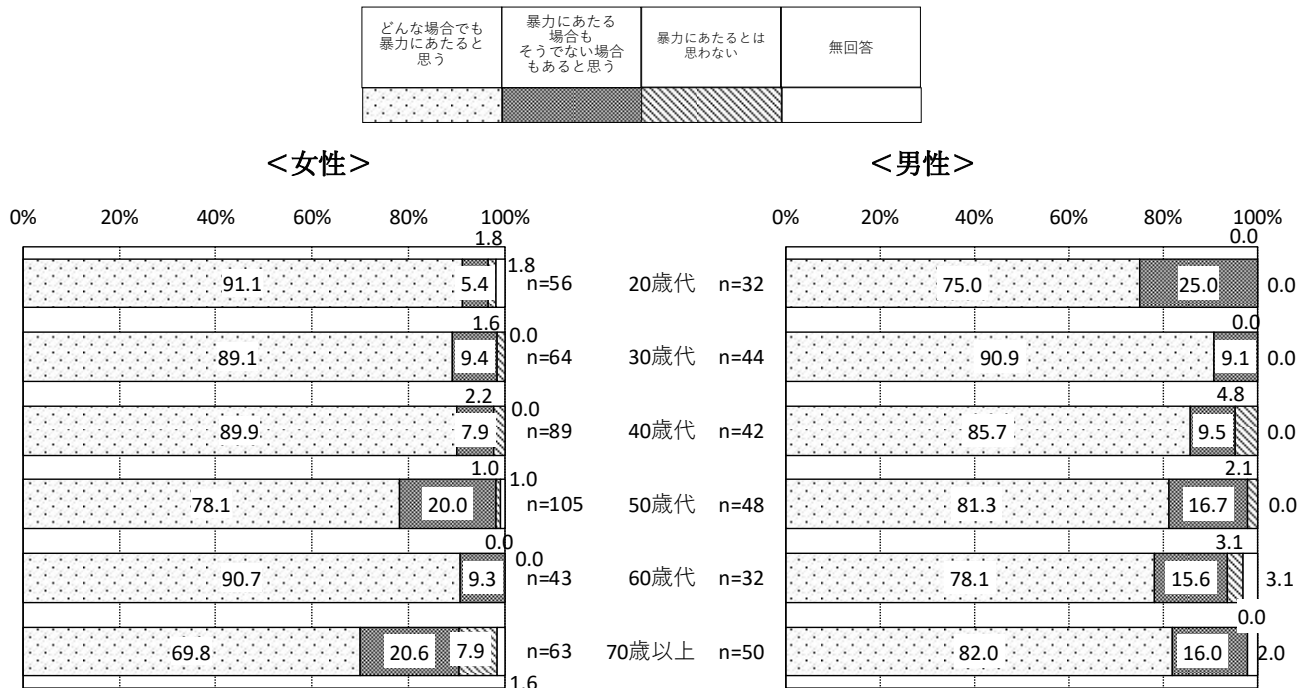
図表Ⅲ -1-6-37 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする



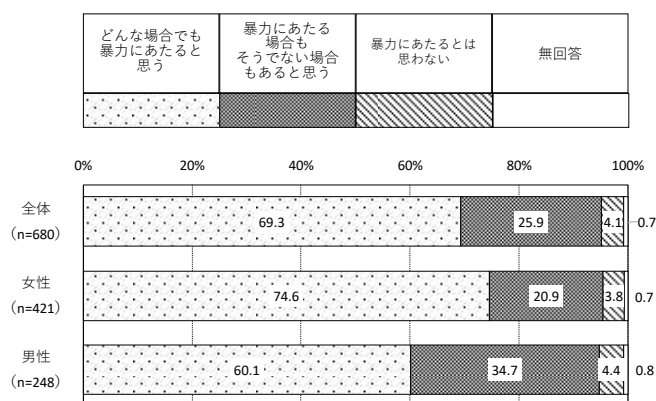
図表Ⅲ-1-6-38 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする 【過去の調査との比較】



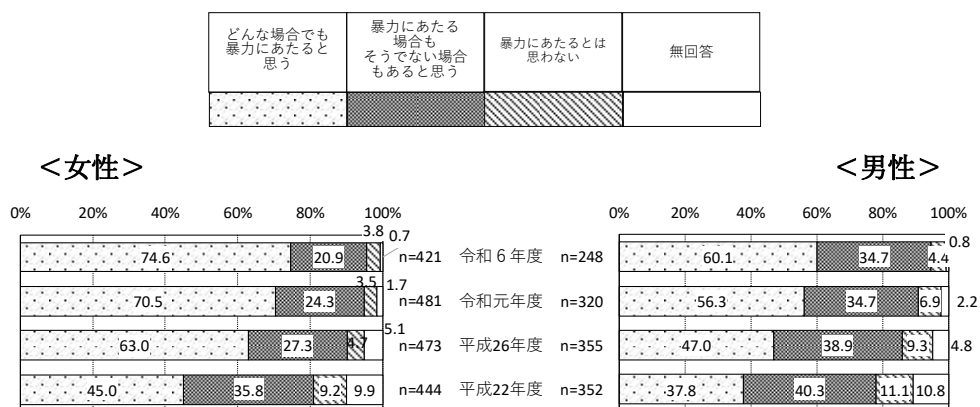
図表Ⅲ-1-6-39 ③大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりする 【性別・年代別】



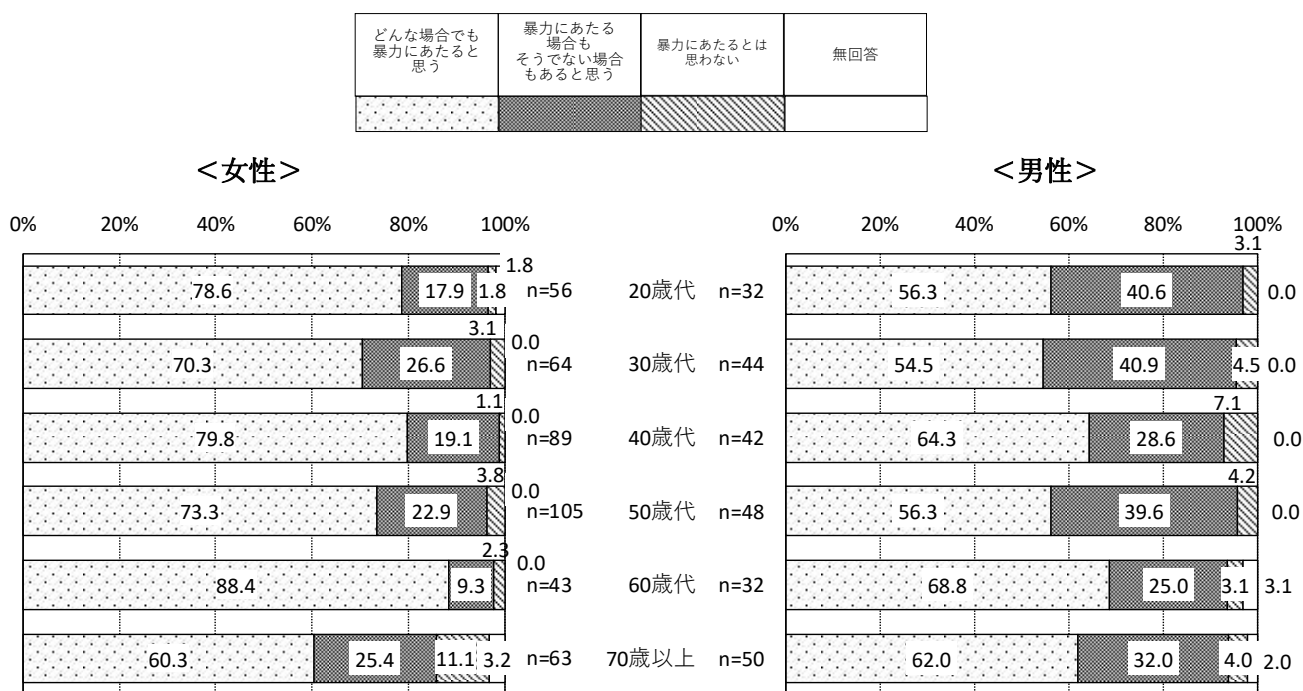
図表Ⅲ -1-6-40 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする



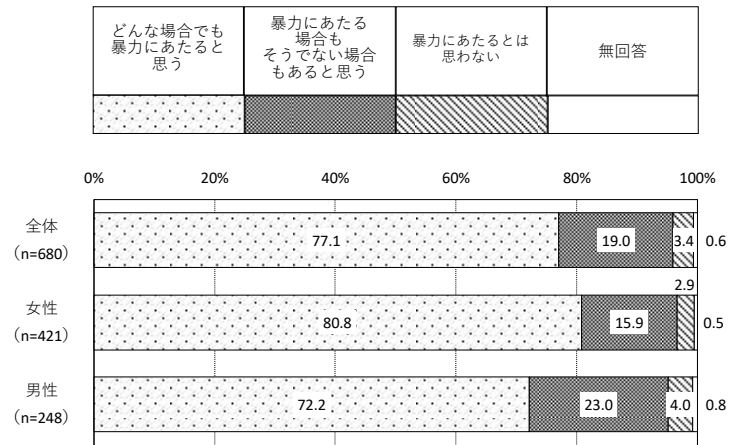
図表Ⅲ-1-6-41 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする 【過去の調査との比較】



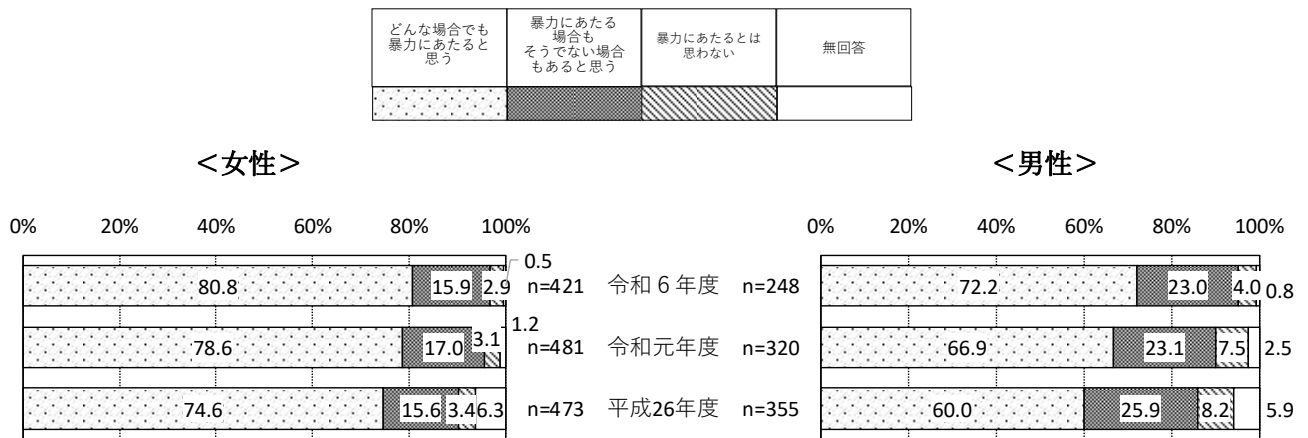
図表Ⅲ-1-6-42 ④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする 【性別・年代別】



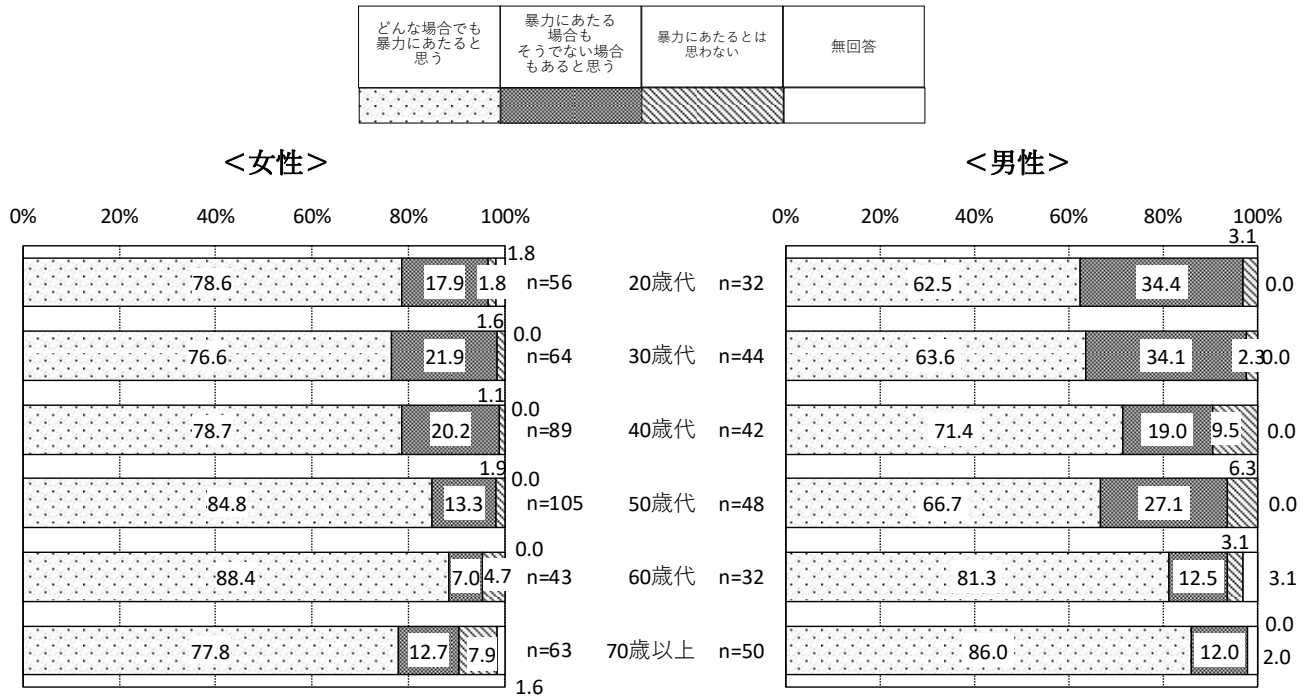
図表Ⅲ -1-6-43 ⑤生活費を渡さない



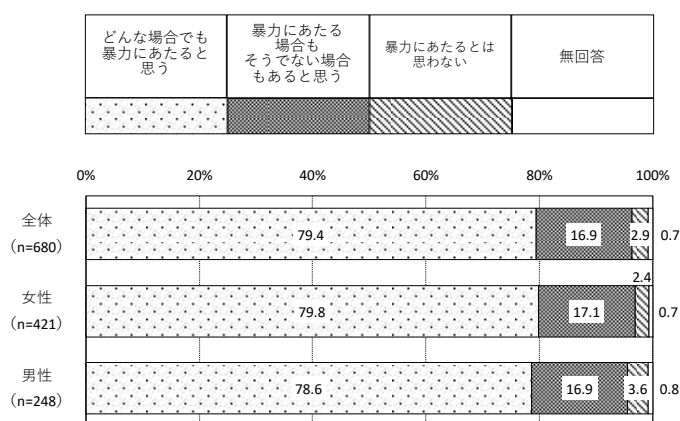
図表Ⅲ-1-6-44 ⑤生活費を渡さない 【過去の調査との比較】



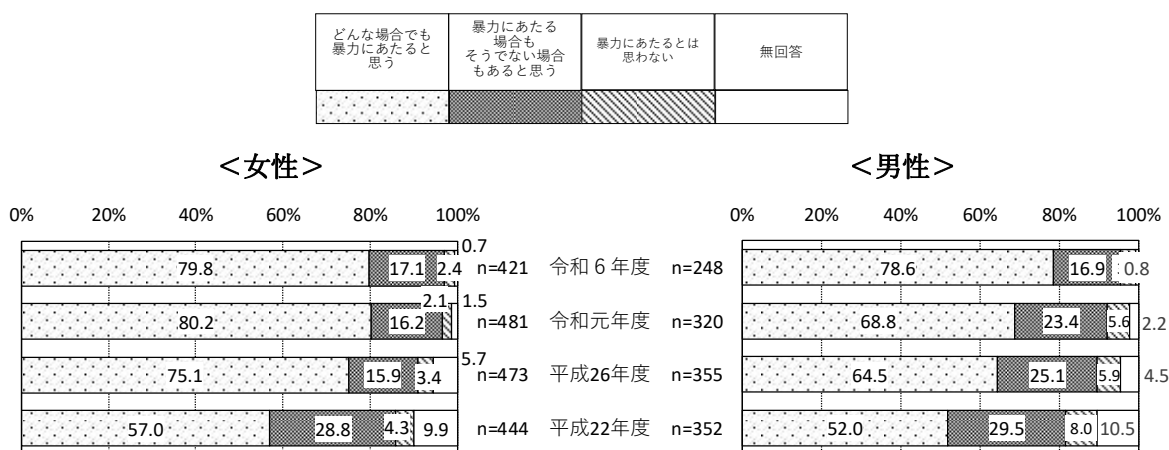
図表Ⅲ-1-6-45 ⑤生活費を渡さない 【性別・年代別】



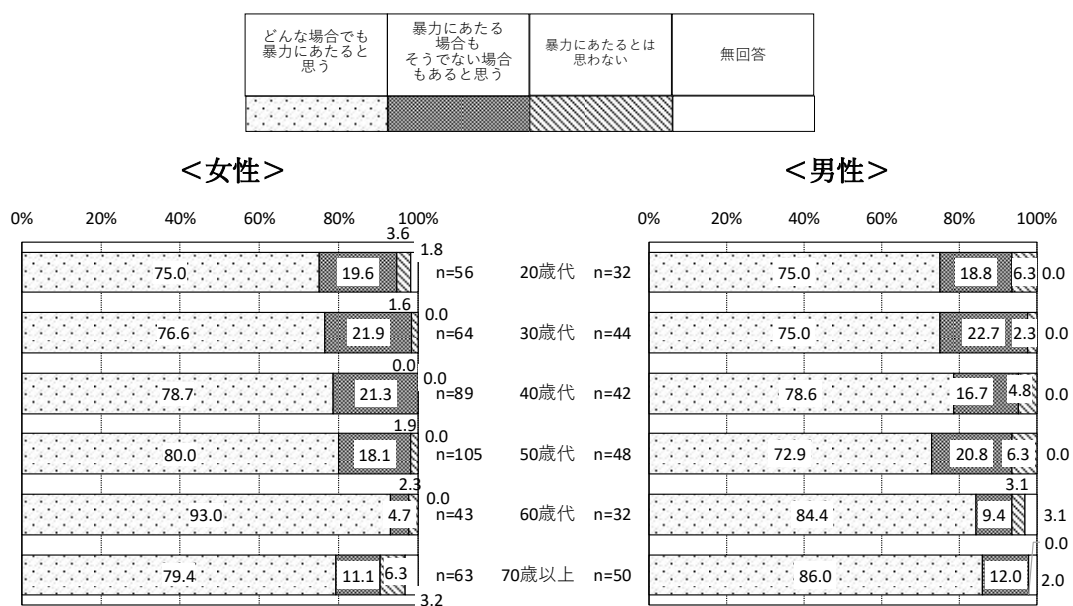
図表Ⅲ -1-6-46 ⑥相手のお金を上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する



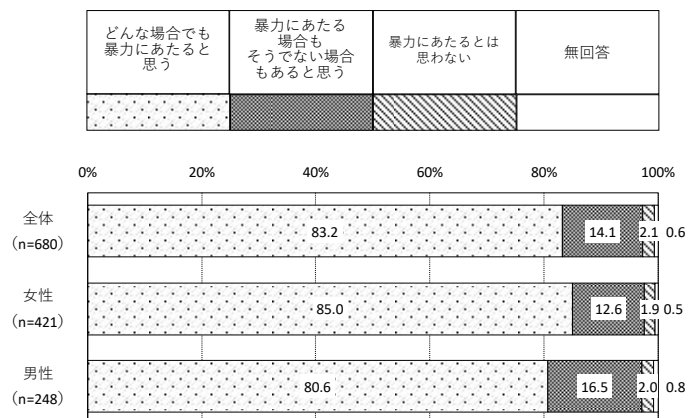
図表Ⅲ-1-6-47 ⑥相手のお金を上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-48 ⑥相手のお金を上げたり、預貯金を勝手におろしたりする。お金の使い道を細かく管理する 【性別・年代別】

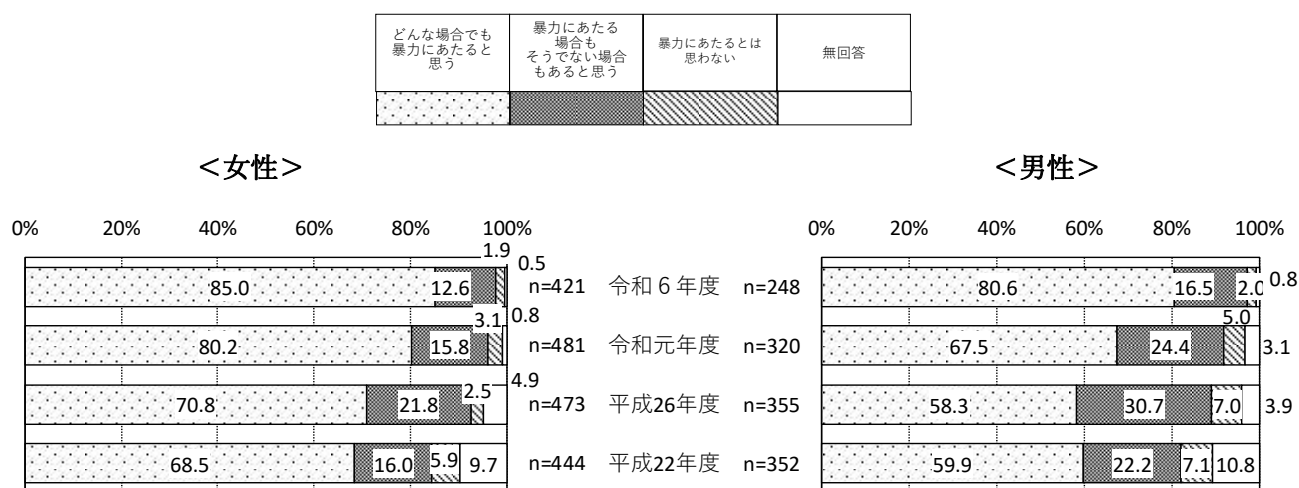


図表Ⅲ -1-6-49 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う



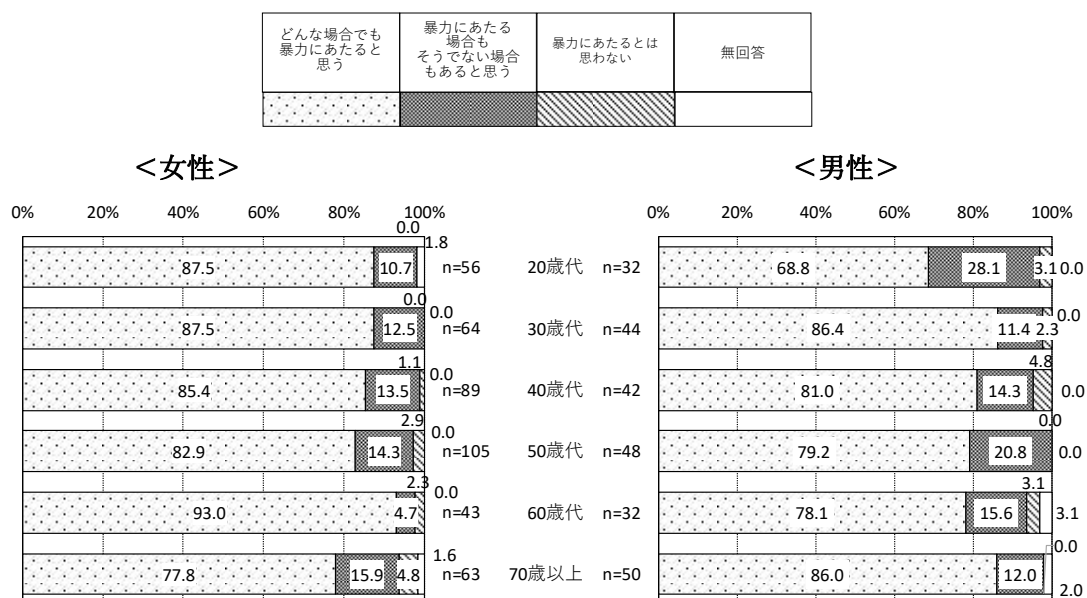
図表Ⅲ-1-6-50 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う

【過去の調査との比較】

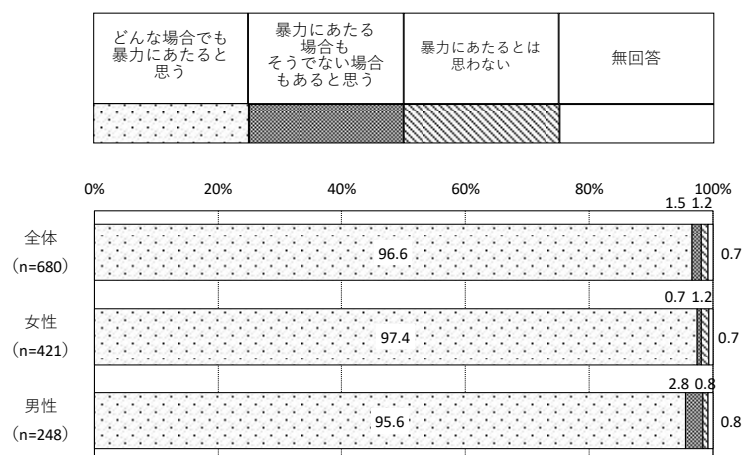


図表Ⅲ-1-6-51 ⑦「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」、「かいしょうなし」などと言う

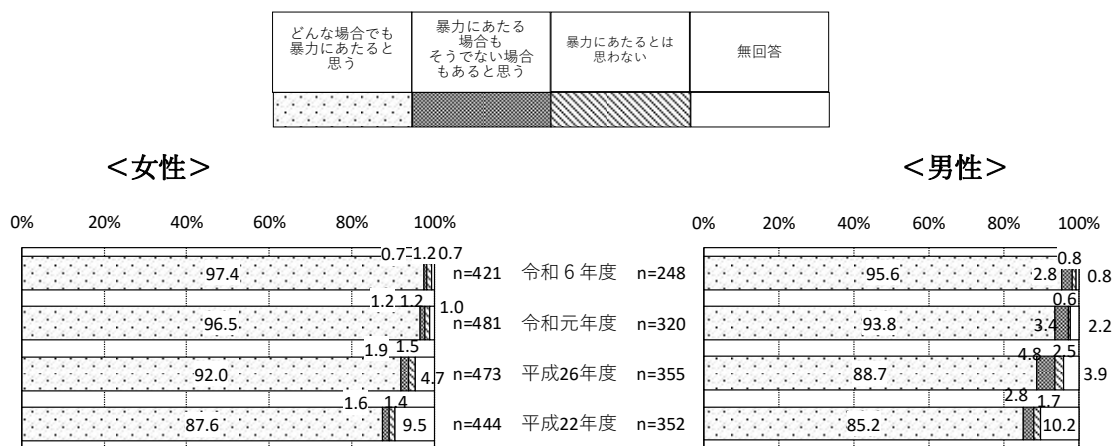
【性別・年代別】



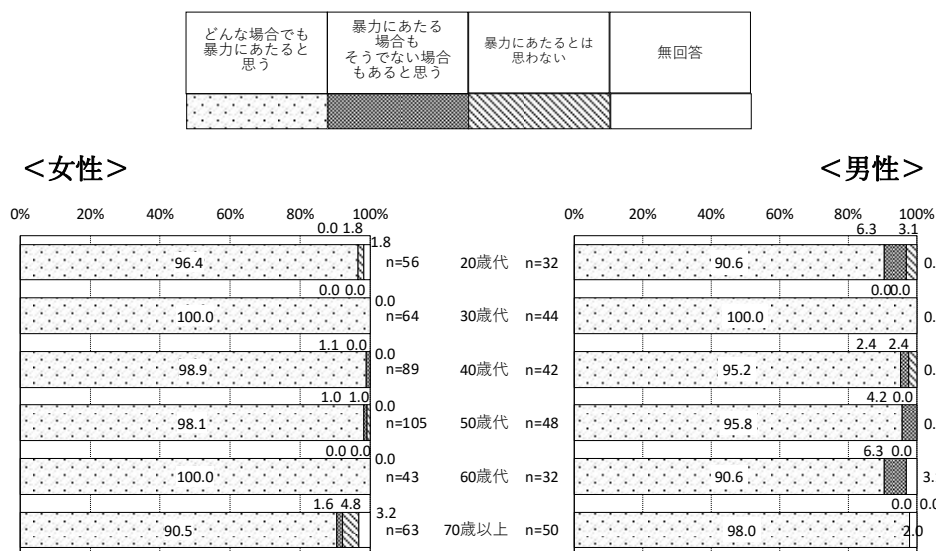
図表Ⅲ -1-6-52 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする



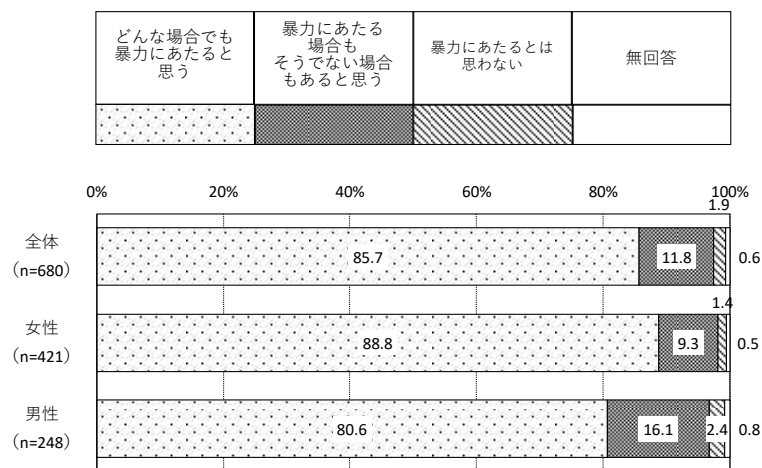
図表Ⅲ-1-6-53 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする 【過去の調査との比較】



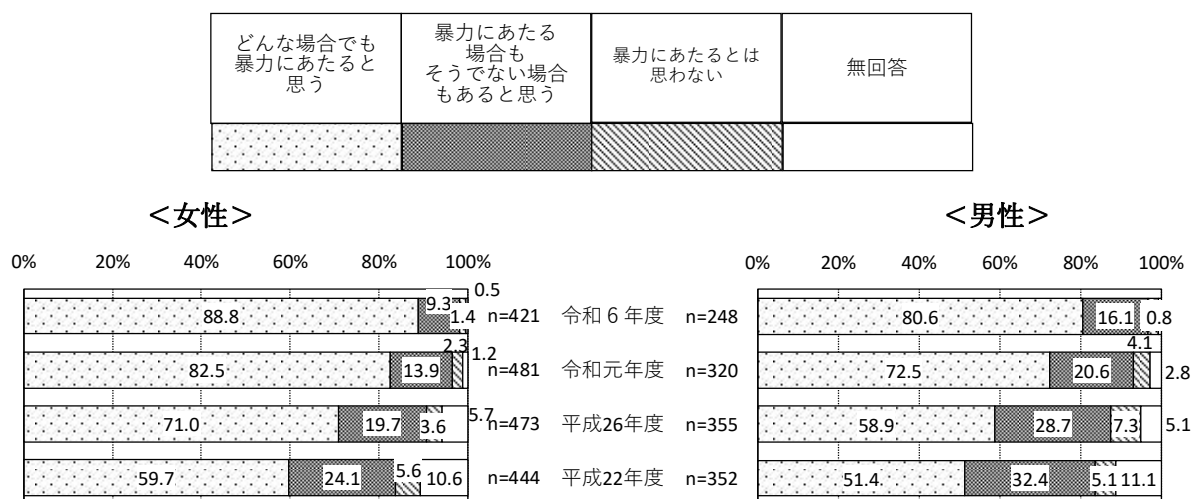
図表Ⅲ-1-6-54 ⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする 【性別・年代別】



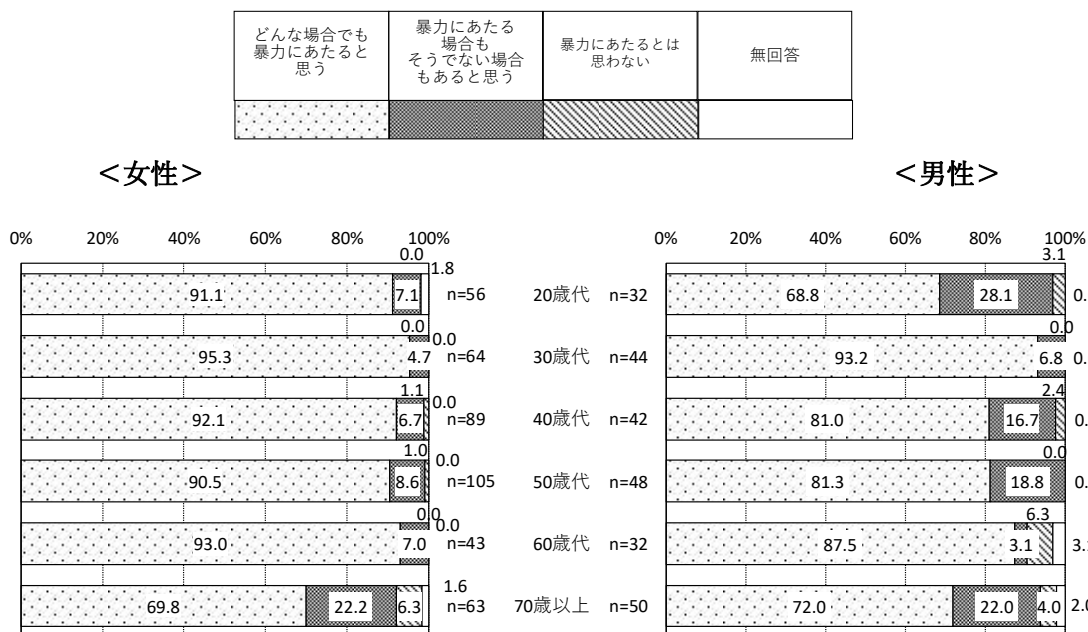
図表Ⅲ -1-6-55 ⑨避妊に協力しない



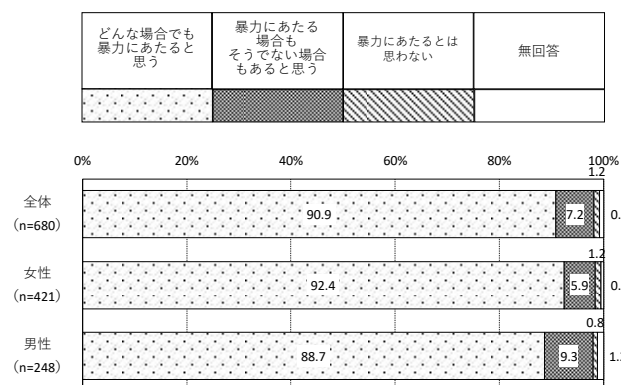
図表Ⅲ-1-6-56 ⑨避妊に協力しない 【過去の調査との比較】



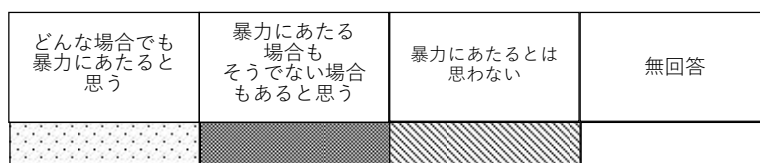
図表Ⅲ-1-6-57 ⑨避妊に協力しない 【性別・年代別】



図表Ⅲ -1-6-58 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う

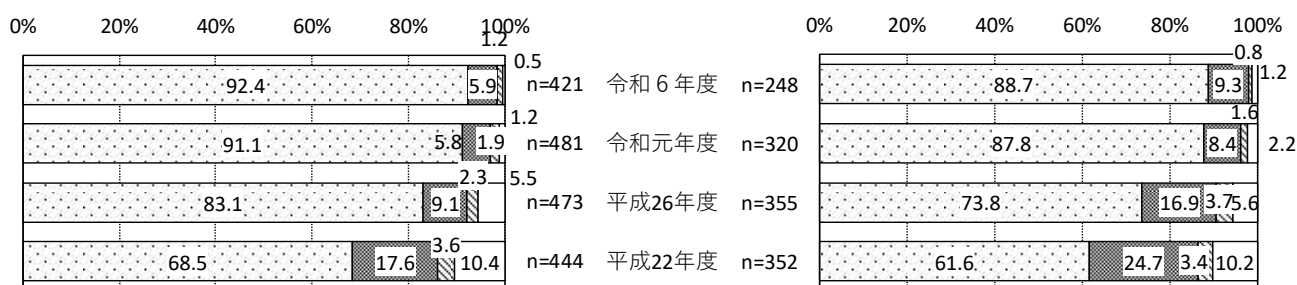


図表Ⅲ-1-6-59 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う【過去の調査との比較】

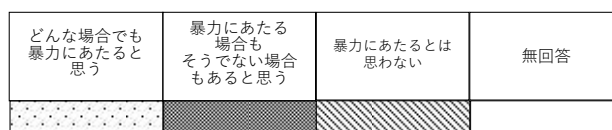


<女性>

<男性>

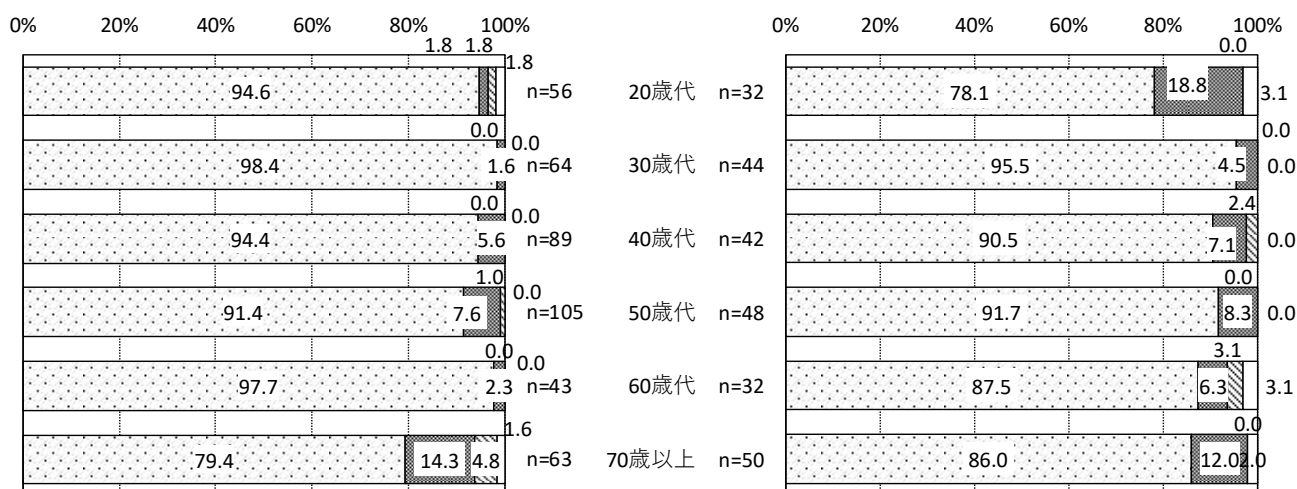


図表Ⅲ-1-6-60 ⑩相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う【性別・年代別】



<女性>

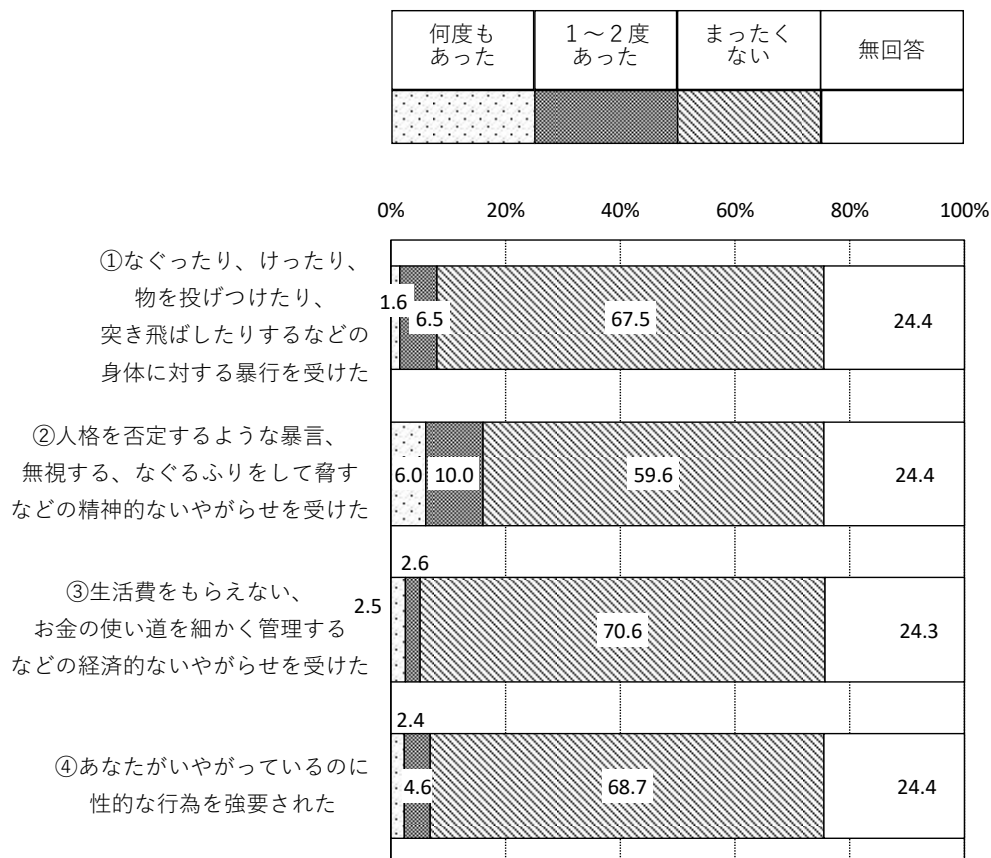
<男性>



④配偶者からのDVの経験

問 14 あなたは、過去1年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に１つ）

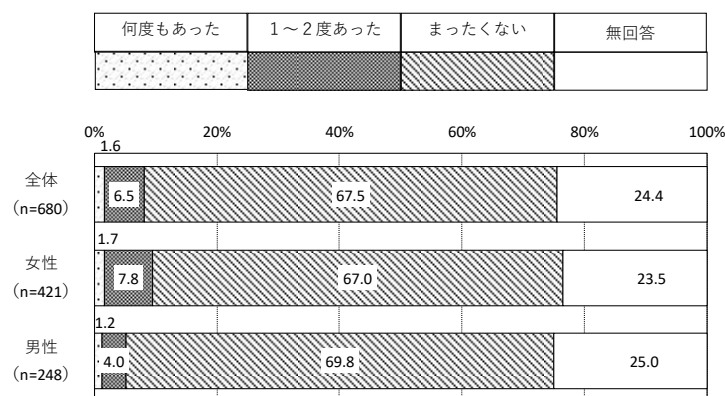
図表Ⅲ-1-6-61 配偶者からのDVの経験



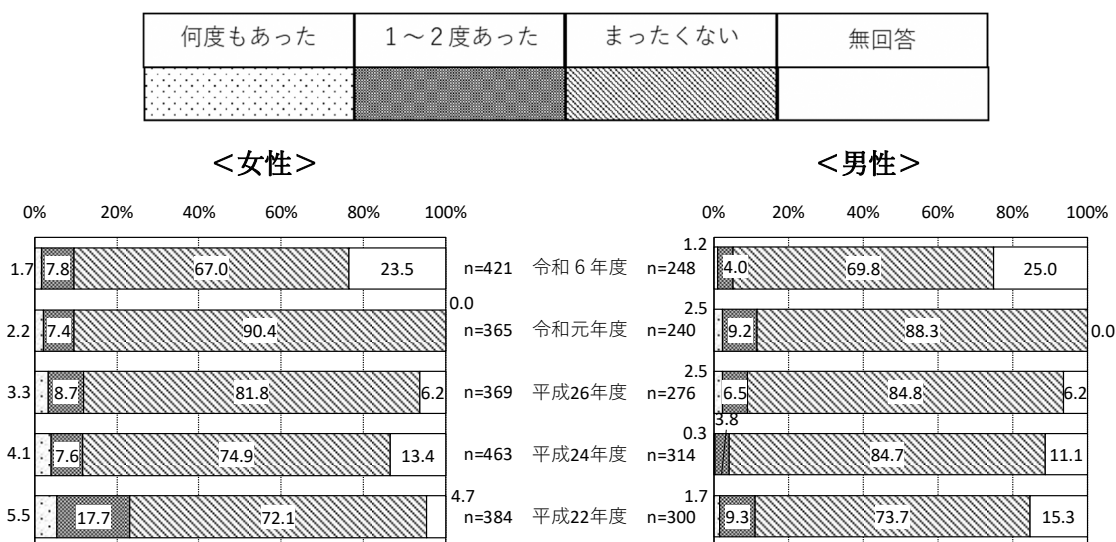
【配偶者からのDVの経験は「人格を否定するような暴言、無視、精神的ないやがらせ」が最多16.0%】

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性9.5%、男性5.2%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性18.3%、男性11.7%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性6.5%、男性2.4%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性9.3%、男性2.8%となっています。

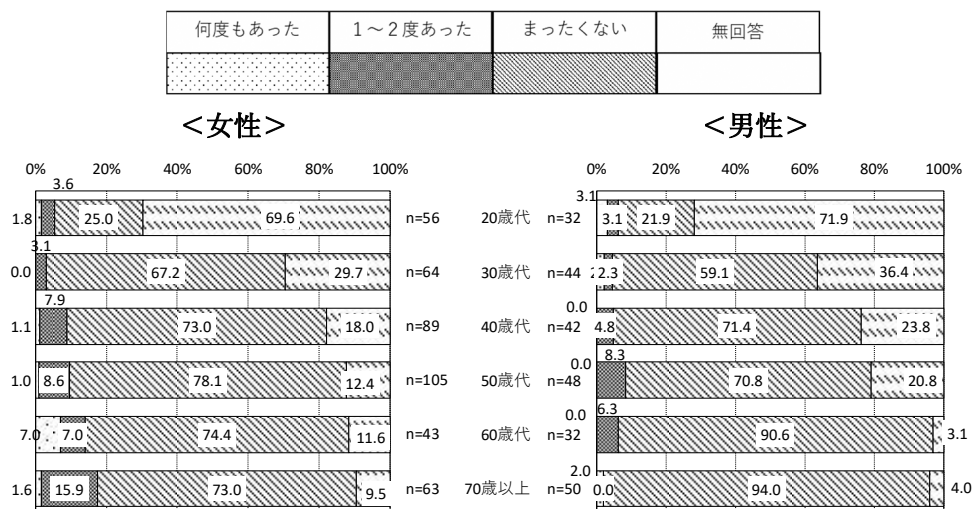
図表Ⅲ -1-6-62 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に
対する暴行を受けた



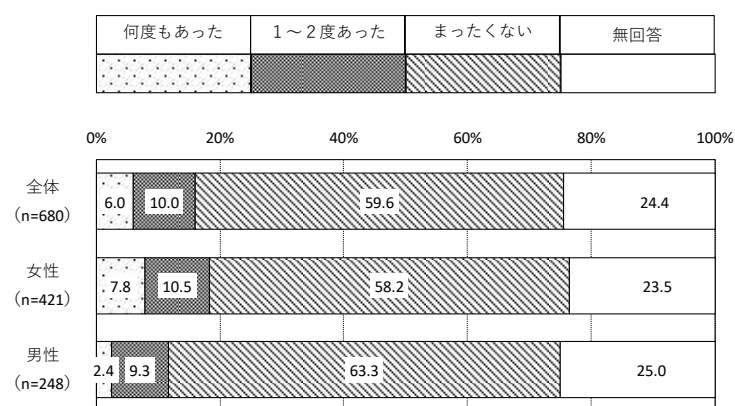
図表Ⅲ-1-6-63 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に
対する暴行を受けた 【過去の調査との比較】



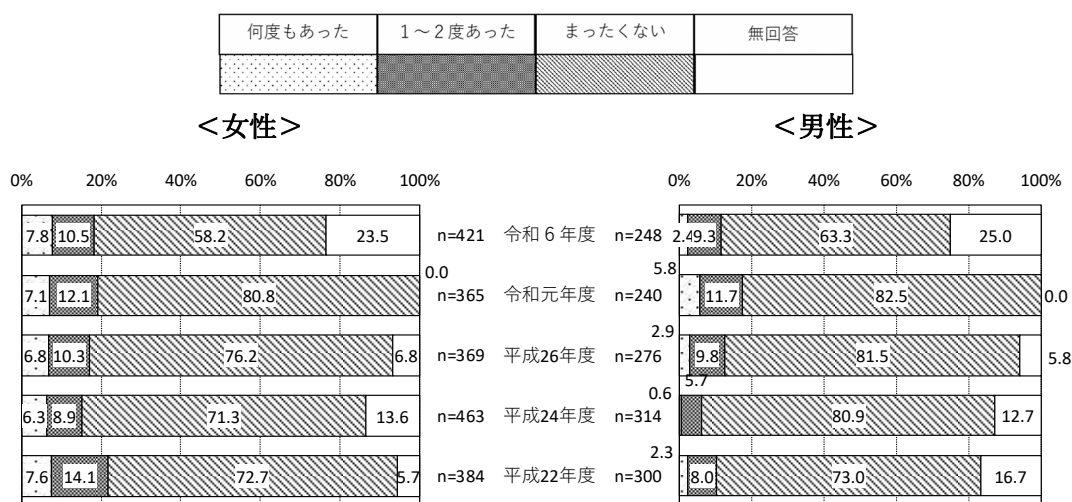
図表Ⅲ-1-6-64 ①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に
対する暴行を受けた 【性別・年代別】



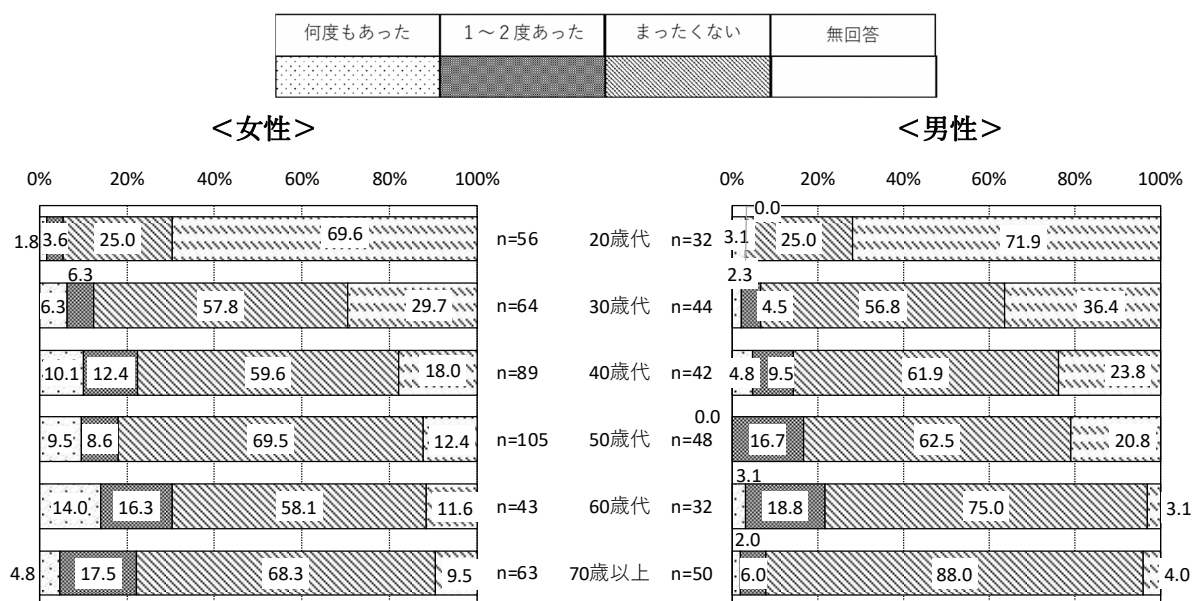
図表Ⅲ -1-6-65 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた



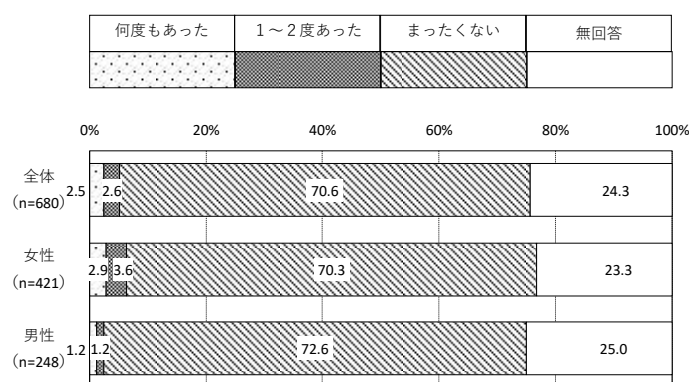
図表Ⅲ-1-6-66 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【過去の調査との比較】



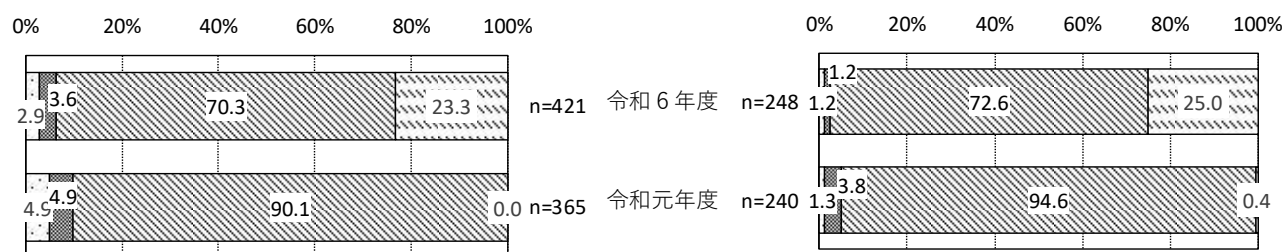
図表Ⅲ-1-6-67 ②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



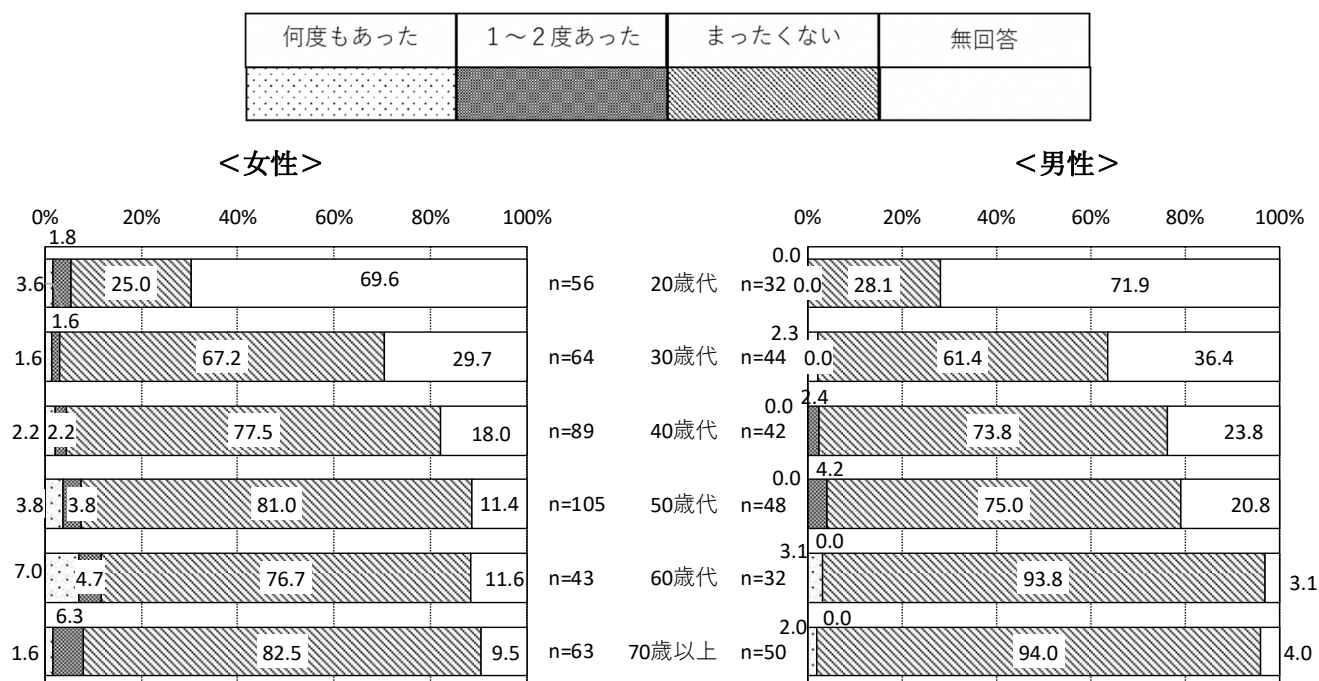
図表Ⅲ-1-6-68 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた



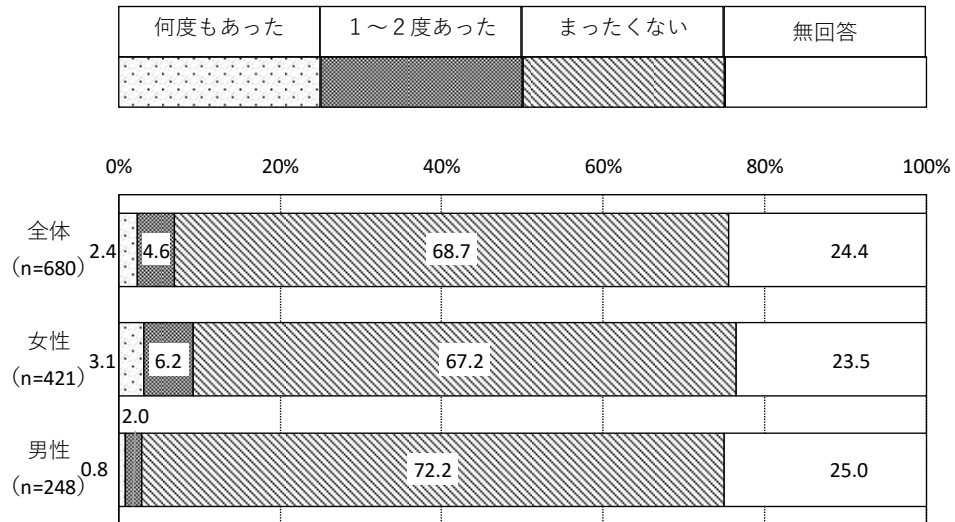
図表Ⅲ-1-6-69 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた 【過去の調査との比較】



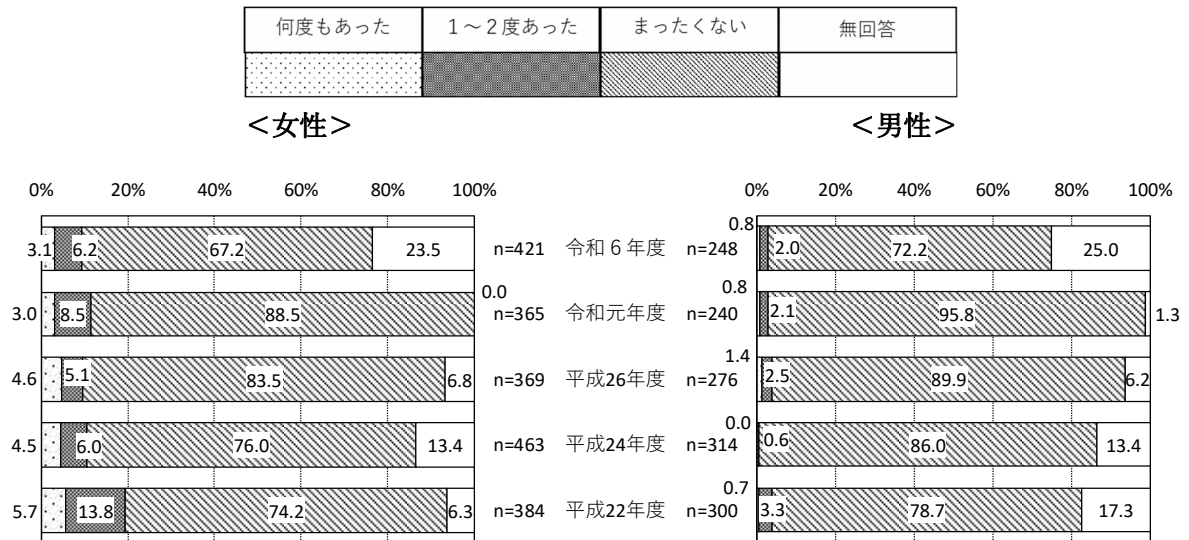
図表Ⅲ-1-6-70 ③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた 【性別・年代別】



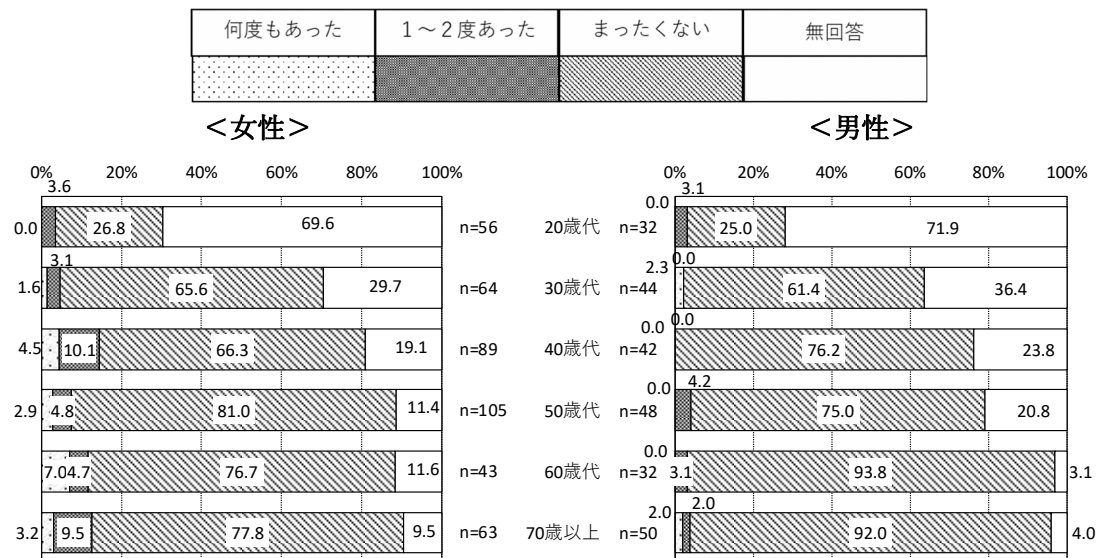
図表Ⅲ -1-6-71 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された



図表Ⅲ-1-6-72 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【過去の調査との比較】



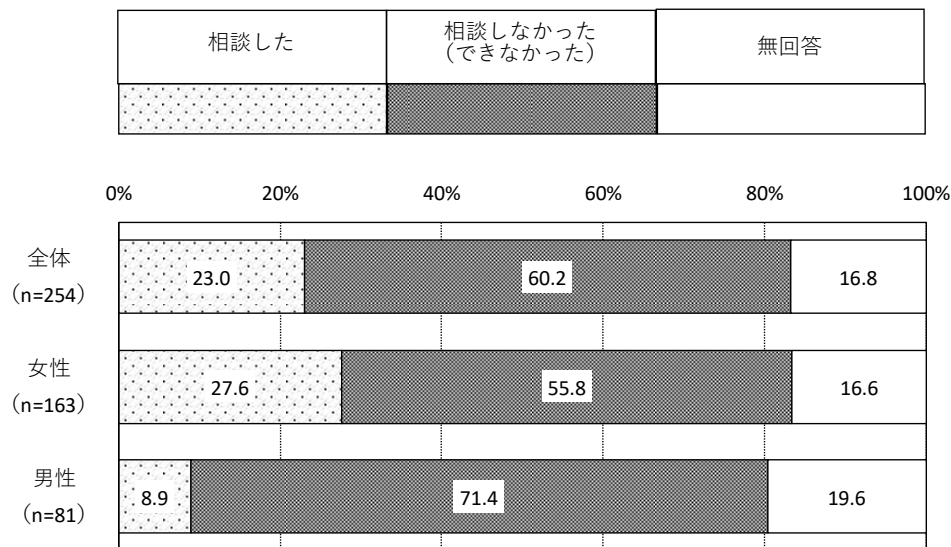
図表Ⅲ-1-6-73 ④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された 【性別・年代別】



⑤DVを相談したか

問 15 あなたはそのことをどこ（だれ）かに相談しましたか。（○は1つ）

図表Ⅲ-1-6-74 DVを相談したか



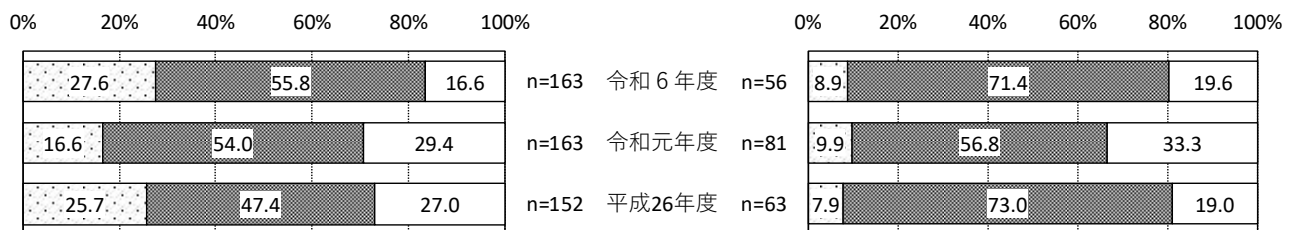
【DVの相談経験は女性で27.6%、男性は8.9%】

DVを相談したかについては、「相談した」が女性27.6%、男性8.9%、「相談しなかった（できなかった）」が女性55.8%、男性71.4%となっています。

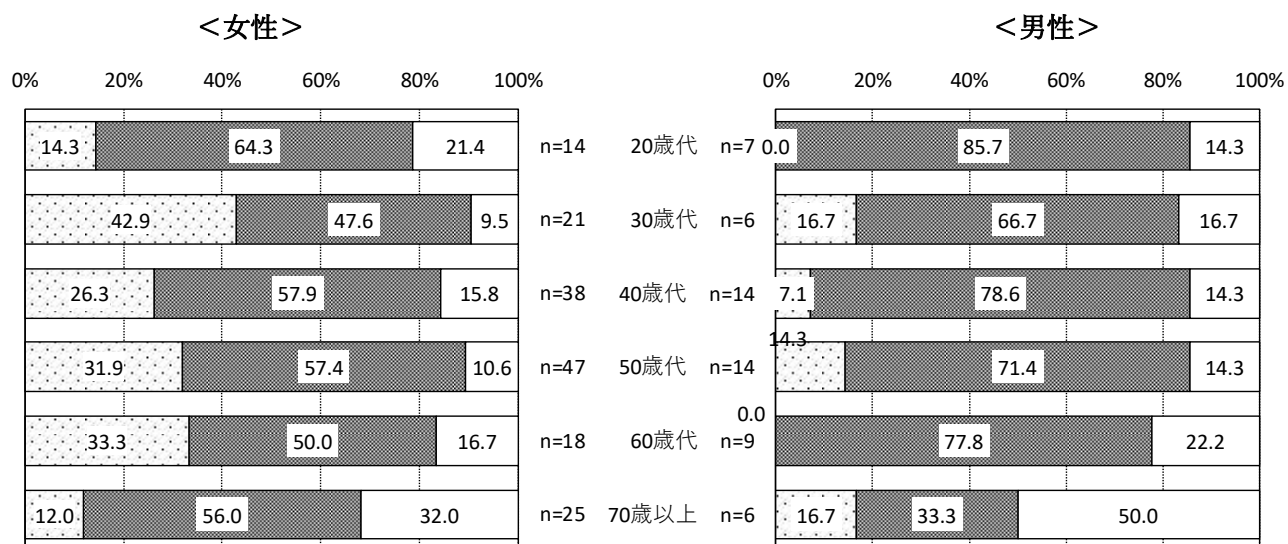
図表Ⅲ-1-6-75 DVを相談したか 【過去の調査との比較】

<女性>

<男性>



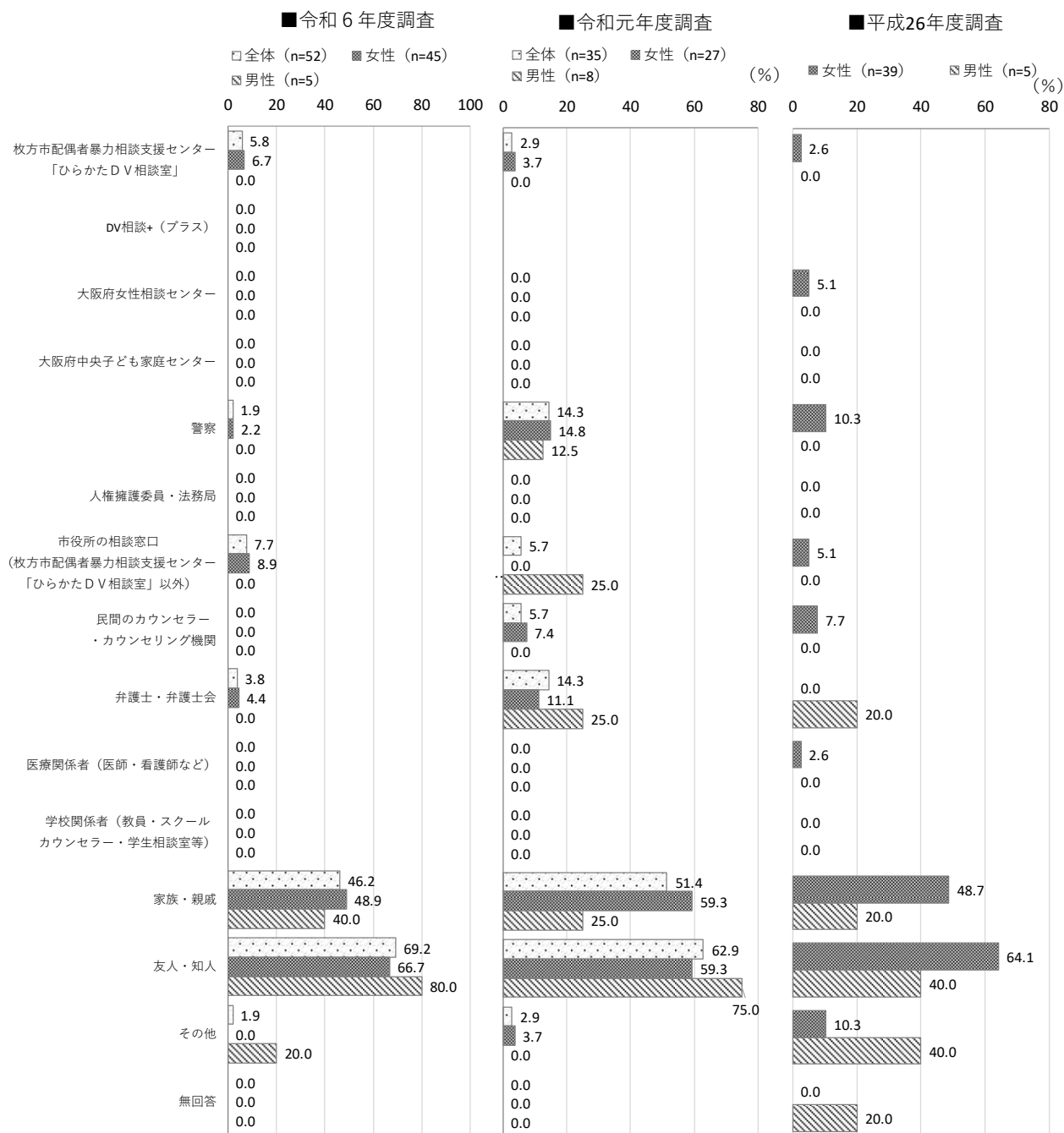
図表Ⅲ-1-6-76 DVを相談したか 【性別・年代別】



⑥DVの相談先

問 15-1 あなたはそれをどこ（だれ）に相談しましたか。（○はいくつでも）

図表Ⅲ -1-6-77 DVの相談先 【過去の調査との比較】



【DVの相談先は「友人・知人」が女性の3分の2、男性の8割で最多】

DVの相談先については「友人・知人」が女性で66.7%、男性は80.0%で最も高くなっています。

【過去調査との比較】

選択肢によっては件数の少なさによる変動がありますが「家族・親戚」「友人・知人」が多い傾向は変わりません。

図表Ⅲ -1-6-78 DVの相談先【性別年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	枚方市配 センター ひらかた DV相談 支援	D V 相談 + プラス	大阪府 女性相談 センター	大阪府 中央子 ども家庭 セン ター	警察	人権擁 護委員 ・法務 局	市役所 の相談 窓口 （以 外）	民間の カウンセ ラー・カ ウ ンセリ ング機 関	弁護士 ・弁護 士会	医療関 係者 （医 師・看 護師 など）	学校関 係者 （教 員・ス タッフ ・学生 相談 室等）
全体		52	5.8	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	7.7	0.0	3.8	0.0	0.0
性別	女性	45	6.7	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	8.9	0.0	4.4	0.0	0.0
	男性	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 40歳代	10	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	女性 50歳代	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0
	女性 60歳代	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 70歳以上	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

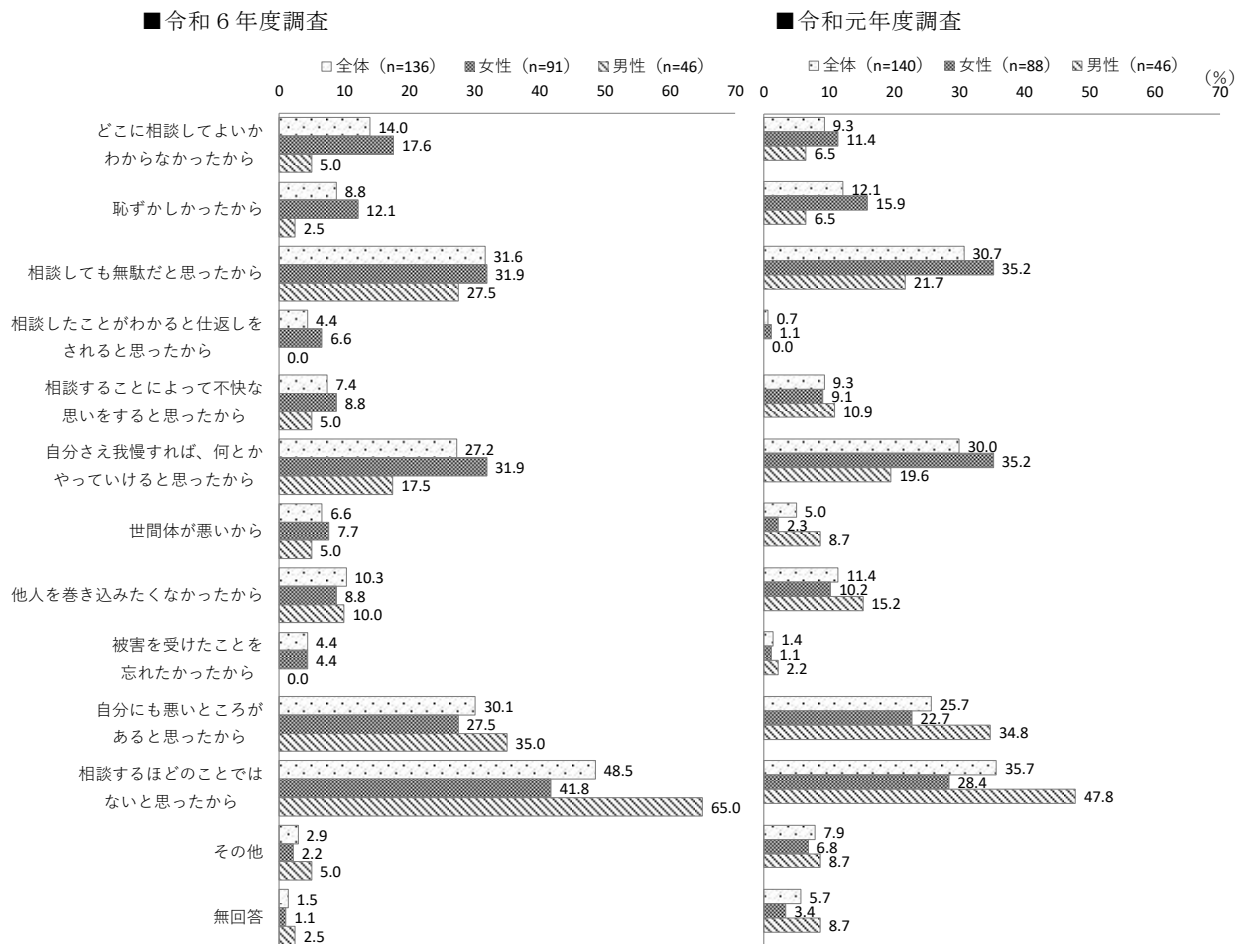
		合計	家族・ 親戚	友人・ 知人	その他	無回 答
全体		52	46.2	69.2	1.9	0.0
性別	女性	45	48.9	66.7	0.0	0.0
	男性	5	40.0	80.0	20.0	0.0
性別・年代別	女性 20歳代	2	50.0	100.0	0.0	0.0
	女性 30歳代	9	66.7	77.8	0.0	0.0
	女性 40歳代	10	50.0	60.0	0.0	0.0
	女性 50歳代	15	33.3	80.0	0.0	0.0
	女性 60歳代	6	33.3	33.3	0.0	0.0
	女性 70歳以上	3	100.0	33.3	0.0	0.0
	男性 20歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 30歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性 40歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	2	50.0	50.0	50.0	0.0
	男性 60歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性 70歳以上	1	100.0	100.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑦DVを相談しなかった理由

問 15－2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

図表Ⅲ -1-6-79 DVを相談しなかった理由【過去の調査との比較】



【DVを相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」が女性 41.8%、男性 65.0%で最多】

DVを相談しなかった理由については「相談するほどのことではないと思ったから」が女性で 41.8%、男性で 65.0%で最も高くなっています。

【過去調査との比較】

回答の多い項目が「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」という傾向は前回と変わりません。

図表Ⅲ-1-6-80 DVを相談しなかった理由 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	どこに相談して よかったから	恥ずかしかったから	相談しても無駄だ と思ったから	相談したことが わかったから	相談すること によって不快 な思いをする と思ったから	自分さえ我慢 すれば、何か やっていたら	世間体が悪い から	他人を巻き込 みたくなかつ たから	被害を受けた ことを忘れた から	自分にも悪い ところがある から
全体		136	14.0	8.8	31.6	4.4	7.4	27.2	6.6	10.3	4.4	30.1
性別	女性	91	17.6	12.1	31.9	6.6	8.8	31.9	7.7	8.8	4.4	27.5
	男性	40	5.0	2.5	27.5	0.0	5.0	17.5	5.0	10.0	0.0	35.0

		合計 実数	相談するほど のことではな い	その他	無回答
全体		136	48.5	2.9	1.5
性別	女性	91	41.8	2.2	1.1
	男性	40	65.0	5.0	2.5

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」意見（主な回答）

<女性>

- そういう人を選んだ自分が悪いと思ったから

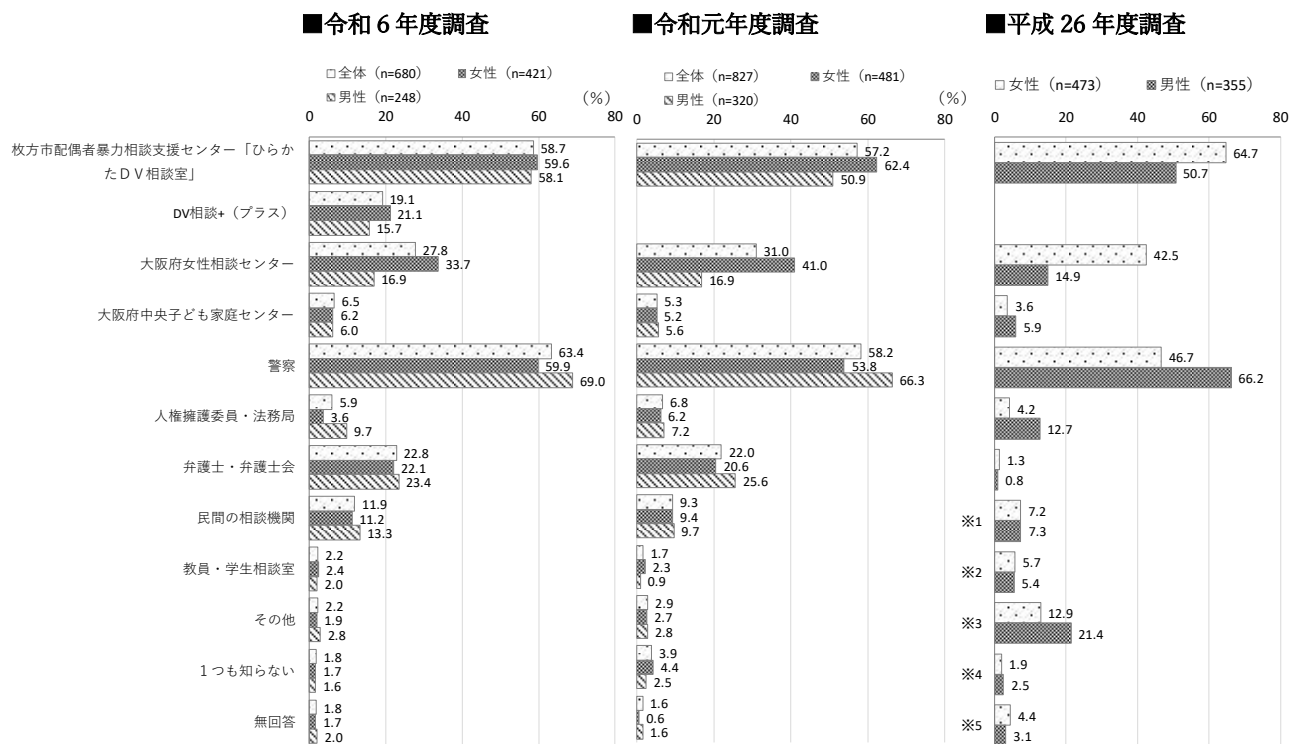
<男性>

- たまに喧嘩したり言い争いはある。時間、話し合いで解決

⑧DVの相談推奨先

問 16 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力を受けているとしたら、あなたはどの窓口相談することをすすめますか。(〇はいくつでも)

図表Ⅲ-1-6-81 DVの相談推奨先 【過去の調査との比較】



(平成26年度 ※1は「民間のカウンセラー・カウンセリング機関」、※2は「学校関係者(教員・スクールカウンセラー・学生相談室等)」、※3は「市役所の相談窓口(枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」以外)」、※4は「医療関係者(医師・看護師など)」、※5は「家族・親戚」です。

【DVの相談推奨先は女性は「ひらかたDV相談室」、男性は「警察」がともに6割以上】

DVの相談推奨先は、女性は「枚方市配偶者暴力相談支援センター(ひらかたDV相談室)」が59.6%で最も高く、男性は「警察」が69.0%で最も高くなっています。

【過去調査との比較】

大きな傾向の違いはありませんが、今回から「DV相談+」が追加されています。上記のように平成26年度は選択肢が一部異なります。

図表Ⅲ-1-6-82 DVの相談推奨先【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 （実数）	枚方市配偶者暴力相談支援センター 「びらかたDV相談室」	DV相談＋ プラス	大阪府女性相談センター	大阪府中央子ども家庭セン ター	警察	人権擁護委員・法務局	弁護士・弁護士会	民間の相談機関	教員・学生相談室	その他	1つも知らない	無回答
全体		680	58.7	19.1	27.8	6.5	63.4	5.9	22.8	11.9	2.2	2.2	1.8	1.8
性別	女性	421	59.6	21.1	33.7	6.2	59.9	3.6	22.1	11.2	2.4	1.9	1.7	1.7
	男性	248	58.1	15.7	16.9	6.0	69.0	9.7	23.4	13.3	2.0	2.8	1.6	2.0
性別・年代別	女性 20歳代	56	35.7	17.9	30.4	5.4	75.0	1.8	23.2	16.1	5.4	1.8	0.0	3.6
	女性 30歳代	64	50.0	25.0	26.6	3.1	65.6	0.0	23.4	10.9	3.1	4.7	1.6	1.6
	女性 40歳代	89	67.4	22.5	38.2	7.9	62.9	1.1	28.1	10.1	3.4	1.1	0.0	0.0
	女性 50歳代	105	58.1	20.0	33.3	6.7	60.0	3.8	21.0	13.3	0.0	1.9	3.8	0.0
	女性 60歳代	43	72.1	25.6	34.9	7.0	51.2	7.0	25.6	11.6	2.3	2.3	0.0	2.3
	女性 70歳以上	63	73.0	17.5	38.1	6.3	41.3	9.5	11.1	4.8	1.6	0.0	3.2	4.8
	男性 20歳代	32	50.0	18.8	15.6	12.5	62.5	6.3	21.9	15.6	3.1	12.5	0.0	6.3
	男性 30歳代	44	47.7	11.4	18.2	9.1	79.5	4.5	40.9	22.7	0.0	0.0	6.8	0.0
	男性 40歳代	42	59.5	23.8	23.8	7.1	73.8	4.8	19.0	9.5	2.4	0.0	0.0	0.0
	男性 50歳代	48	47.9	12.5	10.4	2.1	75.0	4.2	18.8	10.4	2.1	6.3	0.0	4.2
	男性 60歳代	32	56.3	18.8	25.0	3.1	65.6	12.5	31.3	15.6	3.1	0.0	0.0	3.1
	男性 70歳以上	50	82.0	12.0	12.0	4.0	56.0	24.0	12.0	8.0	2.0	0.0	2.0	0.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」意見（主な回答）

<女性>

●親や病院

<男性>

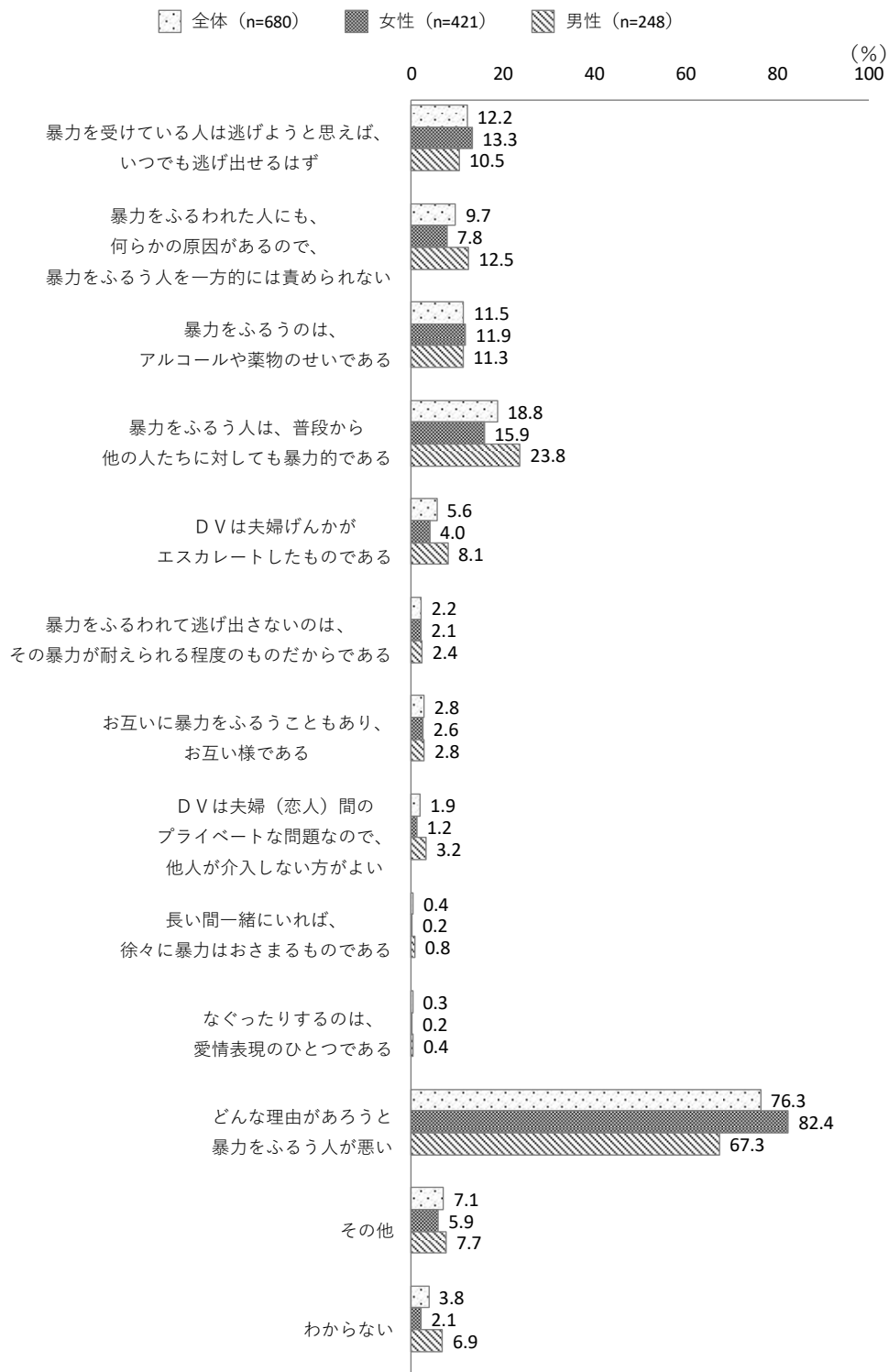
●法テラス

●ネットで他の事例を探してみる

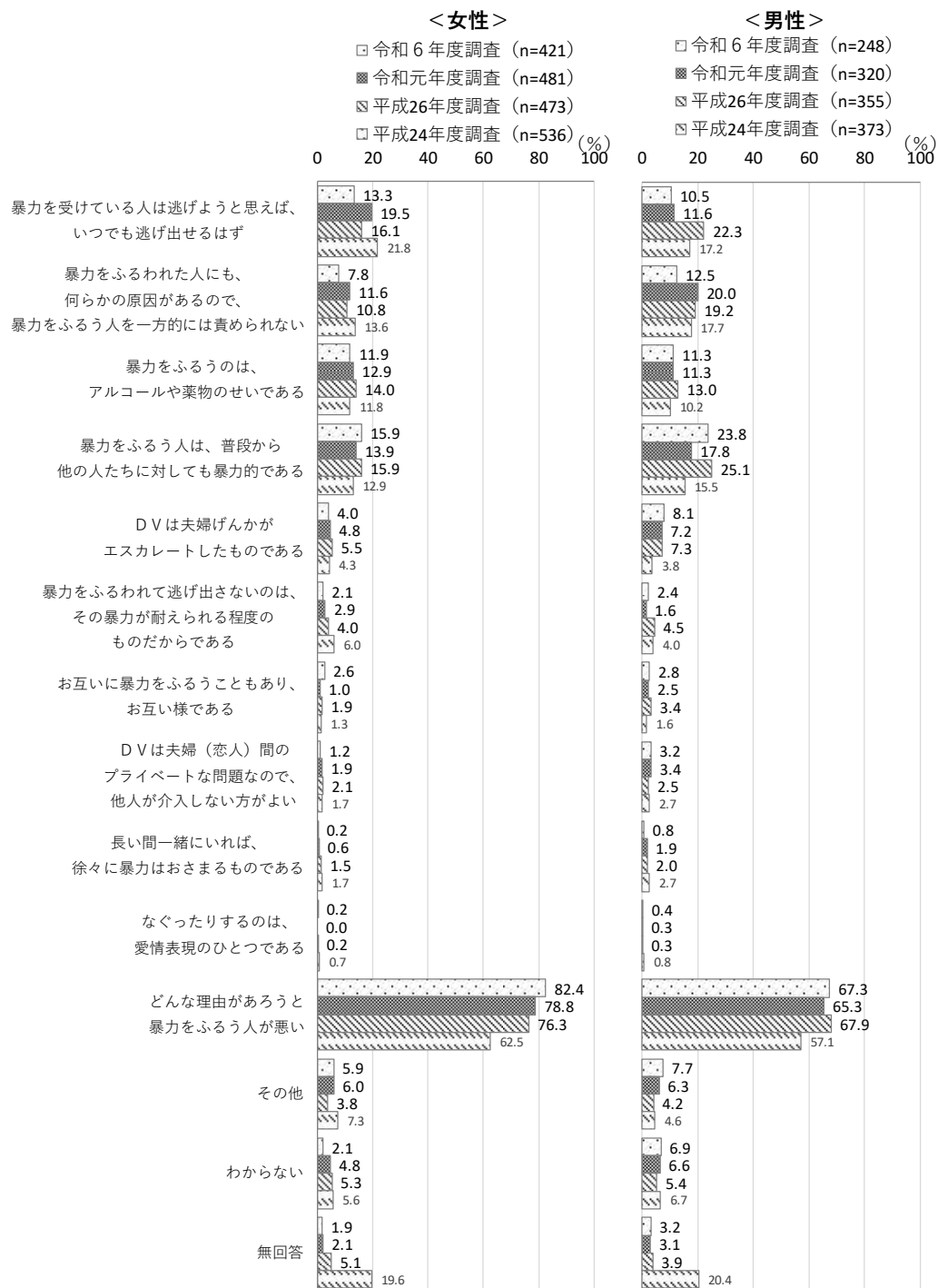
⑨DVについての考え

問 17 配偶者・パートナーや恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。（○はいくつでも）

図表Ⅲ -1-6-83 DVについての考え



図表Ⅲ-1-6-84 DVについての考え【過去の調査との比較】



【DVについては「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」が最多で女性 82.4%、男性 67.3%】

DVについての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性 82.4%、男性 67.3%）が最も高く、次いで「暴力をふるう人は、普段から他の人たちに対しても暴力的である」（女性 15.9% 男性 23.8%）となっています。

【過去調査との比較】

「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」は以前から最多で、おおむね増加傾向です。

図表Ⅲ-1-6-85 DVについての考え【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない
全体		680	12.2	9.7	11.5	18.8	5.6	2.2	2.8	1.9	0.4
性別	女性	421	13.3	7.8	11.9	15.9	4.0	2.1	2.6	1.2	0.2
	男性	248	10.5	12.5	11.3	23.8	8.1	2.4	2.8	3.2	0.4
性別・年代別	女性 20歳代	56	12.5	10.7	14.3	19.6	3.6	1.8	3.6	0.0	0.0
	女性 30歳代	64	4.7	12.5	12.5	18.8	3.1	1.6	3.1	0.0	1.6
	女性 40歳代	89	10.1	3.4	15.7	11.2	3.4	0.0	1.1	0.0	0.0
	女性 50歳代	105	13.3	5.7	6.7	14.3	2.9	1.0	1.0	1.9	0.0
	女性 60歳代	43	18.6	4.7	11.6	20.9	4.7	4.7	4.7	0.0	0.0
	女性 70歳以上	63	23.8	12.7	12.7	15.9	7.9	6.3	4.8	4.8	0.0
	男性 20歳代	32	3.1	15.6	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3	3.1	0.0
	男性 30歳代	44	9.1	4.5	6.8	0.0	4.5	0.0	2.3	4.5	0.0
	男性 40歳代	42	4.8	11.9	16.7	0.0	2.4	0.0	2.4	0.0	0.0
	男性 50歳代	48	6.3	6.3	10.4	0.0	6.3	2.1	2.1	0.0	0.0
	男性 60歳代	32	21.9	18.8	6.3	0.0	9.4	3.1	3.1	6.3	3.1
	男性 70歳以上	50	18.0	20.0	14.0	0.0	18.0	8.0	2.0	6.0	0.0

		合計 実数	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない	暴力をふるう 理由が、 暴力をふるう 人がある 一方に ない
全体		680	76.3	7.1	2.4
性別	女性	421	82.4	5.9	1.9
	男性	248	67.3	7.7	3.2
性別・年代別	女性 20歳代	56	85.7	3.6	0.0
	女性 30歳代	64	82.8	6.3	0.0
	女性 40歳代	89	82.0	9.0	0.0
	女性 50歳代	105	87.6	5.7	0.0
	女性 60歳代	43	79.1	4.7	0.0
	女性 70歳以上	63	73.0	4.8	1.6
	男性 20歳代	32	65.6	3.1	0.0
	男性 30歳代	44	61.4	15.9	0.0
	男性 40歳代	42	52.4	9.5	0.0
	男性 50歳代	48	66.7	10.4	0.0
	男性 60歳代	32	81.3	3.1	0.0
	男性 70歳以上	50	78.0	2.0	2.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 暴力を受けている人は逃げたくても逃げられないので、助けが必要だと思います。
- 子供のこと、後の生活の事も考えて行動しなければいけない
- 双方に問題がある為、いち早く第三者が介入し適切な対応を図るべきである
- 親から暴力を受けて育った人は、恋人や配偶者から殴られてもそれが普通だと思っています
- 暴力をふるわれている人が逃げたら子供が会えなくなる可能性があると思っているから逃げられないです。
- 当事者それぞれの理由があると思うから
- 口の暴力もあります
- 暴力以外でも精神的な嫌がらせも DV にあたる女性は男性の私有物ではない。個人として尊重すべき。
- 1つ1つ同じケースはないと思う
- 暴力から逃げられない様々な事情はあるだろうが最終的には本人の覚悟や決意が DV にどう立ちむかっていくか重要な事である
- どんな理由があろうと暴力はふるってはいけない
- 言葉の暴力をふるっても暴力と思わない人もいる。
- DV は心の病だから治療を勧める。受けている人は共依存だから抜け出すのが難しいから周りが気付いて救い出してほしい。
- 自分を抑えられない＝暴力になるほどこれに関しては家庭をもつべき人ではないと思っています。どうなるか人の気持ちを想像できない人は子育ても夫婦で寄り添い、協力していくことができないということなので。

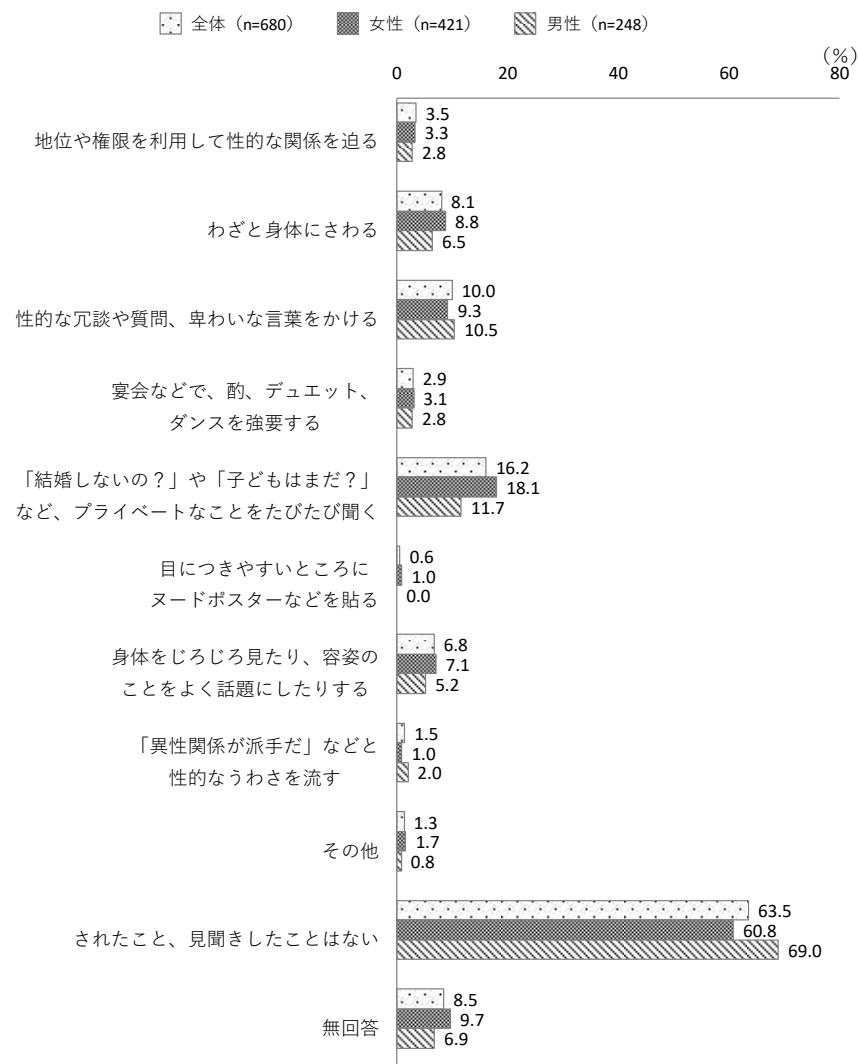
<男性>

- 事情も知らずに上記 1～11 のように思う（決めつける）のはダメ
- 上記全部ちがう。
- 近い意見は1つもない
- 暴力と DV はもっと細かく分けてもらわないと判断できない

⑩セクシャル・ハラスメントの接触経験

問 18 あなたは、最近3年の間に、職場や学校、地域などにおいて、次のようなことをされた、もしくは見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)

図表Ⅲ-1-6-86 セクシャル・ハラスメントの接触経験



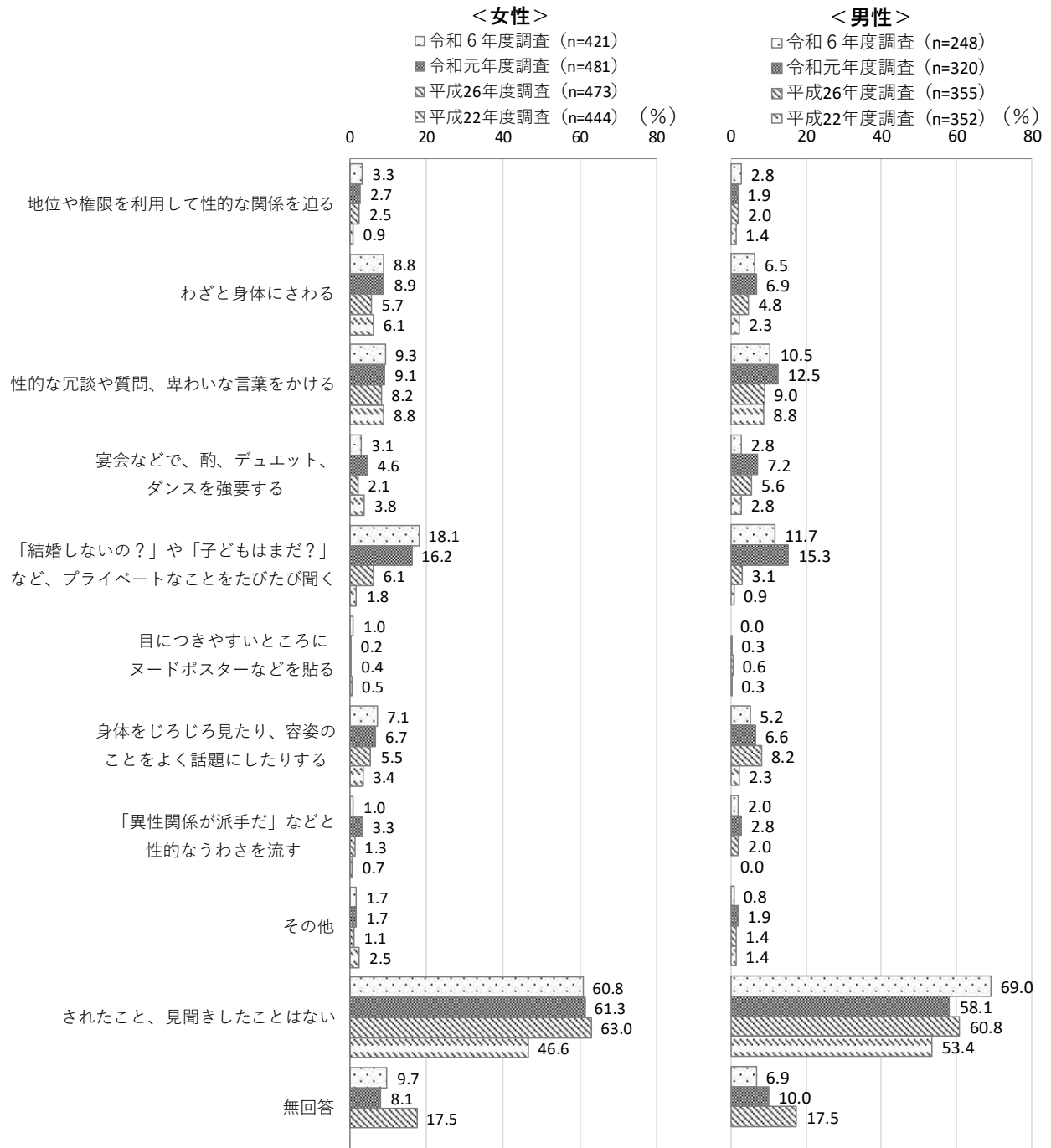
【セクシャル・ハラスメントの経験は「結婚しないの?」「子どもはまだ?」と聞くことが最多で16.2%】

セクシャル・ハラスメントの接触経験については、女性60.8%、男性69.0%が「されたこと、見聞きしたことはない」と回答しています。接触経験のある人の中では、男女とも「結婚しないの?」や「子どもはまだ?」など、プライベートなことをたびたび聞く(女性18.1%、男性11.7%)が最も高く、次いで「性的な冗談や質問、卑猥な言葉をかける」(女性9.3%、男性10.5%)となっています。

【過去調査との比較】

大きな変化はありませんが「されたこと、見聞きしたことはない」が6割前後で推移しています。

図表Ⅲ-1-6-87 セクシャル・ハラスメントの接触経験 【過去の調査との比較】



図表Ⅲ-1-6-88 セクシャル・ハラスメントの接触経験 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	地位や権限を利用して性的 な関係を迫る	わざと身体にさわる	性的な冗談や質問、卑わい 言葉をかける	宴会などで、酌、デュエッ ト、ダンスを強要する	聞く イベ ども はま だだ ？」 など 、ブ ラ子	目につきやすいところを貼る ヌードポスターなどを貼る	姿勢をじろじろ見たり、容 姿のことをよく話題にした りする	身体的な関係が派手だ」など と性的なうわさを流す	その他	さしたくないこと、見聞きしたこ とはない	無 回 答
全体		680	3.5	8.1	10.0	2.9	16.2	0.6	6.8	1.5	1.3	63.5	8.5
性別	女性	421	3.3	8.8	9.3	3.1	18.1	1.0	7.1	1.0	1.7	60.8	9.7
	男性	248	2.8	6.5	10.5	2.8	11.7	0.0	5.2	2.0	0.8	69.0	6.9
性別・年代別	女性 20歳代	56	3.6	5.4	17.9	3.6	35.7	1.8	8.9	1.8	0.0	50.0	1.8
	女性 30歳代	64	4.7	17.2	17.2	6.3	29.7	1.6	17.2	1.6	1.6	50.0	3.1
	女性 40歳代	89	4.5	11.2	10.1	3.4	20.2	1.1	5.6	1.1	1.1	64.0	3.4
	女性 50歳代	105	3.8	9.5	6.7	3.8	11.4	1.0	6.7	1.0	1.0	68.6	9.5
	女性 60歳代	43	2.3	4.7	2.3	0.0	4.7	0.0	4.7	0.0	7.0	65.1	16.3
	女性 70歳以上	63	0.0	1.6	1.6	0.0	7.9	0.0	0.0	0.0	1.6	60.3	28.6
	男性 20歳代	32	3.1	15.6	21.9	6.3	15.6	0.0	9.4	3.1	0.0	65.6	0.0
	男性 30歳代	44	2.3	2.3	22.7	2.3	20.5	0.0	9.1	6.8	0.0	61.4	4.5
	男性 40歳代	42	0.0	7.1	9.5	4.8	9.5	0.0	4.8	0.0	2.4	71.4	4.8
	男性 50歳代	48	4.2	6.3	8.3	4.2	18.8	0.0	6.3	2.1	2.1	68.8	0.0
	男性 60歳代	32	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	9.4
	男性 70歳以上	50	6.0	8.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	0.0	64.0	20.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

●未婚の女性に（年配の）個人的なラインで又は多くの人がいる前で「彼氏はいるのか」などと聞く。職場で気に入った女性にニックネームをつけて呼ぶ。

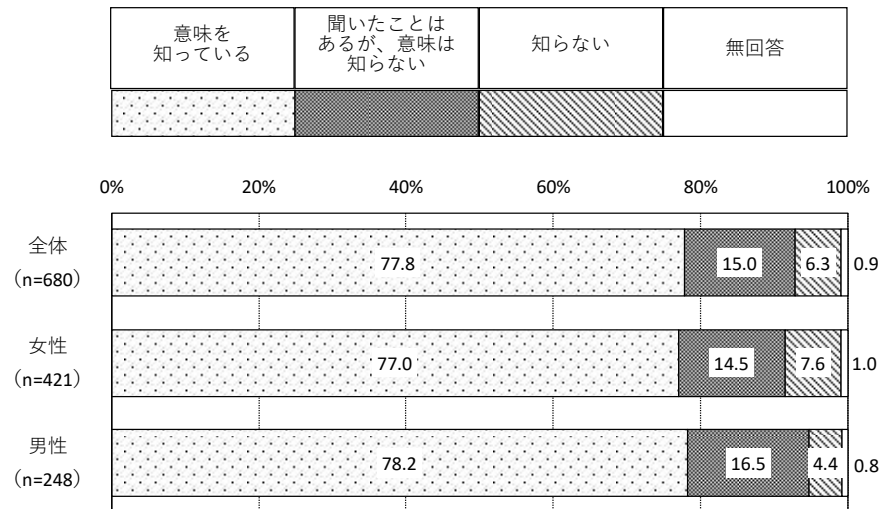
<男性>

●1に近いが若い部下のお世辞にかんちがいしてのセクハラ（本人は恋愛表現のつもり）

⑪性的マイノリティの認知度

問 19 あなたは性的マイノリティ（L G B T Q 等）という言葉を知っていますか。（○は 1 つ）

図表Ⅲ-1-6-89 性的マイノリティの認知度



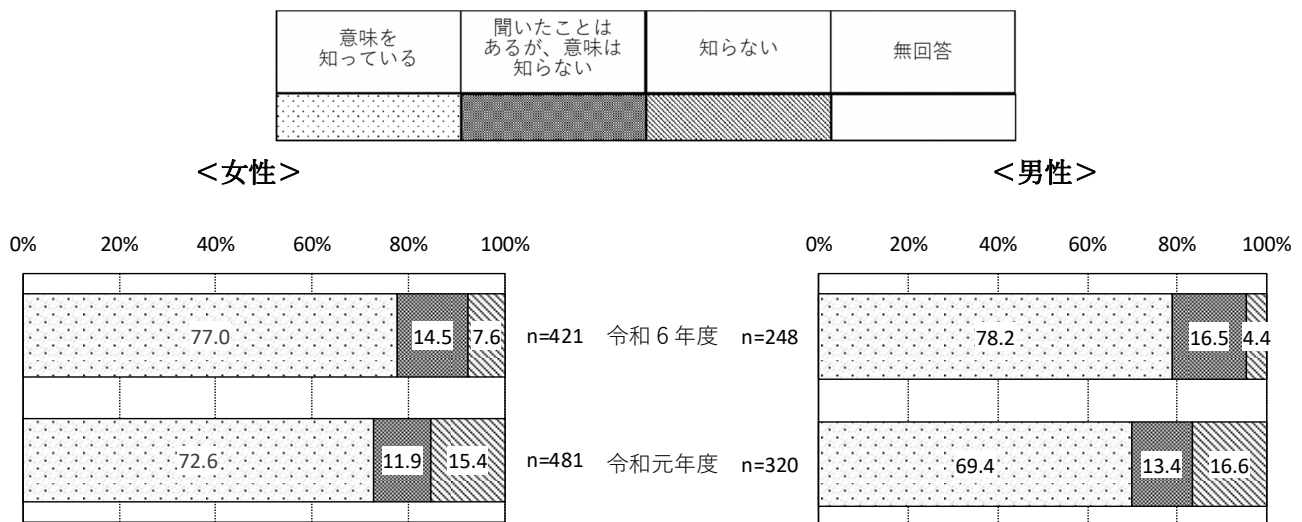
【LGBTQ 等の認知度は 8 割近く】

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性 77.0%、男性 78.2%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、70 歳以上の女性（46.0%）となっています。

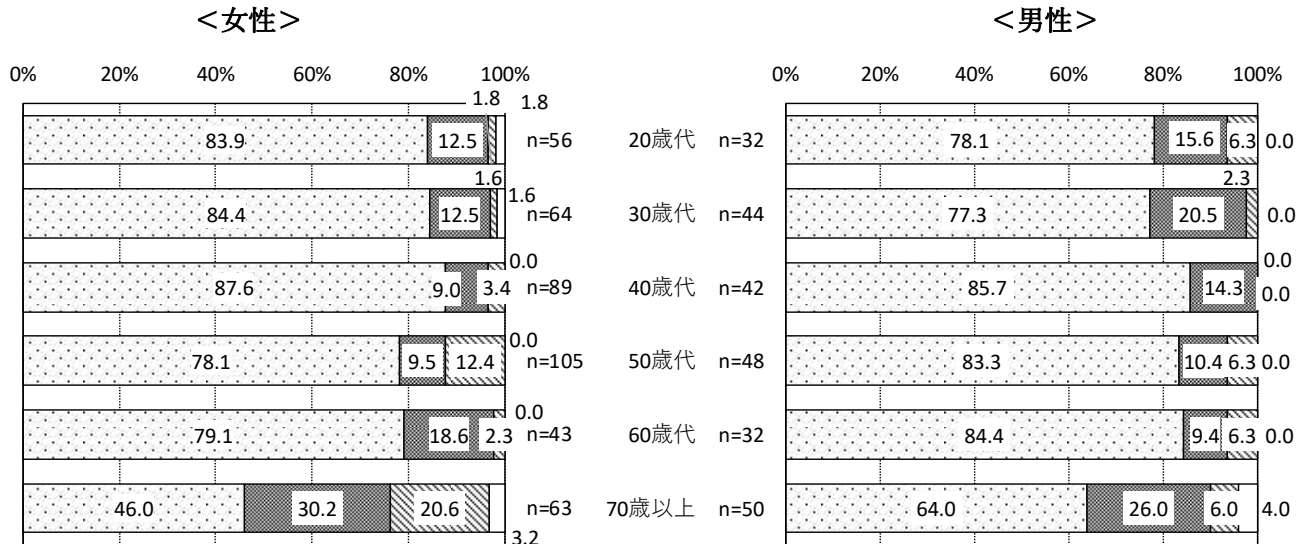
【過去調査との比較】

令和元年度調査と比較では「知っている」「聞いたことはあるが、意味は知らない」とともに増加しています。

図表Ⅲ-1-6-90 性的マイノリティの認知度 【過去調査との比較】



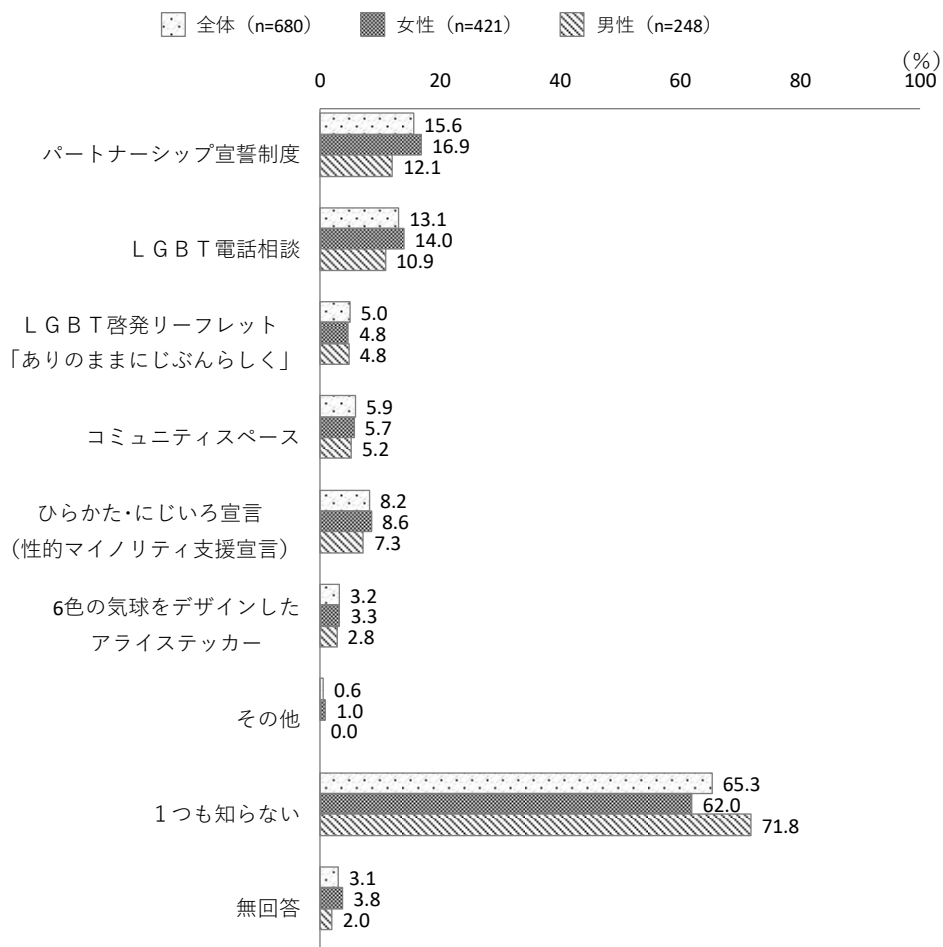
図表Ⅲ-1-6-91 性的マイノリティの認知度 【性別・年代別】



⑫性的マイノリティ支援施策の認知度

問 20 枚方市が行っている L G B T Q 等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答え下さい。(○はいくつでも)

図表Ⅲ-1-6-92 性的マイノリティ支援施策の認知度



【性的マイノリティ支援施策で知られているのは「パートナーシップ宣誓制度」で15.6%】

性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性16.9%、男性12.1%となっていますが、「1つも知らない」が女性62.0%、男性71.8%と最も高くなっています。

図表Ⅲ -1-6-93 性的マイノリティ支援施策の認知度 【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計 実数	パ ー ト ナ ー シ ッ プ 宣 誓 制 度 （ 平 成 3 1 年 4 月 よ り ）	3 1 年 4 月 よ り ） L G B T 電 話 相 談 平 成	く L G B T の ま ま に じ ぶ ん ら し と	和 元 年 7 月 よ り ） コ ミ ュ ニ テ ィ ス ペ ー ス 令	言 ） 性 的 マ イ ノ リ テ ィ の 支 援 言 宣	ひ ら か た ・ に じ て い る 支 援 言 宣	ア ラ イ の 気 球 を デ ザ イ ン し た （ ※ ）	そ の 他	1 つ も 知 ら な い	無 回 答
全体		680	15.6	13.1	5.0	5.9	8.2	3.2	0.6		65.3	3.1
性別	女性	421	16.9	14.0	4.8	5.7	8.6	3.3	1.0		62.0	3.8
	男性	248	12.1	10.9	4.8	5.2	7.3	2.8	0.0		71.8	2.0
性別・年代別	女性 20歳代	56	14.3	10.7	0.0	0.0	8.9	3.6	0.0		67.9	5.4
	女性 30歳代	64	20.3	6.3	4.7	7.8	4.7	4.7	0.0		60.9	1.6
	女性 40歳代	89	20.2	19.1	4.5	6.7	9.0	3.4	0.0		58.4	3.4
	女性 50歳代	105	16.2	16.2	6.7	7.6	12.4	3.8	1.0		62.9	1.0
	女性 60歳代	43	18.6	18.6	0.0	4.7	2.3	2.3	0.0		67.4	2.3
	女性 70歳以上	63	11.1	9.5	9.5	4.8	7.9	1.6	4.8		58.7	11.1
	男性 20歳代	32	6.3	9.4	3.1	0.0	6.3	3.1	0.0		84.4	0.0
	男性 30歳代	44	13.6	9.1	2.3	0.0	6.8	4.5	0.0		65.9	0.0
	男性 40歳代	42	23.8	14.3	9.5	0.0	9.5	0.0	0.0		66.7	2.4
	男性 50歳代	48	6.3	4.2	6.3	0.0	2.1	2.1	0.0		85.4	0.0
	男性 60歳代	32	12.5	15.6	3.1	0.0	12.5	6.3	0.0		71.9	3.1
	男性 70歳以上	50	10.0	14.0	4.0	0.0	8.0	2.0	0.0		60.0	6.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

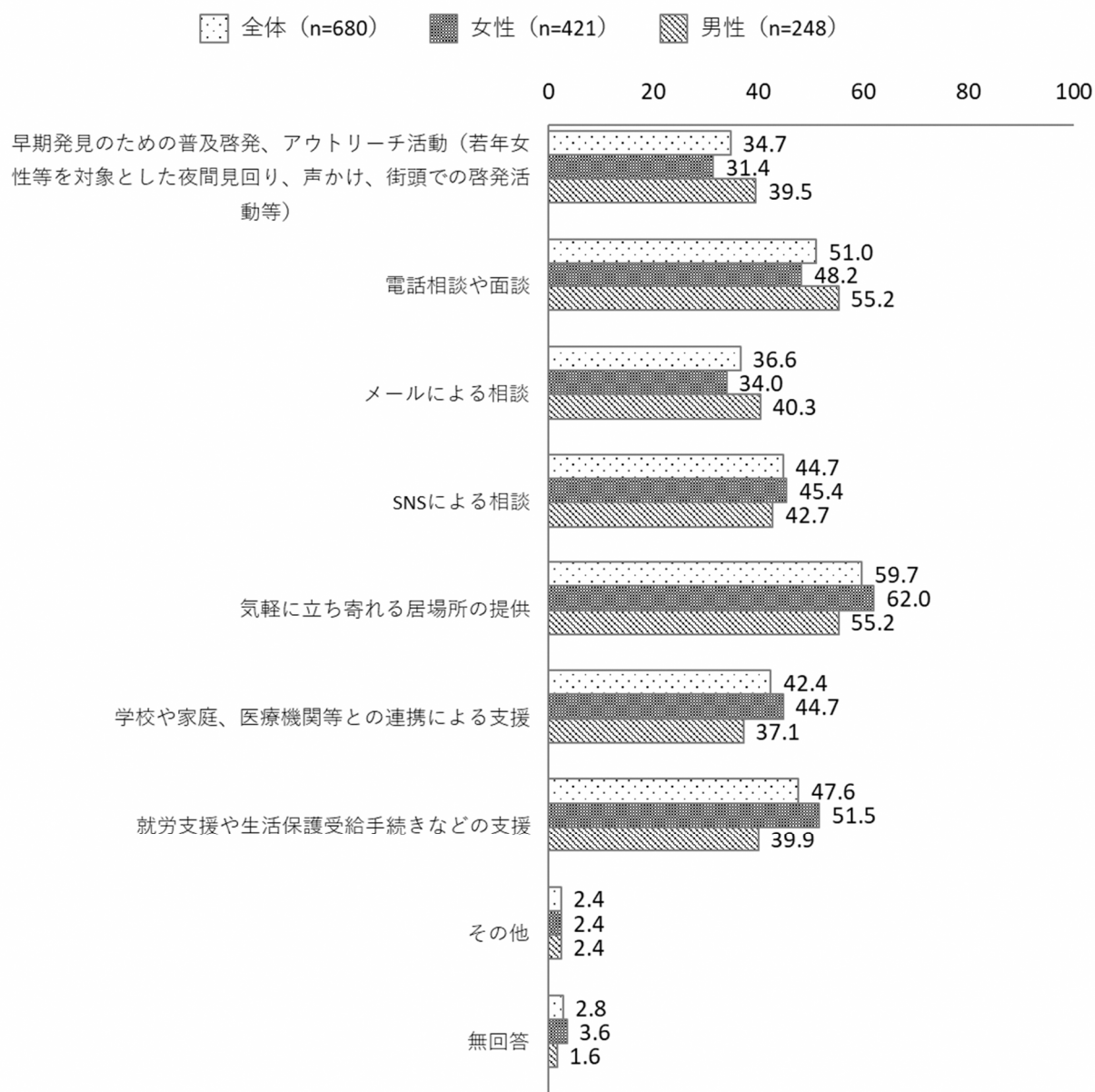
- スマホの枚方市のラインに LGBTQ 関連のお知らせ等がかなりよく入るので、この項の施策について、よく知っているものはないが、市が対応すべき施策をしているのだろうと思う。
- 今回参考資料で知りました
- そうすると人口数減少の問題はどうなるでしょうか

(7) 困難な問題を抱える女性に関する法律について

① 効果的な支援策

問 21 あなたは、困難な問題を抱える女性に対する支援として、どのような支援が効果的だと思いますか。(○はいくつでも)

図表Ⅲ-1-7-1 効果的な支援策



【困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は男女とも「気軽に立ち寄れる居場所の提供」】

困難な問題を抱える女性に対する効果的な支援策は、女性では「気軽に立ち寄れる居場所の提供」が最も高く、62.0%、男性では「電話相談や面談」と「気軽に立ち寄れる居場所の提供」がともに 55.2%で最も高くなっています。

図表Ⅲ-1-7-2 効果的な支援策【性別・年代別】

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計 実数	発、早期 アウトリーチ のための普及啓	電話 相談や面談	メ ール による相談	S N S による相談	提供 気軽に 立ち寄れる 居場所の	の学校や家庭、 連携による支援、 医療機関等と	就労支援や生活 保護受給手 続きなどの支援	その他	無 回 答
全体		680	34.7	51.0	36.6	44.7	59.7	42.4	47.6	2.4	2.8
性別	女性	421	31.4	48.2	34.0	45.4	62.0	44.7	51.5	2.4	3.6
	男性	248	39.5	55.2	40.3	42.7	55.2	37.1	39.9	2.4	1.6
性別・年代別	女性 20歳代	56	30.4	42.9	35.7	42.9	51.8	39.3	39.3	1.8	5.4
	女性 30歳代	64	35.9	37.5	35.9	59.4	65.6	51.6	46.9	0.0	1.6
	女性 40歳代	89	30.3	48.3	36.0	55.1	70.8	49.4	56.2	4.5	0.0
	女性 50歳代	105	26.7	46.7	33.3	48.6	59.0	52.4	59.0	2.9	1.0
	女性 60歳代	43	30.2	60.5	41.9	37.2	67.4	32.6	46.5	0.0	4.7
	女性 70歳以上	63	36.5	57.1	22.2	19.0	55.6	30.2	50.8	3.2	12.7
	男性 20歳代	32	50.0	46.9	37.5	50.0	40.6	40.6	25.0	3.1	0.0
	男性 30歳代	44	29.5	56.8	36.4	45.5	56.8	45.5	38.6	2.3	0.0
	男性 40歳代	42	38.1	40.5	42.9	61.9	66.7	40.5	40.5	2.4	4.8
	男性 50歳代	48	37.5	58.3	58.3	58.3	66.7	35.4	47.9	2.1	0.0
	男性 60歳代	32	43.8	65.6	31.3	28.1	50.0	46.9	53.1	3.1	0.0
	男性 70歳以上	50	42.0	62.0	32.0	14.0	46.0	20.0	34.0	2.0	4.0

※網掛け■は、その年代の中で最も割合が高いもの

「その他」の意見（主な回答）

<女性>

- 相談できる所があるのをもっと知ってもらおう。
- 母子生活支援施設等を増やす
- 避難場所や就労支援のサポート
- 入浴支援、水分提供、移動支援
- シェルター
- 似た境遇の人達が集まれる場所
- 心理カウンセラーなど専門知識のある人と気軽に相談できる場があれば良いと思います。
- 学校教育で小さい頃からの啓発活動

<男性>

- 小さな地域ではその逆、男性も困難な問題があるのでは
- 安全を第一に優先する保護活動
- もっと専門的細分化された課や組織がいると思う
- 強制力をもった確認作業
- 確実に保護してもらえる場所やスタッフ
- 刑罰の強化

(8)自由意見

性別にかかわらず一人ひとりが尊重される男女共同参画社会の実現に向けてのご意見やご要望がございましたら、お聴かせください。

男女共同参画社会の実現に向けて 147 件の意見がありました。

<「女性」の意見>

◎23～29 歳

○国がまともな政策を作れ。制度が悪い、皆がもっと強く生きべき

○幼児期から性別に関わらず多様性について学び機会を増やしていけると良いと感じる。男の子は青、女の子は赤等…様々な固定概念や男性/女性はあるべきといった古い考えを持った人がまだまだ特に年配の方に多いのでそういった方へ多様性についての発信を増やしていくべき。

○男女がお互いの苦悩をもっと分かち合い理解し、納得しないといけないと思います。

○LGBTQ+についての支援をもっと宣伝して欲しい 性別にかかわらず、意見交換や情報収集、相談ができる様な仕組みが欲しい

○子どもを預ける場所が当たり前に増えたらいいな。産んで家にいなきゃいけなくてお金なくて働けなくてとか子どもにもよくない。優秀な人が保育士になるように賃金上げて欲しい

○個人的な願望に近いものですが、自由な生き方できるようになれば良いと思います。男性も女性も関係無く手軽に有給を取得できる制度や、週休3日制の導入などで生活にゆとりを持つこと。セクハラやパワハラを受けた場合にすぐ逃げ出せる環境作りのために、転職のハードルを下げる。精神疾患を持っていたりなどで働けない人でも社会と接点を持てる場の提供とその周知などなど、個人個人が自由な生き方を選択出来るような社会になって欲しいなと切に願います。

○性別によらず社会進出できるような環境づくりは大切だが、現在、女性はむしろ社会進出を余儀なくされているように感じる。女性は身体面にも精神面にも波があるため、必ずしも外で働くことが絶対的に良いとは言いきれないと思う。「女性は家事」といった従来の在り方ではいけないという風潮があるようだが、それ自体もまた別の制約に繋がっていると考える。従来のように家事・育児・介護などに専念する者が少なくなった歪みは、保育所不足や介護施設の入居待ちに加え、ヤングケアラーの増加などにも現れていると感じる。世の風潮にとらわれることなく、一人ひとりに合った柔軟な生き方が選択できれば良いと思う。また、それが可能となる程度には正規・非正規雇用問わず賃金が上がれば良いと思う。

○企業へのハラスメント講習などを(任意でもいいので)無料で受けれるようにしてほしい。

○ひとりひとりが尊重されるには、まずはお互いが、お互いのことを知る必要があると思います。今の時代、SNSで様々な情報を得ることができるので、SNSでの情報発信も大事だと思います。

○男性の育児休暇がまだまだ進んでいないと思うので、男性も休みやすいように枚方市の支援も手厚くしていただけたらすごくありがたいです。

◎30～39 歳

○職場では女性管理職登用にに向けて女性の昇進が優遇されているが子育て中の女性には優しくない。家庭では家事育児が平等とは言えず頼めば夫がやってくれるスタンス。幼い息子たちが将来しっかり家事育児が出来るようになってもらうためなるべく父と母が平等であるという姿勢をみせたいと思っている。本当に男女平等社会が実現するのは子ども世帯以降だと期待している。

○誹謗中傷行為への監視、取り締まり。

○現代の世代間のコミュニケーションが減った社会、インターネットや SNS の限定された社会で生きる人々がつながれる場や町づくりが大切かと思う。

○まだまだ家事や育児は女性の仕事と思っている男性が多いです。仕事を休む回数が多いのも母親です。全員が働きやすい環境作りのため古い価値観の中から残すべきものとアップデートすべきものを正しく理解することが大切だと思います。

○男女関係なく人には親切にするようにする。

○社会全体的に労働が多すぎる。週休3日、残業の制限を下げる、フルタイムで働きながら家事育児に無理なく参加できる労働になることを望む。ほとんどの会社に休める制度はあっても気軽に休める体制が整っていない。

○実際問題、法律がかわろうが昔の考えを持っている人が職場にいれば男性が優遇されているのが現状だと思う。政治家の間でもあるのがみえる。

○それぞれの家庭によって家事や育児、仕事のあり方はあると思うが、保育環境の周知をもっとしてもらえたら嬉しい。(子どもが生まれて半年ほど子育て支援センターの利用の仕方や保育園等の園庭解放があることなどを知らず家にこもってしまうことも多かったから。)

○育休中です。旦那が自営業の為、育児家事の負担が重く、大変苦労しています。パートナーの支援が十分に受けられない場合に行政からのサポートがあると、女性の職場復帰に対する意欲の向上につながると思います。

○気になることがある、悩んでいることがある、意見の提案がしたい等思う気持ちがあっても、わざわざ市の窓口で電話して…というのは勇気がいるなと思います。困って電話をしても、親身になって話を聞いてもらえたイメージがなく、事務的な対応、もしくは「ここに言われてもなあ」という反応をされるイメージがあるので、困った時に頼りにする場所として、国や市の機関が思い浮かばないのが率直な気持ちです。行われている施策が素晴らしくても、実際に対応される方たちの反応や姿勢によって、これからも何かあったら利用させてもらおうという気持ちになるかが変わってくると思います。

○被害者を減らすではなく、加害者を作らない(減らす)ことが全ての尊重への最短ルートであると感じているので、1:若年層への啓発・啓蒙に力を入れる。ただし学内等のみではなく、若年層向け(メインターゲット)ポスターを街頭にも貼りどの年代でも(サブターゲット)目に入るようにする、など。2:被害者のサポートに従事する者には軽微であっても事前研修をする、利用者からの評価(アンケート含む)制度、それによる除名制度も導入する。これがないと、サポートを受けに来た人が二次被害にあう・従事者が二次加害を起こす確率が格段に上がる。男女共同参画社会に向けての話に限らず、この2つは、既にある機関においても、ぜひ積極的に導入をしてほしい。

○両親の関係性や過去の学生時代の経験、職場やコミュニティでのこれまでの経験から、女性であることで感じる不快な思いやもやっとなることが多くありました。もちろん男性もあると思いますが、女性が性被害に遭う確率の高さや女性が虐げられてきた歴史を鑑みると、(無理にでも)女性の社会進出の機会を増やして女性目線で考えられることを増やして改善していくべきだと思います(色々な場に現状男性の方が多いことを前提に、女性を増やすということ自体にも意味があると言いたいです)。今の時点で女性ばかり優遇されているなどというのは時期尚早で、それは女性の基本的人権が確保されてからの話だと思います。生物学的には差があることが多いので、それはしょうがない話でそれぞれできることできないことがあると思います。その差はお互いが理解して尊重することができていればそれぞれ向き不向きによって役割分担してもやっていけると思います。私は結婚はしたくありません。好きな服を着て好きな仕事についてど

こへでも一人で旅行に行けて夜道も自由に歩けるようになってほしいです。うまく言語化できておらず申し訳ないです。私ももっと勉強します。

◎40～49 歳

○育児や家事が無償労働＝働いていないという認識になるのがいろんな不公平を生んでいると思います。特に男性はお金を稼ぐ事が大変と思っているので、家事や育児の大変さを知ろうともしないし、やろうともしない。お金を運んだ人が偉いみたいなのをやめて欲しいです。

○性別による得手、不得手は絶対にあるので(例えば男性の方が力が強い)それを踏まえた上で考えることは大事だと思う。何でもかんでも平等にするのは違うと思う。

○小さい頃からの教育が重要だと思います。3 才までの環境を「自分が生きる世界」と定義づけ、男の子は父親、女の子は母親を自分になるべき大人の手本として脳に刻まれると聞いたことがあります

○私自身もその 1 人なのですが、妊娠、出産で職場に復帰すると居場所がなく、又子供の熱で早退、時短での仕事（量は変わらないのに時短で帰らないといけなくて、家に持ち帰ったり、他の人への負担が増える）で続けられなくなり退職する女性が多いように思います。その辺を職場や社会で考えていく事がこれから大事だと思います

○同性愛者は結婚出来るべき。日本では共有監護があるべき。

○性自認が女性で身体的性が男性の方が女子トイレや女湯に入る社会には強く嫌悪感があります。将来的にならないように願う。

○生活の安定安心の為、住宅補助が必要。枚方市からスタートさせ、全国のモデルケースになってほしい。個人が幸せになれば他の生活困難な人に目を向ける余裕がうまれるから。今は誰もが幸せと感ぜない社会になっている。非正規やパートの格差はうめられないが、住宅さえあればその格差をうめ、非正規雇用をなくし（段階的に無くし）生活を安定させようで育児休業や介護休業などの政策がいきってくる。この政策が使えるのは正規雇用だけが使える現状だから。まずは住宅補助だと思う。

○男女共同参画社会をあまり知りませんでした。今、子供を保育園に預け派遣社員で働いていますが子供の送迎はほぼ私。主人の会社にももう少し送迎ができる出勤時間の調整してもらえる環境にしてもらいたいです。時短の仕事も少ないので雇用期間が決められている派遣社員は肩身がせまい思いをしています。

○男女にはそもそも違いがあるもので全くの平等とは違いを考慮した上で判断せねばならずなかなか基準が難しい。わがままと自由を混同してはならない

○男女がお互いを尊重し合い職場、学校、家庭等で個性と能力をそれぞれ発揮できる事が大切だと思います。その為にはまず政治、行政が率先して変わる事が重要です。

○男と女が平等なんてムリ。男女に関わらず、2 人いればどちらかが優れており、どちらかが劣る。

○お互いを知ることが大事。その上で話し合っていく。

○学校等でとにかく小さいうちから教育を行ってゆくようにすると良いのではと思います。

○人には色々な考え方があるので、完全な実現は難しいと思いますが、個人的には『性別』というのは『生物学的な身体の特徴の違い』と捉え、性差はあって当然、なくてはいけないと思っています。筋力が弱い女性より、強い男性が力仕事をするのは効率が良く、妊娠・出産・母乳が出る女性が子育てするのも自然なことだと思います。総合的に見ても、私は圧倒的に女性の方が優遇されてることが多く、楽させてもらってるなぁと仕事でも社会の中で感じます。『平等平等』と正義感のように声に出す今の社会は、結局自己都合で語ってるだけにしか聞こえず、共感できません。しかしながら、女性である私であれば上記のよう

に語れますが、同じ感覚を持っている男性が同じように言う『お前は男性だから言えるんだ!』となるのかなと思うと、もっと女性が『十分女性にも優遇されてることはありますよ!』と言えれば、生物学的性差をもっと活用して、効率の良い過ごしやすい社会になるのではないかと思います。

○政治の世界を見ても、高齢の方がいつまでも意見を言える立場で若い世代に変わっても古いしきたりから抜け出せないのが日本。一人一人の大切な意見を聞き、こういうアンケートもするだけではなくした結果どういう風に活かされているのかが目に見えて分からないと意味がないと思います。若くても色々な想い(思い)があります。経験者の意見もありますがその時代に合わない物に関しては、柔軟に対応や検討してもらえそうというのが大切だと思います。

○離婚した後も男性は養育費も払わず独身生活を楽しんで女性は、子供を抱えて金銭的、社会的にも恵まれません。実家に住んでると言うだけで児童扶養手当もせず、養育費ももらえず苦勞するのは女性ばかりです。掛け持ちをして仕事をしてる状況。いまだに、女性が損する世の中なのでモラハラやDVに我慢して生活せざる得ない状況なのかとおもいます。もっと、平等にと働きかけてほしい。

○小中高生時代からの教育から盛り込むことが大切だと思う。

○女性には「出産」がある。仕事をしていく中で妊娠/出産/育児/子育てが離脱期間になるが、女性のみに係るのは妊娠/出産そのものだけ。離脱期間が短くなれば仕事で不利益なことも減り、逆に育児休業で男性が法律の下休業できれば、仕事上でも社会的地位的観点からも男女平等に近づくのでは。強制的に女性の権利枠を作るよりも、男性にも法律で定められた休業を取らせて家事育児を行う環境を作る方が近道だと思う。

◎50～59 歳

○自立

○寛容

○実現に向けての活動がもっとわかりやすく伝われば、もっと多くの意識や賛同を得られるのでは。

○子供が病気や怪我をすると有給日数が全然足りません。子育てしている女性に特別なお休み(制限なし)と給料を保証する制度を (育児は女性である私自身したいので)

○法や施設が気軽に利用できるといいです。そこまでたどりつく過程が難しかったりしますね

○努力しているが報われないという弱者は助けるべきと考えるが、義務を果たさず権利ばかりを主張する弱者には疑問を感じる。

○制度も必要ですが、人々の意識改革がもっと必要であると考えています。

○行政が行っておられる取り組みについては広報や枚方市の LINE などで目にしていますが、内容を考えると地域での集いなどは自分が当事者ならば参加しないかな、と思います。もし地域の政策として行うのであれば、プライバシーに最大限の配慮が求められるのではないのでしょうか。

○就労時間が長すぎる。親も子も自分の時間や親子の時間がもっと欲しい。教員をしているが子を長く預かったり、休みの日まで預かったり、教員の家庭や人権は日本の社会から無視されている。

○政治家も他の方々と同様な退職制度を作って欲しいと思います。30.40 代を中軸として自由に行えた方が実現スピードが早くなるのではないかと思います。

○枚方市はとても色んなところみ、支援を行っていることをこの調査で知りました。

○教育が崩壊している、教育格差が大きくなっている ここを見直さない限り男女格差どころか人としての自立はムリ。

○男女関係なく平等に働いたり、生活していければ良いが、現実には厳しい。職場で育児休暇を取得する社員がいると、周りに負担がかかるが、会社はそのことに対して何も考えておらず、フォローしたところで何も得をしない。育児休業中に手当（給料）が減額されたら、その分を代わりに仕事をした人へ特別手当の支給をするなど仕組みを会社で整えてもらえるような法整備があると良いと思います。

○夫婦で家事や子育てが出来るように短時間勤務の正規雇用。夫婦別姓を選択できる事。同性愛者も結婚できて法律上の効果も認めること。

○そもそも男女共同参画社会という言葉が、全世代、万人向けに意味が伝わっているのか、カテゴリの幅が広すぎるような気がします。男女しかいない世界だと個人的には分かりますが、それこそ多種多様な時代になってしまったので時代遅れな名称にも違和感、何の目的なのかぼんやりして浸透しにくい気がします。雇用機会均等…、のように分かりやすかったら理解の浸透がもっとできそうに思います。

○男女平等な世の中でも働く上で女性はやはり出産育児がリスクであり子供を持つことに躊躇する人が周りにもいます。私は介護の仕事をしていますが日曜祝日ももちろん仕事があり、夜勤が出来ないと正職員にはなれません。小さいお子さんがいるお母さんは必然的にパートで働いているのが現状です。

○遺族年金は、女性が亡くなったら、子供には、残せない。検討して欲しい。外国みたいに総理大臣を決める時は、国民が選べるようにしてくれたら、男女平等に選べると思います。

○30年前と比べたら男女の格差は改善されていますが、まだまだ格差は存在すると思います。今後もより改善していく努力が必要だと思います。

○人は個々に色々な考えを持っているので同じ方向に進んで行くには時間がかかる

○仕事と家庭の両立を支援する制度や環境が整っていてほしいです。

○性別はもちろん、年齢、個々の特性などでも差別されることなく適材適所で社会と関われると良いと思います。

○未だに男が優先されてます！家庭も、家事、洗濯、何故女性が、するのか？子供が成人したり、手が離れたら、離婚とかではなく、一切の仕事を男性が自らおこなう、日本になってほしいです！男を支えてナンボみたいな、美德はなくなるべきです！！

○女性でないと出来ない事は、出産など、今やかなり限定されて来ていると思われる。もちろん、筋力がある方が有利な職種など、性差の考慮が必要なケースはあるかと思うが、まずはフラットな視点から考えるべき時が来ていると考える。また、直接的に効果はないかもしれないが、選択的夫婦別姓をすぐにでも実現すべきと強く思う。

◎60～69 歳

○虐待や差別に苦しんでいる女性への支援を強化しカウンセリングやサービスを更に充実させて欲しい。

○若い人の中には収入が足りなくてネット求人をした為にヤミバイトにおうぼしてしまう方が多いようです。そういったお金に困っている若い人にも相談できるといいと思います。

○働きたいと思っている人の誰もが出来る限りストレスの少ない方法で働ける職場環境、家庭環境が必要だと思います。

○どうすればよいか？効果的な対策は具体的に思いつきませんが、いつの時代も人々の価値観が変わるのには時間がかかると思います。ですから、あきらめなくて忍耐強く、訴え続け試行錯誤し続けていくしかないのかもしれない。

○高齢者にはまだ認知されていないと思うし、若い人に関する事だと関心がない人が多いと思う。次世

代の特に女性のために頑張って活動してほしいです。

○毎月夫婦で 40 万程と市民税を納めている。もっともっと子供達（未就学児）が遊べる施設を誘致してほしい。

○障害児の母ですが、医師をはじめ行政の関係者や親族などから、健常児より一段と母の役割が強調され、働くなどとんでもないなどと言われてきました。今もやっぱりお母さんが責任者であることに変わりなく、いつまで頑張ればならないのかと疲弊してます。父親もいるのですが、仕事といえば逃げられる（社会からも容認される）のはなんとかならないかと思います。もう逃げたい。

○私にはわからないことがたくさんありますができるだけ困ってる方を救う方に向けて頑張って頂きたいです。

◎70 歳以上

○書店やいろんな場所に置いてある雑誌類をみわたすと、男性雑誌？とおもわれるものには、政治や社会問題についての記事がかなりみうけられるのに女性雑誌といわれるものには、ほとんどそうした記事がみあたらず、雑誌界の女性愚民化方針でもあるのか？と思ってしまう。テレビなどで、女性に政治等の町でインタビューをしても、外国の人は男女とも意見がちゃんとあるが、日本の女性で、ふみこんだ意見を言っているのはほとんどみられない。あれでは女性の政治参加などがやれなくなるのはあたりまえかもしれないと思う。こうした状況をつくっている雑誌等の会社などに働きかけをするところは、国にも地方行政機関にもないのかなあ！と日頃思っています。

○分からない私でしたが、相談、保護、DV 防止策本当に勉強になりました

○女性の方も若い人は男性と共に仕事出来る人がいます。

○女性が 1 人でも生きていける社会の実現を 1 日も早くなって欲しい

○仕事及び社会活動においては、男女の区別意識を強く持ちすぎず、お互いに相手の立場を常に考え、強調、協力の精神で活動すること

○個人として（男・女）関係なく、個人個人が人格をもっていますので個人個人を大事に出来る環境がほしいです。

○これは簡単な事ではないと思います。個人々別の考え方、生き方、持っている条件があり、古代から男女性別は頭にすりこまれているので、それを取り除くのはたいへん時間がかかると思います。食べていく事、子供を産み育てていく事、介護の問題が重要でそれらをみなで平等にふりわけ、個人々が幸せな人生を送れるような社会が来たらいいですね。

○老後の一人暮らしは思ったより淋しいもので～近場で気楽に立ち寄れる「いこい」の場的なものがあればどんなに有意義な毎日が送れるかしらと夢のような事を願っています。月に一度のいきいきサロン香里園は毎回楽しませて頂いています。

○それぞれが自分の考えや行動を尊重される社会が実現されればと思います。

○相手に対して思いやりを持ち自由を尊重し希望を持ち生活をするよう心がける。

○我々世代は男尊女婢で育ち一般的にも男を立てるべき生活をしていました。家事は女性、今は得意な方がすれば良いと思いますお互い思いやりのある気持ちが大事かと思います。

○民生委員があまり役を沢山もたない民生だけに専念してほしい。忙しすぎて 15 役位しているらしい。相談しようと思っても家にほとんどいないから気の毒で出来ない。多くしってることも自満してほこらしく思っている様です。聞いても忙しくなるばかりと言う。

<「男性」の意見>

◎23～29 歳

○SNS で知らせて欲しいです。

○チラシやポスターなど目につく場所に知識や発信をしたら誰もが興味を持つと思う

○議員の男女比を 1:1 に近づける。女性の政治参加へのハードルを下げる。子育てと政治活動の両立の難しさが、女性の政治参加のハードルを上げていると思うので、男女限らず議員に対して子育て支援の強化【家事は女性がするもの】というイメージを払拭する学校教育の取り組みなど、男女限らず議員は忙しそうとか議員は世間から厳しい批判をされそうというイメージが若い人の参加率を下げている原因だと思います。

○答えが分からない問題を持ってる人が多いと思うので、色んな事の相談ができる場所を用意して、尚且つ男女年齢に関わらず、周りの人の意見を、むやみに潰さないように市民全員で心掛けることが大切だと思います。

○女性優遇するばかりではなく現状に応じて男性も優遇するところはする必要性はあると思う。肉体構造的に男性が有利な現場職などに女性を入れるのはやれることも少ないため、仕事が少ないのでは思う。また、そういった汚れ易い現場職は女性では「してもらって当たり前」と思い込んでるのか、下に見下してることが多いとは思う。そう言った偏見など減らさない限りは、職に就いたとしても権力を乱用するだけであるとは思う。男女平等は無理にさせないことが重要であり、女性には向いていない仕事に無理に女性枠を設けて、男性が入る枠を減らすのはデメリットしかないと思う。よく DV など夫婦間の問題ではマスメディアなどは女性の方が被害者として言われがちであるが、男性を加害者として捏造に近いことをするが、現実とは異なることもあり、単に女性だけの意見を聞くことは意見が偏り男性が不利になるため、そこは慎重にすべきではある。

○今回のアンケートでは、困難な状況に立たされた女性を視野に入れているが、男性でも同様もしくは類似したケースで苦しんでいられる方もいらっしゃると思います。女性の方々に対する環境を整えていくのは賛成ですが、女性ばかりに焦点が行き、知らぬ間に男性が蔑ろにされているといったことがないようにお願いいたします。また現在、私は学生でアルバイトをしているのですが、そのバイト業務の中でも重いものを運ぶのは男性を呼んで半強制的に働かせる場面があります。女性が男性よりも平均的に見て重い物を持つことは苦手だと思いますが、平等、共同参画を謳う以上、これは不平等であり、一種の男性差別に該当すると考えます。今回の重荷のように男女で向き不向きは必ずあります。かなり捻くれた考えですが、平等という言葉を使うならこれらの男性に負担がかかる業務を性別関係なく行うように啓発していただくか、平等ではなく、公平という言葉を使いそれぞれの人が状況に合った助け合いを目指していこうといった呼びかけをして頂きたいと思います。

◎30～39 歳

○昔は意識して考えたことなどなかったが、性的マイノリティについて、取り沙汰される世の中になってきたことは非常に良いことだと思う。今後、世の中に徐々に正しい認識が根付いていけばもっと良い「生きやすい」世の中になると思う。

○性別にかかわらずなくはムリだと思います。性別、個性を尊重した方がよりいいと思う。

○政策について知らないものが意外と多かった。広報の機会を増やしていただけるとありがたい。政策や対応策をもっと知ってもらえると問題解決の助けになると思う。

- 男女平等ではなく女性をもっと優遇する社会づくり。
- 男性育休が増えてきたが、取得できたとしても 1～4 ヶ月ほど。もっと長期で取得できるようになればいいと思う。
- 弱者男性にも目を向けるべき。
- 時代的にオープンな場所で問題となる行為などを見る機会は少ないので、閉鎖的な所で起きている問題を見つけ出す仕組みが必要。公的な機関などに、報告する事で報告した人に何かインセンティブをつけるなど…
- 男性には男性の、女性には女性の悩みや苦しみがあり、全ての性に向けた対策が必要に思う。
- 男性優遇（例えば昇任）、女性優遇（例えば女性価格）があるのは致し方ない部分があるとは思いますが。ただ、その差が縮まること、また、総じた場合に平等である社会の実現は可能だと思うので、少しでもそれに近づいた社会になればと思います。
- 男性の育休取得率は上がりましたが、半数近くが 2 週間未満と短期間の取得が主流です。1 歳前後までの育休を取っているのは、今も圧倒的に女性が多いです。制度上の設計は「男女が平等に」できますが、現状は男性が 1 年育休を取るといえば驚かれたり、冷遇を受ける事業所も珍しくはありません。私の事業所でも男性は「取りにくい」雰囲気は今でもあります（枚方市内の事業所で、小規模事業所ではありません）また、共働き家庭が余裕を持って育児と仕事を両立するのは困難だと思います。保育園に入るためには「共働きフルタイム」でなくては点数が取れず入園できません。時短を取っても業務量は変わらず、職場で煙たがられるなど、子育てしながら社会に出ている女性にも生きづらい現状があるようです。自治体や国の男女共同参画の取り組みは認識していますが、正直、会社や社会の風潮に大きな変化は感じられません。育休の件にしても「啓発する、呼びかける」が主な手段になることは理解できます。ですが、実態をどうしたら変えられるか、枚方市が男女共同参画社会に関して、他の自治体でもやっている取り組みとは何か違うと思わせる政策を考案いただけるとありがたいです。
- 女性の社会進出が一般化しているが、まだまだ職場における男女比は、圧倒的に男の方が多い。今後女性の定員も増加していくだろうが、それとともに、男性の育児に関する休暇もより増加し、一般化していくと良いなと思う。
- 支援制度の充実と周知が不可欠と考えています。若い層へはマスメディア広告での周知はいかがでしょうか。
- 頑張ってください。

◎40～49 歳

- チカンに間違われることが怖くて電車で男性専用車両が欲しい。多目的トイレを増やす。女子トイレに LGBTQ の人が入るのは犯罪につながる可能性もあると思う。
- 困難な問題を抱えるのは女性ばかりではなく、男性も多いのに、結局世間では女性支援、女性は弱者と決めつける流れがあると思います。
- 一人一人が尊重されるのは良いことだと思うが過度に性別を超えた社会はいびつで不自然であると思う性別にかかわらずではなく、性別を踏まえた上でどうあるかどうするかを考えるべきだと思います。
- 情報提供しやすい環境、誰でもいつでもわかりやすい情報提供 相談窓口（利用しやすい、話しやすい）
- 育休をとることによる評価や昇進に影響するのはあたりまえと考えてほしい。育休をフォローした人がもっと評価されるべきと思う。きれいごとの正論だけでは社会は成り立たない。

○ここ最近、自転車の罰則が強化されたり、youtube のコメント欄ではドライブレコーダーの違反者の映像に対して激しく糾弾する人が多い等そのような厳しい場面を見て「人間は完ペキじゃない」ということ、「そもそも生まれてから死ぬまでの間で法律を違反したことがない人間などいないだろう」ということをよく考えます。「許されない」という壁が人と人とのつながりを持つ難しさをさらに強くし、孤独、孤立は広がっていくばかりかなと感じます。「人を受け入れる（許す）社会」とはどこにあるのか？すいません、長々と一人言失礼しました。

○まずは、男性が育児に積極的に参加する(できる)様にする。

○誰も優遇せず、誰も冷遇しない

○経済及び労働環境の整備が必要。法律をこどもの頃から身近に感じることができるよう教育。

○今の社会にはゆとりがない。生活に時間的な余裕、金銭的な余裕がないと、互いを思いやることは出来ない。税金を社会の人のために使って欲しい。

○女性の少ない職場であれば、女性の方、男性の少ない職場であれば、男性の方を、全ての職場において雇用を推進していく社会をめざしていく事が重要かと思います。

○男女、という性別も二者択一でなくなってきつつあるので、男女共同参画、という言葉も、そのうち死語になるのでは、とおもったりもします。男性だからこう、女性だからこう、という決めつけや固定観念が世間から薄れていけば、自然と性別にかかわらず一人ひとりが尊重される社会に近づくとは思いますが、その一方で、身体的な性別である男性でしか(または女性でしか)できないこと(例えば、出産)や、男性(または女性)がやる方が効率が良い可能性が高いこと(例えば、力仕事)は、絶対にあるので、100%「性別にかかわらず平等」になることは現実的でないとも思います。どうあるべきか、ケースバイケースなので、一人一人が、どうあるべきか考え続けるのが大切だと思います。

○日本は特に政治分野の男女比や、企業の役員の男女比が男性が多いため、女性の比率を上げていく取り組みを強力に進めていく必要があると思います。

○実現すれば素晴らしいが、現実問題難しい。必ず、団体・協会等といったものが利権争いになる。

◎50～59 歳

○男性特有な仕事などでも女性が参加できるような取り組みがなされており良いと思う。

○個々人の思いは別として社会全体として出生率をもっと上げないといけないと思うので、女性が出産するのに障害となるものをなくしていくのが最優先。その上で女性がリーダーを目指す上で出産を障壁（一部の人の逃げ口上）にしない、させないことが大切。現状では昇進等で女性を優遇した方が良いと思いますし、もっと目指してほしいと思います。

○これから勉強します。

○30 年前の全てにおいてハラスメント時代から考えると大きく前進している。このまま昭和のにおいを消していけばいいと思う。

○子供の頃から教育をしていく必要性を感じました。人をいたわる優しい社会を築くために教育は必要と思われます。

○先入観を持たず年齢性別を問わず人に接すること。

○新聞や TV その他色々な媒介物を通して発信する努力が必要と考える。

○男女共同参画に自分が意識していなかったのが、枚方市がどのような取組を行っているのかを知りませんでした。今後も市からの情報発信をどんどんして欲しいと思います。

○普段から感謝の気持ちを忘れないことが大事だと思います。

○・男女の賃金の上昇・残業なく9時～5時までのみ働く・そうでないと女性が働きながら子育てするのは不可能・育児休業を全ての女性が子供が3歳になれるまで取得できその後必ず職場に復帰出来ること・その為には人員不足を解消し誰かが育児・介護休暇を取っても周りにしわ寄せがいかないようにすること・でないといつまでたってもマタハラ子持ちへのハラスメントがなくなる。

○私は男性ですが、いまだに男女差別を助長しているようなシステム/法律の例は基本的にはあり得ないと考えますので、おそらくシステムの問題ではないのでしょうか。女性が差別されているということであれば、それは差別される側への啓蒙活動が足りないために（女性大多数からの声が上がらないので）改善されないということもあるのではないのでしょうか。暴力やDVに関しては、完全に、加害者、被害者双方への啓蒙活動が足りない。あとは、警察または警察に準ずる者の介入が足りないと思います。性的マイノリティに関しては、種類が多くて何が何だかよくわからないが、風呂もトイレも男女の2種類しかないので、社会では性器で男女の2種類の区別すれば十分ではないのでしょうか。性別を自己申告だなんて、逆に大多数の女性を危険にさらす、愚策もいいところ。

○躰や自分が受けた子育ての記憶、経験が大きいですね。子どもが親になったらやはり同じような事が続くと思います。働く親の姿を見ていれば働くことを優先して考えると思います。そう考えると家庭と同様に子どもへの教育も大きく影響して来るのではないのでしょうか？

○男性の育児休暇。母親の育児の負担を減らすために取るべき。自分が子育て世代の時は取るのは不可能だった。男性(父性)は女性(母性)には絶対勝てない。LGBTQ は苦しんでおられる方がいるのは理解しているが、少数派の人を尊重しすぎて多数派の人が生き難くなるのはどうかと思う。

◎60～69 歳

○103 万、106 万、130 万の壁を廃止。かつ所得税、社会保険料を同時に引き下げる。3 号被保険者を廃止。産休、育休の充実。

○情報公開やピアール不足。

○現在はかなり男女平等が成り立っている。どうしても男性の方が力が強いので DV になりがちなのと女性が社会への進出をしたがらない風潮があり、責任を持つ仕事を嫌がります。

○学校教育で男女の違い、平等をしっかりと教えること。男子ももっと家事のスキルを上げる。

○性別ではなく能力によってすべきこと、出来ることをやるべき。女性専用車両も差別、時間によっては女性車はガラガラ、他車両は混んでいることがある。

◎70 歳以上

○私のように年寄りになると女性の方が強くご近所のトラブルは全て女性。たいへんです。

○一気に実現するのは難しいので地道に現在の活動を継続することだと思います。

○男女共同参画社会と言われて言葉はよく耳にするが、実際中小企業では、中々実現には程遠い感じがするので、企業へのアンケートも実施が必要だと思います（されていたらすいません！）

○国、自治体自体がもっと前向きに取り組んで欲しい。国民の中にも、これに対して消極的な人々がまだまだ多くいる現状なので、もっと国民に対する意識改革のための啓発活動に取り組んで欲しい。

○お互いに信頼して生活すること。お互いに必要なことは話しをすること。

○人権の尊重と弱者救済措置。

○オープンな会議で！！

○特にありません。小生の年齢78歳ですが、若い頃にくらべて色々これらの評価基準が違ってきており、時折とまどいを感じます。アメリカが長かったので日本の女性はおとなしすぎる（外に向けて表現しない）との感触は今でもあります。

○アンケートの質問内容、選ぶ答え、項目がかたよっている様に思う。もっと複雑な内容になるはずであり、選択肢が一方にかたよった傾向になっている様です。

○幼年児（家庭、学校、社会）よりの環境が大きく関わっている。社会全体での見守りの必要があり、常に啓蒙活動も必要

<「性別無回答」の方の意見>

◎30～39 歳

○男性は男性、女性は女性でありその他は存在しない。それは食品添加物の影響が大いに考えられる。トイレの問題に関しては女性への性犯罪防止の為、女性は女性トイレへ男性は男性トイレを利用するべきである。